平成18年度

こどもの城
事業年報



財団法人 児童育成協会

平成18年度

こどもの城
事業年報

Contents
目次

こどもの城 事業年報
平成18年度

事業の概要

平成18年度の活動 —— 9
1. はしめに —— 9
2 一般事業活動 —— 9
3 その他の活動 —— 11
4. 国庫補助による事業活動 —— 12
5 開館時間・入館料（こども活動エリア） —— 12
平成18年度活動一覧表 —— 17
1. 来館児・者数 —— 17
2. クループ活動実施状況 —— 18
3 講座・クラフなと —— 19
4. 視察・見学実績 —— 21
1年の歩み —— 22

各部の事業

体育事業部

平成18年度の活動 —— 27
1. はしめに —— 27
2. スポーツ遊ひプロクラム —— 28
3. まとめ —— 29
平成18年度活動一覧表 —— 30
1. 一般利用 —— 30
2. 講座・クラフなと —— 33
3. その他 —— 38

プレイ事業部

平成18年度の活動 39
1 はじめに 39
2. 豊かな心をはくくむ人形劇 40
3. まとめ 41
平成18年度活動一覧表 42
1 一般利用 42
2. 講座・クラフなと 47
3 その他 49

造形事業部

平成18年度の活動 51
1. はしめに 51
2. 造形活動のテーマについて 52
3. まとめ 53
平成18年度活動一覧表 54
1 一般利用 54
2. 講座・クラフなと 56
3. その他 58
平成18年度プログラム一覧表 59
1 親子プロクラム 59
2. 子ともたけのプログラム 61

音楽事業部

平成18年度の活動 63
1. はしめに 63
2. 音楽ロヒーの活動から 63
3. まとめ 65
平成18年度活動一覧表 66
1. 一般利用 66
2 講座・クラフなと 70
3. その他 73

AV（オーディオ・ビジュアル）事業部

平成18年度の活動 75
1 はしめに 75
2. ビテオライフラリーの活動 75
3. その他の活動 77
4. まとめ 78
平成18年度活動一覧表 79
1 一般利用 79
2 講座・クラフなと 81
3. その他 81

保育研究開発部

平成18年度の活動 83
1 はしめに 83
2. 3つの保育事業 83
3 まとめ 88
平成18年度活動一覧表 89
1. 一般利用 89
2 講座・クラフなと 90
3 その他 92

小児保健部

平成18年度の活動 93
1. はしめに 93
2 診療・相談活動 93
3. 赤ちゃんサロン〜役割の再考〜 95
4. まとめ 97
平成18年度活動一覧表 99
1 一般利用 99
2. 講座・クラフなと 99
3 その他 101

こどもの城 事業年報

平成18年度

企画研修部

平成18年度の活動 ——— 103
1. はじめに ——— 103
2 事業全体のとりまとめ ——— 103
3 ホランティアの活動と養成 ——— 105
4. 講座・クラフ ——— 107
5. まとめ ——— 107
平成18年度活動一覧表 ——— 108
1 一般利用 ——— 108
2. ホランティアの活動 ——— 110
3. 講座・クラフなと ——— 114
平成18年度「クループ活動」プログラム一覧 ——— 116

劇場事業本部

平成18年度の活動 ——— 117
1 はじめに ——— 117
2 主な自主・提携公演 ——— 117
3. まとめ ——— 124
平成18年度公演演目一覧表 ——— 125
1. 青山劇場 ——— 125
2 青山円形劇場 ——— 126
3. その他 ——— 128

広報部

平成18年度の活動 ——— 131
1. はじめに ——— 131
2. ホームページについて ——— 131
3. まとめ ——— 131
平成18年度活動一覧表 ——— 133

こどもの城から全国へ

こどもの城から全国へ

平成18年度の活動 ——— 137
1. はじめに ——— 137
2〈動くこともの城〉 ——— 138
3 助成金による事業 ——— 138
4. まとめ ——— 138
平成18年度活動一覧表 ——— 139
1. 講座・クラフなと ——— 139
2〈動くこともの城〉 ——— 140
3. 助成金による事業 ——— 143

利用案内

●開館時間

平　　日　　午後0時30分～午後5時30分
土・日曜日・祝日
学校の季節休み中　　午前10時00分～午後5時30分

●休館日

毎週月曜日
（月曜日か祝日や振替休日にあたる場合は翌日が休館日となります。
また、学校の季節休み等には休館日か変則となることかあります。）

●入館料

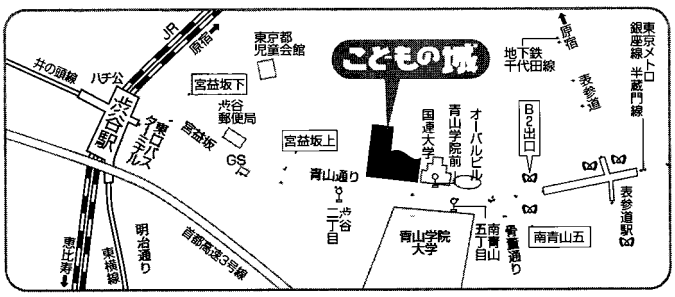
こども 400円（3歳以上18歳未満）　おとな 500円
（20人以上の団体は、こども320円、おとな400円てす。
事前にご連絡ください。）

●交通案内

・渋谷駅から　徒歩10分（東口／宮益坂側）
JR山手線・埼京線／東急東横線・田園都市線／
京王井の頭線／東京メトロ銀座線・半蔵門線
○渋谷駅（東口バスターミナル）から都営バスか
ご利用いただけます。
新橋駅北口行（渋88）「青山学院前」下車すぐ
・表参道駅から　徒歩8分（B2出口）
東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線

●駐車場（地下）

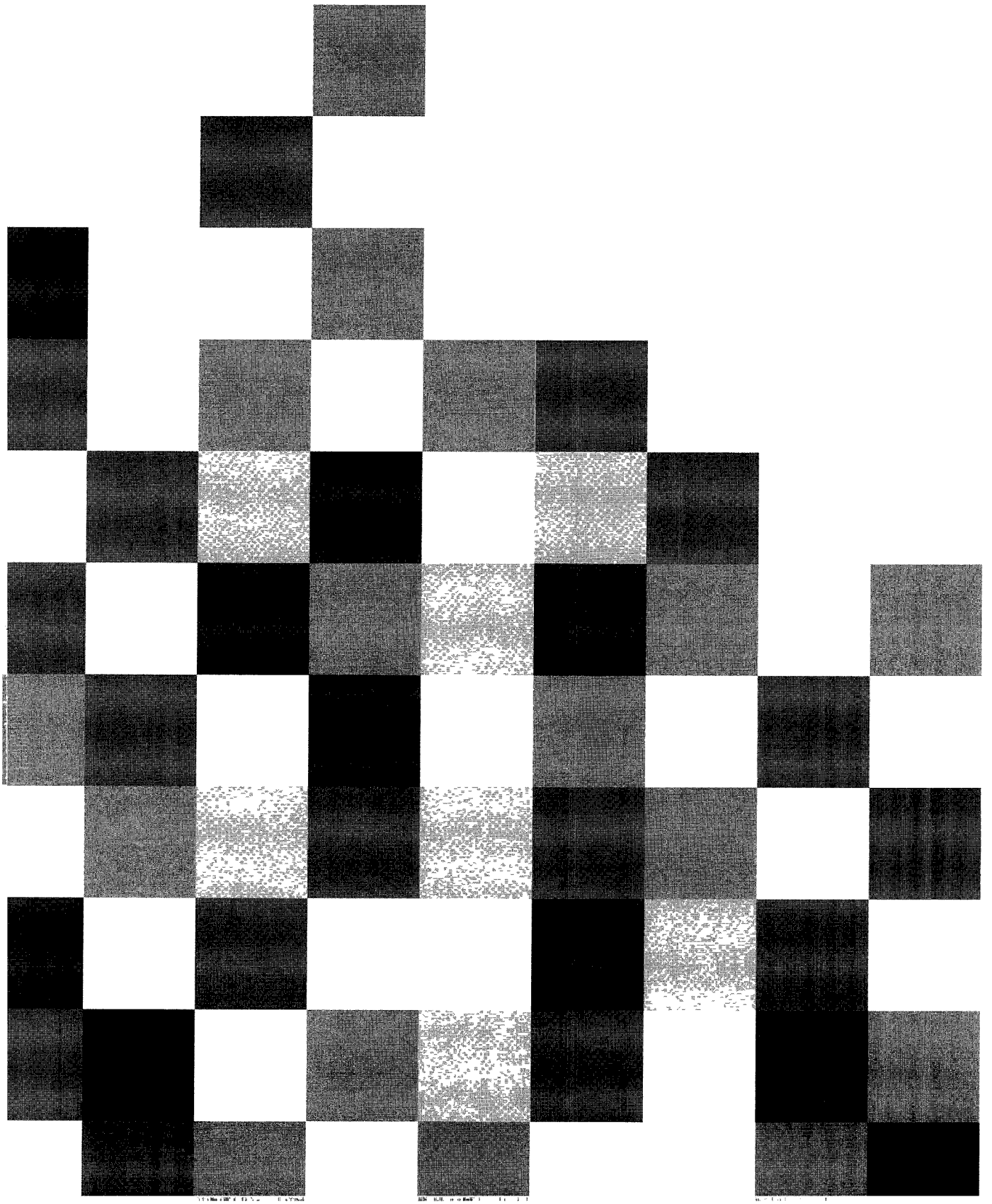
有料・約80台収容・車高制限2m
日曜日・祝日は混み合いますので、なるべく電車・バスて
ご来館ください。



財団法人 児童育成協会
こどもの城
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676
http //www kodomono-shiro or jp

1

事業の概要



事業の概要



平成18年度の活動

1．はじめに

本年度は、〔こどもの城〕開館20周年記念事業を展開した前年度と比較すると静かな1年であった。来館児・者数については、前年度の余韻があったためか前半は多く、大幅な増加が期待されたが、後半の来館児・者数は思ったように伸びず、最終的には若干の増加に止まった。しかし、久しぶりの増加だけに、率直に喜びたいと思う。

「子ども」と「大人」の来館児・者数をみると、平成6年度までは「子ども」が上回っていたが、平成7年度に逆転し、以後「大人」が「子ども」を上回る状態が続いている。「大人」は増加傾向にあり、本年度は「大人」5に対して「子ども」4という、過去最大の比率となった。

「大人」の増加が「子ども」の減少を吸収してくれたことで、最終的には若干の増加となっているが、やはり「子ども」の減少は気になるところではある。

「大人」が増加した背景の一つに、乳幼児を連れた母親の来館が増えていることがある。こうした親子への対応はますます課題となった。親子が安心して居られる場所としての〔こどもの城〕を作るには、スペースの確保など難題はあるが、何とか解決しながら進めていきたい。

ここ数年、安定した状態を維持してきているのが継続的、体系的に〔こどもの城〕を利用してもらう講座・クラブである。本年度は体育事業部を中心に、久しぶりに大幅な受講料の値上げを実施。それによる受講者の減少も予想されたが、幸いなことに減少したということはなかった。今後も保護者とのコミュニケーション、指導技術や内容の充実を図り、信頼関係をしっかり作りながら進めていきたい。

講座等の申し込み方法については若干の変更をした。1・2歳の幼児と親に人気のコースは、申し込みの際に早朝から並ぶことが多く、安全面などからも問題提起があった。すでに、音楽事業部の講座等の申し込みでは実施していたが、体育事業部においても2期の申し込み受け付け時から抽選とした。それによる混乱はなく、今後も継続していくつもりである。

親子や学童の居場所作りがいろいろな場所で積極的に進むなか、〔こどもの城〕への来館児・者を増やしていくことの難しさもあるが、子育てや子どもの健全育成の拠点として、これからも先駆的な事業を企画、実施していきたい。

2．一般事業活動

（ア）来館児・者数

本年度の一般有料来館児・者は234,887人（前年度比762人増）、劇場入場者は370,929人（同5,980人増）であった。保育、小児保健、講座・クラブ関係の利用者および研修・会議室や宿泊施設関係の利用者を加えた総数は、910,671人（同3,778人減）となった。

有料来館児・者は前年度比762人の微増となった。年間をとおしてみると、大人は前年度同様に増加となったが、子どもは平成15年度から連続して減少し続けている。

（イ）一般来館児・者のための活動

【平常期間】

〈平日〉

・3歳未満の子どもを連れた母親の来館が多いため、気軽に参加できるプログラムの提供と穏やかで居心地の良い雰囲気作りを心がけた。

・ベビーカーによる来館者が多く、アトリウムで積極的に預かることや活動エリアでの混雑の緩和を図った。

〈土曜日〉

・バスケットボールやバドミントンのようなスポーツ活動を中心とした「ビッグサタデー」を体育室で実施した。

・段ボール箱を利用した空気砲など科学遊びや映像遊びなどをテーマとした「サタデーラボラトリー」をプレイホールを中心に実施した。

・高学年向けの楽器体験プログラム「ポコ・ア・ポコ土曜音楽倶楽部」を音楽ロビーで実施した。

〈ハッピーマンデー〉

・「サッカーフェスティバル2006」(10月7～9日)＝JリーグFC東京との協力で実施し、選手との交流や練習、大会形式のイベントを実施した。

・「ファミリープレイタイム」＝家族で遊びを楽しむプログラム。「わりばし鉄砲であそぼう」(9月17・18日)、「親子でチャレンジゲーム」(平成19年2月11・12日)を実施した。

【特別期間】

・夏休みなどの特別期間は次のようなキャッチコピーをつけ、全館の催しが相互に関連性を持ち、来館児・者に統一的なイメージを与えるよう工夫した。

ぐんぐんのびろみんなの元気
(児童福祉週間＝ゴールデンウイーク)
あそび。元気。夏、パワー(夏休み)
あそびましておめでとう！(冬休み)
春だ！友だちいっぱいみつけよう(春休み)

・児童福祉週間(ゴールデンウイーク)、夏休みなどの特別期間には、エレベーターホール、ロビー廊下などの共用部分に、鯉のぼりやすいかをデザインした作り物を飾り、それぞれの季節感を強調した。

【外部団体・企業との共催事業】

〔こどもの城〕の活動趣旨に賛同する外部団体、企業の協力を得て充実した活動を展開することができた。

○「マタニティコンサート」……タカタ(株)／和光堂(株)／ビーンスターク・スノー(株)／大島椿(株)／ユニ・チャーム(株)／花王(株)

○「世界のからくり工房」……KDDI(株)、住友林業(株)

○「赤ちゃん大集合」……和光堂(株)／ビーンスターク・スノー(株)／大島椿(株)／大塚製薬(株)／持田ヘルスケア(株)／ピジョン(株)／(株)ベビーリース／クラランス(株)／(株)赤ちゃんとママ社／江崎グリコ(株)／アイクレオ(株)／インビスタジャパン(株)／ベネッセコーポレーション(株)／(財)母子衛生研究会／(社福)日本保育協会／(社)全国ベビーシッター協会／(財)児童健全育成推進財団

○「小児保健セミナー」……ユニ・チャーム(株)／ビーンスターク・スノー(株)

○造形スタジオ(日常活動)……アート・バイ・ゼロックス／中川ケミカル(株)／山田ダンボール(株)／リンテックス(株)

○保育室(一般開放用の遊具の寄付)・小児保健クリニック(待合室ソファーなどの寄付)……昭和会館

○小児保健部(リーフレット作成)……大塚製薬(株)

(ウ) 講座・クラブ

継続的、体系的に〔こどもの城〕を利用してもらうため、講座・クラブ活動を実施した。

これからも、受講生や保護者との信頼関係を保ちつつ、受講者のニーズにマッチした運営をしていきたい。実施種類、コース数、参加人数は以下のとおり。

・講座……32種、51コース、受講者1,396人
(前年度　32種、51コース、受講者1,366人)
・クラブ……6種、6コース、受講者数913人
(前年度　6種、6コース、受講者817人)
・講習会……7種、19コース、受講者165人
(前年度　7種、19コース、受講者169人)
・短期集中講習会……16種、受講者1,853人
(前年度　17種、受講者1,912人)
・専門者向け講習会……11種、19コース、755人
(前年度　13種、22コース、受講者844人)

(エ) グループ活動

〔こどもの城〕開館前、平日の午前中を利用して、保育所、

【来館児・者数(対前年度比較)】 (人)

	平成17年度実績 (A)	平成18年度実績 (B)	差し引き増減 (B−A)
有料来館児・者数	234,125	234,887	762
3歳未満児(推計)	59,118	59,465	347
招待者	45,822	42,901	▲2,921
劇場入場者	364,949	370,929	5,980
講座・クラブ利用者	76,215	75,200	▲1,015
営業部門(研修・会議室および宿泊施設関係利用者)	134,220	127,289	▲6,931
計	914,449	910,671	▲3,778

幼稚園および小学校などの団体を対象に、各事業部において特別プログラムを提供する「グループ活動」は、一般来館児・者の受け入れ、講座・クラブの実施と並び〔こどもの城〕の事業のなかで重要な位置を占めている。ハンディキャップを持った子どものグループや日本語を解さないインターナショナルスクールの子ども、自主保育グループなどさまざまな団体から利用の申し入れがあり、利用件数は安定している。

本年度は163グループ、3,400人（前年度は、208グループ、3,433人）を受け入れた。

（オ）保育研究開発・小児保健（クリニック）

〈保育研究開発〉

・保育事業は、会員制の「保育クラブ」をはじめ、「幼児グループ」および「親子教室」を継続して実施した。

・保育関係者のための研修プログラム「保育関係者が行う子育て相談研修会（基礎編／応用編）」のほか、「保育セミナー」「ニュースレターの発行」などを実施した。

・一般来館児・者を対象として特別期間に行った「親子工房」や、平常期間の土曜日に親子がゆったりと一緒に遊べる「よちよちクラブ」などにも積極的に取り組んだ。

〈小児保健（クリニック）〉

・小児保健クリニックでは診療・相談を実施し、その件数は2,666件（前年度2,594件）と増加した。

・体育事業部と連携した講座「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」および「マタニティスイミング」を継続して実施した。

・小児保健関係者のための研修プログラム「次世代育成支援講習会」（新規）、「小児保健セミナー」を実施した。

・「赤ちゃんサロン」は年間18回開催。3,845人（前年度3,365人）にもおよぶ参加者を集めた。

・妊娠中の女性とその家族を対象とした「マタニティコンサート」（7月2日）を青山円形劇場で実施した。

（カ）劇場事業

自主公演として青山劇場で2公演、青山円形劇場で10公演、提携公演として青山劇場で3公演、青山円形劇場で12公演を実施。このうち、「こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ～タントさんのふしぎなレストラン」は、厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財に選ばれた。

また、「青山太鼓見聞録」「KOUSKY Ⅳ沢則行meets中西俊博」「日韓ダンスコンタクト」は文化庁国際芸術交流支援事業等の助成対象作品に選ばれた。

劇場の貸与については青山劇場が23件、青山円形劇場が22件で、国費による工事期間等を除いた稼働状況は別表のとおりであった。

	使用可能日数（日）	使用日数（日）	稼働率（%）
青山劇場	325	295	90.8
青山円形劇場	359	299	83.3
計	684	594	86.8

劇場公演のほかに、若手舞台芸術家の育成を図るためのセミナー（APAS＝Aoyama Performing Arts Seminar）を24件、実施した。

（キ）利用者サービス事業

〔こどもの城〕を利用する人などの便宜をはかるため、宿泊施設、売店、各種自動販売機および駐車場の管理、運営を行った。

研修室については児童厚生員等を対象とした宿泊研修や保育・小児保健関係のセミナーの開催場所として利用するほか、他の福祉関係団体が主催する研修会やセミナーの会場としても活用された。

3. その他の活動

（ア）広報

〔こどもの城〕の事業・活動内容をより理解、認識していただくとともに、利用者の増加をはかることを目的として、各種の広報活動を行った。

活動の主な柱としては――、

(1)「こどもの城ニュース」の発行（年11回発行）
(2) 各種広報資料（パンフレット、チラシなど）の作成・配布
(3) 月刊誌「こども未来」を通じて〔こどもの城〕の活動内容の紹介
(4) 新聞・テレビ・雑誌などを通じての広報
(5) 広報企画の推進

――などであり、新聞、テレビなどの取材は、外国からのものを含めて年間189件（前年度193件）であった。

（イ）こどもの城友の会

〔こどもの城〕のサポーターともいえる「こどもの城友の会」の会員増加をめざして、キャンペーンや映画試写会（『カーズ』『ライアンを探せ！』『シャーロットのおくりもの』）への招待、「友の会おそなえ餅づくり」などのイベントを実施した。新たに338家族の入会があったが、本年末現在の会員数は1,125家族（前年度1,236家族）とやや減少している。

（ウ）国際交流

夏休みにギャラリーで実施した「世界のカラクリ工房展」

は、ヨーロッパなどの作家によるペーパークラフトの作品の展示とワークショップを組み合わせたもので、来館した多くの子どもたちに参加してもらい、交流の目的を果たした。

例年の東京・横浜地区外国人学校の合同美術展「アートスケープ展」にギャラリーを提供したほか、夏休み短期講座のなかでアフリカやインドネシア、ベトナムの民族楽器を紹介し、演奏等をするなど、気軽で自然な国際交流をめざした。

また、グループ活動におけるインターナショナル・スクールの利用件数は50件（前年度45件）で、日本の児童文化の紹介と社会体験の機会となっている。

（エ）実習生・研修生の受け入れ

大学などからの要請に応じて、〔こどもの城〕の事業部門をフィールドとし、その活動内容を研修対象とする実習生、研修生を受け入れているが、本年度は実習生22人、研修生・研究生4人（前年度、実習生25人、研修生・研究生5人）を受け入れた。

中・高校生の職場体験としての依頼が学校から多く寄せられるようになっており、各事業部と調整しながら受け入れた。本年度は、中学生10件30人、高校生2件59人（前年度、中学生2件10人、高校生4件57人）とさらに増加した。

（オ）講師派遣

〔こどもの城〕で行う指導者向け講習会やセミナー、〈動くこどもの城〉の派遣事業以外にも、児童館を中心とした全国の児童健全育成の現場からの要請により、講師派遣という形で各地に出向き、〔こどもの城〕のプログラム運営の実際と理念の普及に努めた。地域の子育て支援センターや学童クラブなど子育て支援、次世代育成にかかわる派遣依頼も増加の傾向にある。本年度は154件（前年度106件）の派遣を行った。

（カ）助成金による事業

独立行政法人福祉医療機構の「子育て支援基金」からの助成を受け、「児童館を活用した職場体験プログラム開発事業」「児童館を拠点とした子育てネットワークづくり事業」を行った。

4. 国庫補助による事業活動

（ア）啓発活動

児童の健全育成にかんする冊子を配布し事業実例の紹介と理念の普及に努めた。

(1) 購入部数　30,000部
(2) 配布先　都道府県・政令指定都市・市町村主管課

（イ）児童館巡回支援活動等事業〈動くこどもの城〉

全国の児童厚生施設に対し、〔こどもの城〕で開発、蓄積した活動プログラムを巡回、提供し、地域における健全育成活動を支援するとともに、児童厚生員等に対する実技指導を行い、あわせて今後の活動の充実に向け、プログラムの準備、開発に努めた。

プログラム	巡回支援活動	巡回実技指導
音楽関係	2か所	4か所
体育関係	1 〃	1 〃
乳幼児と親子への支援	9 〃	9 〃
絵本関係	−	3 〃
折り紙作品の展示	11 〃	−
昔遊び・グループ遊び	8 〃	8 〃
造形活動	−	2 〃
計	31か所（前年度37か所）	27か所（前年度22か所）

（ウ）中央児童厚生施設活動推進事業

〔こどもの城〕の事業に理解と協力が得られるボランティアの養成、児童の健全育成活動に参加するボランティアの拡充等をはかるための事業を実施した。

本年度末までのボランティア講習修了者数は、2,473人となっており、うち〔こどもの城〕のボランティアとして登録されている者は301人（前年度369人）、本年度中における〔こどもの城〕の事業活動に参加したボランティアは延べ7,600人（前年度6,600人）にのぼっている。

また、〔こどもの城〕での施設ボランティアの育成以外にも、長岡市（新潟県）でのボランティア研修、宮城県での研修とボランティア交流事業に参加するなど、地域における活動への支援も実施した。

5. 開館時間・入館料（こども活動エリア）

（ア）平常期間

〔こどもの城〕の「こども活動エリア」の開館時間は以下のとおりである。

平　日　12時30分～17時30分
土・日曜日・祝日　10時00分～17時30分
月曜日　休館（祝日・振替休日にあたるときは開館。翌火曜日が休館）

（イ）特別期間

学校の季節休み（夏休み、冬休み、春休み）、児童福祉週間（ゴールデンウイーク）、11月1日の〔こどもの城〕の開館

記念日をはさむ１週間を特別期間とし、多数の来館児・者が楽しめるようなプログラム作りと施設利用の工夫をした。なお、5月5日「こどもの日」と、11月3日「文化の日」は開館を記念して「こども」の入館料を無料とした。

■児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間■
4月29日～5月7日（5月2日は休館）

■夏休み特別期間■
7月21日～8月31日（毎日開館）

■こどもの城ファミリーウイーク（開館記念）特別期間■
10月28日～11月6日（10月30日は休館）

■冬休み特別期間■
12月23日～平成19年1月8日
（12月28日～1月2日は休館）

■春休み特別期間■
3月24日～4月5日（毎日開館）

（ウ）入館料

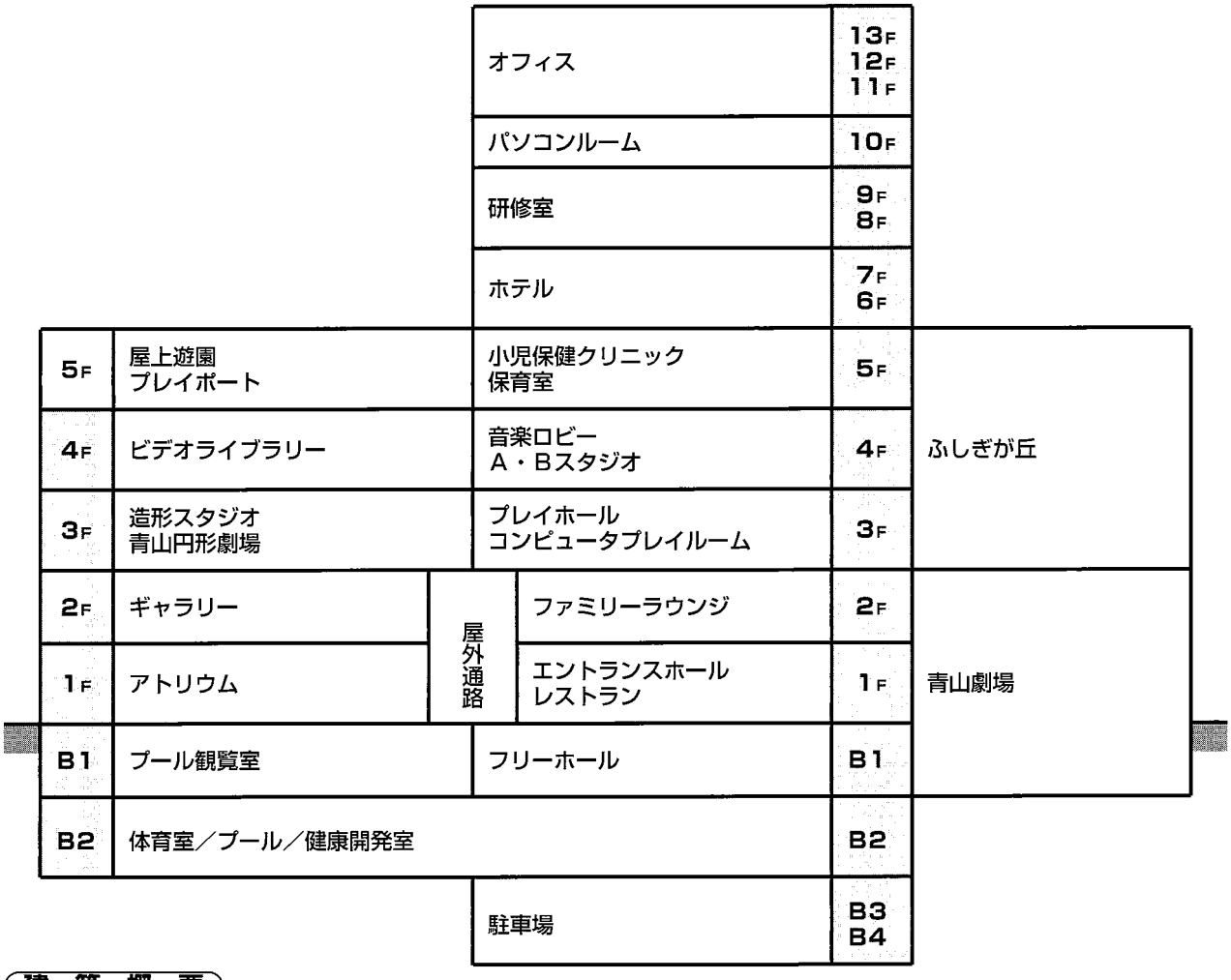
【一般入館料】

一般	こども（18歳未満）		400円
	（保護者が同伴した3歳未満児は無料）		
	大人（18歳以上）		500円
回数券	こども（6枚つづり）		2,000円
	大人（6枚つづり）		2,500円
団体（20人以上）		こども	320円
		大人	400円

【優待パス】

平日ゆうゆうパス（1年間有効）	大人	3,000円
わくわくパス（夏休み期間限定）	大人	1,800円
ドキドキパス（夏休み期間限定）	こども	1,500円
小・中学生土曜日パス（1年間有効）		
	小・中学生	2,500円

〔こどもの城〕の概要



建　築　概　要

所在地……東京都渋谷区神宮前5-53-1
建築主……厚生労働省（当時：厚生省）
敷地面積……9,923平方メートル
建築面積……6,001平方メートル
延床面積……41,699平方メートル
建ぺい率……60.48%
容積率……345.38%
階数……地下4階・地上13階・塔屋1階

最高高さ……GL+57.6メートル
基礎下端……GL−28.5メートル
主要構造……高層部　鉄骨造り
　　低層部　鉄骨鉄筋コンクリート造り
　　地　下　鉄筋コンクリート造り
着工……昭和56年11月
完成……昭和60年9月（11月1日開館）

※〔こどもの城〕は1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して、厚生省（当時）が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設。運営は、厚生労働省の委託を受けて（財）児童育成協会があたっている。

〔こどもの城〕組織機構図（平成19年3月31日現在）

〔注〕＊印は（財）児童育成協会本部と〔こどもの城〕の役職を兼ねる

- 理事長
- 常務理事
  - 総務部＊ — 役員および理事会に関する業務／公印の管守／内部規定の制定／人事、給与、職員の福利厚生／文書の接受・発送等に関する業務
  - 財務部＊ — 一般会計および特別会計に属する会計業務（予算・決算・出納・契約・管財・資金運用等）
  - 広報部＊ — 児童福祉思想の啓発普及／児童の健全育成および資質の向上のための広報および出版／国際協力に関する業務
  - こどもの城
    - 総務部＊ — 協会事務局の総務部の所掌事務に準ずる事務
    - 財務部＊ — 特別会計に関する会計業務
    - 業務部 — 国有財産（建物、付属設備および物品）および協会財産の維持管理／営繕／コンピュータの保守管理／来館児・者サービス業務（宿泊施設など）の運営管理／会議室などの賃貸／アトリウムの運営管理に関する業務
    - 事業本部
      - 企画研修部 — 事業本部の各事業部間の業務の調整／動くこども城事業の実施／チャリティー事業の実施／友の会業務／ボランティアの養成／児童福祉・文化に関する研修／実習生などの受け入れ業務／利用統計に関する業務
      - 広報部＊ — こどもの城の広報に関する業務／こどもの城のホームページの作成・運用管理に関する業務
      - 体育事業部 — 健康、体力増進の活動の指導に関する業務／体育施設の利用に関する業務
      - プレイ事業部 — 伝承遊び、科学プレイ、コンピュータプレイなどの指導に関する業務／プレイ関連施設の利用に関する業務
      - 造形事業部 — 絵画、彫刻などの造形表現活動などの指導に関する業務／造形関係施設の利用に関する業務
      - 音楽事業部 — 音楽の演奏、鑑賞活動の指導に関する業務／音楽施設の利用に関する業務
      - ＡＶ事業部 — AVソフトの視聴に関する業務／AV関係施設の利用に関する業務／こどもの城のAV関係設備に関する業務
      - 保育研究開発部 — 児童の集団保育の実施に関する業務／保育に関する指導技術の研究・普及に関する業務
      - 小児保健部 — 児童の保健、療育・育児相談の実施に関する業務／健康教室の運営に関する業務／診療および研究・普及に関する業務
    - 劇場事業本部
      - 劇場技術部 — 劇場の舞台運行、照明運行、音響運行および関係施設の保守管理に関する業務／楽屋の利用に関する業務
      - 劇場運営部 — 公演事業の制作、広報宣伝、入場者の案内に関する業務／劇場を利用させる業務
  - 児童給食事業部 — 児童福祉施設に対する給食物資の供給／児童福祉施設の給食の普及充実／児童福祉施設の給食に対する技術援助および指導／その他児童給食事業を実施するために必要な業務

部＼職員数	一般	嘱託	計
総務	5	0	5
財務	4	0	4
広報	3	0	3
業務	18	0	18

部＼職員数	一般	嘱託	計
事業本部	2	0	2
企画研修	8	0	8
体育事業	7	0	7
プレイ事業	8	0	8
造形事業	4	0	4

部＼職員数	一般	嘱託	計
音楽事業	4	0	4
ＡＶ事業	5	0	5
保育研究開発	6	1	7
小児保健	5	0	5

部＼職員数	一般	嘱託	計
劇場技術	5	0	5
劇場運営	7	0	7
劇場事業本部	1	0	1
合　計	92	1	93

（財）児童育成協会役員（平成19年3月31日現在）

役　職	氏　名		役　職	氏　名	
理事長	吉武　民樹		理　事	品川　正治	（財）国際開発センター会長
常務理事	本橋　紘		理　事	篠原　徹	日本商工会議所常務理事
理　事	今泉　昭雄	（社福）全国心身障害児福祉財団理事長	理　事	山口　規容子	総合母子保健センター愛育病院名誉院長
理　事	大野　出穂				
理　事	小山　敬次郎	目白大学客員教授	監　事	秋山　昭八	弁護士
理　事	廣瀬　友久		監　事	藤間　秋男	公認会計士

〔こどもの城〕の付帯事業（平成19年3月31日現在）

業種	店名等	場所	利用客席数	営業日・営業時間	備考
宿泊施設	こどもの城ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員 64	無休（12月28日～1月2日を除く）	洋室24室（シングル3、Aツイン10、Bツイン11） 和室3室（4人用1、5人用1、10人用1） ※1泊6,720円～
貸し室	研修室	8・9階	研修室 10 ※一部通しで使用できる。利用人員350人ぐらいまで	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝9:00～21:00	研修および会議など ※1単位時間12,075円～
	ギャラリー	1階アトリウム		無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝10:00～17:30	各種展示会など ※1日31,500円
物品販売	売店	1階アトリウム	1か所	営業日時＝「こども活動エリア」の開館日の12:30～17:30	がん具、文具、スポーツ用品、講座指定水着、催事関係用品、印刷出版物、衣料、雑貨など
	自動販売機	館内各所	飲・食販売 31か所 たばこ 1か所 テレホンカード 1か所	無休	ドリンク類、牛乳類、アイスクリーム、カップ麺類など
公衆電話		館内各所	8か所 9台	無休	
駐車場		屋内（地下2階～地下4階）、屋外（1階）	約126台 （業務車両分含む）	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝8:00～22:00	普通車両は地下駐車場、バスなど大型車両は屋外（1階）に駐車 ※普通車両 30分 300円 マイクロ車 1時間 840円 大型車 1時間1,260円
飲食関係	レストラン「アンファン」	1階	客席数 140	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝7:30～19:00	ファミリーレストラン、すし、弁当仕出し、パーティー、宿泊施設利用者の食事など
	劇場内「スナック」	青山劇場内地下および2階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間＝開演前・幕間	喫茶、軽食

平成18年度活動一覧表

1．来館児・者数

	一般来館児・者			劇場			その他	計
	有料		総数	青山劇場	青山円形劇場	小計		
		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
4月	大人	9,262	29,767	31,878	6,004	37,882	12,152	79,801
	子ども	8,114						
	団体	615	推計					推計
	受講生など	11,776	(34,406)					(84,440)
5月	大人	11,129	30,069	33,272	7,279	40,551	10,907	81,527
	子ども	6,762						
	団体	1,578	推計					推計
	受講生など	22,376	(35,640)					(87,098)
6月	大人	7,833	24,434	30,427	6,924	37,351	11,984	73,769
	子ども	5,229						
	団体	1,479	推計					推計
	受講生など	9,893	(28,355)					(77,690)
7月	大人	12,440	34,345	30,843	7,489	38,332	12,083	84,760
	子ども	10,485						
	団体	3,212	推計					推計
	受講生など	8,208	(40,573)					(90,988)
8月	大人	21,894	55,697	26,393	6,287	32,680	8,919	97,296
	子ども	22,464						
	団体	1,908	推計					推計
	受講生など	9,431	(66,654)					(108,253)
9月	大人	8,243	22,924	19,579	6,683	26,262	11,413	60,599
	子ども	5,708						
	団体	784	推計					推計
	受講生など	8,189	(27,051)					(64,726)
10月	大人	7,525	22,902	27,092	5,396	32,488	10,508	65,898
	子ども	4,933						
	団体	865	推計					推計
	受講生など	9,579	(26,670)					(69,666)
11月	大人	9,273	26,289	20,173	6,006	26,179	10,950	63,418
	子ども	5,896						
	団体	1,315	推計					推計
	受講生など	9,805	(30,931)					(68,060)
12月	大人	5,502	17,461	29,523	9,210	38,733	7,957	64,151
	子ども	4,537						
	団体	766	推計					推計
	受講生など	6,656	(20,219)					(66,909)
平成19年 1月	大人	8,660	29,132	27,441	7,171	34,612	8,620	72,364
	子ども	6,863						
	団体	4,926	推計					推計
	受講生など	8,683	(33,469)					(76,701)
2月	大人	7,693	25,254	3,009	4,795	7,804	9,770	42,828
	子ども	3,363						
	団体	0,765	推計					推計
	受講生など	10,433	(29,106)					(46,680)
3月	大人	9,314	34,714	11,290	6,765	18,055	12,026	64,795
	子ども	8,913						
	団体	1,639	推計					推計
	受講生など	14,848	(39,379)					(69,460)
計	大人	118,768	352,988	290,920	80,009	370,929	127,289	851,206
	子ども	95,267						
	団体	20,852	推計					推計
	受講生など	118,101	(412,453)					(910,671)

注）「一般来館児・者」の“推計”は、3歳未満児の推定来館児数を含めたもの。
「受講生など」は、招待と講座・クラブ受講生を合算したもの。
「その他」は、宿泊施設・研修室等の利用者。

2. グループ活動実施状況

		保育所	幼稚園	小学校	中・高校	養護学校	ろうあ学校	盲学校	小学校特殊学級	中学校特殊学級	障害児施設	自主保育グループ	計
件数		40	59	27	2	17	2	3	11	0	0	2	(件) 163
月別内訳	4月		3										3
	5月		6	2		5		1					14
	6月	4	11	5		5							25
	7月	6							4				10
	8月												
	9月	1	1	2		3	1						8
	10月	2	1	5	1	2			2				13
	11月	5	11	3		1			1			1	22
	12月	4	2	2	1							1	10
	平成19年 1月	5	10	3					1				19
	2月	10	6	1		1	1	1	2				22
	3月	3	8	4				1	1				17
地域別内訳	東京都 区	40	52	26	1	11		3	11			2	146
	東京都 市					4							4
	他府県		7	1	1	2	2						13
参加児童数別内訳	10人未満	2	7			3	1	2	7				22
	10~19	22	22	20		13		1	3			1	82
	20~29	15	14	5			1		1			1	37
	30~39	1	5		1								7
	40~49		3		1	1							5
	50~59		2										2
	60~79		4										4
	80~99			1									1
	100~149			1									1
	150人以上		2										2
参加児童数	延べ人数	732	1,478	644	84	258	30	24	110			40	3,400
	1件当たり人数	18.3	25.1	23.9	42.0	15.2	15.0	8.0	10.0			20.0	20.9
引率者数		132	207	71	4	204	15	17	73			3	726
付添者数		6	58	16		16	29	12	1			18	156
活動部門	体育	11	18	6	1		1		1				38
	プレイ	18	18	4		1	1		6				48
	造形		9	11	1	6			1			1	29
	音楽	7	21			10		3	3			1	45
	AV	5	9	12	2	1							29
	プレイ自由	40	57	23		6	2	3	7			2	140
	AV自由		2	3	1								6
	その他自由利用												

注)「活動部門」は、1つの団体が複数の部門を利用することがあるので、重複して計上してある。

3. 講座・クラブなど

〈講座〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体育	親子水泳	幼児・親	1年 2コース	60（組）
	幼児水泳	幼児	〃 5 〃	270（人）
	幼児体育	〃	〃 3 〃	120
	小学生水泳	小学生	〃 7 〃	380
	小学生体育	小学生	〃 2 〃	60
	シニア・スイミング	小・中・高校生	〃 2 〃	60
	シニア・スイミング・フレッシュ	小・中学生	〃 1 〃	30
	ジュニア新体操	小学生の女子	〃 1 〃	35
	シニア新体操	小・中学生の女子	〃 1 〃	35
	手足の不自由な子の水泳	小・中学生	〃 1 〃	15
プレイ	キッズクラブ	小学生	〃 1 〃	30
	ユースクラブ	小・中学生	〃 1 〃	40
造形	こどもクリエイティブクラブ（クレイワーク）	〃	〃 1 〃	20
	〃 （ゆかいな造形）	〃	〃 1 〃	20
	〃 （親子でアート）	幼児・親	〃 1 〃	10（組）
	〃 （絵本の世界へ）	小・中学生	〃 1 〃	20（人）
	〃 （ハンズワーク）	小・中・高校生	〃 1 〃	20
	大人のための造形表現教室	一般	〃 1 〃	30
音楽	みんなで楽しいリトミック	幼児・親	〃 3 〃	60（組）
	リズム・ムービング	幼児	〃 1 〃	20（人）
	リズム・ムービング&パーカション	小学生	〃 1 〃	15
	おんがく大好きミュージック・パーク	ダウン症の幼児・親	〃 1 〃	10（組）
	合唱講座	小学生	〃 1 〃	30（人）
	児童合唱団	合唱講座修了者	〃 2 〃	90
	ガムラン講座	小・中・高校生	〃 1 〃	15
	三味線	〃	〃 2 〃	24
	混声合唱	高校生以上	〃 1 〃	15
	和太鼓グループ	小・中・高校生	〃 1 〃	12
	パーカッション・アンサンブル	〃	〃 1 〃	15
	レッツ・プレイ・サンバ初級	小学生	〃 1 〃	10
	レッツ・プレイ・サンバ	小・中・高校生	〃 1 〃	10
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	太りすぎの小学生	〃 1 〃	20
計	32種		51コース	1,601

〈クラブ〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通年 1コース	−
	レディース・コース	一般女性	〃 1 〃	150（人）
小児保健	マタニティ・スイミング	妊婦	〃 1 〃	420
保育	幼児グループ	幼児	1年 1 〃	22
	保育クラブ	〃	〃 1 〃	450
企画研修	L．I．T．（高校生ボランティア）	高校生	〃 1 〃	30
計	6種		6コース	−

〈講習会（1か月以上のもの）〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体育	幼児・母親体育 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（1・2歳）	幼児・母親	3か月 3コース	60（組）
	幼児・母親体育 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（2・3歳）	〃	〃 3 〃	90
	母と子のすくすくランド Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	5か月～・母親	〃 3 〃	90
	ぱちゃぱちゃファミリースイム Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	幼児・保護者	〃 3 〃	90
音楽	おんがく星みつけた Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	幼児・親	3か月 3 〃	90
保育	親子教室	幼児・親	〃 3 〃	48
企画研修	じょいんクラブ	小・中学生	6か月 1 〃	20（人）
計	7種		19コース	488

〈短期講習会（1か月未満のもの）〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体育	夏休みこども集中水泳講習会（A・C）	小・中学生	5日間 2コース	100（人）
	〃 （B・D）	幼児	〃 2 〃	80
	夏休み体操教室 ガンバ	小学生	〃 1 〃	30
	春休みこども集中水泳講習会 A	小・中学生	〃 1 〃	50
	〃 B	幼児	〃 1 〃	40
	成人水泳集中講習会	一般	7日間 12 〃	240
プレイ	パソコン教室スペシャル・ロボットプログラミング入門	小学生	4日間 1 〃	15
造形	夏休み造形教室	小・中・高校生	1日 30 〃	450
	春休み映造ワークショップ	小・中学生	3日間 1 〃	8
音楽	手作り楽器のワークショップ	小・中・高校生(親子)	1日 14 〃	363
	大人のための手作り楽器のワークショップ	一般	〃 1 〃	30
	感じる心を育てる講座	〃	〃 1 〃	80
AV	夏休み映像・科学体験ワークショップ	小・中・高校生	〃 38 〃	456
小児保健	夏休みこども1日ドック	小・中学生	1日 1 〃	10
	季節の離乳食	乳児・親	〃 6 〃	60
	親子のほっとタイム	〃	〃 9 〃	90
劇場	青山パフォーミング・アーツ・セミナー2006（ワークショップ）	小学生～一般	1～3日間 22 〃	550
	〃 （フォーラム）	一般	1日 2 〃	160
計	18種		145コース	2,812

〈専門指導者向け講習会等〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
保育	保育セミナー	保育関係者	1コース	80（人）
	保育関係者が行う子育て研修会（基礎編）	〃	2 〃	140
	保育関係者が行う子育て研修会（応用編）	〃	1 〃	40
小児保健	小児保健セミナー	保育者・保健師など	1 〃	100
	子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際」	〃	2 〃	100
	次世代育成支援講習会	養護教諭・保健師など	1 〃	50
企画研修	おりがみにつよくなる講習会	児童厚生員など	2 〃	100
	作って演じる人形劇	〃	2 〃	60
	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会	〃	3 〃	150
	ボランティア講習会	18歳以上	2 〃	60
	ボランティア・グレードアップ講習会	ボランティア登録者	2 〃	60
計	11種		19コース	940

4. 視察・見学実績

年度	都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局、公共団体		児童館、保育所、幼稚園、学校、施設、サークルなどの団体		海外からの視察・見学		その他		計	
昭和60年度	(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279
61年度	(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671
62年度	(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700
63年度	(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875
平成元年度	(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178)	1,753
2年度	(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265
3年度	(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(127)	1,473
4年度	(78)	585	(62)	1,038	(9)	122	(6)	35	(155)	1,780
5年度	(69)	698	(75)	1,182	(14)	119	(9)	41	(167)	2,040
6年度	(96)	782	(73)	1,251	(13)	144	(13)	116	(195)	2,293
7年度	(136)	956	(101)	1,542	(19)	273	(16)	94	(272)	2,865
8年度	(63)	402	(188)	1,691	(19)	139	(8)	48	(278)	2,280
9年度	(89)	723	(134)	1,335	(14)	229	(24)	43	(261)	2,330
10年度	(63)	474	(150)	1,470	(26)	204	(24)	145	(263)	2,293
11年度	(83)	863	(171)	975	(18)	177	(17)	68	(289)	2,083
12年度	(85)	616	(154)	596	(14)	128	(27)	37	(280)	1,377
13年度	(29)	254	(216)	1,029	(15)	109	(26)	68	(286)	1,460
14年度	(13)	40	(189)	1,212	(16)	211	(8)	38	(226)	1,501
15年度	(8)	14	(152)	965	(19)	149	(8)	14	(187)	1,142
16年度	(5)	53	(156)	1,084	(14)	135	(6)	13	(182)	1,285
17年度	(5)	41	(198)	924	(15)	300	(13)	35	(231)	1,300
平成18年度 4月	(1)	28	(11)	61	(1)	6	(1)	5	(14)	100
平成18年度 5月	(0)	1	(18)	84	(2)	25	(1)	2	(21)	111
平成18年度 6月	(0)	0	(12)	127	(5)	110	(0)	0	(17)	237
平成18年度 7月	(0)	0	(17)	106	(0)	0	(0)	0	(17)	106
平成18年度 8月	(0)	0	(15)	43	(0)	0	(0)	0	(15)	43
平成18年度 9月	(1)	1	(11)	110	(1)	22	(0)	0	(13)	133
平成18年度 10月	(0)	0	(21)	269	(2)	26	(0)	0	(23)	295
平成18年度 11月	(0)	0	(27)	94	(2)	17	(0)	0	(29)	111
平成18年度 12月	(1)	2	(9)	89	(1)	9	(0)	0	(11)	100
平成18年度 H19 1月	(0)	0	(8)	67	(0)	0	(0)	0	(8)	67
平成18年度 2月	(0)	0	(20)	118	(1)	14	(0)	0	(21)	132
平成18年度 3月	(0)	0	(15)	99	(0)	0	(0)	0	(15)	99
平成18年度 合計	(3)	31	(184)	1,267	(15)	229	(2)	7	(204)	1,534
累計	(1,444)	10,968	(2,832)	28,359	(409)	4,073	(356)	3,179	(5,041)	46,579

注）（ ）内は、団体数。
「その他」は、中央官庁、中央団体、会社など。

1年の歩み

月　日	事　項
4.29~5.7	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間「ぐんぐん　のびろ　みんなの元気」 デビューしようよ～夢のスポットライト～／Spiel Fussball ～サッカーやろうぜ～／パソコン ことばあそびのA☆B☆C／こども歳時記「端午の節句」／ゴールデンウイーク 人形劇フェア／陽気なリズムでウキウキホリデー／つくって遊ぼう 親子工房～コレッテ ナンダロウ～／こども探偵団――ほか
4.29・30	拡大版「よちよちクラブ」（研修室）
5.5	こどもフェスティバル～おんがくがスキ！（青山円形劇場）
5.11~28	青山円形劇場プロデュース「MYTH－ミスー」（青山円形劇場）
5.27	子育て相談研修会「応用編」第1回（研修室） ※第2回は9月9日、第3回は平成19年1月13日に開催（研修室）
6.10	第7回こどもの城子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康　0.1.2歳児」（研修室） ※第8回は、平成19年2月16・17日（2日間）に開催（研修室）
6.7~11	青山円形劇場＆玉川大学芸術学部提携公演「パフォーミング・アーツ　in 青山」（青山円形劇場）
6.7・8	平成18年度第1回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「遊びの専門技術～基礎編～造形遊びと運動遊び」（研修室ほか）
6.11~7.9	ダイアログ・イン・ザ・ダーク　for children（期間中の土・日曜日／フリーホール）
6.24	保育関係者が行う子育て相談研修会「基礎編」春（研修室） ※「基礎編」秋は10月28日に開催（研修室）
6.26~30	5Days Circle of Love＋Life「TAPPERS RIOT」（青山円形劇場）
6.20~7.7	こども歳時記「七夕」（造形スタジオ）／「天までとどけねがいごと」（7月1～7日／プレイホール）
7.2	第21回こどもの城マタニティコンサート「宮本妥子 マリンバの響き・ハートの鼓動」（青山円形劇場）
7.17	楽しい夏休みをすごすために「It's! ライフセービング」（プール）
7.21~8.31	夏休み特別期間「あそび。元気。夏、パワー。」 キャッスルスポーツゲームズ2006～スポーツいっぱい夏休み～／造形発見展「アートと造形」／あそびモリモリ キラリん☆広場／世界をあそべ！ わんぱくツアー／びっくりビデオ広場／不思議な映像実験室 絵が動いてみえるおもちゃの展示とワークショップ／つくって遊ぼう親子工房～しゃぼん玉おやこ／パソコンであそぼう「新種発見！さかなのぬりえ」「フォト・ペタ・コラージュ」／サタデー・ラボラトリーまつり“夏の陣”／ハイ地～図！オシロタウンに家をたてよう／夏をあそびつくせ！スプラッシュフェスタ／世界のカラクリ工房展――ほか
7.21~8.31	第23回渋谷スタンプラリー（NHKスタジオパーク、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館、UNギャラリー、こどもの城）
7.21~8.31	夏休みこども集中水泳講習会、ガンバ2006、夏休み造形教室（5コース）、親子で作ろう！手作り楽器のワークショップ（8コース）、映像・科学ワークショップ（5コース）、パソコン教室スペシャル～ロボットプログラミング入門、こども1日ドック――さまざまな夏休み短期コースを開講
7.21~23	月猫えほん音楽会2006（青山円形劇場）
7.26~8.6	こどもの城＋ネルケプランニング　プロデュース「南国プールの熱い砂」（青山円形劇場）
8.5・6	第20回こどもの城保育セミナー「子どもの育ち・社会の育ち PARTⅡ」（研修室）
8.8~13	第14回キンダー・フィルム・フェスティバル（青山円形劇場）
8.19~24	こどもの城児童合唱団夏季合宿（石川県1か所、新潟県4か所で公演）
8.26~29	TAIKO JAPAN2006 ※第5回東京国際和太鼓コンテスト（26・27日／青山劇場）、青山太鼓見聞録～打ち込みの美学（29日／青山劇場）、和太鼓カレッジ・ワークショップ（26~28日／青山円形劇場、体育室、ピロティほか）
8.13・14	ワークショップ「作って演じる人形劇」（人形制作・操演）
8.19・20	L. I. T.（Leader In Training）の高校生による「キャッスルアドベンチャー～ティール姫を救え!!」（フリーホールほか）
9.3	第38回バンパー大会（プレイホール）
9.26・28・30	日韓ダンスコンタクト Vol.7（青山円形劇場）
10.7~9	サッカーフェスティバル2006（体育室）
10.18~20	平成18年度第2回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「遊びの専門技術～応用編～子どもの遊びに関わる専門職のあり方を考える」（研修室）
10.26~29	ROLLY Glory Rolly 2006（青山円形劇場）

月　日	事　項
10.28~11.5	開館記念ファミリーウイーク特別期間 親子のふれあい体操／ファミリースポーツ遊び「ファミリーサタデー」／わくわくパペットランド／第13回親子体験ワークショップ？／似顔絵ペインター ——ほか
10.29~11.19	全国児童館おりがみ作品展・おりがみカーニバル（ギャラリー） ※おりがみによくなる講習会をあわせて開催（10.29、11.12／研修室）
10.22~11.19	ダンストリエンナーレTOKYO '06（青山円形劇場、青山劇場、スパイラルホール）
11.1	赤ちゃん大集合 赤ちゃんサロンスペシャル／みんなであそぼうにこにこパーク／ごろごろ　ハイハイ／みんなのにこにこ広場／うたってバブリン／車のおもちゃ広場——ほか
11.1~26	第20+21回造形スタジオ展（造形スタジオほか）
12.1~26	青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン」（青山円形劇場）
12.2	第21回小児保健セミナー「気になる親へのかかわり方 PART2～上手な話の聴き方・伝え方～」（研修室）
12.11~12末	床面改修工事のため、屋上遊園（乗り物広場）を一時閉鎖。「屋上遊園」「プレイポート」の利用を休止する
12.16・17	こどもの城 DE お仕事体験～ドルッチャワークス（全館）
12.23~H19.1.8	冬休み特別期間「新春あそびましておめでとう！」 こども歳時記「クリスマス」「お正月」／パソコンでデザイン！ ミニクリスマスツリーを作ろう・わくわく☆カレンダー2007／わいわいスタジオ「クリスマススペシャル」／モータースポーツにチャレンジ！／キャッスルスポーツゲームズ 伝承あそびとスポーツ／新春あそびのお年玉～こまうまめんことすもうであっぱれ！／お正月だよ！ウリパメス！／新春もちつき大会／青山あそび寄席～こどもの城のお年玉プログラム——ほか
1.3~8	第19回こどもの城・キリン・ファミリー・オペレッタ「タントさんのふしぎなレストラン～野菜の国からSOS」（青山円形劇場）
1.20	中西俊博 Leapingbow 2007 Cool Groovin' With 8 Violins（青山円形劇場）
1.24~26	平成18年度第3回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「児童館のボランティア活動～地域の人材を積極的にいかすコーディネーション」（研修室）
1.16~2.3	こども歳時記「節分」（造形スタジオ）／節分会大まめまき大会（1月27・28日／プレイホール）
2.3~18	保育活動展～こどももよう Ⅳ（ギャラリー）
2.4~3.3	こども歳時記「桃の節句」（フリーホール・造形スタジオ）／みんなでひなまつり（2月24・25日／プレイホール）
2.1~3.2	造形スタジオは、改修工事のため閉鎖（2.25までは、フリーホールで造形活動を行う。2.26~3.2は造形活動は休止）
2.10~18	デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration 青山本場所（青山円形劇場）
2.18	じょいんクラブ「じょいんDE Q」（クイズ&ゲーム大会）を実施（プレイホール）
2.22~3.11	東京・横浜地区のインターナショナルスクールの合同美術展「アートスケープ展2007」（ギャラリー）
2.23	第1回こどもの城次世代育成支援講習会「思春期の心身の発達を考える」（研修室）
3.1~3	オブジェクトシアター vol.10 KOUSKY Ⅳ～沢則行 meets 中西俊博（青山円形劇場） ※「NORISAWAメソッド」のワークショップも開催（3.10・11／Bリハーサル室）
3.5~12	ビデオライブラリーを改修工事のため閉鎖
3.16~18	音楽講座等の受講生の合同発表会「ぼくらのサウンド2007」（青山円形劇場）
3.17・18	サタデーラボラトリーまつり（音楽ロビー）
3.18	新体操発表会「想～Soh」（体育室） ※「新体操にトライ !! 」（4歳児～小学生）をあわせて開催。「新体操発表会」で演技を披露
3.18	ユースクラブのメンバーが、来館児・者と一緒に楽しむ「ユースゲームパーク」を実施（プレイホール）
3.21	第39回バンバー大会（プレイホール）
3.24~4.5	春休み特別期間「春だ！友だちいっぱいみつけよう」 ハローフレンズ！ ジャンプ・ステップ・ダンス！／キャッスルスポーツゲームズ2007～なにがでるかな!? スポーツあそび／やってみよう! つくってみよう! アートと造形2／おしろマーケットでまいどありっ！／走れ! キャッスルトレイン&カー／キャッスルダンジョン～みんなでつくろう 秘密基地／パソコンポケット手帳——ほか
3.24~4.5	ニッサンゆかいな絵本と童話展～えほんで げんきもり森 まつり（ギャラリー） ※こどもの城友の会会員5家族が、会場を飾る大きな木のタペストリーを自動車の内装材などを使って制作

2

各部の事業

体育事業部



平成18年度の活動

1．はじめに

活動は、講座・クラブの運営と一般来館児・者向けの活動に大きく分けられる。平日は講座・クラブを中心に運営している。土・日曜日、祝日は一般来館児・者向けに体育室でスポーツ遊びのプログラムを実施したり、プールの開放を行っている。

〔こどもの城〕を利用する子どもたちに、いかに運動を体験させ、体を動かす楽しさを知らせるかが、体育部門の使命と考えている。楽しみながら体力向上を図る場である。

25m×5コースの温水プール、小さめのバスケットボールコート1面分の体育室と健康開発室がある。子どもたちの遊びが、かなり変わってきていると言われているが、体育室で見る子どもたちの表情は、今もかわらずに輝いている。

（ア）一般利用

講座・講習会などが中心となっている体育部門の活動のなかで、一般来館児・者向けのプログラムは土・日曜日と祝日、夏・冬・春休みなどの特別期間に行っている。

日曜日（および、その前日の土曜日の午後）は、活動一覧表に記載しているように、週ごとに種目を決めて活動している。フライングディスクを使ったゲーム、いろいろなボールの使い方をするドッジボール、家族で楽しめる卓球、独自ルールで行うウオールサッカー（室内）などである。祝日は、今、運動量の多さが見直されてきた鬼ごっこを行っている。

平日は、講座・講習会などに使用しているプールも、土曜日（13時30分～16時）、日曜日・祝日（10時30分～17時）は、一般来館児・者に開放している。寒い冬も利用できるが、季候が暖かくなるにつれて、利用者も増えてくる。夏休み特別期間には、屋上遊園に“ちびっこプール”を仮設して、その運営を担当。乳幼児が安心して楽しめるため、人気を集めている。

健康開発室は、体力測定を有料で行っている。年齢・性別に応じて全国平均値を比較し、簡単なコメントをつけて健康・体力作りに役立てられるようにしている。子どもから大人まで測定できるので、家族で互いにどのくらいの体力があるのか比べあう姿が見られる。大人にとっては、体力維持のよい指標となっている。

（イ）講座・クラブなど

親子、幼児、小中学生（「シニアスイミング」は高校生も可）を対象に、水泳・体育の講座を開講している。ほとんどの講座は週1回であるが、「ジュニア新体操」「シニア新体操」は週2回、「シニアスイミング」は週3回ある講座枠のなかから選択して受講できるようにしている。特に「シ



2・3歳児親子体操～2・3スキップ

ニアスイミング」は、週3回通う受講生が増え、練習時間が多くなり力をつけてきた。対外試合にも参加し、よい成績をおさめている。

大人向けコースとして、「レディースコース（スイミング／リズム＆ストレッチ）」があり、平日の午前中に開講している。初心者から上級者まで、幅広く楽しめるように配慮している。

年度の後半には、水泳講座受講生の「水泳記録会」、新体操講座受講生による「新体操発表会」を行い、活動の成果を保護者に見てもらう機会としている。

2. スポーツ遊びプログラム

（ア）キャッスルスポーツゲームズ2006

特別期間（児童福祉週間＝ゴールデンウイーク、夏休み、冬休み、春休み）の体育室の活動は、年間でテーマを決めてプログラム作りをしている。本年度の全体テーマは「キャッスルスポーツゲームズ2006」。特別期間ごとにサブテーマを設けて実施した。前年度に始めた「キャッスルスポーツゲームズ」が好評だったため、本年度はさらにバージョンアップして行うことにした。

もともとは、オリンピック競技に採用されていないスポーツ競技のトップアスリートによる国際的総合スポーツ大会「ワールドゲームズ」からヒントを得て始めたプログラム。よく知られているスポーツから、なじみのうすいスポーツまで体験できるので、取り上げる競技が変わるたびに参加するリピーターが生まれるほどだった。

（競技）スポーツとなると、幼児には難しいルールがあるが、〈あそび〉の考え方を取り入れて幼児でも理解できるようにアレンジして行った。また、子どもだけでなく、親を巻き込んで一緒に行ったものもある。

児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間は、サッカーワールドカップ・ドイツ大会にちなんで、「Spiel Fussball ～サッカーやろうぜ～」を開催。体育室では、サッカーの試合を中心に活動。健康開発室ではサッカーに関係する測定やドイツの絵本・ゲームなどを展示、廊下の壁面には日ごろ使っている日本語をドイツ語に訳して掲示――ドイツの文化とサッカーにふれてもらった。

夏休み特別期間は「キャッスルスポーツゲームズ2006～スポーツいっぱい夏休み～」。サッカー、バスケットボール、バレーボールなどの身近なスポーツから、なじみのないニュースポーツまで幅広く取り上げた。本年度は、スポーツブーメランやクリケットなどの協会に依頼、外部講師を招いて指導を受けた。

冬休み特別期間は、本田技研工業（株）の協力のもと、組み立て式の電動ミニバイクを使用して「モータースポーツにチャレンジ」を、自転車に乗れる小学生を対象に行った。

春休み特別期間は「なにがでるかなスポーツあそび」。発泡スチロールの大きいさいころを2つ使い、1つにはスポーツに必要な運動キーワード（筋力、バランス、スピードなど）、もう1つにはスポーツの種目（サッカー、タグラグビー、鬼ごっこなど）をはりつけ、子どもたちがふって出た目にあわせた活動をした。運動キーワードはどの種目にも必要なものであり、それに焦点をあてた練習をしてから、ゲームを楽しんだ。

（イ）サッカーフェスティバル

毎年「体育の日」の3連休に、JリーグFC東京のコーチングスタッフとコラボレーションして、サッカー大会を行っている。FC東京のコーチが子どもたちにサッカーを指導する、集まった子どもたちでチームを作り試合をする、体育のスタッフとFC東京のコーチングスタッフがエキシビジョン試合を行いさまざまなテクニックを披露してもらったり、と楽しい構成となっている。

プロの指導・練習方法は、子どもたちだけでなく、体育のスタッフにとってもよい勉強の場となっている。「サッカーフェスティバル」を毎年楽しみにしている子どもたちもいる。



キャッスルスポーツゲーム2006～スポーツいっぱい夏休み～「クリケット」



キャッスルスポーツゲーム2006～スポーツいっぱい夏休み～「タグラグビー」

親子のふれあい体操～親子で体操～（バランスボール）



サッカーフェスティバル2006「FC東京サッカークリニック」



3. まとめ

体育部門の活動は、講座・クラブ・講習会と一般来館児・者を対象としたプログラムに大別されるが、いずれも子どもたちに“動く楽しさ”を知ってもらいたいというところに活動のねらいがある。スポーツのスキル向上も大事ではあるが、それ以前に運動するのが楽しい、気持ちよい、できなかったことができるようになった喜び、勝ったときのうれしさや負けたときのくやしさなどを、より多く経験してほしいと願っている。

大人になって健康診断などで運動を勧められたとき、子どものときに運動経験がある人は自然に運動に入れるが、経験のない人はスポーツクラブに入っても長続きしないというデータがある。これは、体が子どものときの経験を覚えていることが関係していると推察される。

子どもたちに“本物”を経験させることも大切であると考えている。ＦＣ東京との「サッカーフェスティバル」も４年目を迎えた。過去にはオリンピック水泳200ｍ個人メドレー選手を招きデモンストレーションをしてもらったり、日本・世界で活躍している選手・専門家を招いていろいろなことを行ってきた。

子どもたちにはモデルが必要である。将来“ああいう人になりたい”“Ｊリーグに入って、日本代表になりたい”など、夢を持ってもらいたいと思う。それには、感動や心に衝撃を与えるものではなくてはいけないと感じる。

これからの活動は、〔こどもの城〕だけではなく、外部の人材や組織とのタイアップも考えていく必要があると感じる。

平成18年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
プール一般利用	土曜日　13:30～16:00 日曜日・祝日 10:30～17:00	土・日曜日、祝日にそれぞれの時間帯で一般利用。18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル（タオル・水着）各200円。幼児は保護者が1対1で付き添って利用。 （プール）
体育室一般利用 **レクリエーションゲーム** **ドッジボール** **卓球** **ウオールサッカー** **ユニホック**	各月 第1日曜日と前日の土曜日 第2日曜日と前日の土曜日 第3日曜日と前日の土曜日 第4日曜日と前日の土曜日 第5日曜日と前日の土曜日	週ごとに内容を替えて行っている。卓球の週は終日卓球の自由利用（混み合う場合は各グループ20分交代で利用）。他の種目は、日曜日は14：00と16：00の2回、土曜日は14：00に練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフライングディスクの的当てとフリースローイングを行っている。利用時間は土曜日が13：30～16：00、日曜日が10：00～17：00。土・日曜日と重ならない祝日は、鬼ごっこを行った。 （体育室）
体力測定	土・日曜日、祝日	7種目9項目の体力測定を行っている。4歳児くらいから大人までが利用でき、男女別に全国平均値と比べることができる。利用料は1回100円。土曜日＝14：00、15：00、日曜日＝11：00、13：00、14：00、15：00、16：00。 （健康開発室）
ビッグサタデー	土曜日　10:30～11:45	学校週5日制に対応して、平成14年度から始めた小学校4年生以上を対象としたプログラム。サッカー、タグラグビー、バレーボール、バスケットボール、バドミントンなどの種目を2か月交代で取り上げ、技術や戦法、ルールなどを指導。ゲーム（試合）の楽しさ、おもしろさを体験できるようにした。 （体育室）
ファミリーアドベンチャー	5.14 8.6 H19.3.21	身の回りにあるいろいろな“冒険”を家族で楽しむ野外プログラム。参加家族がふれあいながら、自然のなかの不思議の発見、新鮮な出会いなど、ちょっとした“冒険”にチャレンジ。参加費＝1,000～2,500円（1人）。 □5月14日＝パークアドベンチャー～潮風と運をたよりに（葛西臨海公園＝東京都） □8月6日＝川遊びアドベンチャー～思いっきり川遊び（伊奈キャンプ場＝東京都） □平成19年3月21日＝パークアドベンチャー～ネイチャーゲームに挑戦！ （岸根公園＝神奈川県）
サッカーフェスティバル2006	10.7・8 キックターゲット大会 10:30～11:45 サッカークリニック 13:00～14:00 14:10～15:30 16:00～17:20 10.9（ウオールサッカー大会） 練習　10:30～11:30 大会　13:00～17:00	7・8日は、Jリーグの FC東京のスタッフがサッカークリニックを開催。プロのコーチがさまざまなテクニックを指導した。9日は、〔こどもの城〕独自ルールのウオールサッカー大会を開催した。 （体育室）
第19回水泳記録会	12.10　13:00～17:00	水泳講座受講者がエントリー（1人2種目＝1,000円）を行い、年齢別、男女別で記録に挑戦。幼児2種目、小・中学生12種目。幼児16人、小・中学生116人参加。チャレンジ企画として、25mを自己申告したタイムに近いタイムで泳ぐ“タイムチャレンジ”、200m個人メドレーに挑戦した。 （プール）
親子DEぱちゃぱちゃ	12.11　10:00～11:30	「親子水泳」「ぱちゃぱちゃファミリースイム」のコースが人気を集めている。受講希望者が多く、キャンセル待ちをしている人も多い。ウエイティングしている家族を対象に、一日体験コースを行った。1・2歳親子50組が参加。参加費 1,000円。 （プール）
第19回新体操発表会	H19.3.18 13:30～15:30	「ジュニア新体操」「シニア新体操」の受講生による発表会。1年間の成果を発揮し、家族の前で演技を発表した。今年のテーマは「想」――想いを表現して伝える、というテーマで講座生全員が創作に取り組んだ。55人参加。今回初めての試みとして、午前中に一般来館の4歳児から小学生を対象に「新体操にトライ!!」（事前公募）を行い、体験・練習ののち発表会にも出演した。 （体育室）

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 キャッスルスポーツゲームズ2006 ～Spiel Fussball ～サッカーやろうぜ	4.29・30、5.3～7 14:00～15:00 16:00～17:00	サッカー・ワールドカップドイツ大会にちなみ、〔こどもの城〕独自ルールの室内サッカー・ウオールサッカーを行った。ビブスの色、あいさつなどをドイツ語で話したり、ドイツを身近に感じられるようにした。（体育室）
〈　〃　〉 〃　マイスターへの道～おもしろドイツあそびに挑戦～	4.29・30、5.3～7 10:00～17:00	ドイツの名産や地名などにちなんだスポーツゲームやドイツの伝承遊び（ゲーム）のコーナー、ドイツの絵本のコーナーなどを設け、大きい子どもから幼児まで遊べるスペースになった。（健康開発室）
〈夏休み〉 体験！ライフセービング～安全な水遊びをするために	7.17　10:30～12:00	海・プールなどでの安全についての講習。溺れている人への対処法、着衣水泳を行う。今年は、対象を小学生以上保護者にまで広げた。大人が加わったことで、活動内容に強弱ができて、好評だった。参加費500円。協力：ライフセービング協会。（プール）
〈　〃　〉 キャッスルスポーツゲームズ2006 ～スポーツいっぱい夏休み～	7.21～8.25、29～31 14:00～15:00 16:00～17:00	リングテニス、インディアカ、フライングディスク、サッカー、Tボール野球、タグラグビー、スポーツ鬼ごっこ（カバディ）、ハンドボール、バスケットボール、バレーボール、つなひき、相撲、ユニホック、体操アラカルト、ドッジボールなど、いろいろなスポーツに日替わりで挑戦した。4種類の新メニューも加わり、パワーアップ。外部講師（専門家）が指導にあたった種目では、子どもたちはそれぞれのスポーツの魅力を存分に体験した。（体育室）
タグラグビー	8.1　14:00～15:00 16:00～17:00	スポーツワークスの村田祐造さんが指導。ゲームを行うときに年齢別のチーム分けをしないで、異年齢チームで行った。大きい子が小さい子のめんどうをよく見る光景が見られた。
ダブルダッチ	8.4　14:00～15:00 16:00～17:00	日本体育大学2年生のグループ「マスターピース」が指導。指導経験も多く、幼児がダブルダッチを跳べるようになったのには、驚かされた。
スポーツブーメラン	8.6　14:00～15:00 16:00～17:00	ブーメラン協会の先光由伸さんが指導。作って遊ぶということが楽しく、指導者に少し調整してもらうと、よく飛ぶようになった。
トランポリン	8.12・13 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00	毎年行っている人気プログラム。競技用トランポリンを使用して、技の習得をした。指導は、日本トランポリン協会の河野公一さん。
ロープスキッピング	8.19・20 14:00～15:00 16:00～17:00	ロープスキッピング日本チャンピオンの粕尾将一さんの指導で、短なわ、大なわなどに挑戦した。
クリケット	8.29　14:00～15:00 16:00～17:00	クリケット協会の協力を得て、前年度に引き続き実施。参加人数が多くなると、遊ばせきれない点が課題。クリケットの楽しさを伝えられるように、さらに検討していきたい。
パタ・パタ・パター	8.30・31 14:00～15:00 16:00～17:00	9ホールのパットゴルフ場を作り、仲間や家族とパットゴルフを楽しんだ。
〈　〃　〉 体力“からだ”測定	7.21～8.31 11:00／14:00／ 15:00／16:00 （日・月曜日は13:00 の回あり）	平常期間の土・日曜日、祝日に実施している体力測定と同じ。7種9項目のチェック。（健康開発室）
〈　〃　〉 ちびっこプール	7.21～8.31 10:30～16:30	屋上に仮設プール（13.6×5m、水深60cm）を設置、一般利用。利用料200円、レンタル（タオル・水着）各200円。（屋上プール）

名　称	日　時	内　容
〈開館記念〉 親子のふれあい体操	10.29、11.3～5 14:00～15:00	「ファミリーウイーク」にちなんで、親子で楽しめるスポーツ遊びを行った。10月29日は「親子でサッカー」、11月3･4日は「親子であそぼう」、11月5日は「親子で体操」を行った。「親子でサッカー」を楽しみに来たという参加者もいた。（体育室）
〈 〃 〉 1・2歳児親子体操 ～1・2ジャンプ	11.3　14:00～15:00	1・2歳の親子を対象にしたプログラム。年齢に応じて親子でふれあいを楽しめる体操を紹介した。（体育室）
〈 〃 〉 ファミリーでスポーツ ～ファミリーサタデー	11.4　10:30～11:45	土曜日に定期的に行っている「ビッグサタデー」のファミリー版。家族みんなでスポーツ遊びに挑戦。（体育室）
〈 〃 〉 2・3歳児親子体操 ～2・3スキップ	11.5　14:00～15:00	2・3歳の親子を対象にしたプログラム。ダイナミックに楽しめる体操を紹介した。（体育室）
〈 〃 〉 ファミリースイミング	10.28、11.4 13:30～16:00 10.29、11.3、5 10:30～17:00	プール一般利用の時間に、一部に幼児専用スペース（フロアを敷いて水深を浅くした）を設置した。（プール）
〈冬休み〉 キャッスルスポーツゲームズ～モータースポーツにチャレンジ！	12.23～27 10:30～11:30 13:30～14:30 15:30～16:30	体育室のサーキット場に信号機を設置。チームで協力して組み立て作業をすることを目的とした。また、運転するときのアクセルワークなどもしっかり練習した。自転車に乗れる小学生以上が対象。参加費100円（保険代）。協力：㈱本田技術研究所二輪開発センター。（体育室）
〈 〃 〉 モータースポーツにチャレンジ～モータースポーツ（バイク）にふれてみよう	12.23～27　開館時間中	バイクのシミュレーターでの運転体験やバイク関連のビデオ上映。本なども展示した。（健康開発室）
〈 〃 〉 キャッスルスポーツゲームズ ～伝承遊びとスポーツ	H19.1.3～8 14:00～15:00 16:00～17:00	14時の回は「伝承遊び」。だるまさんがころんだ、鬼ごっこ、くつとばし――これが、日本の遊びといえるものを取り上げた。16時の回は「スポーツ」。サッカーや野球など子どもに人気のスポーツから、クリケットなどなじみのうすいスポーツまで、さまざまなスポーツを行った。（体育室）
〈春休み〉 キャッスルスポーツゲームズ2007 ～なにができるかな!? スポーツあそび	3.24～4.5 14:00～15:00 16:00～17:00	さいころをふって、スポーツに必要な運動キーワード（筋力、バランス、スピードなど）と種目（サッカー、ドッジボールなど）を決めて、キーワードにそった練習をし、ゲーム（試合）を行った。（体育室）
体力測定	特別期間中 （児童福祉週間特別期間を除く）	健康開発室で7種目9項目の体力測定。男女別に全国平均値と比べることができる。利用料1回100円。（健康開発室）
プール　一般利用	〃	10:30～12:00、13:30～17:00に一般利用（プログラムにより変更あり）。有料。（プール）

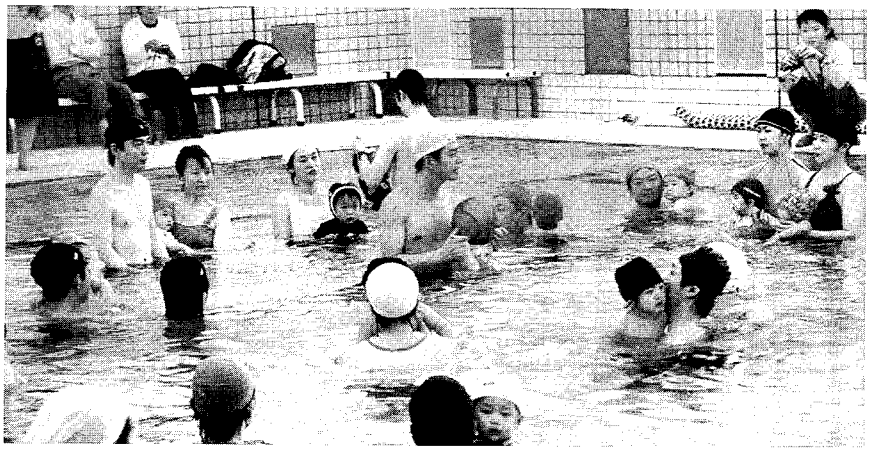


ファミリーでスポーツ～ファミリーサタデー～

2. 講座・クラブなど

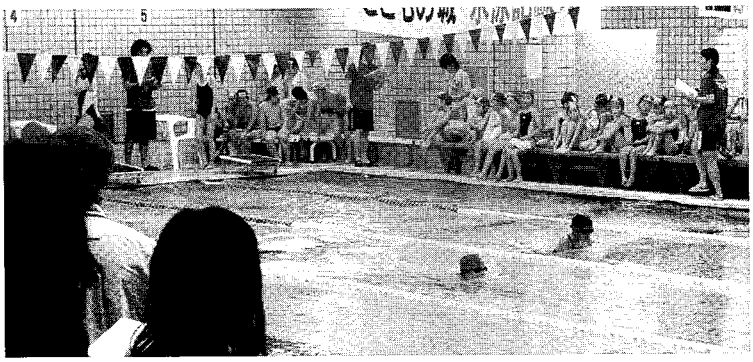
〈講座〉

名称	対象・定員	受講数	日時	内容
親子水泳 A	(組) 1・2歳児と親 (30)	(組) ① 33 ② 34 ③ 28	水曜日 10:00～11:00	親と子を対象とした水泳コース。土曜日のコースは父親の参加が多い。父親が参加することで、よりダイナミックな動きができる。 受講料＝1・2期各29,000円、3期20,000円。
〃 B	〃	① 33 ② 34 ③ 30	土曜日 10:00～11:00	
幼児水泳 A	(人) 3・4歳児 (50)	(人) ① 30 ② 27 ③ 18	木曜日 14:00～15:00	単に泳法の修得だけでなく、陸上と同じように水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をとおして、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身につける。クラスの人数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1・2期各22,500円、3期15,500円。
〃 B	4・5歳児 (60)	① 44 ② 36 ③ 42	木曜日 15:00～16:00	
〃 C	〃	① 42 ② 40 ③ 39	金曜日 14:30～15:30	
〃 D	3～5歳児 (50)	① 45 ② 46 ③ 49	火曜日 14:30～15:30	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行っている。クロールなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導を行っている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1・2期各22,500円、3期15,500円。
〃 E	〃	① 31 ② 46 ③ 48	水曜日 13:30～14:30	
幼児体育 A	3・4歳児 (40)	① 37 ② 37 ③ 38	水曜日 14:30～15:30	たくさんの友だちと一緒に思いきり体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しく動きながら健康な体や運動の基礎を作る。 受講料＝1・2期各20,500円、3期14,000円。
〃 B	4・5歳児 (40)	① 20 ② 22 ③ 16	火曜日 15:00～16:00	「幼児体育A」を土台にして、それを発展させながらさまざまな運動を体験し体の使い方を学んでいく。 受講料＝1・2期各20,500円、3期14,000円。
〃 C	〃	① 25 ② 25 ③ 23	木曜日 15:00～16:00	



「ぱちゃぱちゃファミリースイム」「親子水泳」の一日体験プログラム「親子DEぱちゃぱちゃ」

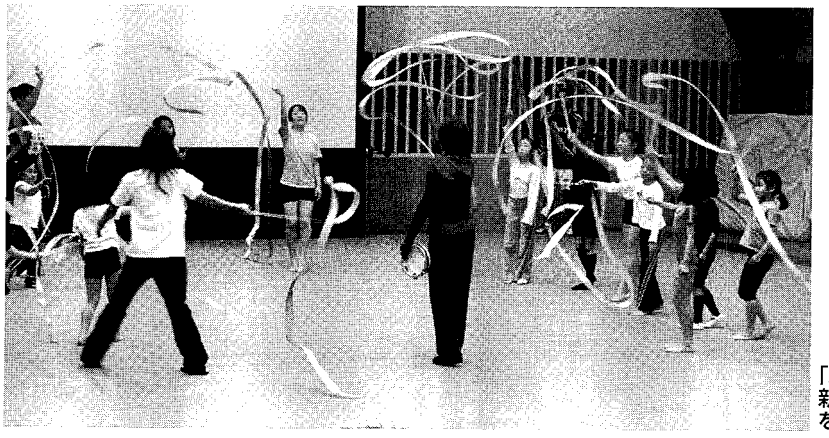
名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
小学生水泳　A	(人) 小1～6 (60)	(人) ① 22 ② 18 ③ 13	水曜日 14:30～15:30	生涯楽しめるスポーツ“水泳”を基礎から学び、4泳法をマスター。「シニア・スイミング」へのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施（10級～1級）。次への目標としている。 受講料＝1・2期各22,500円、3期15,500円。 10級　顔つけ　もぐり　息こらえ　ボビング　水なれ 9級　伏し浮き　背浮き　板キック　ボディーイメージ1 8級　伏し浮きキック　背浮きキック　ボディーイメージ2 7級　ノーブレクロール　バックキック　ボディーイメージ3 6級　クロール・バック（12.5）　ブレスト・バタフライ（キック） 5級　クロール・バック（25）　ブレスト・バタフライ（リズム） 4級　クロール・バック（50）　ブレスト・バタフライ（呼吸） 3級　クロール・ブレスト（タイム）　個人メドレー 2級　個人メドレー（100）（タイム） 1級　個人メドレー（200）（タイム） ※バランス良く発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」の2講座の受講ができる。 受講料＝1・2期各29,000円、3期20,000円（2コース合計）。
〃　B	〃	① 19 ② 19 ③ 13	火曜日 15:30～16:30	
〃　C	〃	① 51 ② 46 ③ 46	水曜日　〃	
〃　D	〃	① 51 ② 42 ③ 37	金曜日　〃	
〃　E	〃	① 58 ② 52 ③ 51	木曜日 16:00～17:00	
〃　F	小2～6 (40)	① 33 ② 32 ③ 25	火曜日 16:30～17:30	
〃　G	〃	① 44 ② 42 ③ 32	木曜日 17:00～18:00	
シニア スイミング　A	小1～高3 (30)	① 14 ② 14 ③ 18	火曜日 16:30～18:00	「小学生水泳」からのステップアップ講座。4泳法とも、自己記録の向上をめざす。指導者の推薦が必要。 受講料＝1・2期各22,500円、3期15,500円。 ※受講生は「シニアスイミングA」「同B」「シニアスイミングフレッシュ」の時間帯に練習することができる。
〃　B	〃	① 11 ② 12 ③ 14	水曜日　〃	
シニアスイミング フレッシュ	小3～中3 (30)	① 36 ② 33 ③ 35	金曜日 16:30～18:00	小学3年生以上で泳ぎが不得意な子どものクラス。クロールで25m以上泳ぐことを第一目標に練習を進める。90分の集中的な練習で上達の度合いが大きかった。 受講料＝1・2期各22,500円、3期15,500円。
小学生体育　A	小1～6 (30)	① 29 ② 29 ③ 30	火曜日 16:00～17:00	器械体操、球技を中心に多種多様な運動経験をとおして苦手な種目を克服する。さらに、鬼ごっこなどを取り入れ、持久力も身につける。 受講料＝1・2期各17,000円、3期11,000円。 ※バランス良い発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」の2講座の受講ができる。 受講料＝1・2期各29,000円、3期20,000円（2コース合計）。
〃　B	〃	① 30 ② 31 ③ 27	木曜日　〃	



第19回水泳記録会

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
ジュニア新体操	（人） 小1～3の女子 （35）	（人） ① 36 ② 36 ③ 34	水・金曜日 15:30～17:00	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやボールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料＝1・2期各29,000円、3期20,000円。
シニア新体操	小4～中3の女子 （35）	① 25 ② 25 ③ 22	水・金曜日 16:30～18:00	「ジュニア新体操」から一歩進んで新体操独特の美しい表現ができるように練習。創作活動や発表会も開催。 受講料＝1・2期各29,000円、3期20,000円。
手足の不自由な子の水泳	小1～中3 （15）	① 13 ② 13 ③ 14	土曜日 17:00～18:00	身体に障害があり、水泳の機会に恵まれない小・中学生が対象。スタッフ、ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料＝1・2期各17,500円、3期12,000円。
健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	太りすぎの小学生とその親 （20）	① 19 ② 22 ③ 21	土曜日 16:00～17:00	小児保健部との協力事業。医師、栄養士による健康・栄養のチェック、体育指導者による体力チェック――3者が協力してトータルな活動を行う。 受講料＝1・2期各24,000円、3期18,000円。

※講座回数＝1期13回、2期13回、3期9回（「ジュニア新体操」「シニア新体操」は週2回）



「新体操発表会 想～Soh」開催にあわせて、多くの人に新体操の魅力を体験してもらおうと「新体操にトライ‼」を開催。講座生にまじって発表会で演技を披露しました。

〈クラブ〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
ダイナミック・ヘルス・クラブ(D.H.C.)	（人） 成人 メンバー ビジター 法人	（人） 年間延べ 6,282 441 211 合計 6,934	火～土曜日 12:00～13:30 18:00～21:00 日曜日・祝日 18:00～20:00	18歳以上の大人のためのクラブ。プール、体育室、ジムを利用して体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。個人会員は、入会金100%オフ、会費20%オフキャンペーンを実施して、新規会員の募集に努めた。入会金0円、年会費50,000円、4か月20,000円、月会費5,500円、利用料（利用の都度）300円。パス券（月3,000円、4か月11,000円）、ビジター1,500円。
レディースコース スイミング リズム &ストレッチ	18歳以上の女性 （150）	① 52 ② 48 ③ 51	火・木曜日 10:00～11:00 水曜日 10:00～11:00 土曜日 11:00～12:00	スイミング3コース、リズム&ストレッチ1コースを併せてレディースコースとし、チケット制でどのコースでも参加できるようにした。チケット終了後は6回分の追加クーポン券を発行。生活習慣の中に定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも4班編成。それぞれのレベルにあった班を選択し、「スイミング」ではクロールの練習から4泳法を身に付けることを目標に健康作り。「リズム&ストレッチ」では、ゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動で、楽しく動きながら明日への活力を生みだす。 受講料＝1・2期各21,000円（13回分）、3期14,000円（9回分）。クーポン券（6回）5,000円。
マタニティ・スイミング	妊娠16週以降の妊婦 （月35）	年間延べ 1,918	火・木曜日 11:00～12:00	小児保健部との協力事業。水泳プログラムをとおして、妊娠中を楽しく過ごすためのクラス。医師が活動前後に健康チェックを行い、活動中も不測の事態に備えて常駐する。出産や子育てにかんするレクチャーや栄養・心理の相談も受けられる。受講料12,000円（月7回）、入会金10,000円。

《講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
母と子のすくすくランド	(組) おすわりのできる乳児と母親 (20)	(組) ① 29 ② 23 ③ 28	金曜日 10:00～11:00	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び、お母さんのシェイプアップも。1・2期は10回、3期は9回。 受講料＝1・2期各24,500円、3期22,000円。
幼児・母親体育　A	1・2歳児と母親 (20)	① 31 ② 29 ③ 29	火曜日 13:30～14:30	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳び、走るうちに運動神経を養い、体を動かすことの楽しさを身につける。1・2期は10回、3期は9回。 受講料＝1・2期各20,400円、3期18,000円。
〃　B	2・3歳児と母親 (30)	① 30 ② 29 ③ 30	水曜日 11:00～12:00	
ぱちゃぱちゃファミリースイム	1・2歳児と父母、祖父母 (30)	① 28 ② 29 ③ 27	金曜日 10:00～11:00	1歳から始まる水泳のビギナークラス。父母、祖父母のうち2人と幼児の組み合わせで参加できる。水慣れから、楽しい水泳活動をとおしてコミュニケーションも深めていく。1・2期は10回、3期は9回。 受講料＝1・2期各26,500円、3期23,500円。

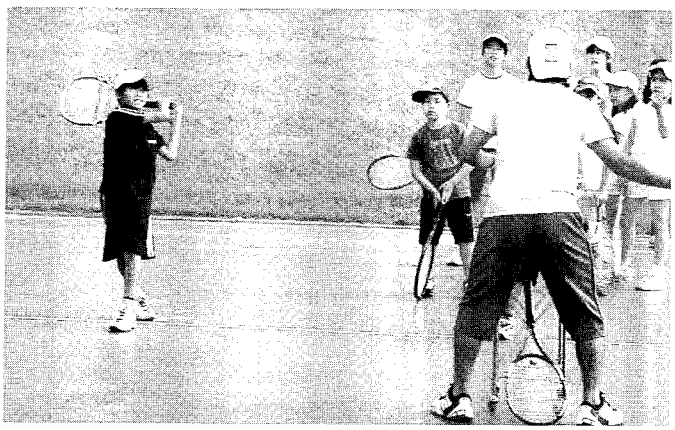
《短期講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
夏休みこども集中水泳講習会　A	(人) 小1～中3 (50)	(人) 50	7.21～25 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法を体験。 受講料＝7,000円。
〃　B	4・5歳児 (40)	40	7.21～25 10:30～11:30	
〃　C	小1～中3 (50)	50	8.17～21 9:30～10:30	
〃　D	4・5歳児 (40)	40	8.17～21 10:30～11:30	
ガンバ2006	小1～3 (30)	30	8.17～21 9:30～10:30	器械体操や球技などの基本動作を身につける、体操の苦手な子どものための5日間連続の体操教室。受講料＝7,000円。
春休みこども集中水泳講習会　A	小1～中3 (50)	50	4.1～5 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。 受講料＝7,000円。
〃　B	4・5歳児 (40)	40	〃 10:30～11:30	
成人水泳集中講習会	18歳以上 (月20)	延べ 103	水・金曜日 18:00～19:00	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習。月ごとに募集を行い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。 受講料＝10,000円（各月7回）。
こども一日ドック	小1～中3 (10)	5	7.26 12:00～17:30	小児保健部との協力事業。体力測定など運動面の指導を担当。

《野外活動》

名　称	日　時	内　容
スポーツキャンプ	7.26～29	大自然に囲まれたニュー・グリーンピア津南でテニスや球技などスポーツをとおして、全力を出した爽快感、充実感を味わえるキャンプ。自分の体の感覚やバランスをしっかり感じ、体力的にも、精神的にも成長することを目的とした。ニュー・グリーンピア津南（新潟県）。
新体操夏合宿	8.2～5	天候にも恵まれ、緑深い矢祭町の自然に囲まれた環境の中で、地域の人たちの協力も得て、伸び伸びと楽しく、充実したプログラムを行うことができた。講座生36人、OG３人、スタッフ４人の計43人が参加。東白河郡ユーパル矢祭（福島県）。
健康スポーツ教室～太りすぎクラス～夏合宿	8.10～12 （悪天候のため中止）	週１回１時間の講座とは別に、長時間運動を続けることで体を動かす楽しさを改めて知ってもらうことが目的。１泊２日のキャンプのなかで、ハイキングや野外炊事などに挑戦し、食と運動の両面から自分自身を意識できるプログラムを予定していたが、悪天候のため直前になって中止した。埼玉県青少年総合野外活動センター（埼玉県）で開催を予定していた。
チャレンジキャンプ	8.27～30	“何にでも挑戦しよう！”が合言葉の低学年体験キャンプ。今回は、山中湖一周ウオーキングにチャレンジ。約６時間かけて、全員が完歩した。小学1～3年生45人が参加。YMCA山中湖（山梨県）。
スキースクール パート1　1期 〃　2期	12.26 ～29 H19.1.4～7	１期はスキーレッスンに最適な北志賀高原よませスキー場（長野県）。雪不足で心配されたが、期間中に雪が降り、小雪の中でも充実したレッスンが行えた。2期はファミリー向けゲレンデで安心して楽しめるニュー・グリーンピア津南（新潟県）。２期は新学期が始まる前なので、往復の疲労の軽減をはかるため新幹線を利用。また、2期は中学生のみスノーボードのレッスンあり。小学2年生～中学３年生が対象。１期は45人、2期は53人参加。
スキースクール パート2	3.27～30	小学1～3年生の低学年が対象のスキースクール。パート１と異なり、スキーのみならず「班対抗雪合戦」「雪上運動会」などレクリエーション的なプログラムも多く含まれている。今シーズンは雪不足で、予定したプログラムの遂行が心配されたが、一部変更しただけで、スキーレッスンはすべて行うことができた。39人参加。ニュー・グリーンピア津南（新潟県）。

スポーツキャンプ





チャレンジキャンプ



スキースクール　パート１

3. その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
親子ふれあい体操1・2・3	5.27	天候悪く、参加者数が心配されたが、大盛況だった。蓮田市立児童センター（埼玉県）。
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	9.29	6～12か月の幼児とその親が、当日参加も含めて約100組参加。0歳を対象とした場所がないため、参加できるプログラムがあると参加者が多くなる。マッサージ、タオルを使って体操などを行う。岡山ふれあいセンター（岡山県）。
親子ふれあい体操1・2・3	10.6	身近な道具を使って遊んだ。ふれあいだけでなく運動も多く取り入れた。鳥栖市児童センター（佐賀県）。
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	10.20	0歳の親子10組の予定が、当日参加を含めて30組となり、さらに1・2歳の親子40組をあわせて、計70組になる。マッサージから親子体操（体を使うものが中心）、パラバルーンなどを行った。その後、個人的に〔こどもの城〕に来館した親子もいた。蕨市福祉児童センター（埼玉県）。
〃	11.20	親子プログラムに実際に参加した人のなかから、家でもぜひやってみたいという声も聞くことができた。その場だけでなく、家庭での育児に生かしてもらえることは、最大の収穫だった。姫路市立児童センター（兵庫県）
親子ふれあい体操1・2・3	12.1	大和高田市立児童館（奈良県）。
身近な道具でスポーツあそび	H19.1.31	船橋市立三咲児童ホーム（千葉県）。
親子ふれあい体操1・2・3	2.24、3.2	親子を対象に行うプログラムと指導者講習会を2日に分けて行った。杉並区四宮森児童館（東京都）。
〃	3.16	八王子市立浅川児童館（東京都）。

〈動くこどもの城〉「親子ふれあい体操1・2・3」（埼玉県蓮田市立児童センター）



プレイ事業部



平成18年度の活動

1．はじめに

プレイ部門の活動は、(1) 子どもの発達年齢や遊びの種類を考慮した遊び環境の整備　(2) さまざまな児童文化財を素材にしたプログラムの提供　(3) 子ども同士の交流を促進するプログラムの開発、提供を基本機能としている。

この３つの基本機能に時代や社会のニーズにそった内容を加え、年間のプログラム活動を構成した。活動スペースは、屋内の広い遊び空間であるプレイホールを中心に、屋上遊園、パソコンルームと幅広い。また夏休みと冬休みの特別期間には、野外の自然環境を利用してキャンプ活動も実施した。

本年度は、従来は演じられるものを鑑賞するだけであった人形劇の活動を、コミュニケーションを楽しむことや表現を楽しむことなど、人形劇を題材としてさまざまな意図と形態を持ったプログラムへと発展させて実施するようにした。

また、夏休みと春休みの特別期間に実施した、子どもの生活体験や社会体験を広げることをねらいとしたプログラムなど、子どもたちが主体的に参加し、遊びをより学びにつなげることができた。

（ア）一般来館児・者活動

プレイホールでの活動は、大きく分けて２つある。一つは平常期間の定例プログラムとして行う「週間事業」、もう一つは夏休みや春休みなどの特別期間や歳時記などに合わせて行う「季節行事」である。

週間事業は曜日ごとに違った内容で行っている。水曜日に行う「みんなのにこにこ広場」は、人形劇、影絵、紙芝居などの児童文化を〔こどもの城〕のボランティアが中心となって提供する活動である。木曜日の「おりがみあそび広場」は、いろいろなテーマで折り紙をボランティアと一緒に折るというもの。金曜日の「金曜開店！あそびやさん」は週替わりでいろいろながん具を出し、親子で、また子どもたち同士がかかわり合いを持ちながら、楽しめる場である。いずれの活動も、人が人に話して伝える〈伝承遊び〉の意味を大切にした活動となった。

日曜日を中心にさまざまな親子遊びを実施している「ファミリープレイタイム」は、本年度５回実施した。近年いろいろな場面で父親の育児参加について語られているが、ファミリープレイタイムも以前に比べて父親の姿が目立ってきており、より積極的に参加している姿勢が見られる。今後も、さらなる父親の参加を視野に入れ、活動することが大切であると感じられた。

夏休み、春休みの特別期間に実施した活動では、子どもの生活体験、社会体験を広げ、遊びがより学びにつながることをねらいにプログラムを実施した。夏休み特別期間は“家をたてる”ということをテーマに、そして春休み特別期間は“おみせやさんごっこ”をテーマにそれぞれワークショップを実施した。どちらのプログラムもその遊びの持つ意義を、参加者やその保護者に自然なかたちで伝えることができた。

（イ）グループ活動

グループ活動は、さまざまな“ごっこ遊び”や“劇遊び”などのプログラムをとおして、豊かな心をはぐくむと同時に、子どもたち同士が仲間意識を感じられるようになることを主なねらいとしている。

本年度実施したプログラムは、「忍者修行道場」23回をはじめとして、「森へ行こう」「こどもの城オリンピック」「パペットランド」「みんないっしょに」など計48回を数えた。

「わくわくオリンピック」は、幼児向けのレクリエーションゲームをオリンピックの競技として行う“オリンピックごっこ”。グループ活動の事前打ち合わせの際、利用グループから「子どもたちが力を合わせて行う競技もほしい」という要望があり、それに応えて新しい競技を組み入れて、年間で5回実施した。

（ウ）野外活動

夏休み特別期間に「ちびっこ冒険団」(小1～3対象)、「フェローシップキャンプ」(小4～6対象)、冬休み特別期間に「ゆきんこ冒険団」(小1～3対象) を実施した。

「ちびっこ冒険団」では、グループごとにネイティブアメリカンの住居“ティーピー”を模した、移動式テントを作るプログラムを実施した。実際に森の中に設置したテントを拠点に、さまざまな野遊びを実施することができた。

「フェローシップキャンプ」は、前年度は天候不順で実施できなかった茶臼岳登山を実施した。基本は舎営だが、1泊だけテントに泊まるオーバーナイトキャンプを行った。グループで協力して、テントのそばに何か遊びの道具を作ろうという目標を掲げ、より充実した内容で実施することができた。

「ゆきんこ冒険団」は、暖冬の影響で雪がほとんどない状態で実施することになった。プログラムの大幅な変更も余儀なくされたが、雪遊びにとらわれない冬の活動が展開でき、またグループで楽しむ時間が増え、子どもたちにとって充実した内容のキャンプとなった。

近年、ボランティアの確保が難しくなってきている。参加者が安全で有意義な活動を実施するためにもボランティアの協力は不可欠であり、協力を得るための対策を講じる必要がある。

また、冬休みの「ゆきんこ冒険団」では「出発当日に授業があるがどうしたらよいか」という問い合わせが多数あった。学校の2学期制導入などで、小学校の季節休みの日程も多様化してきている。キャンプの日程も現状にあわせて見直していきたい。



「おはなし人形広場」

2. 豊かな心をはぐくむ人形劇

人形劇は子どもたちの豊かな情操をはぐくむ大切な児童文化財のひとつである。従来は、演じられる人形劇を見て楽しむことだけであったが、さまざまな試みを経て、親子や仲間同士のコミュニケーションを楽しむこと、また子どもが自ら人形を操作して役を演じ自己を表現するなど、子どもの成長発達のための手段として、人形劇活動の幅が大きく広がった。

【人形劇を楽しむ】

プレイホールでは、毎週水曜日の「みんなのにこにこ広場」で、ボランティアが紙芝居や人形劇、影絵を上演するほか、土曜日の音楽ロビーでプロの人形劇団による公演を週間行事として実施した。

人形劇が始まると、子どもたちは演者たちの息づかいを感じながら、目の前で繰り広げられるお話の世界にぐんぐん引き込まれる姿がみられた。お話の主人公に自分をだぶらせ、一緒に喜んだり笑ったり、怖がったり泣いたりと、子どもたちの感情は大きく揺れ動く。また、そんな子どもたちの気持ちを共有し、一緒に寄り添ってくれる親の存在が、子どもたちの安心にもつながり、親子一緒に人形劇を楽しむアットホームな空間となっている。

【親子のふれあい】

人形劇プログラムは、鑑賞するだけではなく、子どもたちの能動的な〈あそび〉や〈コミュニケーションを楽しむ〉ためのプログラムとしても実施している。

その中のひとつ「みんなであおむしくん」は、2・3歳の幼児とその母親を対象にしたプログラムで、身近にある靴下を青虫にみたてた人形を使い、参加者それぞれが“あおむしくん”という主人公になって遊ぶ、親子のふれあいを意図したプログラムである。親子が互いの体に人形でよじのぼってみたり、パクパクと食べるまねをしたり会話をしたりと、親子でドキドキわくわくしながら話の展開を一緒に楽しんだ。

このプログラムは〈動くこどもの城〉の子育て支援活動や、〔こどもの城〕で行われる親子向けの活動で実施された。展開が進むうちに自分の子からまわりの子どもや親にまで遊びをしかけていく設定があり、終わるころには緊張していた参加者同士もなごみ、終了後も青虫を手にはめたままで話の余韻を楽しんでいる親子の姿も見られた。

【表現活動】

自分の分身である人形が自分の手で作られたものになる

と、子どもたちの人形への愛着もより一層深まり、またイメージの世界で“演技”をして遊ぶことが可能となる。

児童福祉週間特別期間の「ゴールデンウイーク人形劇フェア」での「つくってあそぼう」、開館記念ファミリーウイーク人形遊びのワークショップ「わくわくパペットランド」、またドルッチャワークス「ねずみ座俳優養成所」(12月16・17日)でのトレーニングごっこなどのプログラムでは、自分の人形を思い思いに作ってもらい、作り上げた後イメージの世界で遊べるような仕掛けを用意して、表現活動を楽しめるようにした。

遊んでいるうちに、一人で遊んでいた子どもも、役になりきって他の子どもに話かけたり、一緒に遊んだりする姿も見られ、同じ“おはなし”の世界を共有して遊ぶことができた。

人形遊びのワークショップ「トコトコらんどであそぼう」





ドルッチャワークス「ねずみ座俳優養成所」

【活動の広がり】

本年度の新しい試みとして、ドルッチャワークス参加劇「おむすびころりん」を実施。“役者”として子どもに参加を呼びかけた。

「おむすびころりん」は、観客がネズミ役や村の子ども役でもあり、繰り返されるひとつのセリフを覚え、観客席と舞台が一緒に劇を作っていくものである。観客席の子どもたちの手本でありリード役となって、舞台の上で演じてもらう“役者”を小学生に担当してもらった。直前にスタッフから指導を受け、会場への客入れから、本番の演技、さらに客出しまで芝居小屋の役者さながらの役割をこなすなかで、“職業としての役者”を体験してもらった。

本番前はドキドキしていた子どもたちだが、体験後は見送りの時に「楽しかったよ」「良かったよありがとう」というお客さんからの言葉をもらい、達成感があったようだ。今後も、演技を見てもらうという体験の場を設けていけたらと思う。

3. まとめ

本年度、夏休みと春休みの特別期間に、子どもの生活体験や社会体験を広げることをねらいとしたプログラムである“発見・体験遊びの広場”を実施した。このプログラムは、子どもが主体的に参加体験し、遊びながら学ぶことを重視した活動であった。

夏休み特別期間に実施した“家をたてる”をテーマにしたプログラムでは、のこぎりを引いたり、おもちゃのショベルカーで荷物を運んだりした。春休み特別期間の“おみせやさんごっこ”がテーマのプログラムでは、自分の店を持ち、大声でお客さんと応対したりなど、子どもたちの元気でいきいきした姿が見られた。

子どもが自分で制作した人形で遊び、表現する活動や、子どもが演じる人形劇の実施など、より子どもが主体的に参加、体験する活動を行った。多くの子どもたちが互いにかかわり合いを持ちながら、遊びが学びの場となったプログラムであった。

本年度は、今後のプレイ部門の中心となる活動が広がり始めた年となった。

また、施設整備面では、老朽化により屋上遊園床面の安全性が低下したため、床ゴム面の張り替え工事を実施した。この工事に伴い、12月12日から27日まで屋上遊園とプレイポートの利用を休止した。

平成18年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名称	日時	内容
みんなの にこにこ広場	水曜日　15:00～15:30	週替わりで、人形劇・紙芝居・影絵を上演。いずれも女性ボランティアの協力を得ている。鑑賞型のプログラムには常連の参加も多く、いろいろなジャンルの児童文化を伝える機会となっている。就園児にまじって赤ちゃん連れのお母さんの参加が近年増え、子どもと一緒に楽しもうとする姿やアットホームな雰囲気にリラックスしている姿が見られた。（プレイホール）
おりがみあそび広場	木曜日　14:30～15:30	日本の伝承遊びの一つである“折り紙”の楽しさを来館児・者に伝えるプログラム。ボランティアの協力を得て、折り図を用意せず口承で伝えている。月ごとにテーマを設定し、そのテーマにそった折り紙を取り上げた。6・7月「お弁当」、9月「夏の思い出」、10月「犬」、11月「山のお月見」、12月「お正月」、2月「日本の伝統」。それ以外の月は遊んだり、身につけたりする折り紙を作った。（プレイホール）
金曜開店！ あそびやさん	金曜日　開館時間中	期間ごとに3種類のおもちゃを選び、週替わりで来館児・者に体験してもらった。 1期＝バランスゲーム／木の汽車のおもちゃ／魚の動きが楽しい魚釣りゲーム 2期＝絵合わせゲーム・動物ドミノ／かえるジャンプゲーム／板状のつみきセット 3期＝ネジブロック／組み立てビー球転がし／変型木のつみき（プレイホール）
おはなし人形広場	土曜日　15:00～15:30	人形劇やパネルシアターなどを上演。月1・2回はプロやアマチュアの劇団による公演、それ以外は音楽事業部やボランティアの協力を得て、スタッフが担当。親子連れが多く、親子で一緒に“おはなし”の世界を楽しんでいる様子がうかがえた。劇団公演：17回、その他公演：17回。（音楽ロビー）
サタデー・ ラボラトリー	土曜日　13:00～16:00 （受け付け時間）	小学生以上を対象とした、科学遊び・映像遊びを中心とした、直接体験を重視したプログラム。AV事業部と共同で毎週異なったプログラムを実施する。実施プログラムは別表参照。（プレイホールほか）
ファミリープレイタイム　おやこでお店やさん マックロー商店街 開店	5.28　12:30～16:00 （受け付け時間）	お店やさんごっこを取り上げ、遊びがより活性化するような環境を提供した。品物を選んだり、値段をつけたり、看板を作ったりと、親子で協力する場面が多く、遊びをとおして他の親子とのかかわりも自然に発生していた。80組。（プレイホール）
ファミリープレイタイム　親子で 運だめし対決！	6.25　12:30～16:00 （受け付け時間）	幅広い年齢層の人が対等に勝負することができる特徴がある“運だめし”のゲーム――「すごろくポン」「コロコロ玉ころがし」「なにがでるかな？ふしぎBOX」「どうぶつカードめくり」「色あてゲーム」「カードでじゃんけんポン」を実施。113組。（プレイホール）
ファミリープレイタイム　おやこで わりばし鉄砲	9.18・19 12:30～16:00 （受け付け時間）	割りばし鉄砲を作り、作ったもので遊べるコーナーを設置した。工作そのものの難度が高かったため、親子の協力する姿や遊べるコーナーでは競いあう姿も多く見られた。238組（2日間計）。（プレイホール）
ファミリープレイタイム　おやこで 新聞あそび	12.10　12:30～16:00 （受け付け時間）	新聞紙をテーマに、「新聞プール」「新聞工作」「新聞ファッションショー」などの遊びを展開した。通常の遊びのほか、時間限定で親子新聞遊びのつどいも実施し、新聞でのゲームや歌遊びも楽しんだ。60組。（プレイホール）
ファミリープレイタイム　おやこで チャレンジゲーム	H19.2.11・12 12:30～16:00 （受け付け時間）	身近な道具を用意。ルールが単純なゲームに取り組み、ベスト記録を目標に家族で工夫して遊べるよう内容を設定した。「動物さいころ」「ぼうずめくり」「玉ころがし」「かんつみ」「ふわふわうかし」「かんのばし」「チャレンジこどもクイズ」の7種のゲームを実施。190組（2日間計）。（プレイホール）
〈七夕〉 天までとどけ ねがいごと	7.1・2　11:00～16:00 7.4～7　13:00～16:00 （受け付け時間）	七夕の由来を伝える行事。短冊に願いごとを書いて笹竹に飾った。今回は子どもたちの願いごとや将来の夢をビデオで撮影し放映した。撮影前に願い事を相談したり、放映したものを見ておしゃべりしたりと、親子での会話のきっかけとなっていたようだ。（プレイホール）
第38回バンバー大会	9.3 小学生の部　10:30～12:30 中高生の部　14:00～15:30	高学年コーナーにある遊具『バンバー』（ビリヤードに似たニュースポーツゲーム）の大会。参加者は、大会に向けて夏休み特別期間中に練習に来館し、その中からも交流がうまれたようである。小学生の部9人、中高生の部4人が参加。（プレイホール）

名　称	日　時	内　容
〈節分〉 節分会 大まめまき大会	H19.1.27・28 15:30～16:30	毎年恒例の豆まき大会。節分の由来を参加劇仕立てで紹介し、子どもたちと一緒に豆まきを行った。怖さを克服してスタッフとボランティアが扮する鬼に一生懸命に豆を投げたり、鬼が降参した姿を達成感あふれる目で見る様子は、この季節行事の大切さを感じさせる。参加者には、年男・年女の子どもから福豆が配られた。親子で「今年も元気でいられるね」と話している姿も見られた。参加劇のほか、鬼さがしをテーマにした、館内ラリーも実施した。参加者は、27日370人、28日365人。（プレイホール）
〈ひなまつり〉 みんなでひなまつり ～ゆらゆらひなめぐり～	2.24・25 13:00～16:30 （受け付け時間）	日本の伝統行事「ひなまつり」の由来やそこに込められた願いを紹介することを目的に行う。今回は「ひな人形」に焦点をあて、「おひなさま・おだいりさま」「三人官女」などにちなんだ遊びを企画、実施した。特に、音楽に関係深い「五人囃子」の遊びについては、音楽事業部の協力を得て音楽ロビーで実施。「かごめかごめの五人囃」「うれしいうたあわせ」のゲームと、ひなまつりの話をしたり歌を歌ったりする「おひなまつりタイム（コンサート）」を行い、みんなで集う時間を設けることができた。また、いくつかの遊びに参加するとおひなさまの冠・烏帽子を工作して記念写真を取ることができるプログラムは、保護者にも好評で子どもの健やかな成長を喜ぶという本来の意味が伝わったと感じた。プレイホールでは「なりきりおひなさま（工作）」「三人官女ゲーム」「右大臣・左大臣○×クイズ」を実施　（プレイホール・音楽ロビー）
第39回バンパー大会	3.21 小学生の部 10:30～12:30 中高生の部 14:00～15:30	高学年コーナーにある人気遊具『バンパー』（ビリヤードに似たニュースポーツゲーム）の大会。夏の大会同様、高学年コーナーに集まる子どもたちのさらなる交流のきっかけ作りを目的に行った。小学生の部9人、中高生の部6人が参加。（プレイホール）

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 デビューしようよ！ 夢のスポットライト	5.3～7　11:00～17:00 （受け付け時間）	ふしぎが丘に芸能学校が登場。「演技力」「体力」「リズム感」「発声」などのレッスンを行い、規定の単位を取得すると卒業。役者、芸人、歌手、ダンサーなどとしてデビューする。デビューした子どもは屋上特設ステージで行われる公開番組「夢のスポットライト」に出演することができる――という設定でレクリエーションゲーム大会を行った。期間中、特に女子の参加が多かったことが印象的だった。（ふしぎが丘）
〈　〃　〉 ゴールデンウイーク 人形劇フェア	5.3～5 ワークショップ= 11:00～16:00 （受け付け時間） 公演=11:30／13:30／15:30	大学の児童文化研究会などのサークルのネットワーク「じゃんぐるじむ」の学生とそのOBなどで構成されている「パペットマーケット」の協力を得て、人形を“作る”、作った人形で“遊ぶ”、人形劇を“見る”――催しを実施した。「つくってあそぼう」では、手袋人形と口がパクパク動く紙コップ人形を制作した。人形が完成し、三々五々集まってきた子どもたちは、人形を使って冒険ごっこや遊園地ごっこなど、“おはなし”の世界を楽しんだ。「わくわくパペットショー」と題した人形劇の公演では、子どもたちが作るものと同じ人形が登場するとあって、人形劇をより身近に感じられたり、お話の世界により入り込めたりしたようだ。また、見終わった子どもたちは、人形を作り始めたり、遊び始めたりと、人形を媒体に遊びを継続し、広げていたようだ。（研修室）

ファミリープレイタイム
「おやこでお店やさん　マックロー商店街開店」



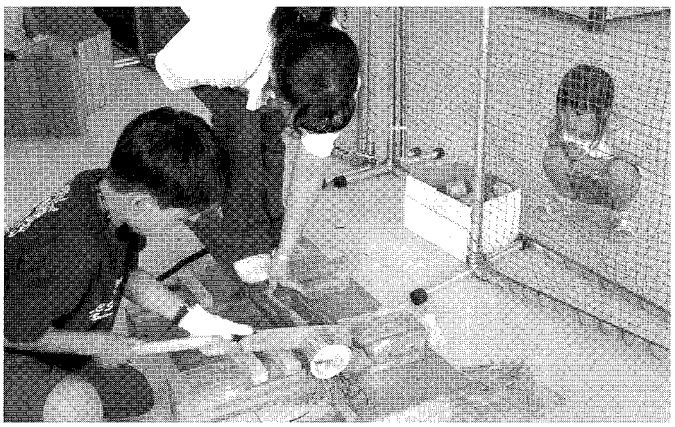


「みんなでひなまつり～ゆらゆらひなめぐり～」

名　称	日　時	内　容
〈夏休み〉 はい地〜図！ オシロタウンに家をたてよう！	8.18〜27 11:00〜16:00 （受け付け時間）	楽しみながら、「家」「建築」といったもののなかにほどこされた「しくみ」や「工夫」を体感できる遊びを実施した。遊びで課題を達成するとポイントスタンプがもらえる。そのポイントスタンプを、ミニチュアの家の「壁」や「屋根」などのパーツと交換し、実際に組み立てて、プレイホール壁面に設置した街「オシロタウン」にレイアウトして楽しんだ。間取りを考えたり、デザインにこだわったりと、想像をふくらませながら家作りの作業に取り組む姿がみられた。街に建物が増えてきたプログラムの後半には、「このへんにはお店が少ないから○○屋を作る」など、街全体を見渡して、見知らぬ人との街の共同製作という楽しみ方も加わったプログラムとなった。（プレイホール）
〈開館記念〉 人形あそびのワークショップ 〜わくわくパペットランド〜つくってトコトコあそんでトコトコ〜	11.3〜5 公演＝11:30 人形遊びワークショップ＝ 12:30〜16:30 （受け付け時間）	スタッフによる人形劇の公演「おはなし広場」を午前に実施した。また、午後は紙コップを顔と胴体に、紙テープを手足にした人形「トコトコ人形」を工作し、その人形を使ってサーカスや冒険、シアターなどで遊ぶ「トコトコらんどであそぼう」を実施した。人形を見る、人形を作る、人形で遊ぶといった「さまざまな形の人形遊び」を一日中プレイホールで展開した。親子で参加する姿が非常に多かった。（プレイホール）
〈冬休み〉 2007年 新春あそびのお年玉 〜こまうまめんことすもうであっぱれ〜	H19.1.3 13:00〜17:00 1.4〜8　11:00〜17:00 （受け付け時間） ※屋上は16:30まで	屋上遊園では、投げゴマと三ツ馬、プレイホールでは、めんこと紙相撲を行った。投げゴマ・三ツ馬・めんこは、基本的な遊び方を伝えた後、“子どもが自ら遊ぶ力”を引き出していくというねらいのもと、ボランティアリーダー自身が子どもと対等に遊ぶことで遊びを広げていく工夫をした。プレイホールでは、紙相撲大会を行った。自分が作った力士を、横綱をめざして何度も取り組ませたり、東西対抗大紙相撲大会では、東西の相撲部屋に分かれて、ジャンボ紙相撲力士や部屋代表力士の取り組みを行った。部屋別応援団も編成し、応援する声にも熱がはいっていた。（プレイホール・屋上遊園）
〈春休み〉 おしろマーケットでまいどありっ！	3.25〜4.5 12:30〜16:30 （受け付け時間）	“お店やさん”と“お客さん”に分かれたお店屋さんごっこを実施し、売り買いのやりとりを通じて子ども同士、親子がコミュニケーションを図るきっかけとした。店担当は、商品の仕入れから、看板作成、衣装選びなど、開店準備から販売までを行い、客は決められた金額で何種類の品物を購入できるか、また選んだメニュー（カレーなど）の材料をすべて購入できるかなど、いろいろな形で買い物を楽しんだ。参加した年齢によって、親子での活動になったり、やりとりを楽しんだり、遊びの工夫が見られたり、さまざまな姿が見られた。1日に平均350人強の参加があり、大にぎわいの13日間だった。（プレイホール）



「デビューしようよ！夢のスポットライト」



「はい地〜図　オシロタウンに家をたてよう！」



「2007年　新春あそびのお年玉〜こまうまめんことすもうであっぱれ」
（村杉紙相撲道場の村杉さん＝写真左＝が来館して特別指導）

〈パソコンルームのプログラム〉

名　称	日　時	内　容
パソコンことばあそびのA★B★C	4.11～5.31	言葉遊びを楽しむプログラム。パソコンと対決する「しりとり」、文字を並べ替える「アナグラム」、自分が作った文章が他の人の文章とまぜこぜになる「4Wあそび」、“解読機能”を用いて解く「暗号解読」のなかから選んで遊べるようにした。幼児から小学校低学年は「しりとり」「アナグラム」といった単純なことば遊びを、中学年以上の小学生からは「4Wあそび」「暗号解読」といった、少しひねりのあるものにおもしろさを見つけだし楽しんでいた。
ジオラ街(まち)っく	6.1～7.5	パソコンで、窓の形状を選んだり、模様をつけたり、壁の色を変えたりしてビルのデザインを楽しむプログラム。印刷後、実際に組み立てて「街のジオラマ」にたてて楽しんだ。
新種発見！さかなのぬりえ	7.6～8.6	海の生き物に、思い思いに色や模様を塗る遊び。印刷したものは、切りとって海を模した壁面の台紙にはりつけ、パソコンルーム全体が“海のなか”になるように制作していった。
フォトペタコラージュ	8.7～9.20	街や海・宇宙などの背景に、生き物や道具、植物などの写真を、パソコンで構図を考え、工夫をしながらペタペタはりあわせて合成写真を作った（コラージュ）。自分の作品テーマを表現することを楽しんでいた。
ネイチャークイズ	9.21～10.24	パソコンの鳥と花の図鑑を使って、色や形、大きさといった特徴からそれぞれの名前を調べようというプログラム。クイズ形式の問題を取り組む中で、全問正解をめざしたり、親子で検索したりと、子どもの年齢によって、さまざまな楽しみ方が見られた。
似顔絵ペインター	10.25～11.30	コンピュータに接続してあるCCDカメラで自分や友だち、家族の顔の写真をとり、パソコンの画面上で画像をなぞって似顔絵を描くプログラム。クレヨンやマーカー、色鉛筆など、さまざまな種類のペンが選択できたため、個性豊かな似顔絵ができあがった。
ミニクリスマスツリーをつくろう	12.1～25	ツリーの台紙にリースや星、長靴などのイラストを飾りつけて印刷。刷り上がったものをハサミ、のりを使用して加工し、クリスマスの飾りを作製した。種類は色画用紙にはりつけるカードタイプの「つるツリー（平面型）」「おるツリー（半立体型）」とパラソルのようにまるめて土台に立てて飾る「パラソルツリー（立体型）」の3種類を用意した。
わくわくカレンダー2007	12.26～H19.1.31	マークやイラスト、文字を選び、デザインしながらカレンダーを作るプログラム。壁かけタイプに加え、立体カレンダーもあり、クラフトを楽しむ要素も加わった。家族の誕生日にマークをつけたり、自分の名前を入力したりと、子どもたちオリジナルのカレンダーができあがった。
サウンドエフェクター OTOPITA 55	2.1～3.13	ある場面の写真に、雨や雷、叫び声などの効果音や場面にあったBGMをつける、パソコンを使った効果音遊び。子どもたちは独自の物語を作りながら、それぞれの場面に合わせてさまざまな効果音をつけていた。
ポケット手帳	3.14～4.26	カレンダーの台紙やノート台紙・時間割表などを選び、イラストやひとことメッセージを入れてシステム手帳を作った。実際に使えるもの＝実用品を自分でデザインし、製本していく楽しさを体験した。



新種発見！さかなのぬりえ

〈サタデー・ラボラトリー〉

名　称	日　時	内　容
飛行機が飛ぶ秘密	4.15	画用紙と割り箸を材料にした飛行機を作って飛ばす。飛行機が空を飛ぶしくみを知る。参加：71人。（担当：プレイ事業部）
4コマまんが道場	4.22、6.24	4つの場面で構成する「4コマまんが」を創作する。セリフだけを考え、ふきだしに記入するプログラムも実施。参加：4月22日＝37人、6月24日＝30人。（担当：AV事業部）
スーパー糸電話	5.13	紙コップと木綿糸の糸電話から、材料を工夫し、さらに良く聞こえる糸電話を作った。参加：48人（担当：プレイ事業部）
君の絵がぐるぐる動く!! 驚き盤を作ろう	5.20、11.11	映画発明以前に存在した視覚がん具、「驚き盤」を制作。絵の苦手な参加者向けに見本や塗り絵も用意した。参加：5月20日＝20人、11月11日＝31人。（担当：AV事業部）
あぶりだしのふしぎ	5.27	レモン果汁やミョウバン水溶液、食塩水、牛乳など、身近にあるさまざまな液体を使ってあぶり出しを行う。参加：88人。（担当：プレイ事業部）
空気の力（パワー）	6.3	空気の力を利用したおもちゃ「CDホバークラフト」を制作し遊ぶ。参加：66人。（担当：プレイ事業部）
色々プリント術	6.10	さまざまなプリント技術を紹介。その中から、孔版の多色刷りと凸版印刷を体験した。参加：53人。（担当：プレイ事業部）
混虫（まぜむし）工場	6.17、7.8、10.7、H19.2.17	〔こどもの城〕オリジナル ペーパークラフト「混虫（まぜむし）工場」シリーズから、サタデーラボラトリー用に簡略化したカブトムシ、ショウリョウバッタ、アゲハチョウ、スズメバチ、オオハサミムシ、サソリなどを制作。参加：6月17日＝64人、7月8日＝65人、10月7日＝49人、2月17日＝46人。（担当：AV事業部）
クイズ100問答えてラリー	7.1、10.28、H19.2.24	館内にはられた100問のクイズを探し、答えるクイズラリー。解答用紙はマークシート方式で、その場で得点ランキングを発表。毎回数問ずつ問題をかえ、繰り返し来る参加者も楽しめるものとした。参加：7月1日＝35人、10月28日＝25人、2月24日＝65人。（担当：合同）
水をろ過する	7.15、H19.1.20	ペットボトルに小石、砂利、砂などを入れ、簡易ろ過器を作る。実際に泥水をろ過する体験を行った。参加：7月15日＝33人、1月20日＝42人。（担当：プレイ事業部）
エンジョイ・吹き矢	9.9	紙を丸めて筒状にした吹き口と紙の矢を作り、吹き矢を楽しむ。吹き口の長さや矢の大きさを変えることで、飛び方が違うことを知る。参加：51人。（担当：プレイ事業部）
ぱらぱらマンガをつくろう	9.16	絵がアニメのように動いて見える「ぱらぱらまんが」を作る。絵が苦手な参加者用に塗り絵も用意した。参加：47人。（担当：AV事業部）
砂糖大変身	9.30	砂糖を原材料とした「わたあめ」「カルメ焼き」を作る。砂糖を熱すると液体となり、それが冷えて固まる過程の違いで、できる菓子が違うことを体験。参加：39人。（担当：プレイ事業部）
色のふしぎ	10.14	光の三原色（赤・青・緑）が印刷された紙でコマを作り、黒い扇型のマスクをかけて、色の変わる仕組みを体験した。参加：36人。（担当：AV事業部）
石こうであそぼう	10.21	石こうで「型どり」を体験。自分自身の手形をとり、「手形プレート」を作った。参加：46人。（担当：プレイ事業部）
ゆう／むすぶ／あむ ～ひもを楽しむ～	11.18	新聞紙を丸めてひもを作り、それを編んでカゴを作る。参加：18人。（担当：プレイ事業部）
光のふしぎ	11.25	空間でライトを動かして、デジタルカメラでバルブ撮影。光で絵を描く。参加：19人。（担当：AV事業部）
紙コップで「音・楽」しよう！	12.2	紙コップと糸で「ストリングラフィー」という楽器を作る。糸の長さの違いで音の高さが変わることを知る。参加：42人。（担当：プレイ事業部）

名　称	日　時	内　容
ビデオであそぼう	12.9	ビデオカメラを使って映像作品作り。撮影したものでしりとりをする「しりとりビデオ」を作った。参加：20人。（担当：AV事業部）
あったかいぞ！カイロをつくろう	H19.1.13	鉄粉や食塩水などを材料に、使い捨てカイロを作る。鉄が酸化するときに熱を出すこと、材料の調合具合で温度変化に差があることを体験する。参加：62人。（担当：プレイ事業部）
ゾートロープを作ろう	1.27	12コマの動画をドラム状の本体に入れて回転させると、絵が動いてみえる視覚がん具「ゾートロープ」を作った。参加：44人。（担当：AV事業部）
ニットに挑戦！	2.3	身近な材料で作った編み器を使い、鈴入りの毛糸マスコットを作った。節分をテーマにした「鬼リン（鈴）」を制作。参加：66人。（担当：AV事業部）
電気をつくる	2.10	エナメル線を巻いたコイルの中に磁石を入れると、電気が起きるということを知った後、モーターで作った簡易発電器を使い電気を起こして遊ぶ。参加：75人。（担当：プレイ事業部）
体験！車いす	3.3	5～6人でグループを作り、車いすで館内をまわる。車いすを押したり車いすに乗ったりすることで、車いすが身近に感じられるプログラムとなった。参加：54人。（担当：プレイ事業部）
紙コップでパペット・アニメ	3.10	紙コップで人形を作り、数人が集まって撮影してアニメを制作。さいころを振って、出た数の目盛り分だけ人形を動かすようにして撮影。再生すると人形が競争しているように見える。参加：21人。（担当：AV事業部）

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
キッズクラブ	（人） 小1～4 （30）	（人） 30 30 30	隔週土曜日 15:00～17:00 （原則）	小学1～4年生の遊びのクラブ。（1）家庭や学校では体験できない活動を行う（2）地域や学校とは違う新しい人間関係作りをめざす（3）子どもたち自身がプログラムを考え作り上げることで、自発性や発言力を養う――を目的としている。本年度は、最上級生である4年生が12人と今までになく多い年であった。そのためか、プログラム会議の際には活発なアイデアがとびかい、キッズクラブへの参加性がとても高かった。また、上級生から下級生に思いやりや奉仕性を発揮する場面も多く、こうした姿がモデルとなったのか、3期には下級生も周囲に積極的に奉仕性を発揮している姿が見受けられた。 1・2期各6回、3期5回。受講料＝各9,000円（1・2期）、8,000円（3期）。
ユースクラブ	小5～中3 （40）	41 31 34	隔週日曜日 13:30～15:30 （原則）	小学5年～中学3年の遊びのクラブ。10代前半の心の成長期に集団活動をとおし豊かな人間形成をはかるのがねらい。（1）プログラム活動をとおしさまざまな直接体験をする（2）仲間とのかかわりから人間関係を学ぶ（3）計画から実施をとおし夢を実現する――を目的とする。学年を重ね継続して参加するメンバーが多く、下級生のめんどうを自然にみたり、仲間の交流はさかんである。また、自分たちの希望をかなえる夢の実現に向けて、意見交換や企画会議でも積極的に取り組んでいる。遊びとしてさまざまなジャンルのことを取りあげているが、具体的な内容については“仲間と一緒に取り組んで楽しいこと”を基準にしている。 1・2期各6回、3期5回。受講料＝各9,000円（1・2期）、8,000円（3期）。

〈短期講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
小学生パソコン教室スペシャル～ロボットプログラミング入門～	（人） 小4～6 （15）	（人） 13	8.21～24 （4日連続） 10:15～12:45	子ども向けのプログラミング言語、LOGO（ロゴ）で、コンピュータプログラミングの初歩を学んだ上で、ブロックを組み立てて作ったロボットをうまく動かすためのプログラムを作る。グループごとに作ったロボットを操作し、設定されたコースをはみ出さずに進んだり、オーバルコースを一周する所要時間を競うゲームなども行った。受講料＝7,500円。

《野外活動》

名　称	日　時	内　容
ちびっこ冒険団2006	7.29~8.1（3泊4日）	小学1～3年生のための舎営キャンプ。豊かな自然に恵まれた那須高原を舞台に、班ごとに考えたさまざまなグループ活動を楽しむ。班の仲間と共に“何をして遊ぼうか”“どうやって遊ぼうか”などを相談したり、協力しあうなかで、自己と他者との関係を学んでいったり、協調性や社会性を獲得していくことを大きなねらいとしている。本年度は、班ごとに“ティーピー”というテントを作る工程を楽しみながら、家族が過ごすあたたかい家作りをメインプログラムとした。参加者69人、ボランティア18人、職員3人。参加費＝39,000円。 （福島県国立那須甲子青少年自然の家）
フェローシップキャンプ2006	8.6~10（4泊5日）	小学4～6年生のためのキャンプ。基本は舎営とし、1泊は自分たちの作り上げた基地にビバークする。小グループによる活動を基本として、仲間との連携や思いやりなどの社会性を豊かにすることを目的の中心に考えて実施している。本年度は、前年度に雨で中止となった「茶臼岳トレッキング」をメインの活動とし、自然を豊かに感じ仲間と共に楽しみながらさまざまな体験を楽しんだ。参加者40人、ボランティア12人、職員3人。参加費＝46,000円。 （福島県国立那須甲子青少年自然の家）
ゆきんこ冒険団2006	12.25～28（3泊4日）	小学1～3年生のための舎営キャンプ。冬の自然を感じ、その中で遊ぶことをとおして、仲間との交流を広げる活動を行う。本年度は、暖冬の影響を受けて雪は少なかったが、雷、大雨、突風など、さまざまに変わる自然を楽しみ、雪がないことで遊びの工夫が見られ、冬の野遊びを思いっきり満喫していたようだ。班の仲間との関係を深めるだけにとどまらず、他の班との関係をも広げられたようだ。参加者69人、ボランティア18人、職員4人。参加費＝39,000円。 （福島県国立那須甲子青少年自然の家）



「フェローシップキャンプ2006」



「ちびっこ冒険団2006」



「ゆきんこ冒険団2006」

3. その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
レクリエーションゲーム大会の演出プラン （忍者マスター決定戦）	7.4　研修会	ぐんまこどもの国児童会館（財団法人群馬県児童健全育成事業団）主催の、県内の児童厚生員向けの研修会として実施。レクリエーションゲーム大会「忍者マスター決定戦」を体験した後、魔法使いをテーマにプログラムを企画するワークショップを行った。
〃	10.14　研修会 10.15　プログラム実施	千葉県佐倉市の児童厚生員向けの研修会として実施するとともに、子どもたちにむけて「忍者マスター決定戦」という、交流促進を目的としたレクリエーションゲーム大会を実施した。プログラム参加者113人。
みんなで遊ぼう パペットランド （みんなであおむしくん）	10.18 研修会／プログラム実施	神奈川県葉山町福祉環境部福祉課で実施している「子育て安心教室」の活動の一環で、2歳から3歳の幼児と母親を対象にプログラムを実施。簡単な工作で靴下からあおむし人形を作り、みんなで手につけて人形遊び。ストーリーの展開のなかには“親子のスキンシップ”を盛り込み、親子が主人公のあおむしになりきって一緒に遊んだ。参加者26組54人。午後は、福祉センターの職員、子育て支援や読みきかせのボランティアを対象に、午前中の活動を例にして、人形の制作や進行のポイントなどの実技研修。参加者18人。
レクリエーションゲーム大会の演出プラン （魔法使いチャンピオンシップ）	10.27　研修会 10.28　プログラム実施	北海道中士幌児童ステーションの巡回児童ステーションプログラムとして実施。児童厚生員向けの研修会を実施するとともに、同プログラムに事前に申し込みをした子どもたちを対象に「魔法使いチャンピオンシップ」という、交流促進を目的としたレクリエーションゲーム大会を実施した。研修会参加者8人。プログラム参加者56人。

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
江東区古石場文化センター「親子でいっぽ」	9.25　10:30～11:45	子育て支援活動の一環として、2歳後半から3歳の幼児連れの親子17組を対象に実施。「作って遊ぶ人形劇」と題し、絵本の『はらぺこあおむし』をモチーフにした人形遊びと、お話会も組み合せたプログラムを実施した。東京都江東区古石場文化センター。
静岡県放課後児童指導員研修会	12.8　13:00～15:30	静岡県東部の学童保育を担当する指導員を対象にした研修会。実技指導の講習として「仲間と楽しむゲーム」と題して、イニシアチブゲームや簡単な遊びをベースにした仲間で楽しめるゲームなどの紹介をとおして、仲間作りや仲を深めていく大切さを伝える講習を行った。静岡県東部総合庁舎大会議室（沼津市）。
市原市三和保健福祉センター「子育て支援ボランティア養成講座」	H19.3.16 13:10～15:10	地域の児童支援ボランティア養成の研修会。「手作りおもちゃを作ろう」と題し、工作や遊び方のポイントをおりまぜながら、実際に牛乳パックやフィルムケース・紙コップ・靴下など身近な素材を使ったおもちゃを作りと遊びの講習を行った。千葉県市原市三和保健福祉センター。



〈動くこどもの城〉
「レクリエーションゲーム大会の演出プラン」
（千葉県佐倉市）

□キッズクラブのプログラム一覧□

日　時	プログラム名	内　容
4.15	キッズだよ全員集合！わくわくゲーム大会	新メンバー6人も加わり、ジャンケン大会やジェスチャーゲーム、名刺交換ゲームなどで親睦を図った。
5.13	紙相撲五月場所	一人一体の力士を作成。班で対戦して横綱をめざした。最後は保護者の応援のなか、対抗戦で盛り上がった。
5.27	ゆかいふしぎ発見！	班ごとにビデオを使って、〔こどもの城〕にまつわるクイズ番組を撮影。最後に班対抗クイズ大会を開催。
6.10	ネイチャービンゴ	代々木公園でネイチャービンゴ。鳥の羽やクモの巣、草相撲の葉っぱなど、おもしろい物をたくさん発見。
6.24	南国風デザート ハロハロをめしあがれ	フィリピン生まれの冷たいデザート、ハロハロ作りに挑戦。きれいなゼリーや果物のトッピングに大喜び。
7.15	ウォータープロジェクト2006	2チームに分かれてゲーム。はちまきで額につけた金魚すくいの紙をより多く水鉄砲で打ち抜いたら勝ち。
9.9	キッズ・あるある探検隊	〔こどもの城〕周辺の街中で、渡された写真と同じ場所を探しながら歩き、記念写真を撮っていくゲーム。
9.23	ドッジボール大好き！	外野が無く、アウトになったら退場、仲間がボールをキャッチしたら復活という、アメリカンドッジボール。
10.14	寺家ふるさと村・追跡ハイキング	寺家ふるさと村（横浜市青葉区）を舞台に、矢印を追いかけながら課題を解き、ゴールをめざす追跡ハイキングを実施。
10.28	ハロウィーン仮装大会	ハロウィーンの仮装をして、音楽やプレイ、体育、ビデオライブラリーなど、館内のいろいろな場所にでかけて課題に挑戦。ごほうびのお菓子を集めて回った。
11.18	三つ馬を作ろう	材木を三角形に組み合わせて作るバランス遊具、三つ馬作りに挑戦。できあがった三つ馬で夕方まで遊んだ。
12.9	X'masデジカメ紙芝居劇場	クリスマスにちなんだオリジナルストーリーのデジカメ紙芝居を作製し、上映会兼クリスマス会を楽しんだ。
H19.1.20	東西対抗手作り人生ゲーム大会	2期に作成した三つ馬を使った東西対抗戦の予定が悪天候のため、急きょ手作り人生ゲーム大会になった。
2.3	寒さに負けるな！風の子キッズ	屋上で、宝集めの一種「ファースト3」と「しっぽとり」。4年生が司会をし全体を進行した。細かいルールも子ども同士で決めた。
2.17	マックバーガーを作ろう	ひき肉をこねてパテを焼き、手作りのハンバーガー作り。できあがったハンバーガーにみんな舌つづみ。
3.3	最終回の作戦会議	4年生には少し早めに集まってもらい、今日のドッジボールを進行してもらうための打ち合わせを行った。その後、最終回に向けて全員で企画会議。
3.10・11	こどもの城に泊まって うーんと遊んじゃおう！	10日は代々木公園で探知機を使った「レーダー犯人さがし」、夜は子ども番組で人気の「紙フトタッチダウン」をプレイホールで実施。翌日は館内で「レーダー犯人さがし」を行った後、みんなで手作りの1年間を振りかえる会を行った。

□ユースクラブのプログラム一覧□

日　時	プログラム名	内　容
4.9	ようこそユースへ！ウエルカムゲーム大会	新しい仲間を迎え、初めての活動。自己紹介のゲームを中心に互いが知り合えるような工夫をした。
4.27	OH! 城 DE Q!!（オシロでキュー）	公園で遊ぶ予定が雨で変更。館内で互いに問題を出し合うクイズ大会。班で楽しんでいる姿が印象的。
5.14	代々木ヘリベンジ!! 思い切り遊ぼう!!	雨も朝のうちに上がり、公園で思い切り遊ぶ。「取り放題しっぽ取り」と「クマ狩り」で盛り上がる。
6.11	外出中止！でも全日遊び尽くし!!	外出プログラムを予定。8時に集合したが、雨で中止、一日中館内で活動。「開館前の班対抗バンバー大会」「企画会議」「館内文字探し」「レスキューゲーム」など、遊びざんまいの一日。
6.25	オリジナルコースを作ろう!! コロコロまゆ玉大作戦	ゆかいに転がるまゆ玉とそのコースを前年度の経験を生かし制作。いろいろなコースが完成。
7.16	本格的な料理を楽しむ！手打ちUDON大作戦	うどん作り。材料も班ごとに決められた費用の中で買いそろえた。会場：渋谷区上原社会教育館調理室。
9.10	代々木公園で対決!! 体を使って遊ぼう！	「取り放題シッポ取り」、ユース名物「クマ狩り」で思い切り遊ぶ。どの試合も白熱した、よいゲームになる。
9.24	コロコロホットケーキゲーム大会 ＆企画会議	タコ焼き用鉄板で作るホットケーキ。ゲームで材料をゲットするため、班ごとに知恵と力を合わせてがんばる。後半は活動内容を考える企画会議を実施。
10.22	秋を探しにGO!! GO!! GO!! 生田緑地Qラリー!!	生田緑地（川崎市多摩区）にでかけて「クイズラリー」。秋の自然を体いっぱいに感じることができた。
11.5	ハイテク4コマまんが！ 切って貼って笑って大作戦	デジカメで撮った写真を使って、班ごとに4コマまんが作り。作品を発表し合い大爆笑した後は、2期最終回にむけ、話し合い。
11.19	最終回企画会議＆準備	前回の会議から引き続き話し合い。「最終回は泊まる！」を決定。内容も「代々木で遊ぶ」「館内ドロケイ」「パーティーをしよう」に決めた。
12.16・17	思い切り遊んでパーティーしよう！ プロジェクト inこどもの城	みんなで決めた夢のプログラムを実施。公園で「クマ狩り」「Sケン」を楽しみ、手作りでパーティーの準備をし、プレイホールに寝袋で宿泊。2日目の早朝には遊び場全体で「館内ドロケイ」も実施。
H19.1.14	初あそび！思い切り代々木であそぼう!!	今年も最初から思い切り遊ぼうと代々木公園にでかけて「クマ狩り」「Sケン」を実施。小学生も大活躍でメンバーの仲間の和が深まっていることを感じた。
2.4	OH! 城 DE Q!!（オシロでキュー）＆ 最終回アイデア会議	館内で班ごとで互いにクイズを考えて出題。他の班の問題に答える「OH 城DE Q!」を実施。後半は最終回に向け、どんな活動をするかの会議。
2.18	Go!! Go!! KINUTA ウチが一番だ 大作戦＆最終回企画会議	雨のため予定を変更。砧公園（世田谷区）から〔こどもの城〕まで、自由に交通機関を考え班ごとに帰ってくる活動を実施。帰着後、最終回の企画会議を行い、実施内容を決定。
3.4	ユース06年度☆最後の大作戦！ゲームセンタープロジェクト準備会議	ゲームセンターを具体的に考え、決定し準備を開始。だんだんと夢の計画ができてきた。
3.18・19	「ユースゲームセンター」プロジェクト 大作戦	「スパイ訓練所」「よいこのよせづり」「風林火山」「炎のメキシコダンス」の4種類のゲームを泊まりがけで作り上げ、一般来館の子たちにゲームセンターとして公開。日曜日の午前中2時間の公開で、125人もの参加があった。

造形事業部



平成18年度の活動

1．はじめに

開館以来、造形スタジオでは、子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかに発育していく方法として、(1) 新しい視点で素材を探究して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせるワークショップ (2) そのままでは素材になりにくい音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形感を新しくするワークショップ (3) 制作活動の基本となる“素材と道具と技法”の関係を理解できるように視覚化したワークショップ――これらを軸に活動を展開。3種類のワークショップを順次くりかえしながら、スタジオの運営をしている。

ワークショップの構成要素である「展示・体験・制作」という基本コンセプトを効果的に実施するため、プログラムに応じて環境設定を行い、子どもたちが積極的にプログラムにかかわっていけるようにした。



造形スタジオ～親子コーナー

本年度は、日常の中で何気なく見たり、聞いたり、感じたりしていることやものについて改めて見直すなかで、造形特有の色、形、素材感などについて感じ、学び、体験し、制作するワークショップを展開。夏休み特別期間には「造形発見展～アートと造形」を実施した。

(ア) 一般来館児・者へのワークショップ

〔こどもの城〕開館20周年記念（平成17年度）で実施した「ブルーノ・ムナーリ展～もっと豊かにもっと自由に」に引き続き、日常にあるアートについて見直すワークショップを展開した。「やってみよう！ つくってみよう！～アートとあそぼう」（平成17年10・11月）に始まり、夏休み特別期間プログラム「造形発見展～アートと造形」や季節感を題材にした「こども歳時記」を開催した。

(イ) 講座・クラブ

講座・クラブの活動では、「こどもクリエイティブクラブ」5コースを実施。成人を対象にした「大人のための造形表現教室」も前年度に続き実施した。

(ウ) グループ活動

「かげをうつそう」「木をつくろう」「ねんどのジャングル旅行」「竹体験ワークショップ」を実施した。プログラム進行は、スタッフ全員が交代で担当。前年度に引き続き、事前の打ち合わせを当日の進行担当者が行えるよう調整した。

「かげをうつそう」の利用が多かった。小学校の申し込みも多く、小学生向けのプログラム「竹体験ワークショップ」の実施回数が増えた。また、養護学校やなかよし学級

からの申し込みも増えており、プログラム内容をアレンジして実施した。今後も、ハンディキャップを持った子どもたちのために、継続してプログラム開発をしていくことが必要と考える。また多人数、低年齢向けのプログラムを引き続き検討していく。前年度に続いて、高等学校の保育科の利用があった。本年度は「竹体験ワークショップ」を実施した。

2. 造形活動のテーマについて

過去20年余にわたり、「土と造形」「木と造形」「紙と造形」などさまざまなワークショップを展開して、あらゆる造形体験をとおして子どもたちに生きる力、心の財産となるように活動してきた。しかし、現在の社会では、機能性、利便性を追い求める一方で、美術教育など、心の教育がないがしろにされ、そのための弊害が数多く生まれてきている。

あまりにも個々の利益を優先するために、他者とのかかわり方が希薄になり、家庭の中でも親子のコミュニケーションが欠如しつつある。自然とのふれあい、世界を見つめる想像力も失われつつある。このような人間存在の危機的状況のなか、世界中にあふれている〈アート〉とはどんな意味を持っているのか？ 本来、〈アート〉とはいったい何なのか？ といった疑問から、私たちの身の回りに潜む〈アート〉を発見し、見つめ直す意味で、ワークショップ「アートと造形」を企画、実施した。

■造形発見展～アートと造形■

平常期間の「やってみよう！つくってみよう！～アートと造形」を、プログラム試行のステップとして、プログラムの開発、実施、再考をくり返した。

一口に〈アート〉といっても、あまりに膨大でとらえどころがないため、私たちが外界を知覚するためにもっとも基本となり、必要となる力――視覚、触覚、聴覚、嗅覚、味覚といった五感に焦点をあてることにした。機械化していく人間の想像力の欠如、社会を感じ取る五感の摩耗・衰弱も一因となって引き起こされる事件・事故――人間にとって重要な器官を取り戻すことが目的のひとつであった。

はじめに、もっとも身近な感覚――視覚、触覚、聴覚を中心にしたプログラムの開発およびワークショップを展開した。それぞれを体験することによって、あたり前のように感じている感覚に注意を向け、強く意識して周囲とかかわることができるようなプログラムを実施した。

夏休み特別期間の「造形発見展～アートと造形」では、ステップ期間中に行ったプログラムを総合し、選択して実施した。子どもたち、大人たちの両方が、より柔軟に感覚を解放できるように、“アートプラネット”というアートに満ちあふれた架空の惑星を設定し、物語性を持たせながら魅力的で、創造的な空間環境設定を行った。

造形スタジオへ向かう、エレベーターホールからロビーへぬける細長い廊下には、カステラや海苔、花など一般によく目にする“もの”の一部を拡大した写真を展示した。部分がクローズアップされることで、見えていなかった形が現れ、見なれていた“もの”たちの新しい表情に出会うことができ、“もの”を見ることの楽しさ、おもしろさを伝えられる廊下となった。

造形スタジオ入り口横には、アートプラネットへ出発する宇宙ロケットとアートプラネットのモニュメントを設置し、スタジオ内への誘いとした。モニュメントは、半球体に鏡をはりつけることで、映し出される物がいろいろな角度で分割されて見えるようになっている。

造形スタジオ内のガラス窓や天井には、宇宙植物をイメージさせる有機的なフォルムを持ちながら、色セロハンによって光を透過するイメージ装飾を飾った。視覚のプログラムを実施している期間は、そのプログラムで見ることができる逆さ文字などもあわせて飾りつけした。

体験コーナーは聴覚のプログラムに関連させ、音を聞いたり、作り出す装置を展開した。金属をイメージして銀色

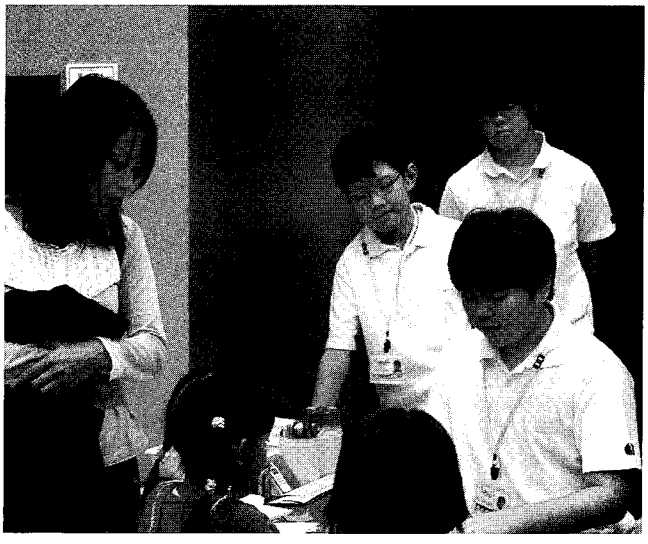


キキミミー（やってみよう！つくってみよう！～アートと造形）



夏休み造形教室「宝箱」

ドルッチャワークスの「仕事体験プログラム」



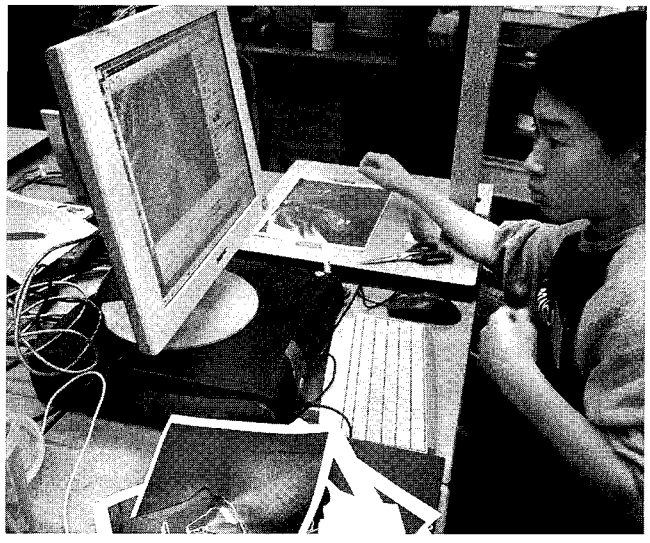
に塗られた壁面に付いたレバーを回転させ、竹や金属をはじく音を出す物（「クリエイティブコーナー」で実施する聴覚プログラムと同じ構造をしている）や、穴に向かって話しかけるとエコーがかかったり、別の場所で話し声が聞こえたりする仕掛けなどを盛り込んだ。友だち同士で離れたところで会話を楽しんだり、力一杯回転板を操作している子どもたちが多く見られた。

触覚のプログラムに関連させて、金属板、人工芝、プラスチックなどさまざまな素材を組み合わせた惑星のレリーフを壁面に設置した。子どもたちが自然に興味をひかれ触れることで、素材による触感の違いを体感できる場所とした。

子どもだけで制作をする「クリエイティブコーナー」はいつもは背の高いパーテーションで仕切られているだけだが、今回は特別にパネルで囲い、“アートプラネット研究所”という設定で展開した。パネルに窓を開け、外からなかで制作している子どもたちの様子を見ることができる。制作をしている子どもたちからは、窓の下に描かれたエイリアンの体によって、のぞいている人がみなエイリアンに変身してしまう仕掛けにした。「クリエイティブコーナー」のプログラムに参加した子どもだけが体験できる楽しい仕掛けとなった。

その他に、毎回スタジオのプログラムや出来事を伝えるために発行している「スタジオニュース」もデザインやサイズを変更し、「流星通信」という名前で配布。各所に仕切りとして使われていた四角いパーテーションも、宇宙のオーロラをイメージした波形に変更し、スタジオ全体がより“宇宙的”になるよう工夫した。細かい部分に目を向け

映・造ワークショップ



ることでさらに充実したワークショップとなった。

3. まとめ

開館以来21年間、造形スタジオでは常に、子どもたちが豊かな造形体験ができるように、また感性を健やかにはぐくんでいけるように、さまざまな試みを行ってきた。

平成17年度から2年間続けた「素材との出会い展～布と造形」から「造形発見展～アートと造形」へとテーマを変え、日常のなかにひそむ色、形、バランス、量感など造形特有の要素を改めて見直すワークショップ活動を実施した。子どもたちは、日ごろ使っている“もの”がいろいろな要素から成り立っていることを発見し、自ら体験するプログラムのなかで、気づいた“もの”や“こと”を表現していたようである。

次年度はさらに内容を検討し、子どもたちの感性をより豊かに、自由にできるようなワークショップ「造形発見展～アートと造形2」を模索して行きたい。

子どもたちが自由に絵を描いたり、グループ活動、イベントなどで使用してきたプレイングボードの全面改修を初めて行った。このため、2月1日～3月2日は造形スタジオを閉鎖し、2月3～25日はフリーホールで一般活動および講座を実施した。2月26日～3月2日までは、再開場準備のために造形活動はすべて休止した。

「第10回図工大好き子ども美術展」や「鉄はうたうvol.5」を共催したり、さらに〈動くこどもの城〉をはじめとした普及活動でも、外部の社会福祉施設や教育施設とも協力し、造形スタジオの活動に幅を持てるような共同事業を積極的に行った。今後も継続して実施していきたい。

平成18年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
やってみよう! つくってみよう! 「アートと造形」	4.8~23、5.6~6.18、 7.8~20、9.2・3	夏休み特別期間プログラム「造形発見展～アートと造形」に向け、プログラム試行のステップとしてプログラム開発、実施、再考を行いながら、視覚、触覚、聴覚といった五感を刺激するワークショップ活動を実施、展開した。
〃 「アートと造形2」	9.7~10.27、11.7~ 12.3、H19.3.4~23	春休み特別期間「やってみよう！つくってみよう！～アートと造形2」に向け視覚、触覚、聴覚、嗅覚などの感覚を見つめ直すワークショップ活動を実施、展開した。
こどもの城DEお仕事体験 ドルッチャワークス	12.16・17	造形スタジオでは、常に子どもたちに“つくってみたい”と思わせるような環境作りを大切に考えている。「ドルッチャワークス」の実施日と、「こども歳時記～クリスマス」が同時開催になったため、クリスマスの展示物作りを子どもたちの“仕事”として実施した。色ラシャ紙とカラーセロハンで作るオーナメント「ドルッチャメント」は、できあがると事前に準備していたホワイトツリーに展示。また「ドルッチャおしごと案内所」から“仕事”を紹介されて来た子どもたちは、ホワイトツリーへの飾り付けなどを行った。こうして、たくさんの子どもたちの力が集まって、造形スタジオのクリスマスを盛り上げるようにした。その他、小学5年生以上の“仕事”――絵の具で一杯になったプレイングボードの清掃および絵の具の準備をする「プレイングボードお掃除隊」を実施した。
こども歳時記		
端午の節句	4.25~5.5	「アートと造形」と連動し、“かたち”を意識した展示構成とプログラムを企画した。ロビーやスタジオ内には、親子プログラム「うろこのキモチ」の見本や、道具のコピーをコラージュして作ったこい、柏もちなどを飾り、プログラム参加への誘導役とした。「うろこのキモチ」を使って、身の回りにある形や模様をこいのうろこにみたてられるよう、スタジオ内には風景や花などの写真、さまざまな素材の原物をパネルやBOXの中に展示した。スタジオ奥には、クリエイティブコーナーのプログラム「コイもよう」の拡大版を設置し、線と線が重なると起こるモアレ現象の体験コーナーとした。また、前年度と同様に、端午の節句にちなんだ全国各地の伝統的な民芸品と、民芸品を図案化して描いたタペストリーも展示した。
七夕	6.20~7.7	親子コーナー「ミルキーヘアー」の素材、すずらんテープを生かした展示と、スタッフが「ミルキーヘアー」をつけて変身した写真をスタジオ壁面に展示した。スタジオ奥には、織り姫と彦星の書き割りを設置し、こちらも変身を楽しめるコーナーにした。スタジオ入り口から奥の天井にかけて、帯状のビニールを設置し、スズランテープや金銀の紙で飾ったダイナミックな天の川を作った。クリエイティブコーナーでは、スズランテープを垂らした壁を作り、制作後の「七夕シューティングスター」を飛ばして遊べるコーナーも設置した。
クリスマス	12.5~25	入り口には、クリエイティブコーナー「プレンズBOX」の巨大版（壁面にあるレンズシートをのぞくと、中の飾りが、いくつにも見えるもの）を展示し、スタジオ活動への動機づけとした。壁面には、親子コーナー「クリスマスク」をつけて変身したトナカイのレリーフや、さまざまな素材で作ったリース。また、天井からは、プレゼントBOXをつるすなど、クリスマスの楽しい雰囲気を演出した。さらに全館事業「ドルッチャワークス」で制作した「ドルッチャメント」と、子どもたちが飾りつけしたツリーは期間終了までスタジオ内を飾った。
お正月	12.26~H19.1.14	クリエイティブコーナー「お正月イノクルン」に関連させて、“回る・動く”機構で遊べるオブジェ（スイッチを押すとモーターで、いのししが360度回転するものや、ハンドルを回すといのししが観覧車のように回転するもの）をスタジオ入り口とスタジオ内奥に、体験コーナーとして設置した。クリスマスに展示したトナカイやリースには、親子コーナー「お正月イノウズ」をつけて、いのししに変身させ、引き続き展示した。「お正月イノウズ」で体験する技法（フロッタージュ）で模様をつけたいのししやお正月の縁起物などを紙で作り、スタジオ全体に飾った。お正月の賑やな雰囲気を演出。また、前年度と同様に、お正月や干支にちなんだ全国各地の民芸品や、凧も展示した。

名　称	日　時	内　容
こども歳時記		
節分	1.16～2.3	入り口には、お正月展示で設置した、スイッチを押すとモーターで回る機構を引き続き生かして、いのししを鬼に変えて遊ぶコーナーにした。鬼は、クリエイティブコーナー「オニコロリン」に関連させ、張り子で制作。スタジオ内には、ハサミや定規など、いろいろな道具の形をコラージュして作った鬼の面や金棒、升、小鬼などを飾り、親子コーナー「コラージュ・オニお面」との関連性を出した。
桃の節句	2.4～3.3	プレイングボード改修工事で造形スタジオが使用できなかったため、地下１階フリーホールで実施。「ガラッと！ひな変化」の巨大版の見本、壁面には民芸品を図案化して描いたタペストリーや布製の桃の花などを飾り、楽しい雰囲気の中で制作できるように飾り付けをした。

《特別期間》

名　称	日　時	内　容
〈夏休み〉 造形発見展 「アートと造形」	7.21～8.31、9.2・3	視覚、触覚、聴覚など、身近な感覚の解放をテーマに、五感を刺激し、新しい感覚に気づき、出会えるような環境を、エレベーターホールからロビー、スロープを経て造形スタジオ入り口に至る空間に設定し、展示、体験、制作のワークショップを実施、展開した。
〈開館記念〉 第13回親子体験ワークショップ	10.28～11.5	親と子がそれぞれに制作し、積極的にプログラムにかかわることができるような設定となっている。できあがった作品は、スタジオ内に設置したブラックライトの部屋に持ち込み、光による作品の見え方の違いを親子で感じ取ることとなった。プログラムは、「ひかるおやこむし」。「親子ワークショップ」は今回で13回目を迎えた。
〈　〃　〉 第20+21回造形スタジオ展	11.1～26	「造形スタジオ展」は、〔こどもの城〕の開館記念行事にあわせて毎年実施。１年の間に開発したプログラムと、参加した子どもたちの様子を作品と写真を通じて伝えることを目的としている。前年度は、開館20周年記念事業の関係で開催できなかったため、２年分の活動を展示。「素材との出会い展～布と造形２」28点、「造形発見展～アートと造形」20点、「ブルーノ・ムナーリ展」９点、「こども歳時記」16点のプログラム作品と活動写真を１枚のパネルに構成して紹介。「こどもクリエイティブクラブ」各コースは、作品と活動風景写真で紹介した。
〈春休み〉 やってみよう！つくってみよう！ 「アートと造形2」	H19.3.24～4.8	身の回りに現れるさまざまな現象――“アート”に気づき発見することを目的に、五感を中心として体感できるように環境を整備し、展示、体験、制作のワークショップ活動を展開、実施した。植物を例にとり、視覚的にとらえることができる形、色、構造などから新しい発見、体験ができるように展示を行い、プログラムへとつないだ。



コイもよう（こども歳時記～端午の節句）



〈動くこどもの城〉造形ワークショップ＋竹体験ワークショップ
（栃木県子ども総合科学館）

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	(人)	(人)		
こどもクリエイティブクラブ 土の冒険〜クレイワーク	小1〜中3 (20)	12 12 14	火曜日 16:00〜17:30	土に触れ、たたく、のばす、ひもにする、道具を使って変化させるなどしながら、土を他の素材と同じように表現の材料として用い、子どもたちが造形表現の可能性を広げられるよう指導していった。年間を通じて子どもたちが使用する粘土は、一人あたり合計100 kg以上というダイナミックな活動である。1期は「かたまりからの変化」。ふだんは用いることのない大きさの粘土のかたまりを使い、つまみ出す、くり抜く、象嵌、磨き、型押しなどの技法を使い分けながら表現していった。2期は「板からの変化」。こねて立方体にした粘土を、たたら板と切り糸を使って切っていくと、たたら板の厚さの粘土の板「たたら」ができあがる。この粘土の板を自由な形に切ってつなげる、型に沿って丸める、箱状に組み立てるなどして制作。3期は「ひもからの変化」。ひも状にした粘土をうず巻き状にしたり、積み上げたりしながら制作した。本年度は「粘土の冒険旅行〜恐竜時代にタイムトラベル」というテーマを設け、ストーリー仕立てでプログラムを進行した。
〃 ゆかいな造形〜素材の楽しみ	〃 (20)	28 28 28	水曜日 16:00〜17:30	布や木、金属、紙などのさまざまな素材を用い、それらの素材に適した道具と技法を用いて、遊びを通じてより深い造形体験をすることが基本。本年度は、光や動き、そして作ったもので遊べるという要素を意識したプログラムを実施した。光のプログラムでは、鍛金の技法でドーム状に打ち出したアルミ板に思い思いの星座の穴を開け、なかに仕込んだ豆電球によって壁面に映し出すプラネタリウムや、風船に石こう帯をはりつけて硬化させたものに赤青緑3色のランプを組み合わせて全体が7色の色彩に変化するオブジェなどを制作。動きや遊びのプログラムでは、ベニヤ板から任意のパーツを切り出して作ったボディに、小さなベアリングキャスターをつけて自在に動く車や（この車を駒にフリーホールの半分を使った大双六を実施）、木の板材や角材から作った釣り竿やルアー、魚などが詰まった魚釣りボックス（自分たちの魚を持ち寄った釣り大会を実施）など、さまざま表現活動を行った。子どもたちは、いろいろな素材や道具、そして技法にを体験し、個人の造形表現の幅を広げながら、それぞれに楽しみを見い出していた。
〃 親子でアート〜わくわくアート	(組) 5歳児と親（10）	(組) 10 4 3	木曜日 15:30〜16:30	身近にある材料、素材に変化をあたえ、新しい触感や視覚を体験しながら、親子が協力して制作、あるいは親と子がそれぞれに制作するといった方法をくり返し、新しい親子のかかわりかた、大人と子どもの関係を見つめ直すクラブ。1期は日常目にする素材「紙」を中心に、ビリビリとちぎったり、水につけてドロドロに溶かしたり、紙粘土にしたりと、同一素材での表情の違いなどを体験しつつ、石こう、スポンジなどの素材にも触れて制作を楽しんだ。2期はかなづち、ドリル、電動糸のこぎりなどの道具を積極的に取り入れ、アルミ板の打ち出し、羊毛でのフェルト作りなどのプログラムを実施。3期は光と音をテーマに、金網とゼラチンシートを組み合わせて干支にちなんだ犬を作って、影を使って遊んだり、中身の素材をいろいろ変えて音色の変化を楽しみながらマラカスを作ったりした。
〃 イメージする楽しみ〜絵本の世界へ	(人) 小1〜中3 (20)	(人) 11 12 10	金曜日 16:00〜17:30	製本された絵本だけでなく、さまざまな素材や技法、描画材の体験をとおし、子どもたちの中にあるお話しの要素を視覚化できる表現力を養うことが目的。自分たちの中にある想像力をさらに広げるきっかけ作りをめざした。1期では、OHPを使った影遊び、道具の形を使ったコラージュ表現、コピー機を使った表現、「さまざまなかたち」(任意にちぎった紙の形から、なにに見えるかを想像するプログラム）を展開。ビニール用の描画材を使って、透明傘への描画体験など、さまざまな表現方法を取り入れた。2期は、木や建物の見えない地下部分を想像して表現する、立体のキャラクターの背景をいくつか考える、“魚つり”をテーマに版画の技法を取り入れた本の制作など、「お話を作る体験」をテーマにし、場面の流れや転換を自然に発想できるようにプログラムを構成。3期は、鳥に変身する造形物を制作し、それを身に着け何パターンかのポーズを写真撮影。その写真を世界各地の空の写真にコラージュし、鳥に変身した自分が世界の空に宝探しに行くという内容を1冊の本にまとめた。1年の集大成として、世界に1冊しかない自分だけの絵本を制作した。

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
こどもクリエイティブクラブ ハンズワーク〜創造探検	(人) 小4〜高3 (20)	(人) 7 6 6	土曜日 16:00〜17:30	素材、技法、道具などについて、より良い知識を蓄積し、造形表現力の力を養う、高学年向けクラブ。プログラムの内容や目的、子どもたちの着想などにあわせて、手道具から電動式工具まで幅広い道工具のなかから選択し、使用した。キット的に組み立てるのではなく、素材の持つ性質や特徴に触れ、各自のひらめきを取り入れながら作業を進めた。本年度は金属素材を中心にプログラム展開をし、鍛金、彫金、鋳造などさまざまな技法を体験した。銅板に、先を丸めた金属の棒を押しあてながら凹凸の絵を描き、ムトウハップという硫黄を含んだ液体に浸けて、板全体を黒く着色したあとで表面を軽くこすり、出っぱった部分をもとの銅色にもどして絵を浮かび上がらせたり、真ちゅう、銅、アルミといった異なる金属をコラージュして絵を描いたりした。小4から中1まで幅広い年齢の子どもたちが参加しているため、各人のペースを配慮した作業工程をとり、中学生は小学生よりも少し複雑で抵抗感のある作業を追加した。時には、小学生への協力を中学生に積極的にしてもらうことで、異年齢の子どもたちのコミュニケーションを深めた。
大人のための造形表現教室	保育士、児童厚生員、学校教員、児童の造形教育、表現教育に興味のある人 (30)	20 18 16	木曜日 18:30〜20:00	児童の造形教育の新しい方法論を開拓したブルーノ・ムナーリの造形思考を柱に、造形スタジオで行った子どものためのワークショップ「アートとあそぼう」をはじめ、造形スタジオで実施してきたプログラムなどの資料と活動をとおして、造形表現とは何かを体験していく講座。本年度は、コンセプチュアル・アート、ポップ・アートなど現代美術の手法を分かりやすく体験できるプログラムやアーティスト・塩見奈々さんの協力を得て「水性木版画」を実施。受講料＝1期(9回)18,000円、2期(12回)24,000円、3期(7回)14,000円。講師は、岩崎清・元こどもの城造形事業部長(ギャラリーTOM副館長／武蔵野美術大学非常勤講師)。

※「ゆかいな造形〜素材の楽しみ」「イメージする楽しみ〜絵本の世界へ」「ハンズワーク〜創造探検」は、1期11回(27,500円)、2期12回(30,000円)、3期9回(22,500円)。
※「土の冒険〜クレイワーク」は、1期11回(27,500円)、2期12回(30,000円)、3期8回(20,000円)。各期ごとに焼成費8,000円が必要。
※「親子でアート〜わくわくアート」：1期11回(33,000円)、2期12回(36,000円)、3期9回(27,000円)。

〈短期講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
夏休み造形教室 A カブルーン	(人) 小3〜高3 (5日間計75)	(人) 延べ 61	7.24〜28 10:00〜16:30	風船と和紙を組み合わせて、頭にかぶることができる、大きく、白い張り子のバルーンを制作。専用の台座に設置し中に光を点灯させると隠れていた色が幻想的に浮かび上がる。自然木とメッシュを使ってバルーンに乗るキャラクターも制作。受講料5,000円。
〃 B 宝箱	〃	延べ 74	7.31〜8.4 10:00〜16:30	勇者の剣、銀の皿、金貨銀貨がつまった宝箱。金属、紙粘土、フェルトとさまざまな素材を使い、木工、鍛金、彫金といった技法を用いて制作。受講料5,000円。
〃 C 凸凹LAND	〃	延べ 75	8.7〜11 10:00〜16:30	電動糸のこぎりで切り出したベニヤ板に、金属、布、プラスチックなどさまざまな素材をはりつけ、表面の凸凹した島を制作。布をかぶせて布用クレヨンでこすりだせば秘密の地図が完成。針金をねじって作った木や木片を組み合わせた建物のパーツで島の表情を演出可能。受講料5,000円。
〃 D 超珍スコープ	〃	延べ 74	8.14〜18 10:00〜16:30	アルミのパイプに、透過性のあるカラーカッティングシートをはったアクリルの回転板を取り付け、金網で外観を生き物のように仕上げる。電球を点灯させ回転板をまわせば、筒の中にきらめく色の世界がクルクルと出現。受講料5,000円。
〃 E A・T・カメラ	小3〜高3 (5日間 =2回／日= 計150)	延べ 74	8.21〜25 10:00〜12:30 14:00〜16:30	黒く塗った段ボールと虫眼鏡のレンズを組み合わせた二重構造の四角いボックスを制作。ピンホールカメラの要領で映し出される風景。スクリーン部分にトレーシングペーパーを重ねてトレースすることが可能。一本足の台座は取り外しができ、持ち運びも簡単。受講料3,000円。
映・造ワークショップ「アニメをつくろう〜アルタミラ2007」	小4〜高3 (6)	5	H19.3.27〜29 13:00〜17:00 (3日間連続)	最古の造形表現であり映像表現であると言われている、1万5千年〜2万年前のアルタミラ洞窟画は、だれが、どのように、何のために描いたのかを推理しながら、紙で作った洞窟のなかで光と影の実験やデジタルカメラでの撮影をし、自らがアニメーションを制作することでその謎を解明していった。できあがった作品は最終日に上映会をし、DVDに焼き込み持ち帰った。受講料8,000円。

3. その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
造形ワークショップ展＋竹体験ワークショップ	10.14・15	展示では竹の特性（割れる、しならせる、はじくなど）を生かしたプログラム12パネルを展示。研修会では、プログラムの成り立ちや構成方法などを、3プログラムを例に紹介。29人参加。15日の「児童館フェア」の「わいわい遊びの屋台村」（各児童館、19ブース）に参加。竹をしならせて指先ではじくと飛び跳ねるプログラム「竹ジャンパー」を実施。参加者約500人。（栃木県児童館連絡協議会／栃木県子ども総合科学館）
造形ワークショップ	12.4	身近な素材を使用したプログラムの中から、「どかドカぐつ」「糸はんが」「新聞紙で構造物をつくろう！～トラス構造を使って～」を紹介。前日から降り続いた雪のなかにもかかわらず、多くの参加者があった。青森県子ども家庭支援センター18年度第2回手作りおもちゃ講習会。参加45人。（アピオ青森）

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
こどもの城児童厚生員等実技指導講習会	6.7	児童館活動で最も多く使われていながら、その特性をあまり知らない“紙”について、学び、体験し、制作する実技研修。「素材との出会いからはじまる造形活動～紙とあそぼう！1、2～」と「形のない物も造形素材、造形発見展～光とあそぼう！～」を実施した。（研修室）
埼玉県平成18年度日本保育協会宿泊研修会	6.23	保育士対象の実技研修会。紙と竹のプログラムに粘土を使ったプログラムを取り入れた「素材から出会う造形活動」――「マペット」「リングリングリング」「竹のぼり」を実施。参加85人。（国立女性教育会館）
ブルーノ・ムナーリ展～アートとあそぼう	7.15～9.2 （8.4～6 ワークショップ）	「ブルーノ・ムナーリ展」を構成し直した巡回展。関連ワークショップ「アートとあそぼう」では、ムナーリのプログラム「直接の映写」「木をつくろう」「さまざまなかたち」「テクスチャー」を実施。（山形県米沢市上杉博物館）
鉄はうたうvol.5	9.12～10.1	「絵画・彫刻にあらわれた口琴」――口琴の展示と版画、民芸品、食器などに描かれたり、表現された口琴も展示した。また、サハ共和国から来日したイヴァン・アレクセイエフ氏のコンサートとクリニックを開催。主催：日本口琴協会、造形事業部。（造形スタジオ）
第10回図工大好き子ども美術展	9.12～10.9	東京都小学校図工専科教師の有志団体「東京児童幼画堂」との共催で開く子どもたちの作品展。テーマは「LOOK AT ME」で「見ること」「生活世界」など6つのカテゴリーに分けて展示。29日にはフォーラムを開催。会員の中村隆介氏の実践活動報告をした。（ギャラリー）
新潟県第26回保育研究会	10.3	「素材からはじまる造形活動」のテーマで、「マペット」「リンリンクリスマス」「竹のぼり」を紹介。（新潟中央短期大学）
山口県児童厚生員・放課後児童クラブ指導員研修会	11.10	〈動くこどもの城〉などで2・3年ごとに造形の実技研修会を実施しているので、継続して参加している指導員にも造形活動を多角的に体験し、質的な向上を図ってもらえるように、毎回違う内容のプログラムで実施。今回は「アートとあそぼう」のテーマで「さまざまなかたち」「コラージュ」などを取り上げた。山口県内児童厚生員等50人参加。（山口県児童センター）
平成18年度児童厚生員・放課後児童クラブ指導員研修会	11.16	「竹」を取り上げた「造形表現活動」の研修会。プログラムの成り立ちや構成方法など、実践活動にもとづいて、「くねりん坊」「平成とんだりはねたり」「竹ジャンパー」を紹介。研修会終了後、全員の作品を1か所に集めたミニ展覧会を行った。児童厚生員など130人参加。（秋田県児童会館・秋田県児童館連絡協議会／秋田県生涯学習センター）
横須賀市美術館出前ワークショップ	11.20	平成16年から継続している横須賀市立美術館（平成19年4月開館予定）との協力事業。ムナーリのワークショップから「コラージュ」を実施。横須賀市立逸見小学校3・4年40人参加。
千葉県児童館連絡協議会児童厚生員研修会	H19.1.30	素材と技法を体験する「マペット」「いとはんが」「竹のぼり」を実施した。千葉県の児童厚生員および学童保育指導員64人参加。主催は千葉県児童館連絡協議会。（市川市中央児童館）
平成18年度子どもの感性を育てる表現研修会	2.10	素材と技法を体験する「マペット」「いとはんが」「竹のぼり」を実施した。50人ずつ2回に分けての変則的な講習会となった。埼玉県の保育士100人参加。（チサンイン熊谷）

平成18年度プログラム一覧表

1．親子プログラム

	名称	内容
〈アートと造形〉	すりすりこすりだし	さまざまな素材の表面にB５サイズのコピー用紙をあて、クーピーを使って表面の凸凹をこすりだす。絵を描いたり、模様だけを集めたり、触った感じと模様の出かたを比較したりと触覚と視覚の両方が楽しめる。
	シカックー	いろいろなサイズの木製角材をスタンプにして、四角い形の構成だけで絵を作る。インクは一色で画面は単色の表現となる。
	なにもよう	13×20 cmの紙を半分に折り、動物や魚などの形を切り抜く。頭や尻尾の部分にトレーシングペーパーをはり、飾り付けをする。切り抜いた窓から、いろいろなものや風景をのぞいて、動物や魚などの模様に見えそうなものを発見するカード。
	ショッカックン	10 cm角のケント紙に、直径６mmの穴あけポンチで５つの穴をあける。好きな手触りの布や紙を４種類選んで、裏からはり、まわりを好きな形に切る。残った穴をいろいろな物にあて、触覚の違いを比べながら体験できるツールが完成する。
	ギロネイロ	タコ糸を竹ひごにらせん状に巻きつけたら、紙コップの底に穴をあける。穴に竹ひごを通し、全体を飾る。竹ひごを上下に動かせば、こすれた時の振動がコップに反響し、ギロギロという音が聞こえる。
	天眼鏡	ケント紙をめがね型に切り取ったら、レンズ部分にコの字型の切り込みを入れ、外側へ折り返す。鏡面状の紙をはってのぞけば、眼前に反転した頭上の景色が広がる。
	キキミミー	A４サイズくらいのWクラフト紙に切り込みを入れ、まんなかから約5cmの楕円を切る。耳にひっかかる大きさになるように大きさを調整。まわりを好きな形に切り、全体を飾る。耳にかけると、聞くことへの意識をうながすツールとなる。
	グニョーン	17 cm角の鏡面紙を円状に切り、中心に穴をあける。外側から穴に向かって切り込みを入れたら、先に飾りをした竹ひごを通す。鏡面を内側にしてセロハンテープでとめたら完成。飾りを動かすと鏡面に映り込む形がいろいろと変化する。
	しんビニマル	新聞紙をよくもみ粘土のようにして、ビニール袋の中に入れて形を作る。セロハンテープで形を固定しながら色ラシャ紙などで飾り付けをして、新種動物の完成。
	クルターン	段ボールを好きな形に切る。輪ゴムを切ってひもにし、片端を竹ひごにとめる。段ボールに竹ひごを通し回転軸にする。ゴムひもの残った片端を段ボールにつけ、飾り付けをしたら完成。クルクル動かして楽しむ。
	みえルーペ	ケント紙をドーナツ状に切り、トレーシングペーパーをはる。それに、ケント紙の帯をはり、反対の端が輪の中心にくるように折り曲げる。別の帯をジャバラに折り、最初の帯にはる。帯の端に蛍光紙を使った飾りを付けて完成。ブラックライトの光で、トレーシングペーパーに飾りが光って映る。
	ゆらクルナイト	黒ラシャ紙を好きな形に切る。竹ひごの先にたこ糸を結んだら、結び目に蛍光紙をはる。本体とたこ糸をつないだら、全体を蛍光紙で飾り付けて完成。ブラックライトの下で揺らして光らせて楽しむ
	めばえーる	はがきサイズの色ラシャ紙を丸め、その中にV字に折った紙帯と竹ひごを組み合わせたものを入れる。V字の紙帯の両端と丸めた色ラシャ紙を和紙帯でつなげて飾り付ける。竹ひごを上下に動かすと、V字の紙帯が左右に開くカラクリおもちゃ。
	プランタージュ	好きな形に丸めた新聞紙に長さ35cmのアルミ線の片端をひと巻きして固定。いろいろな素材の凸凹をこすりだしたカラーペーパーで糊付けしながら包み込み、アルミ線のもう片端を台座になる８cm角の段ボールに穴をあけて差し込み固定。飾り付けをして不思議な植物を完成させる。

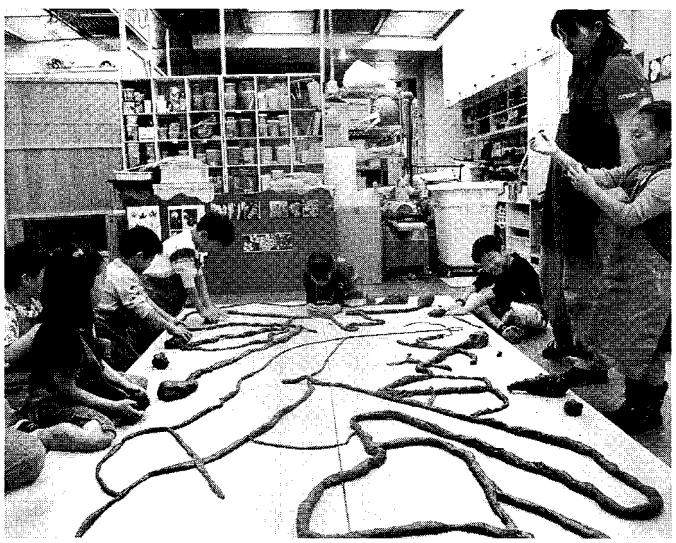


プレイングボード改修工事のため、フリーホールで造形スタジオの活動を行った（2月3～25日）。

	名　称	内　容
〈こども歳時記〉	〈端午の節句〉 うろこのキモチ	13×20ｃｍの紙を半分に折り、コイの型を切り抜く。頭と尻尾の部分にトレーシングペーパーをはり、コイの目玉や尻尾の飾りをする。コイ型の窓から、いろいろなものや風景を覗いて、コイのウロコに見えそうなものを発見するカード。
	〈七夕〉 ミルキーヘアー	帯状の布紙をとめて輪にする。そこに、長さ30ｃｍのすずらんテープを6本つけ、七夕の飾りをする。かぶると、天の川風ヘアーに変身できる。
	〈クリスマス〉 クリスマスク	Wクラフト紙に、ポンチで穴を2つ開けて、お面を作る。好きな形に切り、紙で飾り付けをする。持ち手になる竹ひごをつけると、仮装が楽しめるマスクのできあがり。
	〈お正月〉 お正月イノウズ	茶系の紙にフロッタージュをして模様をつける。丸めてホッチキスでとめ、鼻やきばの飾り付けをする。帯状の布紙を取り付、顔に着けると、干支のイノシシの鼻に変身できる。
	〈節分〉 コラージュ・オニお面	色ラシャ紙に、目にあたる部分にポンチで穴を2つ開ける。いろいろな種類の道具のコピーでコラージュして、鬼の顔の飾りをする。帯状の布紙をつけると、ユニークな鬼のお面の完成。
	〈桃の節句〉 ガラッと！ひな変化	ケント紙をおひな様の着物型に切り抜き、折って筒状にする。その筒に、色ラシャ紙で装飾した帯状の紙にを差し込み、左右に動かすと、おひな様の着物の柄が変化して楽しく遊ぶことができる。
その他	〈開館記念・ファミリーウイーク〉 ひかるおやこむし	4つ切りにした新聞紙を丸めて形作る。よくもんで柔らかくした和紙に蛍光紙で飾り付けをしたら、和紙全体にのりをぬって新聞紙をつつむ。これにアルミ針金で作った足をつけるとできあがり。ブラックライトの下で見ると、ぼんやりと幻想的に光る不思議な虫となる。
	〈ドルッチャワークス〉 ドルッチャメント	「ドルッチャワークス」の仕事体験プログラム。ハガキ2枚分の大きさの紙を半分に折って、クリスマスイメージの形を下書きし、穴あけポンチで自由に穴を開ける。開いた紙の穴の部分に色セロハンをはり、折ってのり付けし、形をはさみで切り取る。飾り付けをして、つり下げ用のひもをつけると完成。造形スタジオのクリスマス装飾となる。
	〈冬休み・青山あそび寄席〉 めでた絵馬	15×13ｃｍほどのWクラフト紙を、絵馬の形に切り、ポンチでひもを通す穴を開ける。紙で飾り付けをし、願いごとを書いて、ギャラリーに飾っていく。



こどもクリエイティブクラブ「ゆかいな造形～素材の楽しみ」



春休み・イベントワークショップ「ねんどのぼうけん」

2. 子どもだけのプログラム

	名　称	内　容
〈アートと造形〉	触覚塔	5×5×20 cmの発泡スチロールのかたまりの長手をヒートカッターで斜め横に2・3回切り、組み合わせて塔を作る。塔のまわりには触感の違う素材をはりつけ、鏡面の紙をはった12 cm角の台座に取り付ければ完成。（小3以上、1時間）
	双幻鏡	鏡面の紙（スペシャリティーズ）の鏡面を内側にして2つの三角柱を作り、のりでつなぐ。穴あけをした三角形のラシャ紙6枚を本体の先にはり、偏光板にする。水性ペンで飾り付けをしたら完成。双眼鏡のようにのぞいて、視覚の変化を楽しむ。（小3以上、1時間）
	モアレもよう	段ボールで枠を作る。片面にトレーシングペーパーと、その上に好きな形を切り抜いた紙をはる。もう片方には、ポンチで模様の穴を開けた紙をはる。光にあてると、トレーシングペーパーに模様の形が映る。そこに、ストライプなどの模様が印刷された、帯状の透明シートをさしこみ、左右にスライドさせると、モアレ模様となって映る。（小3以上、1時間）
	オトキノコ	10 cm角の銅板から円を切り抜き、いもづちでたたいてドーム型に成形する。穴をあけ、ドームの上下に銅線をハンダづけする。脚を土台に差し込み、上部の銅線をバチでたたけば、涼やかな音が響く音具が完成する。（小3以上、1時間）
	版魚	さまざまな凹凸の紙や布を台紙に切りばりして、魚の形を作る。すみを塗り、和紙をかぶせて刷る。刷り上がった紙に魚の名前やサイズ、自分の名前や印を入れれば、体の模様や形がユニークなオリジナルの魚拓が完成する。（小2以上、1時間）
	ギタガタン	長さの異なる真ちゅう板に切り込みをいれ、板に釘で打ちつけ、切り込んだ半分を立ち上げる。中心に穴をあけた小さな板の側面に釘を打って、回転板を作る。板の真ん中に回転板を釘でとめ、回せば、釘が真ちゅう板をはじいて奏でる音具が完成する。（小3以上、1時間）
	ナデプルン	幅2.5 cm、長さ60 cmの真ちゅう板の表面に、好きな触り心地の布をはる。両端を重ねて輪を作り、小さな木の板をあてて真ちゅう板を曲げながら角を作り、全体を動物や乗り物など好きな形に整える。触れるとプルンと動くオブジェが完成。（小3以上、1時間）
	ナルミニウム星人	10×10 cmのアルミ板2枚を金切りばさみで丸く切り、木づちでたたいてドーム状にする。ドームの端に4か所穴をあけ、中にビー玉を入れて重ね合わせ、穴に針金を通して足を作り固定する。布で飾り付けをして、音の出る宇宙人の完成。（小3以上、1時間30分）
	板銅さん	下絵を描き、厚み0.2 mmの銅板に写す。いろいろな道具で銅板を押して、凹凸を作る。銅板を六一〇ハップ水溶液につけ、変色してきたら水で洗う。それを黒くなるまで繰り返す。銅板のレリーフの完成。（小3以上、1時間）
	合体生物図鑑	1枚のトレーシングペーパーに2匹の動物の輪郭を重ねてトレース。合体した輪郭を油性ペンでなぞり、合体生物を作る。ベニヤ板にアルミ板を釘で固定し、動物の輪郭を写す。タガネで輪郭や模様をたたいて合体生物の完成。（小2以上、1時間）
	蛍光的生物	蛍光塗料を塗ったすぎ板を好きな形に切り、釘とひもでつないで動物などを作る。板にたくさんの釘を打って模様を作る。打った釘に蛍光の糸を引っ掛けたり、つないで線の模様を作る。ブラックライトに当てて、光の体験をする。（小3以上、1時間30分）
	からクル劇場	穴をあけた段ボールで箱を作り、竹ひごを通す。黒ラシャ紙で異なる形の飾りを作り、竹ひごのまんなかにつける。まわりも飾り付けをして、箱の片面にスクリーンとなるトレーシングペーパーをはって完成。スポットライトをあてて、竹ひごを回転させると絵柄の変わる劇場になる。（小3以上、1時間）
	ピッコリッキー	2～3本のストローを切って、幹、枝、小枝からなる木の形に仮組する。ストローのそれぞれにたこ糸を通して組み合わせ、土台に固定して飾り付け。土台下のたこ糸を引っ張ると、ピッコリと起き上がるカラクリの木。（小2以上、1時間）
	メター樹	長さ35 cmのカラー針金3本を束にして半分に折り、折った部分（根元になる）を万力にはさんで、枝分かれさせながらねじって木の形に仕上げる。10 cm角の杉板に穴を開けて根元を固定。アルミ、真ちゅう、銅の金属片を巻きつけたり、穴を開けて針金に通したりして飾りつけて、金属の木が完成。（新小4以上、1時間30分）

	名　称	内　容
〈こども歳時記〉	〈端午の節句〉 コイもよう	段ボールで枠を作る。片面にこいの目玉やヒゲを飾ったトレーシングペーパー、もう片方には、ポンチでうろこ模様に穴を開けた紙をはる。光にあてると、トレーシングペーパーに模様の形が映る。そこに、ストライプなどが印刷された帯状の透明シートをさしこみ、左右にスライドさせると、こいのうろこが、モアレ模様となって映る.　(小3以上、1時間)
	〈七夕〉 七夕シューティングスター	傘袋をふくらませ、前に重りになるセロハンテープのしん、後ろにはすずらんテープをつける。紙やペンで、七夕の飾りつけをする。完成すると、飛ばして遊べる遊具となる。　(小2以上、1時間)
	〈クリスマス〉 プレンズBOX	9×39.4cm幅のWクラフト紙の帯を折って、四角を作る。9×9cmのWクラフト2枚を前後にはり、箱にする。1枚には窓を作り、レンズシートをはる。箱の中にクリスマスの飾りつけをすると、窓からなかの様子が幻想的に見える。　(小2以上、1時間)
	〈お正月〉 お正月いのクルン	新聞紙をもんで柔らかくして、和紙で包んでいのししを作る。2cmの小割2つを10×15cmのベニヤの両端に、小割の穴に釘を通してうつ。小割の1つには太さ3mm長さ20 cmのアルミ線を立たせて、イノシシをひっかける。もう一方には手回し用の竹ひごをたて、小割同士にゴムをまく。竹ひごを回すと、いのししも同時にクルクルと回転する。　(小3以上、1時間30分)
	〈節分〉 オニコロリン	ふくらませたハート型の風船に、色紙をボンドではり、張り子を作る。紙で鬼の飾りつけをして、乾燥したら風船を外す。コロッと転がる鬼の張り子の完成。　(小3以上、1時間30分)
〈その他〉	〈開館記念・ファミリーウイーク〉 クルミー	ハガキ2枚分ほどの大きさの3層段ボール（両面黒塗装済みのもの）を、糸のこで好きな形に切り取り、同時に中も切り抜いたら、段ボール片から中に入れるものも切り取る。次に竹ひごの先端にゴムひもを取り付けたものを作り、切り取った段ボールの波目に差し込むようにして組み合わせる。最後に蛍光紙で飾り付けをすると完成。ブラックライトの下で竹ひごを手でもむようにクルクルと回すと、光と動きの幻想的な作品となる。　(小3以上、1時間)
	〈ドルッチャワークス〉 ドルッチャメント	「ドルッチャワークス」の仕事体験プログラム。できあがった親子プログラムの作品「ドルッチャメント」を展示用ツリーに飾りつけたり、展示用ツリー自体をモールや金銀紙などで飾りつける。　(小1以上、20分)
	〈　〃　〉 P.Bおそうじ隊	「ドルッチャワークス」の仕事体験プログラム。造形スタジオにある全長17m、高さ1.8mの自由に絵が描ける「プレイングボード」の清掃および絵の具の準備。　(小4以上、35分)
	〈春休み・イベントワークショップ〉 ねんどのぼうけん	約2kgの粘土のかたまりを転がして丸め、種を作る。指で粘土をつまみだし、芽をだす。さらに粘土で作ったヒモをつなげ、芽を伸ばし枝を広げてゆく。畳4枚分の粘土板一杯に枝が伸びたら、葉や花や生物を作り枝につけていく。植物の成長のストーリーをたどりながら、粘土の可塑性を体験する。　(小1以上、1時間。定員制、10人／回)

音楽事業部



平成18年度の活動

1．はじめに

音楽事業部の活動は、音楽ロビーを一般活動の拠点とし、2つのスタジオは特別な催しと講座・クラブの活動の場となっている。音楽ロビーは、長年の実験的プログラムの積み重ねで、ユニークな音楽遊びが展開されるオープンスペースとして、〔こどもの城〕のなかでもなくてはならない遊びの場となっている。

手作りの楽器や民族楽器などをそろえ、いかに音楽の楽しさと共感する喜びを子どもたちに伝えることができるかをコンセプトに、プログラム開発を行い、環境整備に工夫をしてきた。平常期間の平日は、一日1回の音楽遊びのメインイベントを核に、ストリートオルガンの体験と童謡コンサート「うたってハッピー」を数回実施している。音楽遊びのプログラムでは、特に親子のスキンシップをはかる歌遊びやダンス、そしてパネルシアターなどを取り上げている。1回30分のプログラムの流れのなかで、“動”と“静”のめりはりをつけたプログラム構成としている。

日曜日・祝日は、11時30分から17時までの間に、9つのプログラムが組まれている。ストリートオルガンの体験、童謡コンサート「うたってハッピー」、音楽遊びプログラム「みんなであそぼう！音楽広場」、そして世界の民族楽器が体験できる「めずらし楽器にチャレンジ」、管楽器や打楽器などの編成でリズミカルな楽曲を演奏する「インストプッちんライブ」——自然に体が動き出すような楽しい選曲で、子どもたちも自由に楽器を鳴らし、親子で音楽を遊べるスペースとなっている。

スタジオの一般来館事業の核となるのが、Bスタジオで行われる「わいわいスタジオ」である。世界各地の民族音楽などを定期的にとりあげたり、手作り楽器のワークショップを開催するなど、来館する親子にさまざまな音楽体験の場を提供している。

特別期間の催しは、特に来館児・者が多いことと、学童の来館も増えることを念頭においたプログラムを実施し、多人数異年齢の来館児・者に、幅広い音楽体験の場を提供した。このほか夏休み特別期間には、インドネシアやアフリカの楽器をベースにした「手作り楽器のワークショップ」を実施。充足率はここ数年100％で人気企画として定着している。

講座・クラブは、ほかでは体験できない音楽活動をめざして、邦楽や民族音楽系のコースなども含む、ユニークなラインアップで運営している。

グループ活動は、個々の参加団体の要望にフレキシブルに対応できる、柔軟で積極的な姿勢と応用力のあるプログラムを用意している。

2．音楽ロビーの活動から

（ア）ハローフレンズ！ ジャンプ・ステップ・ダンス

春休み特別期間の音楽ロビーの活動は、ここ数年“ダンス”にスポットをあてたプログラム作りをしている。いろいろな音楽を“ダンス＝体を動かすこと”をとおして子どもたちに感じてもらおう、というねらいである。インドネシア、ブラジルのサンバ、アフリカといった国や地域の音楽、そしてヒップ・ホップやワルツといったリズムの音楽を取り上げてきた。

本年度は、ダンスのプログラムをとおして「春だ！ともだちいっぱいみつけよう」という春休みの全館テーマを伝

えることをねらいとした。

全館テーマから、“出会い”“自分以外の存在を意識する”“かかわりをもつ”というキーワードを導き出し、それを手がかりにプログラム「ハローフレンズ！ジャンプ・ステップ・ダンス」を考えた。年齢もさまざま、たまたまその場に居合わせた子どもたちに、どのように互いを意識してもらうか、またかかわりをもてるよう働きかけるかが課題となった。

できあがったプログラムは2種類。

【オリジナルソングとダンス】

「春風」というオリジナルソングには、“やさしい はるの かぜにのって あたらしい であいを みつけにいこう”という歌詞があり、プログラム全体のねらいが込められた。

はじめは一人ずつの子どもに、歌と簡単な動作を提示する。次に優しい曲調の音楽に合わせ、ゆったりと歩き、スタッフの合図で2人組、3人組を作る。すると、新しい友だちと出会えたことを喜ぶ元気な曲調に音楽が変わり、互いの手のひらを合わせてリズムを鳴らしたり、手をつないで回るなど、集団ならではの動作を促す。この後、曲調が元にもどり、また新しい友だちとのかかわりを繰り返す。最終的には全員で輪になることで、大勢の人とかかわれたことをわかちあう。

2曲目のオリジナルソングは、ぐっと曲調を変えた。出会えた友だちと元気なリズムで声を出し、体を動かす。この時、集団には仲間となった一体感があり、曲の最後には周りで見ている保護者から拍手がおこった。最後は、簡単ではあるが、ダンスとして振り付けしたものを全員で〈踊って〉フィナーレとした。

【線路は続く……】

日本の北と南、北海道アイヌと沖縄を題材にした。メイン司会者が子どもたちと一緒に、北海道と沖縄の友だちに会いに行くという設定である。「線路は続くよどこまでも」の曲に合わせて歩き、最初は沖縄へ。沖縄の言葉「ハイサイ」とあいさつした後は、スタッフオリジナルの沖縄風ソングで「シーサー・ゴーヤ・かりゆし」という言葉を用いたジェスチャー遊び。



ハローフレンズ！ジャンプ・ステップ・ダンス！

引き続き「線路は続くよどこまでも」をはさんで北海道へ。最初は一人ずつだったが、今度は複数人で電車になって歩く。北海道アイヌのあいさつは「イランカラプテー」。アイヌ風のとなえ歌に合わせ「昆布・トナカイ・嵐」をモチーフに遊ぶ。沖縄の時はリーダーと子どもたちだったが、アイヌでは一緒に組になった子どもと子どもで行う。最後は全員で電車を作り、輪になる。

沖縄と北海道の友だちに会えたことを喜び、オリジナルソング「ともだち いっぱーい」に合わせ手をつないで踊る。“みんなで 手をつなごう みんなが ひとつに つながれば わたしも あのこも きみも ともだち”という歌詞にはスタッフの思いが込められた。

……

ダンスプログラムではあるが、2つのプログラムとも上手に踊るということが目的ではなく、初めて出会った仲間で楽しい時間を共有しよう、というアプローチに徹した。

“出会い”“自分以外の存在を意識する”“かかわりをもつ”というキーワードを、どのように遊びのなかで展開するか考えた結果、たくさんのオリジナル曲が生まれた。詞、曲調にスタッフの思いを込めて作り上げた作品は、子どもだけでなく、保護者にも思いが伝わっていたようだ。

初めて出会った子どもたちが、抵抗なく互いにかかわり合えるか、という課題については、少人数から徐々に全員で行うものに広げていくこと、大勢でこそ楽しめる動作、かけ声をかけあうなどという形で具体化できた。

音楽ロビーの通常の活動では子どもとスタッフ、そして親子（一緒に遊びに来た兄弟、友だちなど）とスタッフの活動が多い。このテーマを実施するにあたり、はたして初めて出会った子どもたちが、互いに自然な形で遊びを展開できるかがスタッフの心配でもあった。しかし、子どもたちは抵抗がなく、大きな子どもは小さな子どもを気づかい、手をさしのべたり、積極的に言葉を交わしあい仲間作りをしていた。

今後、〔こどもの城〕ではじめて出会った子どもと子ども、また子どもと大人がかかわりを持つことをテーマにした活動に意欲的に取り組んでいきたいと実感した。

（イ）新春おんがく祭り！お正月だよ！ウリパメス

冬休み特別期間には「新春おんがく祭り！お正月だよ！ウリパメス」というタイトルで歌や楽器の演奏、楽器体験などのプログラムを実施した。その中からパネルシアターの活動を取り上げる。

平成16年児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間

新年おんがく祭！ お正月だよウリパメス～パネルシアター～



に製作したオリジナルパネルシアター「べにとロク」の続編の上演。主人公は赤と黒の金魚。ストーリーも音楽もオリジナルである。本年度の夏休み特別期間に続編として2作目を初演した。二人のスタッフが主人公の金魚と、もう一匹ずつのキャラクターを担当する一人二役の上演スタイルである。

夏休み特別期間の上演時に、大筋のストーリー進行は固まったものの、一作目に比べると子どもたちの反応が弱い。これを改善することが目標になった。

一つには、ストーリーを十分に伝えられてないのではということである。どこが伝わらないのか、何が難しくさせているのか。これを確認するために、上演時に見ている子どもたちの様子をビデオで録画した。

これまで、自分たちが演じている様子をビデオで録画し、振り返るという作業は繰り返してきたが、“観客を録る”というのは初めてであった。どの場面で子どもたちが笑い、どの部分で分からないような表情をしているのか、録画画像と台本を照らし合わせながら一つひとつチェックしていった。そのデータをふまえて、せりふの言い回しや、小さい子どもたちにも伝わるよう、シンプルな進行に改善した。

次に、音楽部門のプログラムとして音楽をどのように生かすか、という点である。音楽を有効に利用することで、登場キャラクターに特徴を持たせることができるのではと考えた。単にＢＧＭとして流すだけでは，音楽を充分に使っているとはいえない。せりふのテンポ、リズム、演じ手同士の“間（ま）”など、試行錯誤を繰り返しながら作り上げていく過程は、細かい工夫の連続であり、今回のいちばん苦労した点でもある。ちょっとした工夫で楽しさが増したり、セリフが伝わりやすくなるのを感じることができた。

公演をくり返しながら「もっとおもしろくしたい」と常に考えるようになり、「私たちらしい おもしろさ」はどうすれば出せるのかが次の課題となった。

めずらし楽器にチャレンジ～ヤンチン（洋琴）



音楽ロビーでのパネルシアターは、テレビ画面で見るものとも、劇場の舞台で演じているものとも違う。すぐそこで、子どもたちの手が届き、話しかけられる距離で演じている“生”のよさ＝ライブ感が、重要なポイントではないかと考えた。客席からわいてくるいろいろな反応を、上演している側がいかにキャッチして進めていくことができるか、これがその場に居合わせた子どもや大人をお話の世界に引き込むための重要なポイントであると改めて感じた。子どものちょっとした表情、つぶやき、問いかけ、歓声などを、上演する側がいかに物語の中に生かしていくか、フィードバックしていくかが大切である。

今回の活動をとおして、子どもたちからの反応を受け止め、あらかじめ決めたことであっても変更したり、柔軟に対応する技術の大切さを実感した。これはパネルシアターに限ったことではない。すべての活動において、私たちが大事だととらえる“生”のよさは、その場で出会ったからこそ生まれる時間の共有である。その時間が楽しく、心に残るようなものになるよう、研究していきたい。

3. まとめ

本年度の大きな成果はオリジナルの〈あそび〉と、それに伴う「こどもの城オリジナル楽曲」が数多く生み出されたことである。年間300日以上、毎日子どもと親子のプログラム活動を行っている〔こどもの城〕音楽部門ならではのものであり、スタッフが日々試行錯誤と学習を積み重ねて得た成果である。

今後は〈動くこどもの城〉など、〔こどもの城〕外の活動などにも取り入れ、さまざまな意見を取り入れながらさらによいものにしていきたい。そして、今後もオリジナルのプログラム開発に努めていきたい。

平成18年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
みんなでライブ	火曜日　14:30～15:00	子どもたちのよく知っている手遊び、季節に合わせたパネルシアター、童謡、体を動かす遊びのプログラム。音楽を楽しむなかで、親子のふれあいを感じるものを取り入れている。担当スタッフ４人がそれぞれの個性を生かし、幅広い年齢層に対応するプログラム作りに取り組んだ。（音楽ロビー）
赤ちゃん特等席 ばぶりんパラダイス	火～金曜日　開館時間中 （催し開催時間を除く）	０～１歳児と保護者のコーナー。特別期間に実施している乳幼児向けプログラム「ゆったり親子のおんがく園」の利用者や「赤ちゃんサロン」（月２回／火曜日）の参加者の間に定着した。赤ちゃんを囲んで、初対面の母親同士が自然に交流をもてる場になっている。（音楽ロビー）
ストリートオルガン やってみよう！	火曜日　13:30～14:00 16:00～16:30 水曜日　13:30～14:00 15:30～16:00 木曜日　16:00～16:30 金曜日　13:30～14:00 16:30～17:00 土曜日　12:30～13:00 日曜・祝日　12:30～13:00	音楽ロビー常設のオランダ式手回しオルガン。親子、兄弟、友だち同士などでペアになり、演奏を楽しんだ。（音楽ロビー）
うたってハッピー	火曜日　15:00～15:30 16:30～17:00 水・金曜日　14:00～14:30 16:00～16:30 木曜日　14:00～14:30 土曜日　11:30～12:00 13:00～13:30 日曜・祝日　13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか、アニメなどのヒットソングのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しめる。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。新しい試みとして、土曜日の午前中にも実施。来館児・者の反応もよく、午前中にプログラムを行う必要性を改めて考えるきっかけとなった。（音楽ロビー）
すいよう パチパチパーク	水曜日　14:30～15:00	歌遊び・手遊びを中心とした参加型プログラムと、アフリカ、インドネシア、ブラジルなどの音楽を聞かせる鑑賞型プログラムの２種を実施。鑑賞型プログラムでも、使用した楽器にふれたり、スタッフと演奏する参加部分も設けたり、子どもと一体になって音楽を感じあえるイベントを行っている。（音楽ロビー）
なにがでるかな？ うきうきタイム	木曜日　13:45～14:00	手遊び系プログラムの時間として実施、３年目。来館児・者の認知度も高まり、開始時間になると子どもたちが集まってくるようになった。“15分のミニイベント”という特性を生かして、新しいプログラム開発のためのシミュレーションの場としても有効に活用。（音楽ロビー）
木曜なかよし広場	木曜日　14:30～15:00	司会はスタッフが週替わりで担当。それぞれの個性を生かしながら、乳幼児から親子で気軽に楽しめるプログラム構成に努めている。遊び歌、パネルシアター、絵本、簡単なダンスなどが中心。（音楽ロビー）
みんなの楽器屋さん	木曜日　15:30～16:00	世界各地の楽器を紹介する、鑑賞と体験のプログラム。子どもたちが気軽に参加できるようにスタッフが店長・店員になって“楽器屋さん”という遊びを演出。活動に女性ボランティアも参加。演奏だけでなく、子どもが楽器体験するときのサポート役としても活躍。年２回の「ボランティア・スペシャルプログラム」は、女性ボランティアだけでプログラムを開催。集大成として「あそびのおもちゃ箱」（企画研修部主催）にも出演した。（音楽ロビー）

名　称	日　時	内　容
みかんちゃんズのオパオパサンバ！	金曜日　15:00～15:30	サンバのリズムに合わせて体を動かす女性ボランティア中心の活動。親子でともに活動することに重点をおく「楽器でチュー」と、音楽にあわせて体を動かす「サンバ新聞」というプログラムに取り組んだ。ボランティアメンバー一人ひとりが、プログラムリーダーとしてスキルアップを図り、活動を支えてくれている。（音楽ロビー）
宅配！ミュージックボックス	土曜日　13:30～14:00	演奏を聞く・楽器にふれて演奏してみるという体験をとおし、さまざまな音楽を楽しむ鑑賞・体験合体型のコンサート。時間になると宅配ボックスが届き、そのなかに紹介する楽器や音楽のヒントが入っている――という設定。国・地域や楽器の素材・奏法などさまざまな角度から紹介した。（音楽ロビー）
ポコ・ア・ポコ土曜音楽倶楽部	土曜日　14:00～14:50	5年目を迎える高学年向けの楽器体験コーナー。前年度までの重要課題であった、他のプログラムとの音の重なりを解消するため、この時間は「ポコ・ア・ポコ――」に集中できるようにした。1期「箏」、2期「三味線」、3期「アフリカン・ジェンベ」。期ごとに同じ楽器を扱うことで、自分で練習し、追求するという高学年ならではのプログラムとなった。（音楽ロビー）
インストプッちんライブ	日曜日・祝日 13:45～14:00 14:30～15:00 15:45～16:00	マンボ、ボルカ、テキーラなどのリズミカルな楽曲を、マリンバ、ギター、フルート、トランペットなどの楽器で演奏。子どもたちはそれらの楽曲に合わせて手作り楽器や木琴などを自由に演奏する。オリジナルアレンジの新曲に挑戦して、レパートリーを増やしている。「みんなであそぼう！音楽広場」を実施する日は、14:30の回はなし。（音楽ロビー）
みんなであそぼう！音楽広場	日曜日・祝日（ほぼ隔週） 14:30～15:00	担当スタッフの個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした内容に、パネルシアターやダンスなども加えたバラエティー豊かなプログラム。「わいわいスタジオ」のある日は実施しない。（音楽ロビー）
いろいろ楽器コンサート	日曜日・祝日 16:30～17:00	世界各地の楽器を演奏し、紹介・体験する参加型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、楽器の特徴を分かりやすく紹介。コンサート終了後は、使用した本物の楽器をゆっくり体験してもらう。（音楽ロビー）
わいわいスタジオ	日曜日・祝日（ほぼ隔週） 13:30～14:00 15:30～16:00	来館している親子全般を対象にした催しで、演奏者を招いたコンサートと、身近な材料を使って手作りで楽器を作るワークショップがある。フィルムケースを材料として穴をあけたり、別の素材をはったりしながら鳥笛を作るワークショップは、小学生対象と幼児から参加できるプログラムの2種類がある。コンサートは「フラメンコ」「草笛」「ア・カペラ」、音楽スタッフによる「モーモーず」など。参加コーナーや楽器紹介などを盛り込み、多くの親子に楽しんでもらった。（Bスタジオ）
ぼくらのサウンド2006	3.16　17:30～18:30	「和太鼓グループ」「レッツ・プレイ・サンバ」「レッツ・プレイ・サンバ初級」の公演。サンバの演奏には、女性ボランティアも参加。（青山円形劇場）
	3.17　13:30～15:00	「リズム・ムービング」「リズム・ムービング&パーカッション」「パーカッション・アンサンブル」の公演。（青山円形劇場）
	3.17　17:30～18:30	「三味線」「ガムラン講座」の公演。（青山円形劇場）
	3.18　13:30～14:30 15:15～16:15 18:00～19:30	「みんなで楽しいリトミック」「おんがく大好きミュージックパーク」「合唱講座」「こどもの城児童合唱団」「混声合唱団」の公演。18:00の回は合唱団のみ。（青山円形劇場）

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉ストリートオルガンやってみよう！	4.29・30、5.3～5 12:30～13:00	平常期間と同じ。（音楽ロビー）
〈 〃 〉うたってハッピー！	〃　13:00～13:30 15:30～16:00	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡ほか、アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。（音楽ロビー）

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 おどれ！さけべ！ いち、にの、サンバ!!	4.29・30、5.3～5 13:30～14:00	スタッフ3人組のサンバダンサーが繰り広げるダンスプログラム。オリジナルの曲「1・2・3羽（いちにのサンバ）」に合わせ、色とりどりのポンポンを手に元気に踊る子どもたちの姿が印象的だった。サンバ演奏のデモンストレーション、楽器紹介、リズム遊びで構成。ダンスでは、新たに子ども同士がかけあう場面を設け、前年度に増して盛り上がった。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 インスト・ プッチンライブ！	〃　14:40～15:00 16:10～16:30	平常期間の「マンボ・ボルカ」に新しい名称をつけて実施。インストとはインストルメンタル（楽器だけの演奏）の略。子どもから大人まで楽しんでもらえる演奏コンセプトにした。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 アフリカンタムタムで あそぼう！	〃　15:00～15:30	音楽ロビーの太鼓を活用するプログラム。リーダー（スタッフ）は太鼓の好きな王様という役どころ。模倣やオリジナルパターンのリズムをたたくリズム遊び。スタッフの持ち味を生かした楽しい時間が演出できた。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 めずらし楽器に チャレンジ	〃　16:30～17:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後、使用した楽器を体験できる。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ゆったり親子の おんがく園	〃　開館時間中	0～3歳の乳幼児と保護者がゆったりと音のでるおもちゃ“音具”で遊ぶことのできる部屋。親子のふれあいを楽しむためのスペースと位置付け、大勢の親子に利用された。（Aスタジオ）
〈 〃 〉 こどもフェスティバル おんがくがスキ！	5.5　13:00～14:00 15:00～16:00	毎年恒例の〔こどもの城〕オリジナルプログラムのコンサート。6人のメンバーによるバンド演奏。オリジナルの曲や歌遊び、打楽器演奏など親子、家族で楽しめる内容。（青山円形劇場）
〈夏休み〉 あそびモリモリ キラりん☆広場	7.21～31 13:00～13:30 14:30～15:00	歌遊び、リズム遊び、パネルシアター、ダンスとバラエティーに富んだ内容。スタッフによる日替わりプログラム。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 リズムのりのり ミニライブ	7.21～31 15:15～15:30	平常期間の「マンボ・ボルカ」を基本に、夏らしく元気な曲を取り上げた演奏コーナー。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ゆったり親子の おんがく園	7.21～8.10 12:30～17:00	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間と同じ。午前中は館内の混雑度が激しくないこと、乳児連れの親子の来館が集中する時間にしぼって運営するよう合理化を図った。（Aスタジオ）
〈 〃 〉 夏のごいっしょライブ	7.21～31　11:30～12:00 8.1～20　12:30～13:00 14:00～14:30 8.21～31　11:30～12:00 14:00～14:30	バンド形式による弾き語り。歌の演奏は、子どもたちや親子にとって、たいへん人気のあるプログラム。本年度は夏休み特別期間中をとおして実施した。午前中や早い時間に実施したことで、多くの小さい子どもたちと保護者の参加が得られた。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ストリートオルガン やってみよう！	7.21～31、8.21～31 12:15～12:45 16:30～17:00 8.1～20　11:30～12:00 16:30～17:00	夕方にも実施することで、親子、友だち同士がゆったりと楽しんでいた。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 めずらし楽器に チャレンジ	7.21～31、8.21～31 13:30～14:00 15:30～16:00 8.1～20　15:30～16:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。定番の楽器に加え、“手作り楽器のワークショップ”受講生による演奏も行った。大人数による迫力のある演奏だった。例年より早い時間帯に実施することで、多くの子どもたちに楽器にふれる機会を提供できた。夏休み特別期間では、特に小学生を意識し、平常期間よりも詳しい情報を伝えるように心がけた。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 世界をあそべ わんぱくツアー	8.1～20 13:00～13:30 14:30～15:00 8.21～31 14:30～15:00	2年目のプログラム。世界のいくつかの地域にスポットをあて、その地域の歌遊び、ダンス、ゲーム、祭りなど、音楽に重点をおいた遊びにアレンジした。前年度のロシア、ブラジル、スペイン、アフリカ、スイス、ハワイに加え、新たに日本とフィリピンを加えた。開催期間中有効のパスポート（スタンプカード）を作り、リピーターを増やす工夫をした。（音楽ロビー）

名　称	日　時	内　容
〈夏休み〉 おはなしホッとタイム	8.21～31 13:00～13:30	パネルシアターを中心とした“おはなしの時間”。主に、オリジナル作品「べにとロク」の続編を上演。（音楽ロビー）
〈冬休み〉 わいわいスタジオ クリスマススペシャル	12.23・24 13:30～14:00 15:30～16:00	23日は「ア・カペラコンサート」。毎年出演しているア・カペラグループ、ペンギンフィッシュがクリスマス・ソングを演奏。サンタクロースやトナカイの角を着けて演奏する演出もあり、クリスマス気分が高まった。24日は音楽スタッフによる「モーモーずのようこそクリスマス」。牛に扮した2人組が繰り広げるお話と遊びのコンサート。今回は、たぬきに扮した“ポンちゃん”が加わり、さらに盛り上がった。（Bスタジオ）
〈 〃 〉 うたってハッピー クリスマス	12.23～25 11:30～12:00 13:00～13:30 15:00～15:30	バンド形式による弾き語り。クリスマスの曲を多く取り上げた。土曜日および夏休み特別期間中に、午前中にプログラムを行ったことが好評だったため、引き続き、11時30分の回も実施した。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ゆったり親子の おんがく園	12.25～27、H19.1.3～8 13:00～17:00	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）、夏休み特別期間と同じ。夏休み特別期間の利用者の動向から、13時開始に変更して運営した。（Aスタジオ）
〈 〃 〉 新年おんがく祭！ お正月だよ！ ウリパメス！	H19.1.3～8 11:30～17:00	前年度の冬休み特別期間に行った「ウリパダオ」をリニューアル。童謡の弾き語りコンサート「うたってハッピー」(11:30～12:00／13:30～14:00／15:30～16:00)／マリンバ、管楽器、ギターなどによる演奏「リズムのりのりミニライブ」(13:10～13:30／16:10～16:30)／おはなしの時間「パネルシアター」(14:00～14:30)／世界の楽器にふれる「めずらし楽器にチャレンジ」(14:30～15:00)／手回しオルガンの体験「ストリートオルガンやってみよう」(12:15～12:45／16:30～17:00)の頭文字から「ウリパメス」とした。（音楽ロビー）
〈春休み〉 うたってハッピー	3.24～4.5 11:30～12:00 13:30～14:00 15:30～16:00	平常期間と同じ。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ストリートオルガン やってみよう！	〃　12:15～12:45 16:30～17:00	平常期間と同じ。夏休み特別期間に試みた、12時15分からの開始で、多くの参加者が得られたことから、同じ時間帯で実施。この時間帯で行うかどうか、今後検討していきたい。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 リズムのりのり ミニライブ	〃　13:10～13:30 16:10～16:30	夏休み特別期間と同じ。新曲として「トルコ行進曲」をアレンジしたものを演奏。期限を定めて、新曲への取り組みを計画的に行った。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ハローフレンズ！ ジャンプ・ステップ・ ダンス！	〃　14:00～14:30	春休み特別期間恒例となったダンスプログラム。全館テーマ「春だ！友だちいっぱいみつけよう」にちなんで、2種類のオリジナルダンスプログラムを実施（本文参照）。4月5日は、体育部門のスタッフと共同でプログラムを行った。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 めずらし楽器に チャレンジ	〃　16:30～17:00	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）、冬休み特別期間と同じ。冬休み特別期間に引き続いて、早い時間帯に行ったことで、より多くの参加者が得られた。今後の課題は、新しい演目を開拓すること。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 新小3からの お箏ワークショップ	4.1～5 13:00～13:45 15:00～15:45	新小3以上を対象した箏の体験ワークショップ。各回10人定員。じっくりと取り組む姿勢が印象的だった。確実な参加者を得るため、電話での優先予約枠を設ける試みを行った。結果として、延べ90人の子どもが参加した。（Bスタジオ）
〈 〃 〉 ゆったり親子の おんがく園	〃　13:00～17:00	この時間帯で定着してきたといえる。初めての試みとして、ボランティアの協力を得た。利用する保護者同士の“かけ橋”的な役割をはたしてもらった。支え、見守る、新しいボランティア活動として、今後も協力をあおぎたい。（Aスタジオ）

2. 講座・クラブなど

《講座》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
リズム・ムービング	(人) 3〜5歳児 (20)	(人) 26 21 23	火曜日 15:30〜16:20 (全32回)	身の回りのさまざまなことからリズムを感じさせ、子どもたちの眠っている感覚を揺り動かし、創造性をはぐくむことをめざして活動。主にコンガ、ボンゴなどの打楽器、リズムやメロディー、ハーモニーを即興で演奏できるオルフ楽器を使用。受講料＝1期19,000円、2期18,000円、3期14,000円。
リズムムービング&パーカッション	小1〜3 (15)	8 7 6	火曜日 16:30〜17:20 (全32回)	リズムによる自己表現を行う。さらに読譜力など、音楽的基礎力の理解、打楽器演奏法の導入、オルフ楽器を使った即興演奏をするなど一歩踏み込んだ指導を行う。受講料＝1期19,000円、2期18,000円、3期14,000円。
パーカッション・アンサンブル	小4〜高3 (15)	12 9 10	火曜日 17:30〜19:30 (全32回)	さまざまな打楽器をふんだんに使い、演奏したり、体を楽器にしてリズム打ちを行ったり、子どもたちのはじけるようなリズム感を表現する。初心者もていねいな指導で、すぐに楽しんで演奏している。 受講料＝1期19,000円、2期18,000円、3期14,000円。
みんなで楽しいリトミック　I	(組) 3歳児と親 (20)	(組) 23 23 23	水曜日 14:00〜15:00 (全32回)	子どもの発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動をとおして親子のコミュニケーションを図り、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養うことをめざしている。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
〃　II	4歳児と親 (20)	23 22 21	水曜日 15:00〜16:00 (全32回)	「I」で培ってきた感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心がけ、それぞれの成長の実際に合わせながら、個性豊かな発達を促すような活動へとさらに高めていっている。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
〃　III	5歳児と親 (20)	16 18 16	水曜日 16:00〜17:00 (全32回)	就学を迎えるころになると感受性も親離れが始まり、子どもたち同士の接触の機会が多くなる。生き生きと目を輝かせて音楽を楽しみながら学び、遊んでいる子どもたちが印象的。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
おんがく大好きミュージック・パーク 〜ダウン症児のための楽しいリトミック〜	2歳6か月〜6歳のダウン症児と親 (10)	13 13 12	木曜日 14:30〜15:45 (全29回)	ダウン症児とその保護者を対象としたクラス。音楽を使って無理なく楽しみながら療育の手助けをすることをめざしている。さらに、音楽での保護者の心身開放も目的の一つ。受講料＝1・2期各19,000円、3期17,000円。
和太鼓グループ	(人) 小3〜高3 (12)	(人) 15 15 15	土曜日 14:00〜15:30 (全32回)	湯島（東京都文京区）に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。口唱歌で指導している。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
レッツ・プレイ・サンバ初級 〜演奏とステップ〜	小1〜3 (10)	15 14 13	土曜日 13:00〜14:00 (全15回)	「レッツ・プレイ・サンバ」の低学年向けの初級コース。サンバ楽器を使った演奏と踊り（ステップ）の指導を行っている。サンバをとおして、音楽の楽しさや仲間と演奏することの楽しさ、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを感じてもらうことをめざしている。受講料＝各期6,500円。
レッツ・プレイ・サンバ	小4〜高3 (10)	14 14 14	土曜日 15:30〜17:00 (全15回)	ブラジルの独特な打楽器を使い、サンバのリズムを楽しくアンサンブルするコース。より高度で力強い演奏を展開している。 受講料＝各期6,500円。

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
合唱講座	小1～4 （30）	34 38 37	土曜日 14:00～15:30 （全32回）	遊ぶことをとおして無理なく体を動かしたり、声を出したりすることを体験する。体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動プログラム。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
こどもの城 児童合唱団　I	小2～3 （合唱講座修了者・30）	52 51 49	土曜日 15:30～17:30 （全32回）	音楽をとおし、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験し、総合的なプログラムを展開。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
〃　II	小4～中3 （合唱講座修了者・60）	115 107 101	土曜日 17:00～19:00 （全32回）	
混声合唱団 こどもに聞かせる おとなのコーラス	高校生以上 （15）	73 70 66	土曜日 19:30～21:00 （全32回）	子どもたちに豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめざし、合唱を楽しんでいる。メンバーは、高校生から社会人まで幅広く、コンサートや合宿などのときは、「こどもの城児童合唱団」と活動をともにしている。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
三味線講座　A （初級）	小2～高3 （12）	11 10 10	日曜日 10:00～11:30 （全32回）	本年度は「重盛」などを含めて、たくさんの曲目に取り組んだ。初心者にも取り組みやすく工夫したカリキュラムで実施している。年度末には、一般来館児・者に向けてBスタジオでコンサート（わいわいスタジオ）を行った。体験コーナーでは、小さな子どもたちにもていねいに楽器を持たせてあげている姿が印象的だった。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
〃　B （経験者）	小2～高3 （12）	6 6 6	日曜日 11:30～12:45 （全32回）	
ガムラン講座	小1～高3 （15）	11 11 11	日曜日 13:30～15:00 （全32回）	インドネシアの青銅の打楽器アンサンブル「ガムラン」の初心者と継続者のクラス。さまざまな音楽的要素が潜在し、アンサンブルすることでその特異さがわかる民族音楽。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。

《講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（組）	（組）		
おんがく星 みつけた ～就園前のリトミック～	2歳児 と親 （30）	29 35 35	木曜日 10:30～11:30 （1・2期10回、3期9回）	就園前の幼児と保護者が対象で、リズム遊びを中心に造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。親子でスキンシップをしながら楽しく音楽と遊べることをめざす。受講料＝1・2期各16,000円、3期15,000円。



楽器の持ち方などを指導する三味線講座のメンバー（「わいわいスタジオ」の参加コーナーで）

〈短期講習会〉

	名称	対象・定員	受講数	日時	内容
親子で作ろう手作り楽器のワークショップ	アフリカの太鼓“ジェンベ”	(人) 小1～高3の親子 ※小4以上は子どもだけでの参加も可。 (計60)	(人) 計 60	8.12、27 13:00～16:00	「講義」+「製作」+「演奏」のワークショップ。子どもが演奏しやすい小型のジェンベを作った。セネガル出身のパーカッショニスト、ワガン・ンジャエローズさんの合奏指導も、前年度以上の白熱ぶりだった。7年目を迎えた大人気プログラム。受講料＝親子ペア 9,800円、子どものみ 4,900円。 (Bスタジオ)
	トーキングドラム“タマ”	〃 (計90)	90	8.15、22、31 13:00～16:00	西アフリカのウォロフ族に伝わる奏法をワガン・ンジャエローズさんに指導してもらう。太鼓の胴にたくさんのひもが張られていて、ひもをコントロールすることで音程が変化し、しゃべっているかのような音を表現できる。受講料＝親子ペア 9,800円、子どものみ 4,900円。 (Bスタジオ)
	ベトナム式の“口琴(コウキン)”	〃 (計50)	計 50	8.16、26 13:00～16:00	世界各国、さまざまな地域で使われている小さな楽器。その音色は人々を楽しませてくれる。指ではじいて中央の弁を振動させ、半開きのくちびるにあてると、口腔や頭に共鳴して音を出すというユニークな楽器。“宇宙人のような声が出せる楽器”と紹介。受講料＝親子ペア 5,800円、子どものみ 2,900円。(Bスタジオ)
	ブラジルのサンバ楽器“タンボリン”	〃 (計50)	計 50	8.18、29 13:00～16:00	リオのカーニバルで有名なサンバの楽器「タンボリン」(小型の太鼓) を作成。できあがったタンボリンと他のサンバ楽器とで“合奏”。一段と気分は盛り上がった。受講料＝親子ペア 9,800円、子どものみ 4,900円。 (Bスタジオ)
	竹のリコーダー“スリン”	〃 (25)	25	8.19 13:00～16:00	竹のたて笛を2種類製作。インドネシアの6穴のたて笛「スリン」は、インドネシアの多くの地域で演奏され、ジャワ島のガムラン音楽にも使われている。細い棒をスライドさせて、鳥の鳴き声をまねできる「スライドホイッスル」も制作。6年目のプログラム。受講料＝親子ペア 5,800円、子どものみ 2,900円。 (Bスタジオ)
	“BIGアンクルン”	(組) 小1～高3の親子ペア (10)	(組) 14	8.20 11:00～16:00	これまで一人1台のアンクルンを作る講座を行ってきたが、1オクターブ(8台)を1日で作るコースを設けた。8台作るので、しだいに作りなれてくる。楽しそうに作業する親子は職人顔負けだった。受講料＝親子ペア 15,000円。 (Bスタジオ)
	竹のハンドベル“アンクルン”	(人) 小1～高3の親子 ※小4以上は子どもだけでの参加も可。 (30)	(人) 30	8.24 13:00～16:00	“竹のハンドベル”ともいわれ、多人数で演奏するほど魅力を発揮する楽器。初めての試みとして、完成したアンクルンを持って、アトリウムで演奏(発表会)を行い、盛況だった。7年目を迎える不動のプログラム。受講料＝親子ペア 5,800円、子どものみ 2,900円。 (Bスタジオ)
	竹の木琴?!“ガンバン”	〃 (計48)	48	8.25、30 13:00～16:00	ジャワ島のガンバンは、木琴に似た竹製の楽器。“ドレミファ……”の聞きなれた音階と独特な民族音階の両方が楽しめる。受講料＝親子ペア 9,000円、子どものみ 4,500円。 (Bスタジオ)



できあがったばかりの“マイ・ジェンベ”で公開演奏
(親子で作ろう手作り楽器のワークショップ
「アフリカ・セネガルの太鼓“ジェンベ”」)

〈専門指導者向け講習会等〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
（人） 大人（指導者・一般）のための手作り楽器　「タンボリン」	（人） 指導者・一般 （30）	（人） 28	8.13 13:00～16:00	大人（指導者・一般）が参加できるコース。ブラジルのサンバ楽器「タンボリン」の制作をとおして、子どもたちに民俗楽器を指導する方法などをレクチャー。受講料＝5,000円。（Bスタジオ）
感じる心を育てる	一般・講座受講生 （80）	80	11.3 13:30～16:00	4年目となる今年も、日本ダウン症協会理事長の玉井邦夫山梨大学助教授を招いて障害児教育について講演も行い、事前に募集した質問に対しても解答をいただいた。またワークショップでは「おんがく大好きミュージックパーク～ダウン症児のための楽しいリトミック」の講座内容の紹介や「こどもの城児童合唱団」とのジョイントコンサートも実施。協力:日本ダウン症協会。（Bスタジオ）

3. その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
絵本の読み語り「おはなしコンサート」	7.8	絵本の楽しさを親子でゆっくり味わってもらう“絵本の読み語り”公演。絵本をスライドで大きく映し、生演奏をバックに絵本を読み語ります、（長野県小諸市文化センター）
〃	11.26	〃（香川県さぬきこどもの城）
打楽器で遊ぶワークショップ	12.7	ブラジルのサンバやアフリカの太鼓“タムタム”、和太鼓、スプーンなどの身の回りのものや手作り楽器などを活用して、リズム遊びなどを体験。児童厚生員などの指導者を対象に研修。（名古屋市とだがわこどもランド）

〈講師派遣〉

名　称	日　時	内　容
それいけオルガン探検隊	7.15	常設されているパイプオルガンを使ったウオークラリーとレクチャー、コンサートの企画で、オルガン演奏者とともに参加親子の応対、司会を行う。本年で6年目。（サントリーホール）
子育て支援の輪づくり講座	7.21	7年目を迎える新潟市主催の子育て支援講習会。今回が最終回。テーマは「乳幼児の手遊び、歌遊びと関わり方」。受講者は遊びを体験しながら、グループに分かれて乳児向けの親子ダンスを創作。パネルシアターの製作や上演についても講習した。参加者は約80人（新潟市総合福祉会館）
感性を育てる表現研修会	H19.1.19	日本保育協会埼玉県支部主催の講習会。「音楽をあそびに取り入れる」というテーマで講習。参加者が自分で創作し、体感できるように進行した。また、参加者から事前に質問を聞き、講習の内容に取り入れた。埼玉県内保育士約100人が参加。（埼玉県熊谷市チサンイン熊谷）
日本の楽器に親しもう	2.28	4～5歳の園児とその保護者のためのコンサート。日本の楽器にふれる機会を持ちたいという要望に応え、箏と三味線を取り上げた。楽器のおはなし、演奏、体験を通して日本の音楽を紹介。ほかに手遊び、歌うコーナーも設けた。親子約30組が参加。（東京都渋谷区立千駄ヶ谷幼稚園）

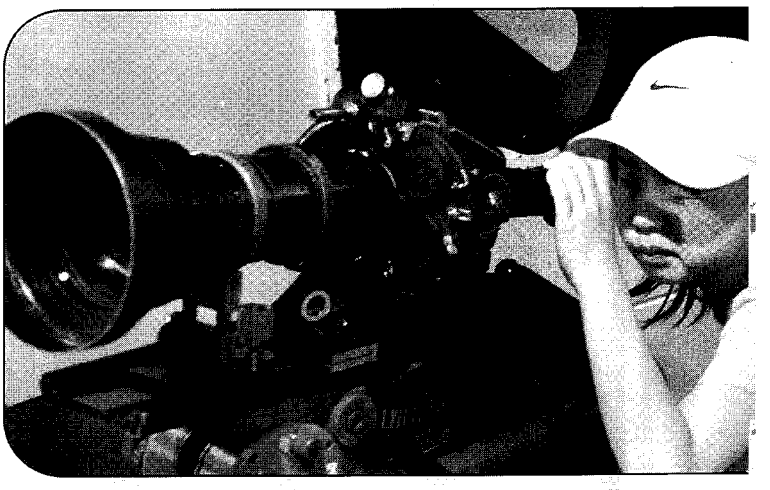
〈演奏依頼〉

名　称	日　時	内　容
プッチガドコンサート	11.25	〔こどもの城〕の音楽プログラムから生まれたミニバンド形式の参加型童謡コンサート。音楽遊び、ダンス、民族楽器紹介、がらくた楽器の演奏なども盛り込んだプログラム。約200人の親子が参加。（茨城県土浦市都和公民館）
〃	12.18	同上。（東京都府中市おともだち幼稚園）
おんがくであそぼうコンサート	H19.1.16	3回目のコンサート。バンドスタイルの演奏で歌、ダンスが中心のプログラム。園児と一緒に歌える時間を多く取り入れた。隣接のデイケアセンターの皆さんも園児と共に参加。約160人が参加。（千葉県千葉市高洲幼稚園）
ガドガドコンサート「おんがくがスキ！」	1.25～2.6、2.24・25	毎年恒例となった欧州公演。7か国10公演を行い、延べ約3,200人の親子が参加。開催都市はパリ、ジュネーブ、ブリュッセル、フランクフルト、デュッセルドルフ、ロンドン、ミラノ、バルセロナ。さらに本年度は、サンフランシスコ公演（2月24・25日）も行った。（株）全日空主催。

〈その他〉

名　称	日　時	内　容
こどもの城児童合唱団夏季合宿	8.19～24	夏季合宿にあわせて、石川県1か所、新潟県4か所で公演。公演は根上町文化会館（19日）＝石川県、こども自然王国（20日）、リージョンプラザ上越（21日）、長岡リリックホール（22日）、燕市文化会館（23日）＝以上新潟県。公演のほか、燕市の児童館の子どもたちとの交流会や宿泊先のこども自然王国で、自然の中のゲームや水遊び、キャンプファイヤーなども行った。

AV（オーディオ・ビジュアル）事業部



平成18年度の活動

1．はじめに

本年度の活動は、来館児・者の年齢層に合わせた平常期間の活動の充実と、特別期間での新しい企画の実施をこころがけた。

平常期間は、就学前の子どもと保護者の利用が多いという現状から、ビデオライブラリーでは親子で楽しむことができるDVDのタイトルを増やした。また視聴促進の特集企画では、その内容に合わせて簡単な工作ができるコーナーを充実させるなどして、リピーターの増加を図った。さらに、毎週金曜日に実施している「おもしろビデオ館」では、昔話や絵本を題材にした作品を選び、上映後には関連した内容の絵本を制作するコーナーを設けた。どちらもビデオをもとにした親子のコミュニケーションを促進することができるような展開を心がけた。

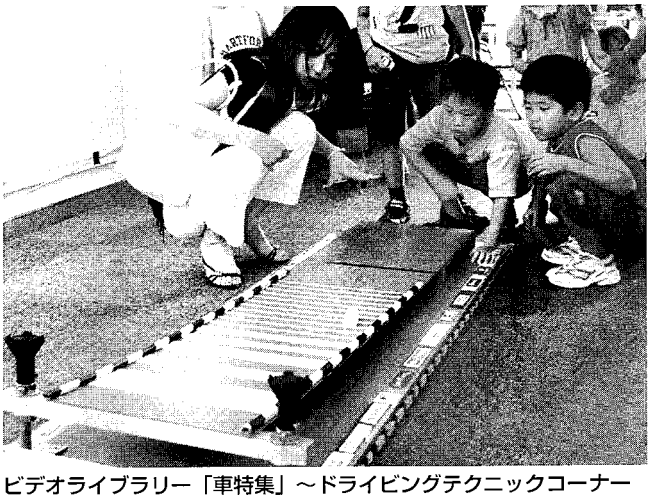
特別期間は、小学生以上を対象とする催しの充実に努めた。その一つとして、夏休み特別期間には、映像展示「びっくりビデオ広場」の一角に、子どもたちがニュースキャスターとなって館内の催しを紹介する情報コーナーを設けた。さらに、冬休み特別期間（正月）の「ミラクルスタジオ」ではその様子を館内テレビで放映した。いわば放送局の映像送出のしくみを体験するものだが、高学年に非常に好評であった。今後は、このようなメディアの機能をテーマにした催しも、映像のしくみを解きあかす「不思議な映像実験室」などの催しに加えて、積極的に展開していく予定である。

現在の日本では、子どもたちが映像の“しくみ”や“役割”を学習する機会は少ない。AV事業部は、開館以来20年以上にわたり“遊び”のプログラムとして、子どもたちが映像を〈見る〉活動と、〈つくる〉活動を積極的に展開してきた。専門の職員によってその活動を常に継続して行っていることこそが“ちから”になり、新たなワークショップの展開につながっていると自負している。今後は、よりいっそう〈動くこどもの城〉などの活動を通じて、さまざまな映像の活動を広めていく展開が必要になるだろう。

2．ビデオライブラリーの活動

ビデオライブラリーは、平成15～17年の3か年計画でシステムの改修を行った。制御しているコンピュータの老朽化と運用の快適化、そして、何よりもビデオソフトの媒体が社会的に変わってきたことへの対応である。

ビデオライブラリーでは開館時、VHS、レーザーディスク、VHD（接触式ビデオディスク）などのアナログ媒体へ対応するシステムを構築した。現在では市販ソフトもデジタル方式が主流になってきたため、全ブースでDVDの視聴を可能とするような仕様変更を行った。今回の改修



ビデオライブラリー「車特集」～ドライビングテクニックコーナー

にともない、100タイトル程度の収蔵ではあるがVHDを廃止した。VHDは一部の製作会社が扱ったのだが、世間一般には普及しなかったので、機器の寿命を考え今回廃止に至った。

媒体の盛衰はビデオライブラリーにとっても大きな問題である。現在、ビデオライブラリーには、2万タイトルものビデオソフトが収蔵されているが、VHSが約85％、レーザーディスクとDVDで約15％である。この先VHSを再生するデッキがいつまで製造されるかなども不透明な状況であり、今後はDVD媒体の割合を増やす必要があると考える。

今回導入したDVDの長所や特徴をあげてみると、まず記録方式の違いがあげられる。VHSなどのテープは磁気記録方式であったが、レーザーディスクやDVDは光学記録方式になっている。磁気記録方式は、映像・音声をピックアップするヘッドが、常にテープ表面に接触しているため、媒体そのものが損耗してゆく上に、磁気が経年変化で弱まり、その結果画質が損なわれて行くという欠点がある。

一方光学記録方式は、ディスク表面にレーザー光線で凹凸を刻み、信号を記録していくため画質の劣化は伴わず、また信号の読み出しもレーザー光線で行うため、媒体表面の損耗も伴わない。またDVDでは、チャプター検索ができることでテープのように早送り・巻き戻しをする必要がなく、見たいところ、必要な場面を瞬時に見ることができるという利点もある。

ビデオライブラリーのように、多くの作品を収蔵する場合、収納スペースも大きな問題になる。DVDはコンパクトであるため、この点においても有利である。今回導入するにあたって、その利点を最大限に活用するため、収納方法、つまりディスクケースについても試行錯誤した。付属のケースは、厚みがあることやスピーディーな出し入れができないなどの課題があったため、薄型の紙素材のものやビニール製、布とビニールを組み合わせた物などを試してみた。結果、布とビニールを組み合わせた物を使用することになり、大幅なスペース削減になった。

DVDソフトは、音声や字幕が多言語化された作品が多い。ビデオライブラリーは、いろいろな国の子どもたちが利用するので、この点は歓迎すべき傾向である。さらに、字幕が利用できることにより、聴覚障害を持つ利用者の作品枠が拡大されることとなった。

DVD導入の利点は多々あるが、2011年の地上デジタル放送への完全移行（ハイビジョン放送の本格化）や記録媒体の進化など急速な変化を考慮に入れると、今後も常に将来を見据えて柔軟な対応をしていく必要がある。

前年度までのシステム改修に加え、本年度はブース内の椅子の取り替えを行った（平成19年3月5～12日。ビデオライブラリーは利用を休止して工事を実施）。従来の布製の椅子は、飲料などで汚れた場合は数日間使用できなかったため、拭き取ることのできる樹脂製の椅子にした（ビデオライブラリー内は飲食禁止だが、飲料を持ち込んでこぼすケースもある）。硬さの面では若干問題はあるが、以前よりも衛生面が向上することと、拭き取ることですぐ使えるようになることなどを考慮して樹脂製のものを採用した。

ビデオライブラリーでは、数年をかけてハード面で利用者が快適に、便利に、そして新しい媒体を視聴できるようにと考え対応してきた。一方、ソフト面については、幅広い分野のビデオ作品の充実や、ニーズに応えたビデオ作品の購入などに力を入れた。また、子どもたちが見たい作品を見つけやすくしたり、選びやすくなるような工夫を考えた。その一つとして、活字カタログや写真カタログ、ジャケットの陳列、パソコンを使った検索など、いろいろな形で作品選びができるようにした。

作品収蔵の際には、同じタイトル（例えば、赤ずきん）の作品を複数購入するように心がけている。これは、子どもたちに見比べてもらいたいからである。作品それぞれが作者の思いやねらい、手法などで、話の一部を付け加えたり省いたりしている。たくさんの「赤ずきん」を見ること



「走れ！キャッスルトレイン」～プラレールコーナー



「アニメフェスタ2006～すてきな絵がうごくふしぎ」

夏休み映像・科学ワークショップ「天体望遠鏡工作教室」



で、自分の中での赤ずきんをつくり上げてもらいたいという考えである。そのために、写真カタログでは同じページにたくさんの「赤ずきん」があることを伝えている。

また、あまり見られることのない分野の作品の視聴を促進する意味で、いくつかの特集を組んだ。「くるま特集」や「伝統文化特集」「クリスマス特集」などである。特集では、専用カタログを作るだけでなく、小規模イベントなどもあわせて行っている。

「くるま特集」でゼンマイおもちゃ（床に車輪をつけたまま後方へ引くとゼンマイが巻かれて前方へ走る仕組み）を使ったゲーム大会を実施したり、「伝統文化特集」で雪の結晶を作る紙切り芸のコーナーを設置するなどである。「クリスマス特集」では、サンタクロースに手紙を書くコーナーを設け、実際に郵送先の情報なども提供した。さらに、本年度も「鉄道特集」の一環として「走れ！キャッスルトレイン～こども鉄道模型運転会」を３回実施した。

3. その他の活動

【上映活動～展示の工夫～】

来館児・者の減少傾向に伴って、上映会場に空席が目立つようになってきた。そこで、客席スペースを減らして展示スペースとすることで、より上映作品を理解し楽しめるような催しを試みた。児童福祉週間に実施した「アニメフェスタ2006～すてきな絵がうごくふしぎ～」である。

上映会場内に、アニメの素材などの展示と体験コーナーを設け、上映作品のセル画など素材展示やメイキングビデオの上映、撮影体験コーナーを設置するなど、上映作品への興味がわくように工夫した。制作会社から借用した絵コンテ（撮影台本）などは、コピーして子どもたちが手にとって見ることができるような形にした。また、実際に使われていたアニメーションカメラや撮影台（画板といわれる部分のみ）の展示は、その精密感が子どもたちをひきつけていたようである。

夏休み映像・科学ワークショップ「プラクシノスコープ」



上映作品は、一般的なセル画を使ったものだけでなく、切り紙や人形を使ったものなど、制作方法のバリエーションを楽しめるように選定した。

上映会場を区切って、展示と上映のコーナーを併設することで、通常の上映会の収容人数の半分以下となる会場構成としてみた。混雑する可能性が低いのであれば、展示・体験コーナーを併設して、より内容の濃い体験をしてもらおうという狙いである。また、体験コーナーでも一度に体験できる人数をある程度犠牲にして、アニメ撮影体験などじっくりと取り組めるものを配置してみた。

意図したものはほぼ成功していたようにみえた。しかし、上映時間中は展示コーナーを休止にしたものの、どことなく落ち着きのない上映会場になってしまった感がある。時間の区切り方やスペースの区切り方を検討して、今後も発展させていきたい形態であると感じた。

【走れ！キャッスルトレイン】

年に３回「走れ！キャッスルトレイン～こども鉄道模型運転会」のイベントを実施している。

平成８年にビデオライブラリーで行った「鉄道特集」の一環で“鉄道まつり”と称して、鉄道模型に詳しいボランティアと模型業者、がん具メーカー、鉄道イベント団体などの協力によってスタートしたものである。Ｎゲージ模型やＨＯゲージ模型の運転コーナー、鉄道がん具のコーナー、屋外でのミニＳＬ試乗コーナーなどをふくめた大規模なイベントであった。その後、利用者の要望やボランティア、スタッフなどの強い熱意などで、規模を縮小しながらも現在まで続けているイベントである。

現在は、主に３つのコーナーに分けて構成している。Ｎゲージ模型運転コーナー、プラレールコーナー、その他のコーナーである。Ｎゲージコーナーは縦5.4ｍ×横3.6ｍの板の上に線路を敷き、幼児から運転できる場所と、自宅から鉄道模型を持ち込んでくる高学年の子どもたちの場所の２か所を設けている。

「びっくりビデオ広場〜キャスターコーナー」



持ち込みコーナーは、親子の参加や中高生の参加、大人の鉄道マニアの参加など年齢層が幅広い。その中で、毎回参加して下さる人（中学生以上）に、イベント協力員として、このコーナーの運営をお願いしている。この催しのおもしろい特徴のひとつである。

自分の鉄道模型を持ち込まなくても、高学年の子どもたちが運転を楽しめるように模型を用意しているが、イベント協力員が大量に模型（私物）を持ってきて、積極的に提供してくれている。Nゲージ模型コーナーでは幼児の参加も多い。自分で運転を楽しむ子どももいれば、ただジーッと走行している模型を見ているだけの子どももいる。

また、幼児はおもちゃを触って遊びたいという欲求が強いので、壊れにくいことからプラレールコーナーを設置した。プラレールコーナーでは、親子で遊ぶことを推奨しているが、お父さんが複雑な線路を組んだりして夢中になっている光景もある。

その他のコーナーは、回ごとに内容を変えている。ペーパークラフトのコーナーにしたり、読書コーナー、パソコンコーナー、パズルコーナーなどを行ったことがある。なかでも手回し発電式Nゲージコーナーは人気がある。ハンドルを手で回すことで発電し、線路に電気を供給して電車を走らせる仕組みである。ハンドルを回すスピードがそのまま電車のスピードになる。友だち同士で競争することもできるから楽しみ方はいろいろである。

内容を毎回工夫することで、イベントの新鮮味を出している。春休み特別期間には、夏休み特別期間に行った「くるま特集」で実施したゼンマイおもちゃのゲームが好評だったので、ゲームの内容やルールなどを改良して、“走れ！キャッスルトレイン＆カー”と題して鉄道と車のイベントを行った。春休み特別期間ということもあり、通常使っているフリーホールではなくA・Bスタジオを使用した。

Bスタジオでは、Nゲージ模型運転コーナーとゼンマイおもちゃのゲームコーナー「ドライビングテクニック大会」を実施した。ゼンマイおもちゃを使って6種類のゲーム（幅10cm長さ1.8mの台の上をどこまで落ちないで走れるか、板の端にどれだけ近くに止まれるかなど）を行い、その点数を競う大会である。ゲームはいたって単純なので、幼児から大人まで楽しむことができた。

Aスタジオでは、プラレールコーナーと車のおもちゃ（メーカーより提供を受けた乳幼児向けの車がん具）で遊べる0・1・2歳児親子のコーナー「ブーブー広場」を設置した。

これからも、「走れ！キャッスルトレイン」はさまざまな工夫をして、利用者の要望に答えられるようなイベントにしていきたい。

4. まとめ

本文にも記したが、一時代を築いたVHS・レーザーディスク（LD）などのアナログ映像媒体がその姿を消す時期にさしかかり、現在はDVDが主流媒体となった。そして、2011年に現行の地上アナログ放送（画面の縦横比4：3）が終了すると同時に、アナログ仕様のテレビ・ビデオデッキでの放送視聴や録画は不可能となる。これを境に地上放送の世界は、完全デジタル化（画面の縦横比16：9）され、ハイビジョン（高精細＝情報量多）放送も本格化する。このような動きを受け、ハイビジョン映像を記録するための新たな媒体として、現行DVDに代わるブルーレイディスクやHDDVDといった新規格が発表され、現在既に商品化されている。

映像を取巻く環境が劇的に変化する中、まずビデオライブラリーのデジタル媒体（DVD）対応化を進めたが、今後館内の他の映像設備についても、順次改修を行う必要がある。スタジオ、劇場、館内外活動の映像を収録・編集・館内中継をするための設備、民放やNHKのテレビ放送を館内へ再送信するための設備、利用者や外部施設へ映像を頒布する場合に複製を大量に製造するための設備、館内各所のテレビやビデオデッキなどの映像機器類である。

テレビの地上波放送のデジタル化にともない、対応にせまられる設備は多数に上るが、2011年7月までと改修期限が定められている問題であるだけに、きちんとした計画を立案し、遺漏のないよう作業を進めなければならないと感じる。

平成18年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
ビデオライブラリー 自由利用	開館時間中	趣味、教養、娯楽、スポーツ、アニメなどさまざまなジャンルにわたるビデオソフトを、20,000タイトル以上所蔵するビデオの図書館。利用者は、ビデオライブラリー内に設置された35のブース（小部屋）で好みのソフトを視聴できる。（ビデオライブラリー）
おもしろビデオ館	金曜日　15:30～16:00	ビデオライブラリーにある上映可能なビデオソフトから、テーマを決めて作品を選び、上映。作品に興味を持ってもらうため、上映のあとに手作りの絵本を作っている。（Bスタジオ）
サタデー・ ラボラトリー	土曜日　13:00～16:00 （受付時間）	小学生～高校生を対象とした、身近な不思議を体験するプログラム。クラフト、科学遊び、映像遊びなどを週替わりで実施。新規のプログラムも増やしてフレッシュなイメージを保つことに留意している。プレイ事業部と共同で主催（プレイ事業部の項参照）。（フリーホールほか）
不思議な映像実験室	土曜日　15:30～17:30	2枚の絵を描いて作る簡単なアニメおもちゃ「くるくるアニメ」と、表と裏の絵が重なって見える「ソーマトロープ」を実施。ボランティアスタッフが参加する日には、簡単な視覚がん具の展示コーナーも併設。（音楽ロビー）
わいわいスタジオ 「不思議な映像実験室」	日曜日・祝日（月1～2回） 11:00～17:30	映画発明以前からあった、絵が動いて見えるおもちゃ（視覚がん具）の展示とワークショップを行った。展示と、幼児向けのくるくるアニメコーナーは随時参加できる。ワークショップは、時間枠を決めて実施。「ソーマトロープ」（11：30～12：30）、「ピンホールカメラを作ろう」（13：30～14：30）、「フィルムに絵を描こう（15：30～16：30）を実施した。（Bスタジオ）
こどもの城映画劇場 カナダの アニメーション	日曜日・祝日（月1～2回）	フィルム・ライブラリー「武藤行雄記念文庫」所蔵のNFBC（National Film Board of CANADA）のアニメーション映画を1日4回上映（11：35、13：35、14：35、15：35）。（Bスタジオ）
館内放送 テレビ中継録画	日曜日・祝日、特別期間	Bスタジオで実施される音楽事業部担当「わいわいスタジオ」などを館内のテレビへ中継および録画。特別期間には、「こども活動エリア」の催し物案内を中心とした映像情報の作成・送出も行った。（Bスタジオ・映像調整室）
走れ！ キャッスルトレイン～ こども鉄道模型運転会 （第25回）	5.27～6.4	鉄道模型（Nゲージ）の運転を体験できるプログラム。鉄道関連のパソコンコーナーやプラレールコーナーなども設置。（フリーホール）
おもしろビデオ館スペシャル ～カートゥーンネットワーク presents 大きい赤い犬クリフォードの世界	9.23・24	アニメ専門チャンネル、カートゥーン ネットワークで人気の作品を「おもしろビデオ館」のスペシャル版として取り上げた。飼い主の愛情で家よりも大きく育ったクリフォードと女の子の物語『クリフォード』から4作品2プログラムを上映。上映の前後にはクリフォードの着ぐるみが登場して記念撮影などを行った。協力：カートゥーン ネットワーク（Bスタジオ）
走れ！ キャッスルトレイン～ こども鉄道模型運転会 （第26回）	10.21～23	鉄道模型（Nゲージ）の運転を体験できるプログラム。鉄道関連のパソコンコーナーやプラレールコーナーなども設置。（フリーホール）
サタデー・ ラボラトリーまつり／ くるくるアニメを つくろう	H19.3.16～18	音楽ロビーを2つに区切り、幼児から参加できる「不思議な映像実験室～くるくるアニメをつくろう」（16～18日）と、小学生以上対象の「サタデー・ラボラトリーまつり」（科学遊びのプログラム／17・18日）を実施。「サタデー・ラボラトリーまつり」では、クイズ100問答えてラリー（17・18日）、君の絵がぐるぐる動く!! 驚き盤を作ろう（17日）、電気をつくる（18日）を実施。（音楽ロビー）

《特別期間》

名　称	日　時	内　容
〈春休み〉 ビデオライブラリー のりもの特集	4.1～5	乗り物ビデオの視聴促進。おもちゃの車のコーナーやプラレールのコーナーなども設置。 （ビデオライブラリー）
〈児童福祉週間〉 アニメフェスタ2006 ～すてきな絵がうごく ふしぎ～	4.29～30、5.3～5	アニメの素材等の展示と上映を行うプログラム。展示コーナーでは上映作品への興味がわくよう工夫。上映作品はセル画を使ったものや切り紙、人形を使ったものなど、制作方法のバリエーションを楽しめるように選定。協力：有限会社 あにまる屋。（Bスタジオ）
〈夏休み〉 サタデー・ラボラトリー まつり　夏の陣	7.22～30	「スーパー糸でんわ」（22・23日）、「色のふしぎ 光の三原色」（24・25日）、「スチームパワーだ！ すすめポンポン船」（26・27日）、「ゾートロープを作ろう」（28～30日）に加え、「クイズ100問答えてラリー」（22～30日）を行った。また幼児コーナーとして、夏向けの絵柄の用紙を加えた「ソーマトロープ」を実施。（Bスタジオ）
〈　〃　〉 びっくりビデオ広場	8.2～9	ビデオの特殊効果装置などを使ったビデオインスタレーション。本年度は、撮影用のミラージュフィルターとビデオカメラのスローシャッター機能を利用した「びっくり花火コーナー」、ニュースキャスター体験ができる「びっくりキャスターコーナー」を加えた。キャスターコーナーからは、〔こどもの城〕スタッフが生放送で催し案内を館内テレビに放送。（Bスタジオ）
〈　〃　〉 不思議な映像実験室	8.12・13、15～20、 22～27、29～31	視覚がん具の展示とワークショップ。展示コーナーは本格的な視覚玩具の再現品から、夏休みの宿題のヒントになるような身近な材料で作れる視覚がん具を展示。ワークショップでは、幼児から小学校低学年を主な対象に「くるくるアニメ」を実施。（Aスタジオ）
〈　〃　〉 ビデオライブラリー 車特集	7.21～8.31	車のビデオの視聴促進。車のペーパークラフトコーナーや車のおもちゃ広場も設置。8月1～6日には、おもちゃを使ったゲームのドライビングテクニックコーナーも実施。 （ビデオライブラリー及びロビー）
〈開館記念〉 ビデオライブラリー のりもの特集	11.1	「赤ちゃん大集合」に合わせて、乳幼児向けプログラムを実施。企業の協力で赤ちゃん向けの車のおもちゃで遊べるコーナーも設置。（ビデオライブラリー）
〈冬休み〉 ビデオライブラリー 「クリスマス特集」	12.1～25	クリスマスに関連したビデオソフトの視聴促進活動を目的に行った特集。期間中は「サンタさんに手紙を書こう」のコーナーを設置。16・17・23日は、ビーズを使った「クリスマスのビーズ作り」を実施した。（ビデオライブラリー）
〈　〃　〉 ビデオライブラリー 「伝統文化特集」	H19.1.3～8	伝統文化についてのビデオの視聴促進。期間中に、紙切り芸の「雪の結晶づくりに挑戦！」のコーナーも設置。（ビデオライブラリー）
〈　〃　〉 ミラクルスタジオ	1.3～8	音楽事業部と共同で映像と音をテーマにした展示を実施。本年度は、ニュースキャスター体験ができる「ミラクルキャスターコーナー」を新たに加えた。〔こどもの城〕で楽しかったことや今日の自分のニュースを発表。これを録画し館内テレビへの放送も行った。このコーナーからは、〔こどもの城〕スタッフが生放送で催し案内を館内テレビに放送。（Bスタジオ）
〈春休み〉 走れ！キャッスルトレイン&カー	3.24～31	Bスタジオ（24～30日）では、夏に行ったドライビングテクニックコーナーを拡大させて大会を行う。また、Nゲージ模型の運転コーナーも設置。Aスタジオ（24～31日）はプラレールコーナーに加えて、0～2歳児親子のための「ブーブー広場」を設置。（A・Bスタジオ）

2. 講座・クラブなど

〈短期講習会〉

名称		対象・定員	受講数	日時	内容
夏休み映像・科学ワークショップ	いきもの図鑑	(人) 小4〜高3 (4日間 =2回/日= 計96)	(人) 計 96	8.12〜15	オリジナルペーパークラフトで“いきもの”を再現する。「ヘラクレスオオカブトムシ」「トノサマバッタ」「オオカマキリ」を交互に制作。他に数種類のおまけの型紙つき。受講料＝1,800円。 (Aスタジオ)
	天体望遠鏡工作教室	〃	計 90	8.16〜19	塩化ビニールパイプやボール紙など、身近な材料を使って天体観察用望遠鏡、マックロースコープを作る。受講料＝2,200円。 (Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」ムービーミエール	小3〜高3 (1日間 =2回/日= 計24)	計 25	8.20	35mm映画フィルムを動かして見る簡易フィルムビューアーを制作。ムービーミエール本体の組み立てと、ピエロがパントマイムをする白黒映画フィルムへのダイレクトペイントを体験。材料費の都合で100円値上げ。受講料＝2,800円。 (Aスタジオ)
	〃 キノーラ	小1〜高3 (4日間 =2回/日= 計96)	計 96	8.21〜24	ぱらぱらマンガをアニメのように連続して見ることができる装置、キノーラを制作。装置を組み立て、15〜30枚の動く絵を描いてセットする。材料費の都合で100円値上げ。受講料＝2,100円。 (Aスタジオ)
	〃 プラクシノスコープ	〃 (6日間 =2回/日= 計144	計144	8.25〜27、29〜31	映画が発明される前にあった視覚がん具、プラクシノスコープを制作。帯状の紙にアニメのように絵を描き、その絵を多面体の鏡に映して絵がアニメのように動いて見える映像おもちゃ作りを体験。材料費の都合で100円値上げ。受講料＝2,300円。 (Aスタジオ)
映・造ワークショップ〜アルタミラ2007〜		小4〜高3 (8)	8	H19.3.27〜29 (3日間)	映像と造形の合体による新しいプログラム。今回は洞窟壁画の謎を解くワークショップを実施。洞窟のレプリカ作りや壁画をテーマにしたアニメ作り等。造形事業部と共同で実施。受講料＝10,000円。 (造形スタジオ)

3. その他

〈動くこどもの城〉

名称	日時	内容
カナダのアニメーション講習会	8.4・5	フィルム・ライブラリー「武藤行雄記念文庫」収蔵のNFBC(National Film Board of CANADA)のカナダのアニメーション作品から、アニメの動きのおもしろさを伝える代表作と、子どもの権利に関する条約をテーマにした『ライツ・フロム・ザ・ハート』を上映。視覚がん具作りの講習会も実施。 (福岡県大野城市まどかぴあ)
アニメ・ワークショップ	9.14	驚き盤を行う場合は、スリットのあいた専用の用紙を用意してきたが、今回は厚紙などで簡単に制作できる驚き盤とゾートロープを紹介して欲しいとリクエストがあり、簡易な型紙を新たに制作し、実施した。 (神奈川県立青少年センター)
〃	H19.1.26(講習会) 2.17(プログラム)	くるくるアニメ、ソーマトロープ、テレビ式驚き盤＋驚き盤を取り上げた。テレビ式驚き盤は画像が見えるおもしろさや科学的興味をかき立てる反面、かなり暗くなくては動く絵を見ることができず進行にスムーズさを欠いた。日程の都合で講習会とプログラムの実施日が大きくあいてしまった。 (千葉県市川市こども館 交流スペース)
〃	3.3(講習会) 3.4(プログラム)	講習会の受講者ほぼ全員が、プログラム当日に子どもたちを指導。子ども向けプログラムは、4つの視覚がん具をコーナーごとに分けて実施。通常あまり目にすることのない“視覚がん具”に講習会の受講者や参加した子どもたちは概ね満足な様子であった。 (講習会：福島県郡山市立大槻東地域公民館・プログラム：朝日が丘小学校公民館)

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
パルテノン多摩アニメ・ワークショップ	7.29~8.1	毎年恒例の「パルテノン多摩アニメ・ワークショップ」を実施。今回は簡単な視覚がん具作りからはじまる初級コース、紙コップ人形のアニメを作る中級コースを開催。（東京都多摩市パルテノン多摩）
日野市中央公民館アニメ教室	8.22・23	紙コップ人形や自分の姿をコマ撮りして、アニメ作りを体験するワークショップを実施。（東京都日野市中央公民館高幡台分室）
小金井市公民館「子どもの権利条約とカナダのアニメーション」	11.26	「子どもの権利条約」をテーマにした上映と講演で、カナダのアニメ『ライツ・フロム・ザ・ハート』を上映。（東京都小金井市公民館）
児童健全育成推進財団こども映画祭	H19.1.25	(財) 児童健全育成推進財団平成18年度「こども映画祭」上映の視察、指導。アニメ『手ぶくろを買いに』を上映。（埼玉県岩槻児童センター）
〃	2.24	同上。アニメ『だるまちゃんとてんぐちゃん』『盲導犬クイールの一生』を上映。（兵庫県宝塚市高司児童館）

〈映像記録〉

名　称	日　時	内　容
館内活動の記録	通年	講座などをビデオ取材しソフト化して参加者に販売。体育事業部「母と子のすくすくランド」（Part 1～3）の3本。同作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。
館外活動の記録	夏休み、冬休み、春休みの各特別期間	〔こどもの城〕の館外活動に同行してビデオ取材、ソフト化して参加者に販売した。 体育事業部「チャレンジキャンプ2006」「スキースクール」(Part 1－1期、同－2期、およびPart 2)／プレイ事業部「ちびっこ冒険団2006」「フェローシップキャンプ2006」「ゆきんこ冒険団2006」／企画研修部「ジュニア・アウトドア・スクール2006」「ジュニア・スプリング・キャンプ2007」 上記作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。視聴できる。
劇場公演の記録	通年	青山劇場・青山円形劇場で行われた公演・講座発表会をビデオ記録し、編集の上ビデオライブラリーで公開。また一部を出演者などに販売。青山劇場・青山円形劇場あわせて31本収録。 ◎青山劇場＝「ダンストリエンナーレ東京06」(青山円形劇場でも並行開催) ◎青山円形劇場＝「第21回こどもの城マタニティー・コンサート」「ア・ラ・カルト」「デーモン小暮の邦楽維新　collaboration青山本場所」「月猫えほん音楽会2006」「こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ　タントさんのふしぎなレストラン」など。
館内の催し案内生放送	夏休み・冬休み特別期間中	館内の催し案内を〔こどもの城〕スタッフが出演して生放送で行いたいという提案を受けて、仮設中継システムを組んで放送を行った。Bスタジオの夏休み特別期間の「びっくりビデオ広場」、冬休み特別期間の「ミラクルスタジオ」で生放送コーナーを設置。Bスタジオの催しの都合でスタジオからの中継が困難な日については劇場収録等の予定に影響のない範囲でマスターコントロール室から中継を行った。

保育研究開発部



平成18年度の活動

1．はじめに

本年度は、社会的に子育て支援を進める上で、仕事と家庭生活の調和（ワークライフバランス）を積極的に進めようという動きが出てきた。その一方で、まだまだ在宅の子育て家庭に対するサービスが不十分である、との報告（平成18年度版厚生労働白書）も出されている。また、長年の懸案であった幼保一元化をめざしたとされる「認定子ども園」が10月にスタートしており、少子化対策の子育て支援をめぐる今後の動向が、保育の世界にとどまらずますます注目される年度となった。

本年度も“子ども家庭支援プログラム”を3つの事業に分けて行った。保育事業（「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」）、一般来館児・者事業（「親子工房」「よちよちクラブ」「1・2歳児の遊び場」）および研修事業（「保育セミナー」「子育て相談研修会・基礎編／応用編」「子育て支援のニュースレターの発行」）である。

本年度は、家庭を取り巻く環境の変化がおよぼす子どもの育ちの変化の一つとして、いろいろな子どもと遊ぶ経験の少なさを心配する家庭が多くなっていることから、〔こどもの城〕の保育の特徴である異年齢児混合保育のプログラムを中心に取り上げた。子どもが育つ上で年齢の違う子ども（大人も）がかかわり、育ち合うことの意味を改めて考える機会にもなった。

2．3つの保育事業

（ア）親子教室

講座形式で行う、1歳児の親子の家庭を対象にした子育て支援プログラム。前年度から土・日曜日のプログラムの一部は家族プログラムにしている（兄弟姉妹の参加も可）。

「親子教室」への応募の理由からも、1歳児の子育てに一生懸命な親の姿が浮かんでくる。終了後のアンケートからは「子育ての悩みは自分だけではないことを知って気持ちが楽になった」「親同士が知り合える場になり友だちができた」などの回答が寄せられている。参加者同士のディスカッションの時間がもっとほしいとの要望が多く、今後の課題となった。父親の参加率は約70％、第1子での参加は48組中33組、親の平均年齢は父38歳、母36歳、平均出産年は結婚後5年であった。また、祖父母の参加も目立った。3期をとおしての応募総数は64組で、抽選で48組を受け入れ、16組は参加できなかった。

【親子教室応募理由】

同年齢の子どもとの遊び／専門家による子育てアドバイス（近くに相談する人がいない）／しつけについて学びたい／「ダメ！」といっても聞いてくれない／父親が参加できるのがいい／引越してきて知り合いがいない／社会性を身につけさせたい／両親とも高年齢のため子ども関係のことを知りたい（例：父45歳、母44歳第1子など）／自分の子育てを振り返りたい／フルタイムで働いていた／海外からの帰国で日本の子育てについて知りたい／協力して遊ぶことを学ばせたい／初めての子育てで右も左も分からず奮闘している／知人に勧められた——など。

【子どもの気になる点】

夜中におっぱいを飲みたがる／ごはんと麺のみたべる／お菓子が好き（成人病が心配）／早食いが直らない／手で食べる／卒乳できない／食に対するストレス／体重が増えない／トイレトレーニングで つい怒る／指しゃぶりが激

七夕飾り（「保育クラブ」の活動）



しい／夜なかなか寝ない／ささいなことで子どもが泣く／虐待しているのかと思われる／自己主張が強い（自我が出てきた）／上の子に暴力（わめくのみできちんとしたい）――など。

（イ）保育クラブ

「保育クラブ」（2～5歳児）に登録をする会員数は年間約430人（兄弟、親子教室修了児は随時入会する）。本年度も、より良い保育環境や集団遊び（異年齢児保育が魅力）の体験をさせたいとの応募理由が多かった。

会員には、保育プログラム、家族プログラム、情報提供プログラムの3つのサービスを行っている。保育プログラムでは（1）異年齢児混合保育（1・2歳児、3～5歳児）（2）チーム保育（各保育者の持ち味を生かす）（3）保育ボランティア（小5～社会人）の参加――などが特徴であること。また、保育クラブの利用の仕方をまとめた「保育クラブガイドブック」を入会の際に配り、ていねいに説明、納得した上で入会してもらっている。

家族プログラムは「親子遠足（春・秋）」「親子工房」など。情報提供プログラムでは「保育クラブ通信　おやとこ」年4回発行、小児保健部と連携しての「健康診断（春・秋）」など。このほか、受講証が〔こどもの城〕の入館券としても利用できることを伝えている。

■1・2歳児の保育■

1日の定員が14人（定期利用12人、フリー利用2人）。月～金曜日の5日間で、曜日ごとに顔ぶれの違う子どもたち延べ70人が、集団遊びを経験するための保育に参加している。1年間とおして曜日を固定して保育を利用したいという家庭が本年度も多く、1・2歳児から子どもに集団体験を望む家庭が目立つ。本年度も定期利用ができないなら保育クラブに入会しないというケースがあった。

【母子分離と生活の自立度】

保育プログラムは集団遊びを中心にしているが、1・2歳児の保育は母子分離や養護の部分が大きく、家庭とのコミュニケーションは欠かせないものとなる。

母子分離にかんしては、親と保育者との信頼関係が子どもに影響をおよぼすことを、長年の実践からも実感している。分離不安の強い子どもや子育てに自信が持てないと感じている親に対しては、保育者間で担当を決めるなどしてきめこまかく対応した。なかには母子分離に1年近くかかった親子もいたが、保育者は毎回母親が話す育児の大変さなどに耳を傾けるようにした。

子どもの生活面においては、定期的に保育に参加する子どもの自立度は“自分で食べる”“衣服を脱ぎ着する”“持ち物をロッカーに収納する”など、保育者の援助ですぐ積極的に動く子どもたちの姿があった。トイレトレーニングも5月ごろから始めて、7月の半ばには多くの子どもたちが身軽なパンツになっていった。

保育者は家庭と相談しながら、子どもの身辺自立に向けて保育を進めているが、個人差はあるものの協力的な保護者が多く生活面の自立度は例年より早かった。サスペンダーやオーバーオールなど、保育者から見て子どもが自分ではくのが難しいズボンなどは、すぐに取り替えた。子どもの持ち物や生活用品などについても、保育者に細かなことまでもアドバイスを求めた。このことから、母親の周辺には子育ての細かなことで相談する人やモデルとなる人がいないということが推測された。

【遊び】

2歳児の遊びは自分の好きな遊び（電車や汽車のおもちゃやままごとなど）を満足するまで遊び込むことからはじまり、次第に周囲の遊びに入っていくと思われていたが、本年度は少し違っていた。

例えば小麦粉粘土の遊びでも、感触を十分に味わうことが大切と考えて時間をとっていたが、それだけでは遊びが長続きはせず、早い段階からいろいろな小道具（ままごとの皿やコップやナイフなど）を用意することになった。保育者が示す菓子の型抜きの使い方や、おだんご作りをすぐにまねをして遊ぶ子が多く、初めて小麦粉粘土の遊びを経験する子どもは少なくなっている。

小麦粉粘土は知育がん具としても売られており、購入している親も少なくないことから、子どもたちも慣れているようだった。以前は小麦粉粘土の作り方を親に教えていた。

例年であれば、一人ひとりが机に紙を広げて絵を描いて遊ぶことにしていたが、本年度は始めから床に大きな模造紙を敷いて、自由に描くコーナーを作ってみた。子ども同士がかかわるきっかけ作りのねらいでもあった。朝、入室して来た子どもたちは、なんのためらいもなく親子で描くコーナーに集まってきた。床に座り乗り物らしきものを描いてみたり、大好きな電車の線路を長々と描いたり、シー

ルをはり付けたり、親（父母）がテレビのキャラクターものを描いてみたりなど楽しんでいた。親子で自由におしゃべりをしながら、他の親子ともかかわり合える楽しい場となった。

春から秋口の天気のよい日には、裏庭にある砂場で遊んだ。自然を感じるいい機会であるが、砂場遊びの経験があるかないかで子どもたちの遊び方が異なっている。手や足が少しでも汚れるのが嫌な子は、手をポケットに入れたままだったり、サンダルをはいたままだったりする。そんな子どもたちも、繰り返し砂場に出かけているうちに、遊びだしている姿にはほっとさせられた。

1・2歳児のみの砂場遊びでは、大きな川や山を作るようなダイナミックな遊びには発展しないが、3～5歳児が何人か加わるだけで遊びが変わってくる。「お兄ちゃんたちの遊びはすごい」「小さい子たちに遊び方をみせてあげよう」などと互いに思うのか、遊びにいちだんと活気が出てくるのが伝わってくる。保育者間でも、異年齢児混合遊びのダイナミック版として、スペースの問題などもあるが、砂場遊びを今後も積極的に取り上げて検討することとした。

2歳児は体の動きのバランスがうまくとれずに、転んでも手をつけなかったり、階段の上り下りが難しい子どもが多いことから、“歩く”ことに視点を置いてみた。毎月行っている火事や地震を想定した避難訓練の中でも“しっかり歩く”ことを大事にして進めた。保育室がある5階から1階まで、階段の手すりにつかまりながら歩くのだが、散歩に出る時もできるだけ階段を利用して活動したため、定期的に保育に参加している子どもの脚力や体力は確実についたように思われた。

本年度はまた、体育部門の指導でバランスボールを使った体操遊びも試みた。子どもたちは楽しみながら体を動かすことができた。

集団での遊びも、年度の後半には例年のように「かくれんぼ」「あぶくたった」「むっくりくまさん」「さあさ、おふろがわいたから」などで遊んだが、互いの名前を呼び合うなど周りの子どもを意識した遊びに広がっていった。

親子遊びでは、七夕飾り（願い事の短冊なども）や、曜日ごとに親子同士でいろいろな素材を使って大きなクリスマスケーキなどを作った。親同士が話し合い工夫しあってそれぞれに仕上げた素敵なデコレーション（20個）は保育活動展に展示され見学者を楽しませた。

■3～5歳児の保育■

3～5歳児の保育活動は、週4日（火～金曜日）保育する「幼児グループ」の4・5歳児を核として進めている。在宅で子育てしている家庭では、3年保育の幼稚園に入園させることが多くなっているが、「保育クラブ」の週1・2回の集団保育を利用する家庭も結構いる。子どもが早生まれ

親子遠足



で幼いのが心配、兄や姉の幼稚園の送り迎えがあり下の子に手が回らない、2年保育の幼稚園を受験するため、家族の介護などで幼稚園への送り迎えが難しい、などの理由が上がっている。

主に3歳児の保育に参加する子どもの生活面での自立度を見ると、“食事”にかんしては、自分から野菜を食べる子どもが増えたのはうれしいできごとであった。保育室前にあるベランダで栽培しているきゅうり、なす、トマトなどを友だちと食べたことがきっかけに、食べられるようになった例もあり、3～5歳児がテーブルを囲んで和やかに“食べる”体験のよさがみられた。

トイレトレーニングの時期がずれている子どもが何人かいたが、一人ひとりの親と相談しながら進めて7月までにはほとんど（3歳児）の子どもが身軽になった。トイレで「まだ、紙パンツなの」と年長の子どもから言われてショックだったのか、帰宅した子どもが「○○はもうパンツにする」と母親に宣言した子どもがいたという。

フリー保育で始めて参加する子どもに対しては、朝の入室から保育者が子どもに付き添って下駄箱、ロッカーの場所、遊び方などていねいに伝えて、安心感を与えるようにしながら進めた。週に1日よりは、2日保育に参加する子どものほうが集団に慣れることもそれだけ早くなり、生活の自立も遊びも自信を深めることになる。年度の後半には、定期的に来る曜日以外でも保育に参加したい、という保護者からのフリー保育の予約が多くなった。

【集団遊び】

「かくれんぼするものこの指とまれ」と4月ごろに保育者が仕掛けた遊びから発展して、みんなで動いて遊ぶことの楽しさが伝わったようだ。繰り返して遊んでいるうちに、曜日によって多少の違いはあるものの、保育者の遊びの提案がなくても友だちと一緒に遊ぶ姿が見られるようになっていた。しかし、なかには集団の遊びになかなかなじめない子どもや、フリー予約で保育に参加してくる子どものな

共同製作「キゾラウス」～準備から完成まで

「キゾラウス」という架空の生き物。「きりん」「ぞう」「ライオン」というクラス名の1文字をとって作った造語。おたよりの名前にもなっており、子どもたちは、耳なれているものであるが、目に見える形ではない。架空の生き物を作るにあたり、子どもたち自身がイメージや意見を出し合い、共同して作り上げることがねらい。「幼児グループ」（4・5歳児、21人)を中心に、制作過程できりんグループ（主に3歳児）の子どももかかわった。

日　時	活動内容	子どもの様子	保育者の動き・配慮
H19. 1.10・11	○共同制作の導入（テーマは「キゾラウス」） ○子どもたちの大枠の具体的イメージを絵にする。	○テーマを聞き、しばらく考えていた。すると、「きりんとぞうとライオンがくっついたものじゃない?」という意見が出る。続いて、何を食べるか？ どこに住んでいるのか？ など性格のイメージを広げはじめた。その後、各自考えてきたイメージを自由に描き出す。 ○「優しい」「強い」などの意見が出る。「子どもを乗せて飛べる」という意見は魅力的で、羽をつけることにする。形状についてはさまざまな意見が。	○それぞれのイメージや意見を認めながら、一つの形になるよう考えをまとめていく。 ○描いた絵を保育室に飾り、他児のイメージした絵を見て他者の意見を感じられるようにする。 ○子どもの意見をもとに、ホワイトボードにイメージ画を集約させていく。子ども同士で意見交換ができる雰囲気作りをする。
1.16～18	○制作開始 幼児グループ（年中児、年長児）は「脚・胴・首・鼻」の骨組みを作り、新聞紙で肉付けをする（牛乳パック約400個、新聞紙、ガムテープ）／キリングループ（年少児）は、新聞紙を丸める。	○4・5人のグループになり、4本の脚を作っていく。ガムテープを切る係、牛乳パックを押さえる係など、自然と役割分担をしていた。年長児が難しい部分を担当し、年中児に指示を出すなど協力体制がとれていた。 ○4・5人のグループになり、骨組みに新聞紙で肉付けをしていく。丸みを出すのに難しい所もあり、「せんせいやって――」との声も出る。 ○ 年少児は胴・脚・首にする新聞紙を丸め、幼児グループに届ける。大きい製作物を興味深げに見上げる。	○制作に入る前に、子どもたちにイメージ画を見せ、イメージを共有する。 ○「キゾラウス」を展示するギャラリーに場所を移し、さらに具体的なイメージがわくようにする。 ○作業的に難しい所は、保育者が手伝い、子どもたちの意欲がそがれないよう配慮する。 ○年少児にも、年齢に応じた参加ができるよう活動を進める。
1.19	○張り子にする（年少児、年中児、年長児がかかわる）	○年少児がハケでのりを塗り、幼児グループがはっていく。「ここ、まだはってないよ」と子ども同士で声をかけあう。胴体の下にもぐり込む、台に乗って首にはり付けるなど、作業をとおして「キゾラウス」の大きさを体感する。	○年少児も主体的に「キゾラウス」にかかわれるように、役割を担うようにする。
1.23～26	○色塗り（耳・しっぽ） ○たてがみ製作 ○首の装飾製作	○色合い・パーツ素材の決定については、全体で意見を出し合う。イメージをしっかり持っている子どもは「絶対に金色が良い！」と言う。話し合いにより他児もその意見を認める。素材の選定も話し合って決める。 ○色塗りでは、絵の具の汚れや他児の間違いを気にすることなく活発に活動を進めていた。 ○たてがみ作りは、二人組になり役割分担をして、あっという間に大量のたてがみを作った。	○耳・しっぽなど少人数で製作可能のものについては、希望する子を中心に行う。 ○色塗りは、集中できるように少人数で行う。 ○子どもの意欲がそがれないよう、素材は量も種類も豊富に用意する。
1.30	○目、しっぽ、首、たてがみ、耳を付ける。 ○キゾラウスの好物・すいかを作る。キゾラウスの“ス”はすいかの“ス”だと言う子どものアイデアから。	○制作が進むにつれ、子どもたちの主体性が高まってきた。目の形、大きさ、しっぽを付ける位置など、細部までも意見を出し合う。他児の意見にも耳を傾ける子、自分のイメージを主張する子などさまざまである。 ○年少児もキゾラウスを身近に感じ始めてきて、キゾラウスの好物「すいか」を作る。幼児グループからは「作ってくれたんだ、ありがとう」という言葉をもらっていた。	○多数決を取るのではなく、話し合いにより、子どもたち一人ひとりが納得できるように進めていく。 ○新聞を丸める作業は、年少児も積極的に行うようになってきた。日ごろの異年齢でのかかわりが多いこともあり、キゾラウスへの関心は高まっている。そこで、保育者から年少児だけでできる共同制作を提供する。
1.31	○羽を作り、つける。	○家庭から、羽のイメージに合った素材を持ってくる子どもがいたり、より良くするためにひらめいた意見を自由に口にしたりする。子どもたちのイメージが一つの物になってきているため、他児の意見に「いいねー、そうしよう！」と賛同する姿が多く見られる。	○子どもたちが主体的に活動し始めている。保育者は子どもたちの意見を整理するのみに留まる。
2.1	○仕上げ たてがみ切り。鼻先を付ける。キゾラウスの好物「すいか」を置く。 ○「キゾラウス」誕生	○たてがみ切りでは、「先生が切ったら意味がない。みんなで切る」と子どもたちは言い、試みる。 ○完成したキゾラウスを見て、愛着を感じ、自分たちの作り出したものとしての思いが深まった。「お母さんに見せたい」などと話す。 ○年少児が作った「すいか」をどこに置くかで議論する。食べている雰囲気を出せるよう「鼻の下」に決定する。	○共同制作の振り返りをし、完成を共に喜ぶ。 ○「キゾラウス」について、子どもたち一人ひとりが保護者に説明できるようにしようと伝える。子どもたちは自分たちで作ったという実感を持ち、よく理解していた。

※ 2月の「保育活動展」開催中も、何度も親子で足を運んだようだ。「昨日、キゾラウスが夢に出てきたよ」という子どももいた。
※ 展示終了後、姿を消したキゾラウスに「どこ行っちゃったんだよ～！キゾラウス～」などという言葉が出る。修了式に保育室に飾ると、再会を喜んだ。

かには不安や緊張もあり、保育者は家庭での様子なども聞きながら遊びに誘うように努めた。

本年度は、通常期間のフリー保育に年長児でありながら保育経験のない子ども、海外からの帰国児、幼稚園を途中退園した子ども、幼稚園を休んで保育クラブで遊びたいといって来た子どもなどが目立った。こうした子どもたちの受け入れについては、事前に子どもと保護者に年齢に応じた幼児グループ（4・5歳児）のなかでの活動も取り入れることがあることを伝え、選択しての参加（プールなど）にした。2年間継続的に保育活動をする幼児グループのプログラムに、フリー保育の子どもが参加することの課題も出てきたが、子どもを中心に前向きにとらえて終えることができた。

「保育クラブ」の3～5歳児は「幼児グループ」（4・5歳児）と一緒に生活と遊びをともにすることになるが、曜日によってテーマとなる活動が違うこともあり、週1日だけ遊びにくる3～5歳児にとっては、それだけ遊びの経験が少なくなる。例えば、火曜日の「こどもの城探検」には参加できたが水曜日の「砂場遊び」には参加できなかったなど。保育内容はできるだけどの曜日に来る子どもたちにも同じような体験を考えて進めているが、まんべんなく行うことは難しい。

●3～5歳児の延長保育

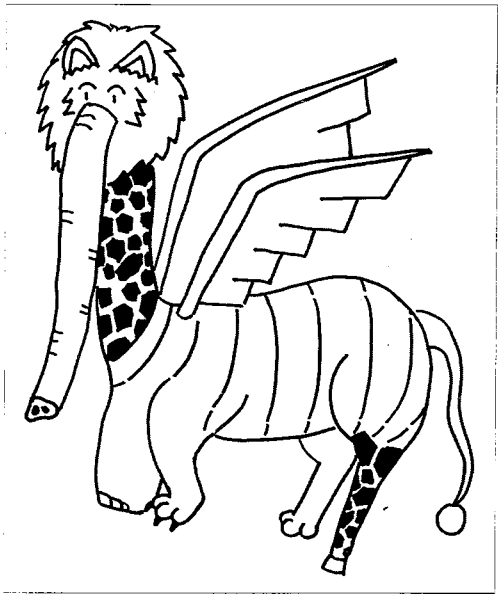
「保育クラブ」（「幼児グループ」は除く）の3歳児以上の子どもは、1年間、曜日を決めて延長保育に参加することができる。「保育クラブ」のフリー保育の子どもと「幼児グループ」の子どもは、必要に応じて16時まで（原則）の延長保育を受けられる。通常は火～金曜日のみ。夏休みなどの特別期間は月曜日も利用できる。定員は8人までとしているが、常時定員が埋まった。

子どもの遊びのためと親の都合から、延長を申し込む家庭がほとんど。親の緊急の用事などで、8人以上を受け入れた日もあった。延長保育を利用したいという家庭は常に多く、キャンセル待ちの状態であった。午前の保育とは異なり少人数の保育活動となるが、保育のねらいは“遊び”を重視してゆったりとした雰囲気の中で、好きな遊びを十分楽しむこと。充実した“ごっこ遊び”ができるように配慮することとしている。

延長保育は、別名「おやつ組」と呼ばれて親しまれているが、本年度は3～5歳児の保護者向けに発行している「キゾラ通信」で延長保育の子どもたちの活動の様子などを知らせた。

【「おやつ組の子どもたち」からの報告】

おかげ様で本年度の「おやつ組」も順調にスタートしています。おせんべいが大好きなM君からは「おせんべい組」とも言われています。少し大げさですが、4・5歳児はある意味では「遊びの宝庫」です。彼らが家庭の中や道を歩いていてたまたま遭遇した大人たちから見知ったこと、“幻想”や“夢”を保育室での遊びに登場させて、遊びの素材にしてくれます。3歳児もそうです。道ですれ違う大人からでも多くのことを学びとっているようです。例えば“携帯電話”です。保育室にあるおもちゃの携帯電話を見





「キゾラウス」のイメージ画（左）と、「保育活動展」に飾られた「キゾラウス」（制作中）

つけた８人の子どもたち。８人とも片手に携帯電話をもって、長いすにギューギュー詰めに座りました。そして「もしもし、なんだって？ オレは仕事中だと言ってるだろう、お前一人で行け！」とか「あら、Kちゃん、元気？ そう、じゃ、またね、さよなら」や「もしもし、ねえ、なに食べるか決めておいてね」など８通りのお話がはじまりました。保育者は一瞬保育室ではなく、渋谷のハチ公の前にいるような気分になりました。（中略）

自由遊びのパレットに、子どもたちからの提案で並ぶ遊びの種類も変化に富んでいます。定番の「お化け屋敷」「ままごとレストラン」「お医者さん・病院ごっこ」「レール遊び」の他に「ラーメン屋さん」や「船で航海」「魔法のじゅうたん」などみんなで楽しんでいます。もうすぐ梅雨入りです。そうしたら、外に出られない日もあると思いますが、これからもおやつ組の遊びの時間を充実したものにしていきたいと思います（延長保育担当スタッフより）。

（ウ）幼児グループ

２年間定期的継続的に週４日保育に参加する、4・5歳児のグループ。「保育クラブ」の３～５歳児をまじえた異年齢児混合保育。保育活動の核となる子どもたちでもある。

「幼児グループ」の大きな保育のねらいは、家庭と協力して人間性豊かで自発的な子どもを育てることにある。本年度も年間をとおして、前年度のプログラムをふまえながらさらにリニューアルをしたり、新たな試みのプログラムを加えたりして進めた。生活面では、ほぼ全員が自分の身の回りのことの始末はできていて、他の子どもにも目が向けられるようになった。片づけが遅い子どもには手伝ってあげることや３歳児にやさしく声をかけて励ましている姿も見られた。

テーマ活動では、常に中心的な役割と存在感が問われてくる。子どもたちも年長児（ライオングループ）や年中児（ぞうグループ）であることを、異年齢混合保育のなかではかなり意識しているようであった。そうした意識は特に３期になると、遊びのなかにも現れてきていた。「お手紙ごっこ」という形で、年長児から年中児や年少児へと手紙が渡っていることからもうかがえた（その逆も）。

本年度は共同制作として、子どもたちがみんなで一つのものを作ってみることにした。「こいのぼり」「たなばたかざり」「天の川の星作り」などのほかに、架空の生き物「キゾラウラス」を作りあげた。子どもたちのそれぞれのイメージが、共同制作の過程でどれだけ共有されるものになっていくのかは、大人も子どももハラハラドキドキの連続だったといえる。その分完成した時の喜びもはひとしおだったようである。

「幼児グループ」の保護者とは、緊密な連携のもとに保育を進めることを大切な要素としている。保護者懇談会をはじめ、個人面談、保育参加などは例年通り行った。さらに、個人面談は何度でも応じるようにした。

「幼児グループ」の保護者を中心にベランダで野菜栽培などを行っている。本年度は保護者から“稲の苗”をもらい受けたことから、プラスチックの箱で田んぼを作り、親子で田植えを行った。秋には収穫祭として保育活動に組み込もうと考えていたが、稲穂が垂れて収穫がまぢかになった矢先、たくさんの小鳥たちにあっというまに食べられてしまった。

それでも少しばかり残った米をかき集めて、子どもたちの目の前でごはんを炊いてみんなで味わった。収穫祭にはベランダで取れたサツマイモを食べたり、保護者との協力で保育室で餅つきを行ったりして、食べ物への関心を高めると同時に文化としての収穫祭の行事を味わった。

この他、本年度も３～５歳児の保護者からは子どもの友だち関係のことや２年保育幼稚園への受験、小学校受験についての相談や悩みが多数寄せられた。

3. まとめ

21年目を迎えた〔こどもの城〕と同様に、保育研究開発部のプログラムも20年を経たものが多く、安定したものになっている。反面、社会の子育て環境の厳しさや子どもがのびのびと育つことの難かしさが言われることから、時代に即した柔軟な内容となっているのかということが問われてくる。年度ごとにプログラムの振り返りを行いながら、内容は少しづつリニューアルを図っているが、マンネリを避けるためにも「なんのためのプログラムなのか」を常に念頭に置いて活動していくことが大切になる。

保育に参加してくる子どもの保護者からは、一生懸命に子育てに当たっているが子どもがなかなか思うように育っていない、私の育て方が悪いのかなど、子どもを育てることに自信をなくしかけている声も聞こえてくる。せっかく入園した幼稚園も親子でなじめずに途中退園をしたいという相談も多い。

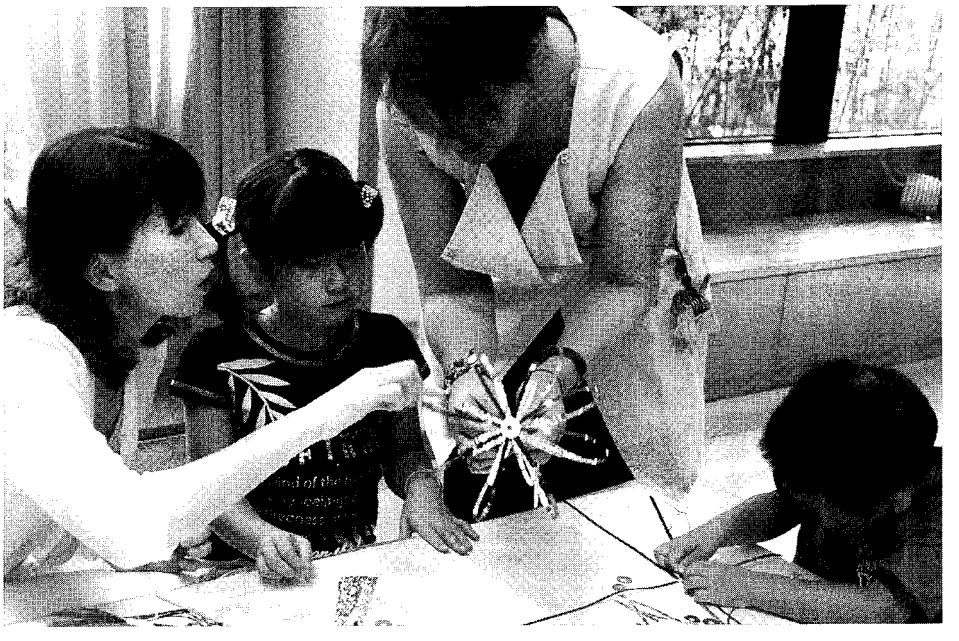
〔こどもの城〕の保育は、“子ども家庭支援プログラム”の一つと考えているが、ここ数年はいろいろな子ども同士がかかわりあって遊ぶ楽しさを体験することに軸足を置いてきた。その必要性は変わらないが、“子育て家庭の良きパートナー”として、いかに保護者の子育てに寄り添えるのかも今後の課題になってくるだろう。

平成18年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
親子遠足（秋）	10.7	「保育クラブ」「幼児グループ」の2～5歳児の家族プログラム。家族同士の交流を図るのがねらい。例年は、春と秋の2回行っている。本年度は春が雨天中止となったため、用意したプログラムのほとんどをそのまま秋に実施。スタッフから家族に積極的にかかわるプログラムと合わせて、親子同士の交流を深めるプログラムを行った。「くぐってつないで親子の輪」、親子がグループに分かれて「鳴き声あそび」、親子全員で「ホーキポーキダンス」―― など親子で楽しむプログラムを多く実施した。参加した親子からは「とても楽しかった」との声が多かったが、年々父親の参加が増加していることから、父親の力と存在をアピールするためにもプログラムの内容を再検討する必要がありと反省。代々木公園（渋谷区）、親子178人参加。
保育活動展	H19.2.3～18	前年度に引き続き、テーマは「こどももようパートⅣ」。「幼児グループ」を中心に、「保育クラブ」の2～5歳児の保育活動をさまざまな絵や共同制作、作り物、写真などで紹介。本年度の幼児グループの保育活動は、“子どもたちが力を合わせて遊びを展開する”をねらいの一つにしていることから、展示する作品も共同制作した。作品「キゾラウス」は子どもたちが考えた夢の生き物。牛乳パック400個以上、大量の新聞紙、約3週間をかけて完成。このほか、幼児グループの自画像や粘土作品、保育クラブ3～5歳児の段ボールを使っての組み立て遊び、延長保育の楽しい「ごっこ遊び」の活動の様子などを展示。2歳児では、曜日別に親子で工作した大きなケーキやとりどりのお菓子などを展示した。保護者をはじめ、一般の来館児・者も立ち寄る姿が見られ、子どもの作品に接して感動したという感想が寄せられた。課題となっていた展示期間延長も土・日曜日を入れて実施。保護者からは好評だった。（ギャラリー）
よちよちクラブ	土曜日　11:00～12:00 13:30～14:30	一般来館の1・2歳児の親子のための子育て支援プログラム。年間10回。延べ240組（443人）の親子が参加。定着したプログラムになってきた。本年度は保育クラブの保育活動を優先したため、開催回数を減らした。かわって、春休み特別期間中に、拡大版「よちよちクラブ」を開催。「よちよちクラブ」では、親子でゆったりとおもちゃなどで遊んでから、手遊びや簡単な作りもの、パネルシアターなどを楽しんでいる。〔こどもの城〕に遊びに来てから、偶然開催しているのを知り参加する親子も多い。保育者は参加の親からの子育ての悩み、助言を求められることもあるが深刻なものは少ない。毎回参加する同じ親子もいる。「親子教室」「保育クラブ」につながるプログラム。予約制だが、当日参加も可。（保育室1）
保育室の一般開放	土・日曜日・祝日 10:00～17:00	1・2歳児のためのおもちゃや絵本を用意して、〔こどもの城〕に来館する親子に遊べる場を提供した。定期的に遊びに来る親子もいる。こどもの城ボランティアグループが定期的に絵本の読み語りを親子に行っている。（保育室2）



つくって遊ぼう親子工房
「親子シャボン玉」

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 よちよちクラブ拡大版	4.29・30 10:00～16:00	館内に低年齢児向けのプログラムや親子で遊べるスペースが少ないことから、特別期間中に来館する1・2歳児の親子を対象に通常の「よちよちクラブ」を拡大して行った。児童福祉週間特別期間ということから、参加者が多くなると予想して会場を広い研修室にかえて開催。広いスペースを1・2歳児親子にとって魅力的なスペースに整える、事前の環境作りに工夫を要したが、内容的には通常行っている手遊び、作り物、パネルシアターなどの回数を多くしたり、保育スタッフのトークを入れたりした。親子でゆったりおもちゃで遊ぶ、保育スタッフの出し物を楽しむ親子などが見られた。都内近郊だけでなく、沖縄や大阪などから東京に遊びに来ていて、たまたま参加したという親子連れもいた。いいおもちゃがたくさんあってゆったり遊べた、スタッフに話を聞いてもらえてよかった――などの感想が寄せられた。振りかえりで日数を増やす、常設の場が望まれるなど、今後の検討課題があげられたが、次年度も実施をする方向で考えることとした。2日間で70組の親子（祖父母、兄弟含む）約200人が参加。
〈　〃　〉 つくって遊ぼう親子工房「コレッテ　ナンダロウ」	5.3～5　10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00 （5日15:30の回は休み）	ゴム風船に、小麦粉・片栗粉にサラダ油を少々加えてこねたものをギュウギュウに詰め込む。何ともいえない手触りで、自由に形が変えられる“風船”になる。交代で握りっこして遊んでいた。粉がついた顔がおかしくて親子で笑う、ほほ笑ましい姿も見られた。材料は、カラフルなゴム風船、小麦粉、片栗粉、サラダ油少々。3日間、366人の親子が参加。　（保育室1）
〈夏休み〉 つくって遊ぼう親子工房「親子シャボン玉」	8.11～13 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00 （13日15:30の回は休み）	平成11年の春休み特別期間に「キラキラシャボン玉」を行い、好評だった。今回はその第2弾。シャボン玉が二重になる“親子シャボン玉”。パッチシールの穴の周りに8本の帯状にしたホログラムシート材を放射状にはる。その上からもう1枚のシールをはり、シート材が抜けないようにする。シート材の反対側も同じように作ると、ボールのような“小玉”ができる。同じ要領で“大玉”も作る。丸棒に“小玉”を通し、一方の端に固定。それをくるむように“大玉”を丸棒に通し、一方を“小玉”に重ねて固定する。今回も親子に人気の作り物になった。工房終了後も問い合わせがあった。材料は、ホログラムシート材（ラッピング用）8本、ミラーシート材8本、パッチシール8枚、丸棒1本。510人の親子が参加。　（保育室1）
保育室の一般開放	特別期間中の土・日曜日 10:00～17:00	一般来館の1・2歳児の親子が、おもちゃなどで自由に遊べる場。午前中は少ないが、午後にかけて多くなる。とりわけ祖父母の同伴が目立った。ベビーカー利用者が増え、避難経路や安全上からも置き場の設置を考慮しなければならなかった。閉館間際まで込み合うことが多いが、「おかたづけ」の声をかけても、そのままで退出する親子は相変わらず多い。　（保育室2）

2. 講座・クラブなど

〈クラブ〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
幼児グループ	（人） 4歳児 （11） 5歳児 （11）	（人） 11 10	火～金曜日 10:00～14:00	〔こどもの城〕を保育の場とする週4日、2年間にわたる継続的な保育活動。「保育クラブ」の主に3歳児が曜日別に加わり、異年齢児保育となる。多様な人間関係を体験するため、ボランティアとも遊ぶ。チームで保育を行い活動を深める。プール活動など、体育事業部などと連携。年々子どもたちが集団で遊ぶ機会が少なくなってきていることから、本年度は友だちとかかわりあって遊ぶゲームなどを例年より多くした。さらに、共同で制作をする喜びを感じてもらおうと、子どもたちの遊びのなかから共通のイメージを持って一つのテーマのもとで制作に取り組む場も作った。保育活動展がその発表の場になった。「幼児グループ」の活動は、「保育クラブ」に連動している。保育料41,000円、給食費4,800円（いずれも月額）。延長保育を希望する家庭が多い（別途保育料）。
保育クラブ	2～5歳児 （登録数 430）	14 9 14 6 （1日 あたり）	月～金曜日（2歳） 10:00～13:00 10:00～14:00 火～金曜日（3～5歳） 10:00～14:00 10:00～16:00	登録をして利用する会員制の保育活動。日時を選べる。集団遊びを希望する2歳児の家庭、幼稚園に行きながら夏休みなどの保育に参加したいという3～5歳児の家庭が多い。入会時にていねいなガイダンスを行う。保育内容を伝えるほか、子どもの送迎時などの安全管理への理解、避難訓練等を行っていることなどを説明。安全に対する関心は高く、保護者は緊急カードの導入にも異論はなかった。保育のほかにイベント、通信の送付、家族プログラムのサービス実施。希望で延長保育（3～5歳児）も受けられる。入会金15,000円、年会費5,000円。保育料は、2歳児1,200円（1時間）、3歳児以上850円（1時間）。昼食代600円、おやつ代200円（1回）。

《講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	(組)	(組)		
親子教室　37期	1歳児親子	16	月曜日	親子遊びを中心に子育ての楽しさを両親で体験するプログラム。スタッフの援助で、ほかの親子との交流も図れるようにしている。土・日曜日は兄弟姉妹の参加も可とした。医学・心理発達にかんする講義、栄養士などからのアドバイスもある。父親(家族)の参加4回を含む。受講料は35,000円。
38期	(各期16)	16	10:00～12:30	
39期		13	(全10回。月曜6回、土曜1回、日曜3回)	

《専門指導者向け講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	(人)	(人)		
子育て相談研修会(応用編)	育児相談担当者 (50)	18	5.27、9.9、H19.1.13 14:00～20:00	テーマは「保育所や児童館が行う子育て相談とは何か」。スーパーバイザーは、山崎美貴子(神奈川県立保健福祉大学)と山田美和子(元全国社会福祉協議会高年福祉部)の両氏。参加者が持ち寄る事例を中心に、具体的な子育て支援のかかわり方を学んだ。受講料30,000円。※敬称略　(研修室)
子育て相談研修会(基礎編)　春	〃 (70)	61	6.24 10:00～17:00	テーマは「保育所や児童館が行う子育て相談の基本と実践」。春・秋とも「保育行政の動向」(永瀬哲郎・厚生労働省保育指導専門官)、「近年の家族の状況」(山崎美貴子・神奈川県立保健福祉大学)、「家族を支える相談とは」(杉山佳子・明治学院大学)などについて学習。さらに、〔こどもの城〕子育て相談研修会の企画委員の事例報告を題材に、事例を分析・把握するための手法「エコマップ(環境関係図)」「ジェノグラム(家族関係図)」で書き表し方を学んだ。事例や具体的な説明が多く分かりやすいと参加者には好評。受講料6,000円。※敬称略　(研修室)
〃　秋	〃 (70)	51	10.28 10:00～17:00	
第20回こどもの城保育セミナー「子どもの育ち・社会の育ち」PART Ⅱ	保育関係者など (80)	61	8.5 10:00～17:00 8.6 10:00～15:00	全国の保育所、児童館、行政の児童福祉担当者などが対象。毎回、児童福祉が現代社会の中でどのような動きとなっているのかを取り上げている。 受講料13,000円。※敬称略 【1日目】 基調講演「企業と子育て家庭」講師＝岩田喜美枝(資生堂) パネルディスカッション「育ちの場を豊かに」 コーディネーター＝小川博久(聖徳大学大学院) パネリスト＝内田晃(ひかりの子幼稚園)／黒川敬(NHK) 【2日目】 分科会「ワークショップ～明日から活かせる保育実技　パートⅡ」 助言者＝菊地政隆(江東区白川かもめ保育園公設民営) 〃「親をも幸せにする保育」 助言者＝佐伯元行(国立あゆみ保育園) 〃「全ての親とうまくつきあうために」 助言者＝倭文真智子(東京都墨田児童相談所)



第20回こどもの城保育セミナー
「子どもの育ち・社会の育ち　PARTⅡ」

3. その他

〈講師派遣〉

名　称	日　時	内　容
～親子で一歩～ 大切にしたい親子の絆	6.12	講座形式（8回）の地域の子育て支援プログラム。〔こどもの城〕の各部も参画。対象は幼児（1歳半～3歳）の親子。「保育クラブ」「親子教室」「よちよちクラブ」などの実践を紹介。質問も多く、親同士の情報交換も活発。東京都江東区古石場文化センター、参加者15組（30人）。
平成18年度幼稚園 実技研修会 「制作指導のポイント」	7.12	一人ひとりの感性を大切にして適切な表現活動の援助について研修。「保育クラブ」「幼児グループ」の事例をもとに実践的に指導を行った。身の回りにある素材を生かした制作に、大変参考になったとの感想が多数。主催は習志野市教育委員会、参加者100人。
講演「難しい今日の子育て～みんなで支えよう～〔こどもの城〕子育て支援プログラムの実践から」	8.27	子育てセミナー「キャッチして子どものSOS――子育てセミナーキャラバン隊in津山」で、子育て支援プログラムを早くから実践している〔こどもの城〕の取り組みと現代の子育て事情を紹介。小児科医の発言や会場の参加者から、地方の子育ての現状を聞くことができて有益なものとなった。主催は岡山県山陽新聞社社会事業団、参加者200人。
豊島区保育園研究会 「造形活動を通して遊びを豊かに」	9.26	一般来館児・者向けの「親子工房」の中から、保育園でも十分応用できる内容の活動をワークショップで紹介。既成の材料にこだわらない素材の生かし方を考える研修内容は、明日から保育の中で生かせると好評だった。主催は東京都豊島区保育研究会、参加者100人。
保育の中でできる造形活動	10.27	保育士も専門職として注目を浴び、幅広い知識と洗練された技術、豊かな感性が求められている。「親子工房」を中心に、子育て支援のプログラムを豊かに展開するための活動を紹介。実際にワークショップを行った。子育て支援をはじめ保育情報が乏しいといわれる地方にあって、参加した保育士の熱意が伝わる研修会となった。主催は鹿児島県保育連合会、参加者100人。
[こどもの城]における保育の実際と保育士の活動	12.19	〔こどもの城〕の保育の特徴である異年齢児混合保育、チーム保育、保育ボランティアの参加を中心に、主に子育て支援プログラムについて講義。今後、保育士に求められることが多岐にわたると予測されることから、学生は熱心に耳を傾けていた。また、実際の保育活動を収録したビデオに関心が高かった。主催は玉川大学文学部教育学科、学生54人。
0歳1歳親子教室～乳幼児のあそびとリズム	H19.1.20	〔こどもの城〕で行っている「親子教室」「よちよちクラブ」の事例をもとに、地域における子育て支援の一環で児童館が行うプログラムの一例として紹介。参加者からは親子で楽しめましたとの感想が寄せられた。主催は川越市児童センター、参加者23組（親子）。
一時保育のプログラムについて	3.27	行政等で行う地域の子育て支援プログラムを援助する、保育ボランティアの研修会。現代の子育て事情を理解して援助しないと、家庭とのずれが出ることを具体的な事例をもとに講義。主催は東京都中央区教育委員会、参加者15人。

〈その他〉

名　称	日　時	内　容
ニュースレターの発行	第38号（7.15） 第39号（H19.1.15） 第40号（3.15）	行政、経済界、利用者にかんする情報および子育てをめぐる情報、子育て相談研修会の内容の概要などを紹介。本年度は児童福祉施設における次世代の子育て支援策など、行政の動きをはじめ各地の実践などを中心に取り上げた。児童福祉施設の果たす役割の大きさを実感させられるとの読者の声。〔こどもの城〕で行っている「親子工房」「保育セミナー」の内容なども紹介。主な配付先は、市長会、見学者、関係所管課。年間講読料2,000円（郵送費、印刷代一部負担金）

小児保健部



平成18年度の活動

1．はじめに

健康の問題に取り組む小児保健部では、開館以来、子どもの心身の成長・発達の心配ごとに対し、支援していく「小児保健クリニック」の活動のほか、妊娠中から乳幼児期の“子育て支援”を目的とした活動にも重点をおいている。スタッフは医療・保健・心理の専門職である。

当部の活動は整理すると次のように分けられる。

(1)「小児保健クリニック」での診療・相談活動
(2) グループで行う講座や催し（“子どもの生活習慣病予防”や“保護者への子育て支援”の活動など）
(3) “子育て支援”の現場にかかわる専門職への啓発活動
(4) 活動の成果をまとめるための研究

本年度は、「メタボリック・シンドローム」や「早寝早起き朝ごはん」の運動が話題になったが、子どもの体と心の健全育成のために、身近な生活の状況を具体的にとらえて援助していかなければならない時代に入ってきている。各種メディアが取り上げた影響もあって、「肥満」を主訴にクリニックを受診する人が増え、栄養相談を含む診療の件数が前年度より多くなった。

乳幼児と保護者への子育て支援事業のさきがけでもある「赤ちゃんサロン」は、平成３年度から実施しているが、このような“広場型”のふれあいの形式が再度見直され、国の施策にも取り入れられてきている。前年度に約1,000人の参加者の増加（前年比）をみた「赤ちゃんサロン」は、本年度さらに480人の増加があった。〔こどもの城〕全体に、乳幼児と母親たちの平日の来館が増えている。今回は、この事業の経過や参加者の動向、０～２歳の乳幼児期における子育て支援の意味などについて取り上げた。

なお、本年度から「次世代育成支援講習会」として「思春期の心身の発達を考える」という子育て支援の専門職向けの講習会を始めた。これは、時代の変化とともに新たに子どもの心身の成長過程やコミュニケーションのあり方を振り返り、思春期に向けての子育てを考えるものである。産婦人科医師と臨床心理士の講義と、グループ討議を行い、好評であった。

2．診療・相談活動

本年度の「小児保健クリニック月別診療・相談件数」は、表１に示した。

診療・相談の総件数は2,666件で、前年より72件増加している。これは健康保険扱いの診療件数が1,259件で前年度より170件増加したためである。新規の来所者が350件から321件に減少した一方で（例年300件前後であり、前年度は多かった）、再診の来所者が増えたためである。医師の診療枠は変わっておらず、肥満を主訴に来所した人が増えており（表４）、保険診療内で継続して行っている栄養相談の回数が増加したことによるものである。乳幼児健康診査（公費）は26件減少、健康診断（自費）は８件の増加、心理・発達相談は1,185件で88件減少している。

「新規来所者の居住地域内訳」（表２）では、東京都内の割合が前年より4.4％減少し77.3％となり、埼玉・千葉県など近隣が増加している。東京都内では、地元の渋谷区は減少しているが、初めて江戸川区が４位に上昇している。「新規来所者の年齢」では、３歳以下の乳幼児が、健康診査件数とともに減り、それが新規来所者数の減少につながっている。

クリニックの受付窓口から

こどもの城小児保健クリニックでは、子どもの心身の発達や健康状態について診療・相談が受けられるようになっています。

昨今はマスコミの影響が大きく、テレビでADHDが取り上げられると、翌日には問い合わせの電話が多くかかってきます。そのような相談は、どこにすればよいのでしょう。神経系の発達障害の場合は、本来は子どもも診てくれる精神科、神経科になります。しかし風邪などと違って、気軽にかかれるそのような病院はなかなか近くにありません。

子どもは診られないという病院も少なくありません。大きな街の総合病院や大学病院にはありますが、子どもを精神科や神経科に連れていくのは、非常に抵抗を感じるかと思います。また、児童相談所や教育相談所なども、事件の印象が強かったり、近所や学校に知られるのではないかという不安から相談しにくいようです。

〔こどもの城〕は大型の児童館ですので、ほとんどの来館児・者は遊びに来る親子です。クリニックも遊び場の一角にありますので、他の病院と比べて来所しやすいようです。〔こどもの城〕の中にあるということが、連れて来る親の不安を軽減している部分は大きいと思われます。

当クリニックは予約診療なので、まず電話で予約していただきます。おそらくかなり迷った末に電話されるのだと思います。どのようなシステムなのか、料金はどれくらいかかるのか、何回くらい通う必要があるのかなどの質問があります。

また、こちらから相談内容を聞く必要がありますが、「落ち着きがない」とか「トラブルが絶えない」など、簡単な主訴に留めます。どのように落ち着きがないのかをこちらに伝えるべく、親御さんは家庭や学校での様子を事細かに説明しようとされます。しかし、まだ受け付けの段階ですからカルテの記録には残りませんし、簡単に聞き取ることによって、実際の診察で自然と具体的に話す状況になるようです。

質問で多いのが「子どもにどう説明して連れて行けばいいでしょうか？」というものです。親は問題意識を感じていても、子ども本人は困っていないという場合です。しかし、必要に応じて知能検査や専門医の診察も必要になってきますから、その見極めをするためには子どもとのやりとりは不可欠になってきます。

「病院に連れていくことで自分が病気だと思ってしまうのでは……」と心配されます。突然白衣のお医者さんが現れて自分のことを聞かれたら、それこそ驚き、傷つく子もいるでしょう。ですから、何も告げずに連れて来るのは避けてほしい旨伝えます。具体的に示すことができず、いつもこちらも困ってしまうのですが、主訴や子どもの年齢、その親子の関係が大きく作用するので、伝え方は親に任せています。

予約はおよそ1か月先になりますし、とてもナーバスな相談内容の方も多いので、受け付けでの不安や疑問はできるだけ解消してもらえるよう努めます。よい診療・相談を受けていただけるよう、その通過点として簡潔かつていねいな受け付けを心がけたいと思います。

（受付窓口担当：浅香千代）

「新規来所者の診療・相談内容別内訳」（表4）では、前年度減少した「発達の相談」は、全体で5.8％増加している。そのなかで、「学習障害・注意欠陥多動性障害」は再び20件から24件（7.5％）に増加。「精神遅滞」「自閉症・自閉的傾向（広汎性発達障害）」も増え、いわゆる「軽度発達障害」を心配した受診が増えているともいえる。

その分「情緒・行動面の相談」は、全体でわずかに減っている（1.6％）。ここ数年は減少傾向である。

「身体的・心身症的な相談」は、「肥満」が前年度から10件（4.2％）の増加があり、ここ数年増え続けている。「メタボリック・シンドローム」への関心の高まりとともに、子どもの肥満も話題になっていることが反映している

【小児保健クリニック月別診療・相談件数（初診・再診内訳）】（表1）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療		96	91	105	117	108	113	102	119	87	102	96	123	1,259
健康診査（公費）		8	8	6	5	6	4	12	15	8	2	9	13	96
健康診断（自費）		1	2	24	0	0	0	0	1	0	1	2	1	32
育児・健康相談		0	0	0	0	1	2	0	1	0	1	2	1	8
心理・発達相談		82	98	108	88	100	81	99	109	116	94	102	108	1,185
ダウン症療育相談		8	7	5	9	10	9	4	6	3	10	9	6	86
合計		195	206	248	219	225	209	217	251	214	210	220	252	2,666
内訳	初診（新規）	24	22	47	28	26	26	24	32	20	18	23	31	321
	再診	171	184	201	191	199	183	193	219	194	192	197	221	2,345

【小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳】（表2）

居住地域	渋谷区	世田谷区	大田区	江戸川区	港区	その他の23区	市郡部	計	埼玉県	千葉県	川崎市	その他	計	合計
人	64	21	16	15	13	98	21	248	22	15	12	24	73	321
（%）	（20.0）	（6.6）	（5.0）	（4.7）	（4.0）	（30.5）	（6.5）	（77.3）	（6.8）	（4.7）	（3.7）	（7.5）	（22.7）	（100）

【小児保健クリニック新規来所者の年齢内訳】（表3）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12~17歳	18歳以上	合計
人	43	44	16	18	40	22	17	25	23	18	20	6	27	2	321
（%）	（13.4）	（13.7）	（5.0）	（5.6）	（12.5）	（6.9）	（5.3）	（7.8）	（7.2）	（5.6）	（6.2）	（1.9）	（8.3）	（0.6）	（100）

【新規来所者の診療・相談内容別内訳】（表4）

	内容	件（%）
発達の相談（疑いも含む）	精神遅滞	33（10.3）
	学習障害・注意欠陥多動性障害	24（ 7.5）
	言語発達遅滞	20（ 6.2）
	自閉症・自閉的傾向（広汎性発達障害）	18（ 5.6）
	ダウン症、その他先天異常	7（ 2.2）
	小　計	102（31.8）
情緒・行動面の相談	情緒障害・情緒不安	31（ 9.7）
	不登園・不登校	12（ 3.7）
	神経症（強迫神経症など）	8（ 2.5）
	育児不安	5（ 1.6）
	集団不適応	4（ 1.2）
	小　計	60（18.7）
身体的・心身症的な相談	肥満（心理的な問題を含む）	49（15.3）
	心身症（脱毛・チック・吃音など）	10（ 3.1）
	夜尿症・頻尿など	8（ 2.5）
	身体疾患（低身長・アレルギー疾患など）	4（ 1.2）
	小　計	71（22.1）
	合　計	233（72.6）
健診	乳幼児健康診査（公費）	71（22.1）
	健康診断（自費）	17（ 5.3）
	合　計	88（27.4）
	総　計	321（100）

と考えられる。

なお、「健診」が前年度より5.6％減少したが、これは前年度が多かったためであり、今までとほぼ変わらない。

3. 赤ちゃんサロン～役割の再考～

本年度の「赤ちゃんサロン」には、年間延べ3,845人（1,890組の親子と17人の妊婦）が参加し、過去最高となった。7月11日には317人と、最多の参加者が集まり、会場は人であふれかえった。

「赤ちゃんサロン」は、平成3年5月に始まり、参加者数の増加に伴って、会場・対象児の上限の月齢などを変えながら、平成12年度から、3か月～1歳6か月児と妊婦を対象に、音楽ロビーで年18回実施するようになり、現在に至っている。参加者数は、増減を繰り返しながらも全体的には増加傾向にある（図1）。特に、前年度は一気に約1,000人も増え（前年比）、本年度はさらにそれを480人も上回った。

このように参加者が多くなってきたいちばんの要因は、〔こどもの城〕がＴＶなどのマスコミに、前年度からよく取り上げられたためと推測される。このことも踏まえて、今の母親の動向を探りながら、母親が「赤ちゃんサロン」に求めているのは何かを再確認してみたい。

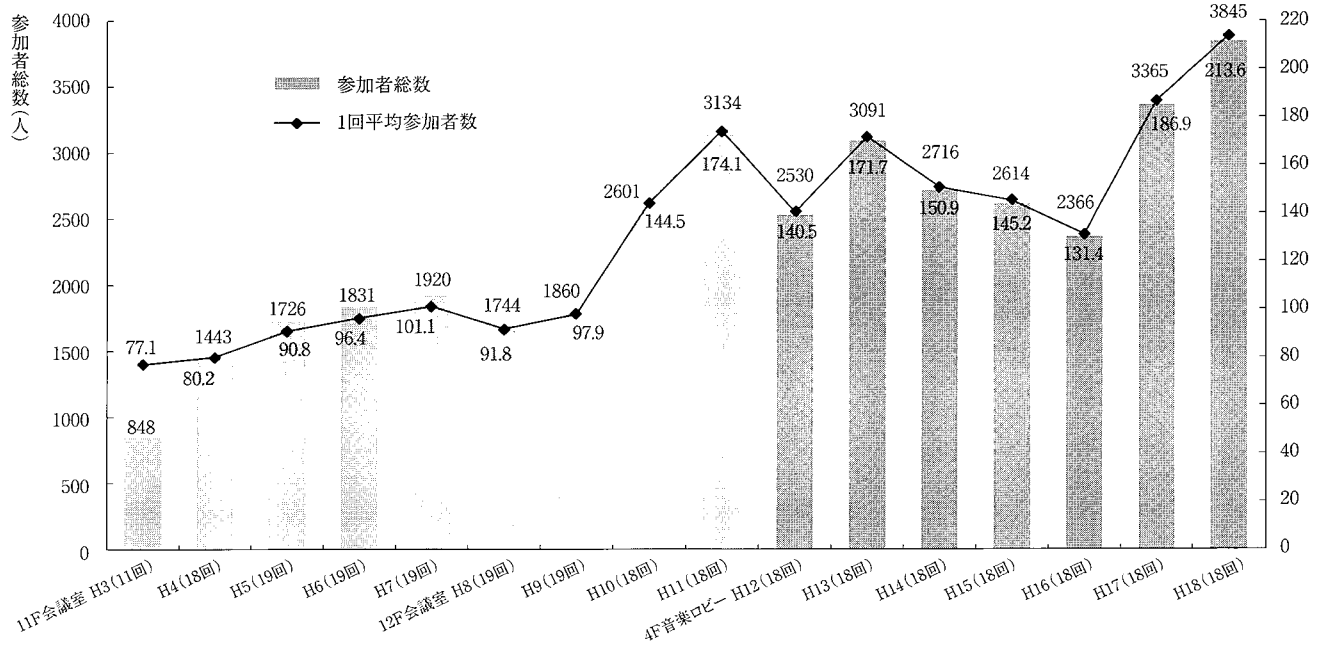
■参加児の低月齢化■

平成6年度は、3～5か月児25人（8.0％）と少なめで、9～11か月児286人（32.3％）、1歳代317人（35.9％）と多く、9か月児が100人（11.3％）で最多であった（図2）。平成14年度も9か月児135人（10.1％）が最多であったが、3～5か月児が216人（16.1％）に倍増し、6～8か月児も351人（26.2％）に増加していた。

そして本年度も3～5か月児429人（22.7％）、6～8か月児574人（30.4％）とさらに増え、8か月児以下が全体の半数を超えるようになった。最多は7か月児210人（11.1％）で、以前より2か月も月齢が低くなっている。

低月齢化は、親が赤ちゃん連れで外出する機会が一層増えてきていることの現れだろう。この傾向は平成14年に

【赤ちゃんサロン：参加者総数と1回平均参加者数の推移】（図1）



【赤ちゃんサロン：地域別参加者の推移】（表5）

	平成6年度（新人のみ）		平成14年度		平成18年度	
1	世田谷区	75（19.3）	渋谷区	248（18.5）	世田谷区	286（15.1）
2	渋谷区	46（11.8）	世田谷区	138（10.3）	渋谷区	233（12.3）
3	港区	31（ 8.0）	川崎市	114（ 8.5）	目黒区	131（ 6.9）
4	目黒区	30（ 7.7）	港区	111（ 8.3）	港区	123（ 6.5）
5	横浜市	28（ 7.2）	目黒区	107（ 8.0）	川崎市	116（ 6.1）
6	新宿区	23（ 5.9）	文京区	61（ 4.6）	都下	101（ 5.3）
7	川崎市	19（ 4.9）	都下	60（ 4.5）	杉並区	81（ 4.3）
8	中央区	15（ 3.9）	杉並区	53（ 4.0）	品川区	69（ 3.7）
9	江東区	14（ 3.6）	大田区	48（ 3.6）	大田区	67（ 3.5）
10	都下	14（ 3.6）	品川区	40（ 3.0）	横浜市	60（ 3.2）

行ったアンケートの結果にもみられていた。「赤ちゃん連れで外食に行く」と答えた母親が、3か月児以上で80％、行く回数は週1回と月1～3回が95％に及んだ。5か月児以上では、2・3日に1回の外食が約10％もみられていた。

親は、赤ちゃんの月齢うんぬんではなく、何か機会があれば一緒に外出して、リフレッシュしたいと望んでいることを再認識した結果であった。

また、低月齢化の要因に、国の子育て支援対策の一つの親子の居場所作りも上げられるだろう。親がそれ程抵抗感を持つことなく、赤ちゃん連れで外出しやすくなった背景があると感じている。その居場所の一つとして、親がこの「赤ちゃんサロン」も評価してくれているのかもしれない。

■母親の7割が30歳代以上■

母親の年代をみてみる。平成6年度には、20歳代383人（43.2％）、30歳代393人（44.4％）と同じくらいだった（図3）。しかし、徐々に30歳代が増え、本年度には、1,233人（65.2％）で、20歳代530人（28.0％）の2倍以上を占めた。また、40歳代も93人（4.9％）と、平成6年度の9人（1.0％）の約5倍に増加している。

母親の年代が上がっていることは、子育てのしかたに何か変化をあたえているのだろうか。学校や職場で学習することを常とし、社会生活において多くの人間関係を築いてきたであろう女性が母親になったわけである。子育てを楽しみながらも、赤ちゃんとの2人きりの生活に、社会から疎外されていると感じてもおかしくないといえる。また、子育てに悩めば、情報収集し、知識の中に答えを求めようとする傾向もあるようだ。これが、赤ちゃんに対して情緒的というより、教育的にかかわろうとする親が増えてきている一因と思われる。

そういう親たちが、多くの親子の姿に触れ、見聞きする内容は、育児書以上に生きた教材である。「赤ちゃんサロン」では、「こんなにたくさんの赤ちゃんに会えるなんて」と、他の赤ちゃんを見る母親たちの目は輝いている。我が子だけの悩みと思っていたことをありふれたことだと気付かせ、安心させてしまう材料が山ほどあるのが「赤ちゃんサロン」なのである。

■参加のきっかけは、口コミとインターネット■

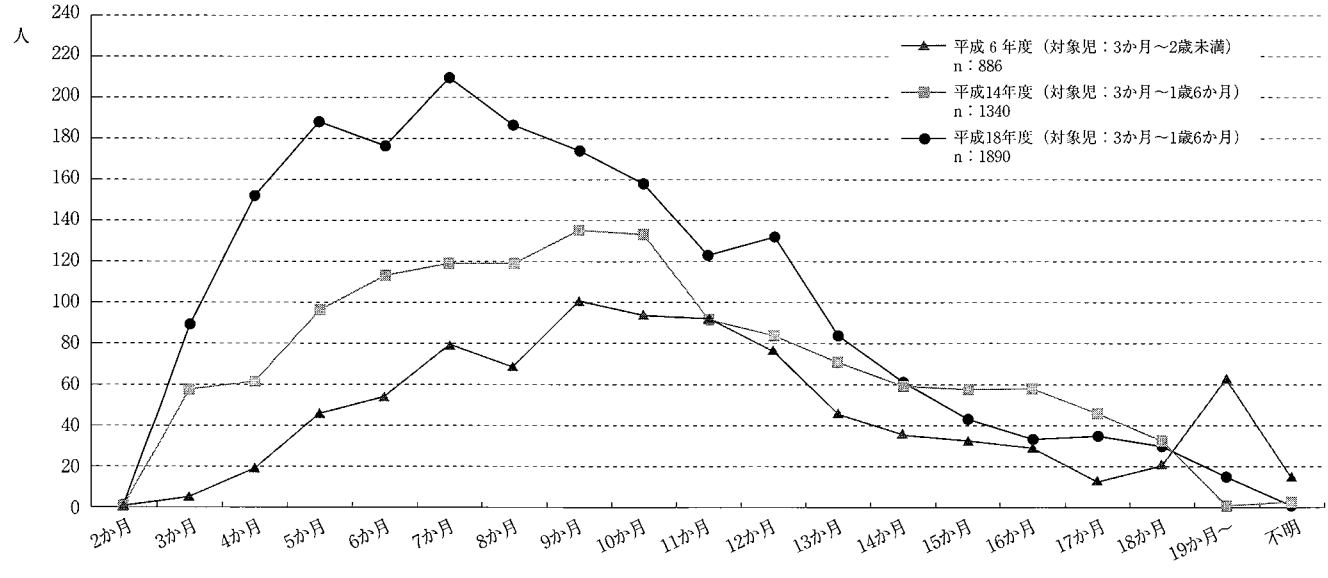
どの年も「赤ちゃんサロン」を知ったきっかけは“友人からの口コミ”が1位で、半数以上を占め、本年度も703人（61.6％）であった（図4）。

〔こどもの城〕ホームページへのアクセスは、平成6年度では数字としてでてこなかったが、平成14年度が141人（19.6％）、本年度が245人（21.5％）と増加が著しい。

参加者のホームページに、写真入りで「赤ちゃんがオムツ1枚だけの裸でいる景色は圧巻」「ママと二人で遊ぶのもいいけど、たまには同じくらいの子と触れ合うのもいいな」「隣のママとまた会おうということになったので、次回も参加します」などと書き込まれているのを目にしたことがある。

また、インターネットで知り合った20人以上の母親たちが「赤ちゃんサロン」に集合し、初めて会うというケー

【赤ちゃんサロン：月齢別にみた参加者数の推移】（図2）



スもあり、一気に参加者数を押し上げることとなった。パソコン、携帯電話などによる情報収集や情報交換が、子育て中の母親の間で、重要なポイントを占めていることを痛感した出来事であった。

このことからも、前年度に〔こどもの城〕がＴＶなどのマスコミに取り上げられる機会が増えたことが、参加者数の増加を引き起こした大きな要素と考えていいだろう。

参加者の居住地の多くは、世田谷区・渋谷区・目黒区・港区と近郊が多い（表５）。〔こどもの城〕まで赤ちゃん連れで来やすい地域である。「地元にも子育て支援センターはあるが、自宅から遠い」「こんなにたくさんの赤ちゃんは来ない」「地元の集まりにもよく行っている」などの参加者の声を聞く。地元の親が赤ちゃん連れで来たいと思える場所として、〔こどもの城〕が果たす役割は非常に大きく、責任の重さを感じる。

■ボランティアの役割■

参加者の増加に伴い、平成16年度から女性ボランティア数人に協力してもらっている。小児保健部のスタッフは、相談などで親子の輪の中に入ってしまうため、全体の状況をこまめに把握することが難しい。女性ボランティアが加わることで、客観的に把握しやすくなった。

多くの親子にかかわれるといいのだが、スタッフだけでは限界がある。そのあたりを女性ボランティアは、親の井戸端会議に自然に参加しながら、きめ細かく対応しているので、大いに助かっている。このようなかかわり方に、子育て支援の原点をみる思いである。

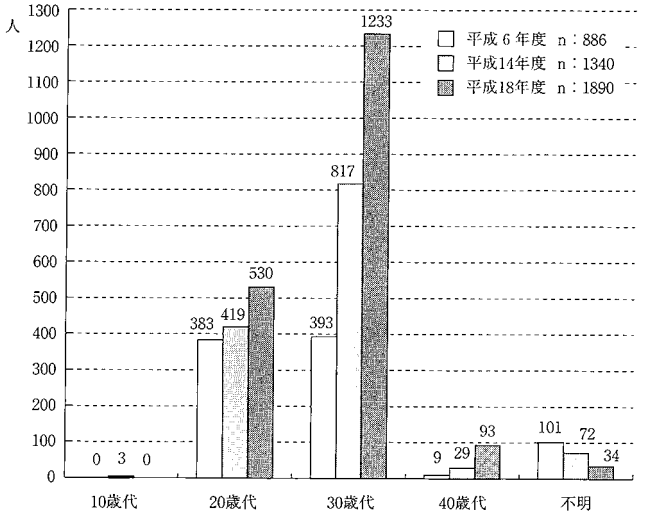
“乳児と親の居場所作り”として始めた「赤ちゃんサロン」の目的は、15年たった現在でも変わらない。多くの母親たちがその居場所に集まってきている。社会の状況が変化しても、乳児と親の関わり方の根本は不変である。その営みを尊重しながら、これからも子育ての応援を続けていきたいと考えている。

4. まとめ

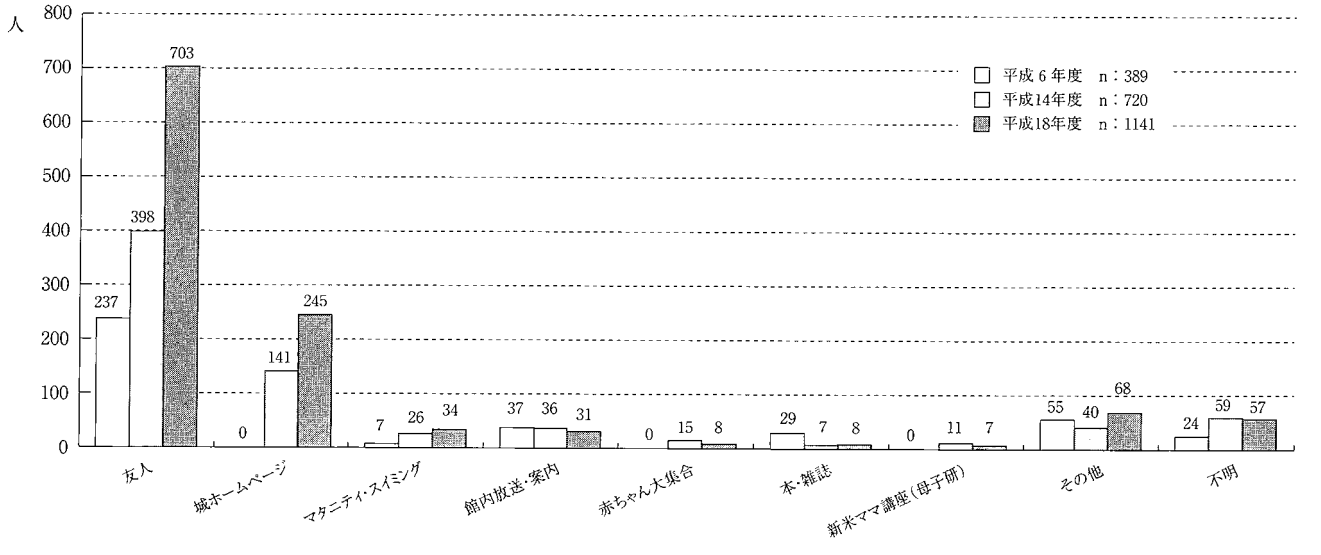
今回は、０～２歳の乳幼児期の子育て支援活動として“広場型”の草分けの一つでもある「赤ちゃんサロン」を取り上げた。本年度はかなり盛況だったことにもよるが、これまでの資料をもとに、その推移を振り返り、参加者の傾向や特徴について探ってみた。

「赤ちゃんサロン」を核に体育や保育の親子（幼児）プログラムを織り込んだ、開館記念ファミリーウイーク特別期間のイベントとして「赤ちゃん大集合」を平成６年度に実施。その後発展して、現在では全館あげての催しとなっている。〔こどもの城〕だけでなく、児童館全体が地域の子育て支援活動への対応を求められているなか、今後のあり方を考える一助にしていただければ幸いである。

【赤ちゃんサロン：母親の年代の推移】（図3）



【赤ちゃんサロン：知ったきっかけの推移（新人：複数回答）】（図4）



0.1.2歳児

私はいつも学生や保育士、ご両親などの集まりのときに、次のような質問をしています。「あなたの脳に貯えられている最も古い記憶は何歳ですか。それはどういう内容ですか」ということです。結果はいつもほとんど同じで、4歳が最も多く、次いで3歳です。2歳は急減して100人に2・3人という程度で、1歳・0歳・さらに子宮内の胎児期はゼロです。

整理すると脳に残っている長期間の記憶の出発点は、生後3歳と結論してよいでしょう。これは3歳ごろになると、日常の行動のなかの何かが、生涯にわたって記憶として残るまでに脳が発達するということです。それだけに日常の短時間の記憶も、このころになるとかなり発達していることがわかります。その結果、3歳児は「さっき」とか、「きのう」とか、時間の感覚も具体的にはっきりしてくるから、「あとで……」とか「あした」ということも理解できるようになります。それは「時間」ということが分かるようになったということでもあります。今これはだめでも、やがてはかなえられるということが理解できるということであります。自分をがまんさせることである「しつけ」や「教育」ができることでもあり、私たち大人の生活に仲間入りできるということでもありましょう。

それなら、「私たちの記憶にない胎児から0・1・2歳児」に対して大人はどのように手を差しのべたらよいでしょうか

【胎児期】 母親の子宮内は、次にあげるように理想的な環境です。

1 子宮内の温度は一定です。
2 胎児に必要な栄養はさい帯を通じて、母親から絶えず補給されています。
3 子宮内は無菌です。
4 羊水内ですから外力から守られていて、皮膚は湿潤です。

妊婦は、日々の生活で栄養をとり、健康に注意して出産を待ちます。

【新生児期】 出産と同時に胎児は自立呼吸が始まって、生命を維持しますが、さい帯が切断されると同時に、ただちに他の人の助けが必要です。

【0・1・2歳児】 これからの3年間、子どもは母親・父親・家族・身近な人たちの助けを借りて、3歳の自立へと発育していきます。それは育てるというより、身近な人が絶えず児に手をかして、本来の成長・発達を応援するからです。さらに周囲の人たちの温かいまなざし・言葉かけ・ふれ合い・喜び・そして健康的な環境などが発育を完成させていきます。

1 まずは環境温度に対してです――衣服・寝具・冷暖房などで、体温が低下しないようにします。
2 出生後の時間の経過とともに空腹です――児は空腹を「泣き」によって訴えます。そのとき母親は抱いて授乳します。成長とともに乳だけでは栄養が不足するので、離乳食・幼児食へとすすめていきます。
3 無菌から雑菌の存在する環境です――感染予防のために環境の清潔が必要です。さらに積極的に感染・発病を予防するために定期の予防接種をします。
4 肌を守らなければなりません――280日も羊水のなかにいて、ある日突然空気の中にさらされるのですから、皮膚は日増しに乾燥します。これを防ぐために毎日のスキンケアが必要です。
5 事故から守ります――やがてひとり歩きなどで行動が広がると、事故が多くなります。大人は児を事故から守る責任があります。

以上は子どもの健康にとってのケアであって、すべてが人の手にかかることです。普通には母親の細やかな配慮での行為だから、いつの間にか子どもと母親は強く結ばれていきます。そして発育とともに日常生活でのケアは多くなります。

○空腹のときはいつでも授乳することで児は満足し、そのくり返しが母と子の信頼を生みます。
○排泄の自立は生涯必要です。児の様子によっておむつを見る、させてみる、できたらほめるで「おむつはずれ」がすすみます。
○ひとり歩きが始まるとき、親は一歩でも歩けたことを喜んで笑顔だから、いつの間にか歩けるようになります。
○乾燥肌を予防するために、肌を清潔にしたあと、保湿剤やクリームなどでスキンケアをしますが、そのとき肌をなでなでることが児を満足させ、親と子の結びつきを強くします。
○寒いとき、児を暖かくくるみ抱っこすることで、児はからだと心の満足があり、人を信頼することを覚えます。
○病気で発熱したとき、親が心配してつきそうことで、児は気持ちが落ち着き治癒を早め、人を信頼することを覚えます。
○いたずらをしてケガをしたときの痛さと、母親の悲しい表情が児の気持ちに通じて、それからの児の行動が変わるかもしれません。
○親は児の言葉を直さないで受け止めるから、いつの間にか日本語を覚えます。

はじめの3年間（0・1・2歳）はまだ自分というものがなく、すべては人とのふれ合いや環境とのかかわりで、心や知能や運動機能などが発達していきます。それは従来の言葉で「育てる」「育児」というより、「ケア」の結果と考えると、ずいぶんと気持ちが楽になることでしょう。

日本は「育児」という言葉が必要以上に使われて、現実に手をかけ過ぎるから、やがて早期教育にまで発展しかねません。私たちの記憶にない0・1・2歳のころは、育児ではなくて「ケア」と考えたいものです。その結果が児の満足した育児と思うのです。

（小児保健クリニック院長・巷野悟郎）

平成18年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
小児保健クリニック （診療・相談） 小児科診療 育児・健康相談 乳幼児健康診査 健康診断 栄養相談 心理相談 発達相談 ダウン症療育相談	月曜日を除く毎日 9:30～17:00 木曜日・金曜日（各月1回）	診療・相談は予約制。小児科医師・保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士が診療・相談にあたる（週2回小児精神科・月1回小児耳鼻科を含む）。 小児科医師の診療には、原則として健康保険が適用される。乳幼児健康診査は、東京都乳幼児健診委託機関のため受診票で受けられる。 育児・健康相談は相談料1回5,000円。心理・発達相談は担当者1人の場合1回50分5,000円、医師の診察を受けずに直接相談に入る場合、初回のみ7,000円、専門相談のダウン症療育相談は、相談料8,000円。 専門医師が担当。（小児保健クリニック）
赤ちゃんサロン	火曜日（年18回） 12:30～14:00	対象は3～18か月の乳幼児とその保護者、妊婦。参加者同士が自由に交流（井戸端会議）し、赤ちゃん同士がふれあう場。小児科医師・保健師・管理栄養士・臨床心理士が加わり子育ての相談も行う。本年度は延べ3,845人が参加した。入館券対応。（音楽ロビー）
第21回マタニティ・コンサート	7.2　15:00～17:00	妊娠中に、楽しくリラックスできるひとときをすごしてもらい、出産を迎えようという主旨のコンサート。マリンバと打楽器で、宮本妥子さんと中路友恵さんの演奏、絵本のスライド上映と朗読とのコラボレーションを行った。このほか、野末源一山王病院産婦人科医師と巷野悟郎こどもの城小児保健クリニック医師の話、体育事業部スタッフによるリラックス体操などを行った。公募、無料招待。179人参加。劇場事業本部との共同事業。（青山円形劇場）

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈開館記念〉 第13回 赤ちゃん大集合 ～赤ちゃんサロンスペシャル～	11.1　10:30～15:30	対象は3か月から2歳未満の乳幼児と保護者。小児保健部は研修室の「赤ちゃんサロンスペシャル」会場で「小児科医師の話」や「井戸端会議」「子育て相談」を行う。また8階で育児用品関係業者・団体による「情報・展示コーナー」を開催。他の事業部もそれぞれ「親子ふれあい遊び」「にこにこパーク」「みんなのにこにこ広場」「うたってバブリン・あそんでバブリン」「子育てビデオ特集」「すくすく体操」などを実施した。参加者は936人（457組）。全館行事として実施。（研修室ほか）

2．講座・クラブなど

〈講座〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
健康スポーツ教室 〈太りすぎクラス〉 第23期	（組） 太りすぎの小学生とその親（20）	（組） ① 19 ② 21 ③ 22	土曜日 14:00～17:00	太りすぎの改善のために医学指導（東京女子医科大学東医療センター医師）・栄養指導（和洋女子大学ほか）・体育指導（体育スタッフ。水泳と体育を交互に）を行う。保護者向けレクチャー（保健、食事、運動の年3回）、親子で屋外活動（等々力ウオーク＝世田谷区＝、森林公園サイクリング＝埼玉県＝の年2回）、夏合宿は台風のため中止。体育事業部との共同事業。 受講料1・2期（各12回）各22,000円、3期（9回）18,000円。 （小児保健クリニック／体育室／プールほか）

〈クラブ〉

名称	対象・定員	受講数	日時	内容
マタニティ・スイミング	(人) 妊娠16週以降の妊婦 (35)	(人) 4月22 5月29 6月35 7月36 8月26 9月23 10月20 11月20 12月18 H19年 1月15 2月16 3月14 (計274)	火・木曜日(月7回) 11:00〜12:00 ※夏休み特別期間(7.21〜8.31)は10:30〜11:30	妊娠中、心身ともに健康に過ごすことを目的として水泳を行っている。母になる人々の友だち作りにも役立ち、妊娠期からの子育て支援の意味も大きい。水泳前後の検診は、日本赤十字社医療センター産科医師、助産師と小児保健スタッフが担当。年4回レクチャーも実施。体育事業部との共同事業。 入会金10,000円、受講料12,000円(月額)。(プール)

〈短期講習会〉

名称	対象・定員	受講数	日時	内容
季節の離乳食	(組) 5〜15か月の乳児とその親(10)	(組) 5月11 7月12 9月 9 11月 9 H19年 1月13 3月15	金曜日(隔月) 13:30〜14:30	離乳食の作り方・与え方に悩む母親たちに、実際に調理した食材などを見せながら、ちょっとした工夫でできる調理法などを紹介。互いに疑問点を質問し合い、話し合う母親同士の交流も大切な要素になっている。受講料2,000円(1回)。(小児保健プレイルーム)
親子のほっとタイム	3〜18か月の乳児とその親(10)	6月23日 7 30日11 7月7日11 9月29日12 10月 6日 7 13日11 H19年 3月2日 8 9日10 16日 8	金曜日 13:30〜14:30	「健康管理」「食生活」「心とからだの発達」の3つのテーマを各3回。親同士のなかに小児保健部のスタッフが加わり、子育ての疑問や悩みなどを話し合う。話を聞いて正しい情報を知ることで、不安を解消し子育ての自信をつけてもらうことが目的。受講料2,000円(1回)。(小児保健プレイルーム)
こども1日ドック	小・中学生 (10)	5	7.26 12:30〜17:00	対象は小・中学生。医学と体育の両面からの総合健康診断。小児科医師による診察、尿検査、血圧測定、身体計測、生活習慣調査、食生活調査、性格テスト、体力測定の結果に基づいて診断・指導を行う。受講料10,000円。(小児保健クリニック/健康開発室)

〈専門指導者向け講習会〉

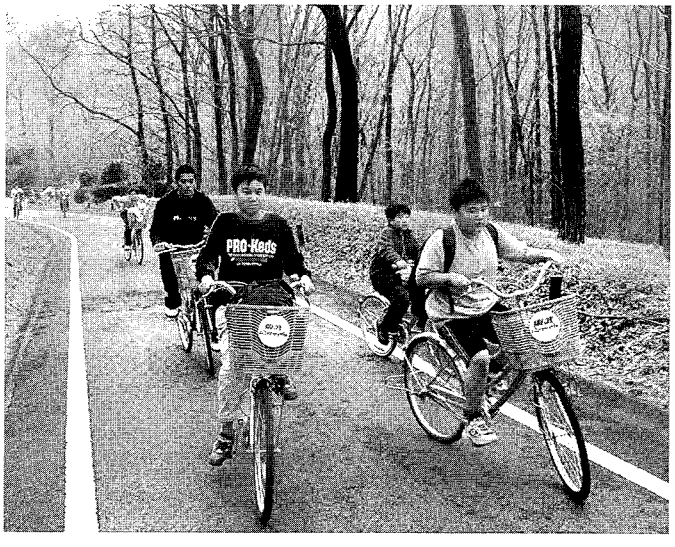
名称	対象・定員	受講数	日時	内容
第21回小児保健セミナー「気になる親へのかかわり方 PART2〜上手な話の聴き方・伝え方〜」	(人) 保育士・児童厚生員・保健師・看護師・養護教諭など子育て支援の専門家 (100)	(人) 119	12.2 10:00〜17:00	親(家族)の心の問題をどうとらえればいいのか、また現場での実際の対応にはどのように気をつけたらよいのかを学び、さらに私たち自身の言葉の話し方をみがくという内容だった。「言葉・わかりやすい伝え方」(今井登茂子:株式会社TJコミュニケーションズ・とも子塾主宰)、「現場での対応」(花山美奈子:調布市子ども家庭支援センター・臨床心理士)、「親の心の問題への対応」(木部則雄:白百合女子大学・児童精神医師)の3氏の講演を行った。受講料7,000円。(研修室)

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	(人)	(人)		
子育て支援講習会（第7回／第8回）「最新の小児保健の基礎と実際～0.1.2歳児の心とからだの健康～」	保育士、栄養士、看護師、保健師など (50)	57 54	6.10（第7回） 10:00～16:00 H19.2.16・17（第8回） 10:00～17:00	子育て支援の活動にたずさわる現場の職員の研修会。「最近の子育ての問題点」のほか、「健康管理や応急処置」「離乳食や食生活一般」「気になる子どもの理解とその対応」などの講義、「子育て支援の方法と実際」の説明や質疑応答による情報交換の時間を持った。講師は小児保健部スタッフ。保育所、児童館、保健センターなど全国各地から中堅の職員が多数参加。どちらのコースも定員を上回る申し込みがあった。第7回（1日）は受講料7,000円、第8回（2日間）は受講料13,000円。（研修室）
第1回次世代育成支援講習会「思春期の心身の発達を考える」	児童厚生員、保育士、心理相談員、保健師など (50)	31	2.23 10:00～17:00	本年度から新たに始めた講習会である。思春期の子どもの体や心の変化などを理解し、学校や児童館、保育所での援助や指導を考えていく講習会。「思春期の性の悩みとその対応」（北村邦夫：日本家族計画協会クリニック・産婦人科医師）、「思春期の心――非行の心理をとおして」（吉岡忍：吉岡クリニック・臨床心理士）、「情報交換」。受講料7,000円。（研修室）

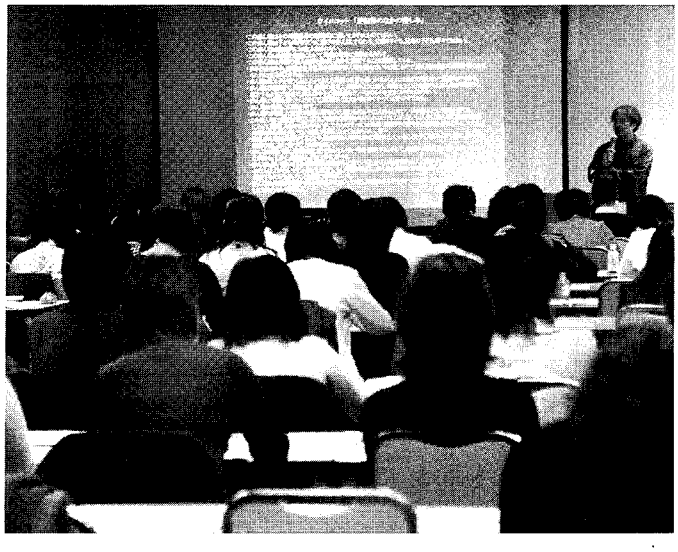
3. その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	9.29	親子向けの体育プログラムに管理栄養士が同行。「赤ちゃんサロン」のように、親同士の交流の場に援助者が加わって相談ができるようにする方法を実際に行った。食生活などについて親向けのトークを行った。午後は職員向けに乳児を持つ親子への子育て支援の方法について研修会を実施した。（岡山市清輝児童センター）
〃	10.20	〃（埼玉県蕨市福祉・児童センター）
〃	11.22	親子向けの体育プログラムに保健師が同行。親向けに、冬の季節の健康管理を中心に話をした。午後は研修会を行い、地域の広場型子育てサロンの実情・悩みを一緒に話し合った。（兵庫県姫路市東児童センター）



「健康スポーツ教室」の野外活動（森林公園サイクリング）



第21回「小児保健セミナー」

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
藤沢市教育委員会相談指導教室研修会	6.22、7.20、9.21、11.30	不登校の児童・生徒の相談・指導にあたっている教職員の研修会に、定期的に臨床心理士が出向いて助言・指導を行った。（神奈川県藤沢市教育委員会相談指導教室）
新潟市市民局保健福祉部こども課「乳幼児の発達と子育て支援」	6.30	子どもの発達について臨床心理士が講演。（新潟市総合福祉会館）
和歌山県那賀振興局健康福祉部「こどもの食生活について」	7.31	子どもの食生活について管理栄養士が講演。（和歌山県那賀振興局会議室）
宮崎県児童館連絡協議会「児童の発達理論」	9.5・6	子どもの発達について臨床心理士が講演。（宮崎県延岡市ＪＡ延岡会館）
山梨県児童館連絡協議会「児童の発達理論」～幼児期から小学生までの心の発達～	9.21	子どもの発達について臨床心理士が講演。（山梨県立青少年センター）
法政大学現代福祉学部「フィールドワーク入門」	12.14	〔こどもの城〕小児保健部の活動について臨床心理士が講演。（法政大学）
三重県熊野保健福祉事務所「食育フォーラム」	H19.1.28	親子向けに食生活について管理栄養士が講演。（三重県熊野市福祉センター）
三重県医師会「肥満の子どもの心理的理解と対応」	3.11	肥満の子どもへの対応について臨床心理士が講演。（三重県医師会館）

企画研修部



平成18年度の活動

1．はじめに

企画研修部の仕事は〔こどもの城〕の事業部全体にかかわること――事業全体が上手く機能するように準備をしたり、調整したり、また事業終了後の総括を行うこと。具体的には事業全体のとりまとめ、全館事業やギャラリーや研修室、フリーホールなどの共有スペースを使った一般来館児・者を対象とした催しの実施、グループ活動、野外活動などの企画調整、業務部総合案内課とともに「こどもの城友の会」の運営、外部関連団体との協力事業などである。

ボランティアの活動も事業部全体にかかわるものである。養成と日常活動のコーディネートのほかに、夏休み・春休み特別期間の野外活動を行うとともに、高校生の社会参加を目的としたクラブ「L. I. T.」（高校生ボランティア）の運営にあたった。

また、児童厚生員などを対象とした実技指導講習会などの企画運営にあたるほか、国庫補助事業〈動くこどもの城〉の事務局、全国の児童館などの情報の収集、子育て支援基金からの助成を受けての全国レベルでの子育て支援にかんするモデル事業（助成金事業については「こどもの城から全国へ」＝137ページ＝の項参照）、（財）こども未来財団に協力して子育て支援にかんする研修会を実施した。

2．事業全体のとりまとめ

企画部門の基本的な業務は、劇場部門を含めた複数の事業部にわたる事業調整にある。具体的には、「事業計画書」および「事業報告書」の資料とりまとめ、事業内容をまとめた小冊子『こどもの城事業と運営』の年次改訂、特別期間ごとの事業計画のとりまとめ、日常的なものでは週間事業予定表や週末・特別期間の館内掲示用事業予定“デイリー版”の作成などである。

基本的なことでありながら、変更の見落としや場所の調整忘れなどの間違いがないわけではない。細心の注意を払うことはもちろん、間違いが起こりにくい手順、形式を考え、冊子や案内の内容が利用者の立場にたって、分かりやすく、使いやすいものであるように改良をしていきたい。

（ア）来館児・者を増やすために

年間をとおした小学校開校記念日の全児童招待（渋谷・港の２区）を本年度も継続して実施した。前年度は経費削減のため見合わせた春休みの新１年生招待（渋谷・港・目黒・世田谷の４区）は、入館者増を目的に、渋谷・港の２区のみ復活させ、招待券（引換券）とちらし約1,300枚を送付した。回収率は渋谷区4.7％、港区4.0％、合計で4.4％だった。

小学校開校記念日の招待券回収率は、渋谷区7.2％（17年度6.8％、16年度9.0％）、港区5.7％（17年度7.0％、16年度6.4％）だった。余裕をもって多めに券を配布しているため、単純に回収率が伸びないとの評価はできない。地元とのかかわりを持ち続けていくためにも、小学校開校記念日招待は今後も継続したい。

前年度の冬休み以降、経費削減のため中止していた特別期間の案内ちらしの発送は、本年度も行わず、新１年生招待に春休み特別期間のちらしを同封しただけである。印刷費、発送費は大きいが、効果的なＰＲ方法として、近隣小学校や児童館へのちらし配布を再考していきたい。

優待パス類では、平日の大人用の「平日ゆうゆうパス」328枚（前年度357枚）はわずかに減少、小・中学生土

曜日パスは54枚（前年度50枚）とやや増加、夏休みフリーパスの子ども用「ドキドキパス」143枚（前年度118枚）、大人用「わくわくパス」133枚（前年度106枚）で若干増加した。

（イ）グループ活動

受け入れ件数は、163団体3,400人。過去最高となった前年度には及ばなかったものの、件数、利用者ともに依然として高い水準を維持している。受け入れ実績の少ない小学生・中学生について、今までグループ活動の枠内プログラムの充実という形で検討してきたが、今後は職場体験など他の方法とあわせてトータルで検討していきたい。

（ウ）〈動くこどもの城〉

※「こどもの城から全国へ」（137～144ページ）参照。

（エ）こどもの城友の会

「こどもの城友の会」は、家族単位で入会してもらい、〔こどもの城〕の施設を積極的に利用し、さまざまな催しに参加してもらう会員組織で、本年度も別表のように一般の催しへの優待や友の会独自の催しを行ってきた。

会員のための会報「こどもの城友の会通信」を年12回発行し、平成19年3月で通巻120号となった。会員から「情報を送ってもらえるおかげで、こどもの城へ通う回数が増えた」「来館するときは、郵送された情報を電車の中で見ながら、回る順番を考える」などの意見が寄せられている。「こどもの城ニュース」（年11回）、講座募集や催しの案内なども、会員あてに毎月1回発送した。

年度末での会員数は、1,125家族（前年度1,236家族）で、若干減少している。劇場事業部との連携で、劇場招

【「こどもの城友の会」の活動】

プログラム名	日時	内容
催し招待	6.3	外苑前・テピアプラザで実施の『古田貴之先生によるロボット解体ライブ』に、友の会優先枠（100席）を設け招待。協力：TEPIA。
催し優先受け付け	6.11～7.9（期間中の土・日曜日）	『ダイアログ・イン・ザ・ダーク　子どものためのワークショップ』への優先受け付け。
特別試写会招待	6.17	映画『カーズ』特別試写会に優先枠（100席）を設け、招待。東商ホール。協力：ブエナ ビスタ インターナショナル（ジャパン）、新通。
劇場公演優待	9.23～25	デフ・パペットシアター・ひとみ『はこBOXES じいちゃんのオルゴール♪』前売り料金優待。
催し招待	9.27	カナダ大使館主催『カナダの絵本作家・イラストレーター ジョエル・アソグバさんの朗読とお話の夕べ』に優先招待。
特別試写会招待	12.1	映画『ライアンを探せ！』特別試写会をブエナ ビスタ試写室（50席）で実施。協力：ブエナ ビスタ インターナショナル（ジャパン）、新通。
〃	12.16	映画『シャーロットのおくりもの』特別試写会に優先枠（60席）を設け、招待。東商ホール。協力：パラマウント・ピクチャーズ。
ワークショップ	12.26	『友の会年末もちつき大会おそなえ餅づくり』。会員家族が集い、餅をついて鏡餅を作るワークショップ。三方やかるたも作り、作ったかるたで遊ぶ交流も実施。17家族49人の参加。
催し招待	H19.3.3	外苑前・テピアプラザで実施の『ロボット&サイエンス@TEPIA 遊んで、学んじゃおう！サイエンスショー』に、友の会優先枠（90席）を設け招待。協力：TEPIA。
ワークショップ	3.21	『森まつりツリーをつくろう！』。春休み特別期間ギャラリー企画『ニッサンゆかいな絵本と童話展』会場装飾用タペストリー作り。5家族15人参加。会期中（3月24日～4月5日）の会場を飾った。
劇場公演などに招待・優待	通年	以下の公演に抽選で招待。（青山＝青山劇場／円形＝青山円形劇場） こどもフェスティバル（円形）／ダイアログ・イン・ザ・ダーク　トークイベント／月猫えほん音楽会2006（円形）／DANCE★NOEL2006クリスマスの贈物（青山）／氷山ルリの大航海（青山）
		そのほか、自主公演の料金割引などの優待を以下のように行った。 少年隊PLAYZONE（青山・優先予約）／タントさんのふしぎなレストラン『野菜の国からSOS』（円形）／オブジェクトシアターvol.10 KOUSKY Ⅳ（円形）

待・優待を頻繁に行うほか、外部協力による映画試写会などの友の会特別招待イベントを増やし、キャンペーンも行っているが、会員増のための決定的効果をあげられないでいる。

年末の「友の会おそなえ餅づくり」や春休みの装飾制作「もりまつりツリーをつくろう」など、会員限定のワークショップを本年度新たに開催。多くの家族が参加し、会員同士の交流を楽しみながら、ふだんなかなか体験できない経験をした。

（オ）特別期間などに実施した事業

特別期間などには、ギャラリーや青山円形劇場などを使って、外部関連団体との提携事業などを積極的に行った。

3．ボランティアの活動と養成

〔こどもの城〕には、スタッフとともに、児童の健全育成活動を行う、こどもの城ボランティアがいる（登録制）。このボランティアを養成し、活動に参画してもらうことも大切な事業の一つである。

ボランティア活動を希望する人に対し、年３回の講習会を実施している。講習会は対象別に２種類。大学生と社会人を対象とした「ボランティア講習会」（年２回）と、主に平日昼間に参加しやすい女性を対象とした「女性ボランティア講習会」（隔年１回）である。「女性ボランティア講習会」は、隔年実施のため本年度は実施しなかった。

「ボランティア講習会」を修了した50人が新規登録した。前年度からの継続者を含め、年度末までの登録人数は、青年ボランティアが216人、女性ボランティアが85人、合計301人となった。

これら登録ボランティアは、毎月延べ640人余りが、さまざまな活動を行っている。

（ア）ボランティアの活動

児童福祉週間（ゴールデンウイーク）、夏休み、開館記念



夏休み特別期間プログラムの企画会議をするL. I. T. メンバー

ファミリーウイーク、冬休み、春休みなどの特別期間に、３～７日の連続した日程で行う活動を“特別期間活動”と呼んでいる。主にプレイ事業部、企画研修部スタッフとともに、約２か月前から数人のボランティアがプロジェクトチームを編成し、企画、準備、実践までのすべてのプロセスにかかわった。

本年度は、主に学生のボランティアが中心になって活動した。若い世代のボランティアのユニークな発想と行動力が生かされる活動となった。

（イ）L．I．T．の活動

「L. I. T.」（Leader In Training）は、高校生の社会参加活動プログラム。前年度の９月から継続しているメンバーが８月まで。そして、９月から新しいメンバーで本年度の活動を行った。

８月には、前年度から活動しているメンバーがまとめの活動として、事前募集した小学校１～３年生の子ども30人を対象に２日間にわたって、会場を一つの王国に見立てたロールプレイングゲーム「キャッスルアドベンチャー」を実施した。「L. I. T. と子どもたちで、同じ目線になって遊びを作り、楽しむ」「仲間とともに遊びを考えることで、友だちの輪を広げ、また、自分もみんなも楽しめるということを見つけ出す喜びを味わってもらう」ことを目標としたプログラム。

目標にある「子どもたちと同じ目線になって遊びを作り、楽しむ」という部分は、４月に行った見学活動で世田谷プレイパークを訪問した際に、常駐のプレイリーダーから学んだ要素である。子どもの遊びを支援する大人にとって、子どもと同じ目線になって考え、楽しむことが、とても重要であることを、この見学活動をとおして学んだようだ。それが、最終的なプログラムの目標として掲げられるようになった。

前年度の課題として、活動の画一化があげられたが、見学活動という新しい活動が、彼らにとって大きな刺激になり、よりよい健全育成プログラムの立案に結びついたのは確かなようだ。最終回の活動で彼らはこんな感想を述べている。

「今日仙人をやって、子どもとふれあえて楽しかった。子どもたちの発想はすばらしい」「子どもと一緒にいて大切なのは、笑顔だと思った。子どもと遊ぶのはすごく好き」「子どもは現実的だと思ったが、いろいろなことを深く考えていてすごいな、おもしろいなと思った」「この企画を作るのにかけた膨大な時間で、子どものことを考えて作ったが、子どもは予想外の動きをした。子どもってなんにでも一生懸命。子どもってすごいな」「子どものパワーってすごい。楽しもうという気持ちできているから楽しそう＆おそろし

い」「子どもといられて楽しかった。子どもは発想が豊か。ほかのL. I. T. の対応を見ていて勉強になった。見習いたい」。こうした感想からも、彼らの子どもに対する理解、子どもと活動することの喜びの体験が、より一層深くなったようだ。

今までの「L. I. T.」は、児童健全育成のテーマの一つでもある“子ども・遊び”にこだわりすぎて、多様な活動を生み出す機会を失っていた。特定のメンバーとの安定した活動は、彼らの居場所にはなったかもしれないが、自我を目覚めさせ、自己実現に向けて他者とのよりよいパートナーシップを結びながら、自律した個人として社会に飛び立っていく機会とはなりえなかったと考えられる。そこで、本年度の「L. I. T.」は、個々の居場所としての機能を果たしながらも、そこで自律した個を育てる機会となることをねらいとして次のような目標をあげ実施した。

(1)「L. I. T.」は高校生のボランティア活動であり、ボランティアの原則である“自発性と主体性”“社会性と連帯性”“無償性と無給性”“創造性と開拓性と先駆性”を忘れてはならない。また、ボランティア活動は多様であることも大事な要素である。多様な活動内容、多様な人材を生かして活動することが非常に大切である。それを実行するためには“パートナーシップ”がなによりも大切であることを忘れてはいけない。

(2) 行政が行う福祉サービスとボランティアが行う福祉サービスの違いは“一人ひとりの対象者にあわせた温かさを提供できる”ことである。そのためには、相手の気持ちを感じること、イマジネーションする感受性を訓練することが重要である。

(3) ボランティア活動は、“気づき”“学び”“成長”の場である、そのためには何よりも、学ぼうとする積極性と、あらゆる人、事柄から学び取る謙虚さが大切である。

(ウ) 野外活動

野外活動へのボランティアの参加は、単にキャンプへの同行にとどまらず、準備からキャンプ後のフィードバックまで一貫して活動にかかわり、長期間にわたる活動のなかで、それぞれが自分の位置を確認して主体的にかかわりを深めていくことになる。本年度は、「ジュニア・アウトドア・スクール」「ジュニア・スプリング・キャンプ」の2つのキャンプを実施した。

【ジュニア・アウトドア・スクール】

ボランティアから26人の応募があり、全員に参加してもらった。26人中社会人が、18人となった。そのためキャンプ期間中、途中帰り、途中参加のリーダーが多く、実働数としては22人程度となった。

しかし、約8割が3回以上の参加経験を持つリーダーだったため、キャンプ運営に大きな支障はなかった。社会人が多いこと、学生を中心にした新規リーダーが参加していないことから、今後のリーダー組織の継続に課題が残るキャンプとなった。男性8人、女性18人の計26人が参加した。

【ジュニア・スプリング・キャンプ】

定員15人としてボランティアを募集したが、本年度は応募状況が悪く、定員を満たすために苦労した。例年、年度末のため社会人の参加は少なく、学生の参加率が高かったキャンプであるが、大学のオリエンテーション等の日程が3月末に設定されることが多く、参加したい気持ちはあるが、断念するケースが多かった。学生のライフスタイルが社会状況、学校運営の影響により大きく変化し、キャンプに限らず、学生ボランティアの参加が少なくなっている。こうした状況にどう対応していくかがこれからの課題だ。男性5人、女性10人の合計15人が参加した。

【その他のキャンプへの参加】

この他、他事業部からの活動依頼を受けて、下記の野外活動に多くのボランティアが参加した。

チャレンジキャンプ（体育事業部）／ちびっこ冒険団（プレイ事業部）／フェローシップキャンプ（プレイ事業部）／ゆきんこ冒険団（プレイ事業部）

(エ) ボランティアの養成

ボランティア活動を希望する人を対象とした講習会を以下のとおり行った。

【ボランティア講習会】

大学生以上（社会人を含む）の青年層を対象とした講習会を2回実施。第54期講習会は5・6月に行い、28人が受講、21人が登録した。第55期講習会は平成19年2・3月に行い、22人が受講、全員が登録した。

第55期講習会は、前年度の課題を踏まえ、実施期間を大学生が春休み中の2・3月に実施し、多くの参加を期待した。しかし、結果的には、30人の定員を満たすことができなかった。〔こどもの城〕に登録するボランティアのうち、大学生はわずか4％になっている。子どもの健全育成を担う施設として、若い世代の人的資源を確保することは、非常に重要な役割であろうと考える。〔こどもの城〕を訪れる子どもたちにとって、意欲あふれる大学生と行うさまざまな体験は、ベテランの専門スタッフとはまた一味違う、喜びと学びを与えるだろうと考える。

大学のカリキュラムの変化、インターンシップ制度の導入、就職活動の現状など、大学生を取り巻く環境はここ数年大きく変化してきている。それに加え、ネット配信等による情報伝達方法の変化も大きい。時代の変化に対応した、講習会のスケジュール、広報手段等を検討し、一人でも多

くの学生ボランティアの確保に努める必要がある。

【ボランティアグレードアップ講習会】

例年実施している野外活動の技術講習を目的としたものを、6月と平成19年2月に実施した。

6月の講習会は、「ジュニア・アウトドア・スクール」の事前トレーニングと位置づけ、船橋県民の森キャンプ場（千葉県）で実施。野外活動の技術の再確認とともに、キャンプ組織運営のシミュレーションを行った。「ジュニア・アウトドア・スクール」は実施地が遠方のため、現地でのリーダートレーニングは実施していない。今回使用したキャンプ場は実施地の環境に近く、初参加者にとって、実際のキャンプのイメージをつくりやすかったようだ。

2月は「ジュニア・スプリング・キャンプ」のための現地トレーニングをかねて、新潟県国立妙高青少年自然の家で実施した。経験者の知識、技術を生かし、イグルー作りのトレーニング、ネイチャースキーの指導法、スキーハイキング指導法などのトレーニングと自然観察を兼ねた。こうした取り組みは、参加者一人ひとりのより積極的な姿勢の醸成と、初参加者との人間関係の活性化などの面でもその効果をあげている。

4. 講座・クラブ

【社会福祉講座「じょいんクラブ」】

“手話”に親しみながら、手話を仲間とともに行うなかで仲間作りをしたり、社会のさまざまな状況の中で生活をしている人たちのことを気づき、次代を担う子どもが、どんなことができるかを考えるきっかけを作る目的で実施している。

手話習得には、前年度から引き続き中野佐世子さん（手話通訳士）を講師に招き、指導をお願いした。本年度は、子ども同士のグループ活動を増やし、手話の学習とグループ活動の両面を活動の柱とした。

手話を中心とした体験学習では、自己紹介、伝言ゲームなど、子どもたちが楽しく、遊びながら学べるようにプログラムを構成。さらに、車椅子を使い館内を移動するワークショップや、障害者スポーツのDVDを鑑賞する活動を行い、そこで感じたことをみんなで分かち合い、より深い福祉の視点を学ぶ機会とした。

本年度の特徴的なプログラムとして、高校生ボランティアL. I. T.との交流活動があげられる。10月14・15日の1泊2日で、足柄ふれあいの村（神奈川県）を会場に合同合宿を実施。また2月には、L. I. T.が取り組んでいたタウンマップ作成のためのフィールドワークを実施した。

合同合宿では、秋まっさかりの大自然の中で、高校生とともに野外ゲームや野外炊事に取り組んだ。高校生との交流活動、そして通常の活動とは異なるフィールドの屋外活動は、じょいんクラブメンバーの人間関係や体験学習の幅を大きく広げる機会となった。

活動のまとめとなっている、プレイホールで展開する子どものためのプログラムを本年度も実施した。1月から話し合いを行い、3回の準備活動で実施に至った。プログラム名は「じょいん ＤＥ Ｑ」。幼児から小学生を対象に、手話など、講座で学習したことを取り入れたクイズやゲームと、折り紙でトトロを制作するワークショップを行った。

プログラム計画段階で子どもたちが大切にしたことは、参加する子どもたちが客体にとどまることなく、クラブメンバーと一緒に考え、クイズを出せること、すなわちクラブメンバーがそのグループ討議の際、まとめ役となって働きかけるということだった。

じょいんクラブのメンバーが実施する、子どもが考える子どものためのプログラムは、本年度で3年目を迎えるが、年を追うごとに、その自発性や積極性が増し、メンバーが主体的に取り組む活動となっている。それとともに、メンバー同士のチームワークや小さな子どもとのかかわり方にかんしても、より深く考え、行動するようになってきた。

子どものための社会福祉講座であるじょいんクラブは、現代社会のさまざまな状況の中で生きていく人たちのことに気付き、自分でできるアクションを考え、実行していくことが大きな目的となっている。学んだことを、子どもたちへのプログラムへと昇華させ、さらに自らが成長する、こうした体験学習の連続性を、今後もクラブ運営の重要なプロセスとして考えて行きたい。

5. まとめ

前年度は〔こどもの城〕開館20周年記念の事業が行われた。その事業を進める過程で、今までの事業の総括と今後の活動の指針を打ち出したいと考えていたが、記念事業を先行させ、果たせなかった。

社会情勢や施設としての〔こどもの城〕へのニーズの変化に対応していくため、乳幼児連れの来館者への対応、小学生が多い土・日曜日の対策、中高校生の職場体験など、ボランティアの育成や活動を含めて、できることから少しずつ手をつけているが、長期的な計画と展望については依然としてまとめきれていない。仕事は多岐にわたり、しかも期限もあるので、一つずつていねいに対応していかなくてはならないが、同時に企画という立場からは、全体としての事業の方向付けと、その方向付けのなかで個々の事業を遂行できるようにすることを次年度の課題としたい。

平成18年度活動一覧表

1．一般利用

〈展示・ワークショップなど〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 こども探偵団	4.29～31、5.3～7 開館時間中	探偵団員になるための修行として、ギャラリー内に隠されたヒミツを探しあて、最後にキーワードを推理し、正解を見つけるという遊び。無事に答えを探しあてた参加者には、「探偵団員証」を発行した。単純なルールの遊び方が好評だった。（ギャラリー）
〈 〃 〉 こどもフェスティバル 『おんがくがスキ！』	5.5　13:30～14:40 15:30～16:40	来館児・者の多いゴールデンウイークに、家族で、劇場で気軽に楽しめる質の高い催しとして、青山円形劇場で毎年実施している。出演バンドの「ガドガド」は、音楽ロビーの一般活動から生まれたバンドで、こどもの城音楽事業部スタッフとこどもの城の活動に協力してくれているミュージシャンがメンバー。円形劇場での公演は、本年度で14年目。聴かせる曲、遊べる曲、踊れる曲、コントのような楽器紹介シーンもあり、毎年趣向を凝らしている。おもしろくも質が高い演奏と演出で、小さい子どもからすべての年齢の来館者が共有できる、音で遊べる時間・空間を提供している。2回公演で、延べ640人が参加。（青山円形劇場）
〈 〃 〉 アイスクリームの プレゼント	5.3　11:00～12:00 13:00～15:00	5月9日のアイスクリームの日にちなんで、来館児・者にアイスクリーム1，500個をプレゼント。協力は（社）日本アイスクリーム協会。（フリーホール）
〈 〃 〉 くらやみコンファレンス	5.6　11:00～17:00	日常生活のさまざまな環境を織り込んだまっ暗な空間を、聴覚、触覚、嗅覚、味覚など、視覚以外の感覚を使って体験するワークショップ「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」が、社会や子どもに対してどんなことができるのか、参加者とともに探るコンファレンス。ゲストは、藤原和博（杉並区和田中学校長）、松村道夫・檜山晃（ダイアログ・イン・ザ・ダーク アテンド）、志村季世恵（NPO法人ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン）。参加80人。共催：NPO法人ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン、TBSラジオ＆コミュニケーションズ。敬称略。（青山円形劇場）
〈 〃 〉 くらやみコンサート	5.7　13:00～14:00 15:00～16:00	6月に実施する、「ダイアログ・イン・ザ・ダーク for Children」の告知を目的に、暗やみの中でのコンサート、素話、リズム遊びを実施した。共催：NPO法人ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン、TBSラジオ＆コミュニケーションズ。2公演で400人参加。（青山円形劇場）
〈児童福祉週間 ＆開館記念〉 マックロー グリーティング	5.5，11.3　11:00～ 14:00～ 17:00～	〔こどもの城〕のマスコット、マック・マックローの誕生日である5月5日の「こどもの日」に、アトリウムで子どもたちを出迎え、握手をした。11月3日には開館21周年を記念して、マックロー・メモ帳を配布しながらグリーティングをした。（館内各所）
ダイアログ・イン・ ザ・ダーク for Children	6.11～7.9（土・日曜日） 12:00～、13:00～、14:00～、 15:00～、16:00～、	前年度に引き続き、子どもを対象とした「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」を実施。森の中を散歩するというストーリーで、暗やみのなかでさまざまな体験をしてもらった。延べ270人が参加。（フリーホール）
〈夏休み〉 世界のカラクリ工房展	7.21～8.31 開館時間中	子どもたちに、“ローテク”ながらも、さまざまな機械に活用されているクランクやラチェットなどの仕組みなどを触ったり、見たりしながら学び、より科学に関心を持ってもらえる機会にしたいと、紙や木でできたからくり人形の展示とワークショップを実施。からくりがん具の作家ロブ・アイヴス、ヴォルター・ルフラー、ニール・ハーディ、松原出の作品などを展示するとともに、紙のからくり人形を制作するワークショップを実施。敬称略。共催：(株)MOLEN、協賛：(株)KDDI・住友林業(株)。（ギャラリー）
〈 〃 〉 キンダー・フィルム・ フェスティバル	8.8～13　11:00～12:00 13:00～14:00 15:00～16:00 17:00～18:30	14回目となった子どものための映画祭。16か国24作品を上映するだけでなく、声優（吹き替え）、審査員、司会進行、受付など、映画祭進行のすべてに子どもたちが参加。入場者は延べ4，848人。主催：キンダー・フィルム・フェスティバル実行委員会、共催：児童育成協会（こどもの城）。（青山円形劇場）
〈開館記念〉 第13回おりがみカーニバル／全国児童館おりがみ作品展	10.28～11.19 開館時間中	子どもからお年寄りまで、気軽に楽しめる折り紙を幅広い年齢の人に親しんでもらうための催し。日本折紙協会と共催。児童館交流と児童館活動紹介として「全国児童館おりがみ作品展」を同時に開催。“みんなの宝物”をテーマに26館から出品された作品を展示した。関連企画の「おりがみにつよくなる講習会」を開催した。（ギャラリーほか）

名　称	日　時	内　容
〈開館記念〉 赤ちゃん大集合	11.1	開館記念期間恒例の乳幼児と親を対象にした催し。お母さん同士の語らいの場「赤ちゃんサロンスペシャル」をはじめ、研修室でボランティアが運営する「みんなであそぼうにこにこパーク」、体育室では対象年齢別に「ごろごろハイハイ」「たっちたっちタッタッタッ」「てくてくピョンピョン」の3プログラムと「It's aベビーワールド」を実施。音楽ロビーでは手遊び歌遊びの「みんなでニコリン」、歌のコンサート「うたってバブリン」、パネルシアターなど盛りだくさんの「あそんでバブリン」。プレイホールでは人形劇の「みんなのニコニコ広場」、ビデオライブラリーでは「車のおもちゃ広場」を実施した。研修室には企業や団体の協賛を得て、情報展示コーナーを開設した。457組の親子が参加。（研修室ほか）
おはなしコンサート 「シャーロットのおくりもの」	11.19	アメリカの代表的な児童文学「シャーロットのおくりもの」の映画が配給されるのを記念して、子どもたちに本を読むことの楽しさを伝えることを目的に、おはなしコンサートを実施。挿絵のスライド映像とピアノの生演奏をバックに、2人の声優に読み語りをしてもらった。〔こどもの城〕のほかに、全国5地域で実施。新座市では子育て支援センターを利用している保護者に演奏と語りをしていただいた。協賛UIP映画。 10月28日：合志市保健福祉センター（熊本県合志市）／同29日：熊本市総合女性センター（熊本市）／11月3日：えひめこどもの城（松山市）／同14日：新座市児童センター（埼玉県新座市：埼玉県民の日）／同19日：こどもの城／同23日：神戸市総合児童センター（神戸市）
自分発見！よろこび満点！東京渋谷発 ドルッチャワークス～こどもの城DEお仕事体験（助成金事業）	12.16・17 開館時間中	来館する子どもたちの職場体験プログラムとして、助成金事業の一つを〔こどもの城〕全館で実施。事前申し込みではなく、一般に来館した子どもたちが、“遊び”をとおして働くことの楽しさ、人の役に立つ喜びを感じてもらえる新しいプログラムの開発をめざし、貨幣などの経済システムを取り入れず、“いつものこどもの城の遊び”を大事にしつつ、“こどもの城のスタッフの一員となって働く体験”を提供した。「人との出会い、かかわり合う楽しさ、パフォーマンスをとおした感動や喜びの共有」を子どもたちに感じてもらうことをねらいとした“職業体験プログラム”になった。事前募集で集まった中高生18人の活動もあり、普段からの大きな課題である中高生の参画への大きな第1歩となった。「こどもの城から全国へ」（137ページ）参照。（全館）
〈冬休み〉 青山あそび寄席	H19.1.3～8	冬休みの目玉として、日替わりで各部が交代で催しを実施。本年度初の試みとして、事業部を超えた協力で実現した催し。（ギャラリー）
〈　〃　〉 日本の凧展＆えい凧づくりのワークショップ	1.3～8 10:00～16:30 （受け付け時間）	凧の博物館（東京都中央区）から借用した大凧をアトリウムに展示。ギャラリーには全国の凧から特徴のあるものを展示した。その環境のなか、「えい凧づくり」のワークショップを実施。参加人数は決して多くないが、今後も続けたい事業である。約250人が参加。（ギャラリー）
〈　〃　〉 新春もちつき大会	1.4 13:00～15:00	日本の風習を子どもたちに伝えていきたいと、毎年行っている伝統行事の一つ。もち米45kgを2つのうすでついた。例年は、つきたてのもちを小倉あん・きなこでまぶし、もちつきをした子どもに配布していたが、直前に流行したノロウィルス問題などから、市販の個別包装の切りもちを配布した。約500人が実際にもちをついた。多くの職員で協力し運営する催しなので、そういった意味でも大変意義深いものと考える。（ピロティ）
〈春休み〉 第13回ニッサンゆかいな絵本と童話展 「道　満ちて」	3.24～4.5 開館時間中	「第22回ニッサン童話と絵本のグランプリ」の入賞作品や歴代受賞作品の絵本などを紹介。例年はアーティストに会場装飾を依頼するが、今回は「こどもの城友の会」家族に、ワークショップの形で装飾物を制作してもらった。材料は、自動車に使用している内装材や緩衝材。また期間中は、それらを使って子どもが作品を作るワークショップ「森まつりツリーをつくろう」を実施、889人が参加。4月には小学2年生以上が参加できる「想像の木をつくろう」も実施、24人が参加。共催：(株)日産自動車。（ギャラリー）

〈その他〉

名　称	日　時	
おもちゃ図書館 マックロー	〔こどもの城〕休館日を除く水曜日 11:00～16:00	心身に障害のある子どもたちが気軽に利用できる遊び場として、昭和62年（87年）に開設された「こどもの城おもちゃ図書館マックロー」。本年度も4人のボランティアを中心に運営され、延べ49回開催した。年間300人近い利用者があった。「夏休みのお楽しみ会」や「クリスマス会」などの催しも行った。（会議室）
アートスケープ 2006	H19.2.21～3.11 開館時間中	首都圏のインターナショナルスクール、アメリカンスクール10校と日本校1校の合同美術作品展。600人におよぶ生徒が制作した絵画、版画、素描、立体作品、陶芸、写真などさまざまなジャンルの作品を展示。（ギャラリー）

2. ボランティアの活動

〈平常期間〉

※名称欄のカッコ内は活動担当部門

名　称	日　時	内　容
保育活動（保育研究開発）	月～金曜日 10:00～16:30	保育スタッフとともに、2歳児クラス、または3～5歳児グループに入り、運営補助をする。（保育室ほか）
赤ちゃんサロン（小児保健）	月2回火曜日 12:30～14:00	小児保健スタッフとともに、乳幼児とその親を対象にした事業の運営サポート。（音楽ロビー）
紙芝居（プレイ）	第1・3水曜日（月2回） 15:00～15:30	プレイホールで親子を対象に紙芝居を行う。練習も毎週水曜日。（プレイホール）
女性人形劇（企画研修）	第2水曜日 15:00～15:30	手作りの人形を使い、脚本作りから上演までを行う。昔話や音楽に合わせて人形が踊る人形劇を実施。練習は毎週木曜日。（プレイホール）
影絵（企画研修）	第3水曜日 15:00～15:30	手作りの人形、背景、脚本で、昔話や童謡をオリジナルで演出して上演。練習は毎週火曜日。（プレイホール）
おりがみあそび広場（プレイ）	木曜日　14:30～15:30	毎回2・3種類の折り紙遊びを子どもやその親を対象に伝える。（プレイホール）
みんなの楽器屋さん（音楽）	木曜日　15:30～16:00	プログラム導入の手遊び、音楽スタッフが行うプログラムに参加する子どもたちをサポート。（音楽ロビー）
絵本であそぼっ（企画研修）	金曜日　14:30～15:00	幼児や親子を対象に、絵本の読み語りを実施する。（Aスタジオ）
みかんちゃんズのオパオパサンバ！（音楽）	金曜日　15:00～15:30	スタッフとともにサンバのリズムを中心に、子どもたちと一緒に演奏、プログラム指導を行う。（音楽ロビー）
布おもちゃ（企画研修）	第2・4金曜日 10:30～15:30	プレイホールの幼児コーナーで子どもたちが遊ぶ「抱き人形」を制作。また幼児コーナーの環境作りとして、遊具や装飾の手芸関係の活動を行う。（ボランティアオフィス）
ビッグサタデー（体育）	土曜日　10:30～11:45	小学4年生以上の高学年を対象にしたスポーツプログラム。バスケット、バレーボール、サッカーなどを実施。（体育室）
不思議な映像実験室（AV）	土曜日　15:00～17:30	視覚がん具作りのワークショップの運営補助。（音楽ロビー）
手足の不自由な子の水泳（体育）	土曜日　17:00～18:00	講座の子どもたちにボランティアが一人ずつ付き、水泳の補助を行う。（プール）
こどもの城アドベンチャー（企画研修）	第1・3土曜日 14:00～17:00	こども活動エリア全体を使って、与えられたヒントをもとに進んでいく、ウオークラリー形式のゲームを実施。（全館）
土曜昔あそびの会（企画研修）	第2・4土曜日 14:00～17:00	屋上を中心に、子どもたちとその親を対象に、コマや三つ馬などの伝承遊びを実施。（ふしぎが丘ほか）
キッズクラブ（プレイ）	月2回土曜日 15:00～17:00	小学1～4年生を対象にした講座の運営補助。プログラム開発、グループワーカーとしての役割を担う。（会議室ほか）
青年人形劇（企画研修）	月1回土曜日 13:00～15:00	〔こどもの城〕のマスコットキャラクター、マック・マックローの棒使い人形を使ってオリジナル人形劇を実施。（プレイホール）
造形活動（造形）	日曜日　10:00～17:30	プログラムの運営サポートを行う。（造形スタジオ）
つくってあそぼう（企画研修）	第1・3日曜日 14:00～17:30	小学校低学年を対象に廃品や身の回りの材料を使用して、手作りおもちゃのワークショップ。手作りおもちゃの開発も行っている。（フリーホール）

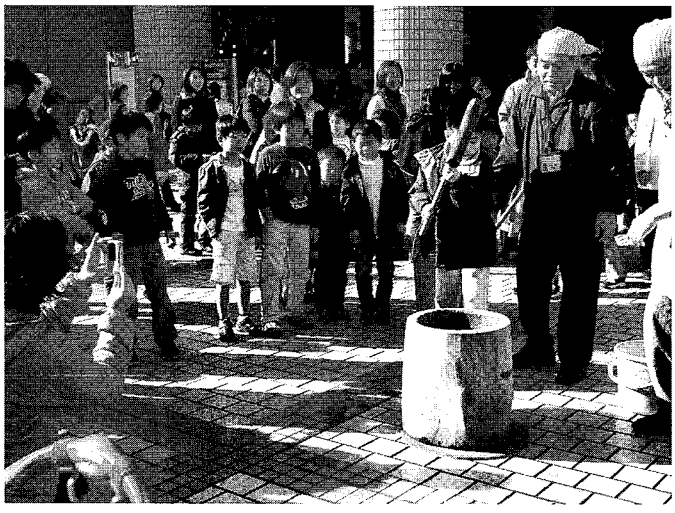
名　称	日　時	内　容
パネルシアター（企画研修）	第2・4日曜日 13:00～15:30	パネルシアターの公演とその合間にパネルを使って遊ぶワークショップを実施。絵本などをモチーフにした、オリジナルパネルシアターも実施。（プレイホール）
絵本の読みかたり（企画研修）	第2日曜日 14:00～14:30	おはなし会の後、子どもたちに自由に絵本を読んであげる時間も実施。（保育室２）
ユースクラブ（プレイ）	月2回日曜日 13:00～17:00	小学５年生～中学３年生を対象にした講座の運営補助。プログラム開発、グループワーカーとしての役割を担う。（会議室ほか）
L.I.T.（企画研修）	月2回日曜日 10:00～16:00	年間をとおして高校生が行うボランティア活動を支援する。ボランティアはプログラムを企画、準備、運営する際のアドバイス、よりよいグループ活動を行うためのワーカーとして働きを担う。（会議室ほか）
日曜クラブ（企画研修）	月2回日曜日 14:00～17:00	縄跳び、フラフープ、ドッジボールなどを実施。七夕、クリスマス、ひなまつりの時期にはクイズ大会も実施。（屋上ふしぎが丘）
ファミリープレイタイム（プレイ）	2か月に１回日曜日 12:30～16:00	ファミリーを対象に、クラフト、プレイ、クッキングなどのプログラムを実施。ボランティアは運営のサポートを行う。（プレイホール）
じょいんクラブ（企画研修）	日曜日（10回／年） 13:30～15:30	子どものための社会福祉講座。手話通訳士の講師が進める手話を中心にしたワークショップの運営補助。（会議室）
親子のほっとタイム（小児保健）	3日間×3回／年 13:30～14:30	小児保健部の講座に、赤ちゃんのサポートで入る。本年度から、ボランティアの参加が始まった。（小児保健プレイルーム）
手作り楽器（音楽）	夏休み特別期間 12:00～16:00	手作り楽器のワークショップの運営サポート。（Bスタジオ）

〈特別期間ほか〉

※名称欄のカッコ内は活動担当部門／参加ボランティア人数はいずれも延べ人数

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉あそびのおもちゃ箱（企画研修）	4.29・30、5.5・6 11:00～15:30（受け付け時間）	例年11月に実施していたが、来館児・者の多い児童福祉週間特別期間に実施。影絵、人形劇、絵本、パネルシアター、音楽など、1日3回、7グループが公演を実施。トコトコ人形を使って遊ぶワークショップ“ごっこ遊び”も同時並行で運営した。ボランティアの参加＝準備50人／当日運営83人。（研修室）
〈 〃 〉デビューしようよ!! 夢のスポットライト（企画研修・プレイ）	5.3～7 11:00～16:00（受け付け時間）	芸能学校“CAMPUS”を開校し、学科単位（遊び）を修了した人は、1日の最後に行われる“ショー”に参加できる。表現活動を取り入れた遊びを運営。ボランティアの参加＝第1回ミーティング（2月17日）／準備活動（3月7日～5月2日。計18回、延べ132人参加）／プログラム実施（5月3～7日。延べ97人参加）。（ふしぎが丘）
天までとどけねがいごと（プレイ）	7.1・2 11:00～16:00 7.4～7 13:00～16:00（受け付け時間）	短冊に願いごとを書いて、竹に飾るワークショップを実施。ボランティアは運営のサポート。ボランティアの参加＝当日運営16人。（プレイホール）
〈夏休み〉スプラッシュフェスタ（企画研修）	8.26・27 11:00～16:00（受け付け時間）	本年度は夏休み特別期間の後半に、屋外での小学生対応のプログラム充実を目的に、青年ボランティア代表者会のイベント部門のメンバーを中心に準備を進めた。ふしぎが丘屋上ネット広場にビニールプールをいくつか設置し、6つのゲームコーナーを運営すると同時に、1日1回、参加者全員で、水鉄砲大会を行った。ボランティアの参加＝第1回ミーティング（5月28日）／準備活動（6月24日～8月25日。計10回、延べ56人参加）／プログラム実施（8月26・27日。延べ23人参加）。（ふしぎが丘）
〈開館記念〉赤ちゃん大集合「みんなであそぼう にこにこパーク」（企画研修）	11.1 10:30～15:00	開館記念特別期間（ファミリーウイーク）の全館事業の一環として、女性ボランティアが「みんなであそぼうにこにこパーク」という親子でゆったり遊ぶ手作りおもちゃのスペースを運営。ボランティアの参加＝当日運営16人。（研修室）

名　称	日　時	内　容
〈開館記念〉あそんでワッショイ！秋のチャレンジゲーム大会（プレイ）	11.3〜5 10:00〜16:00 （受け付け時間）	6人のプロジェクトメンバーを中心に、年間をとおして活動しているグループに声をかけ、企画、準備、運営を行った。参加したグループは「こどもの城アドベンチャー」「青年人形劇」「パネルシアター」「昔あそび」「くるくるアニメ」「L. I. T.」「ビッグサタデー」「じょいんクラブ」の8グループ。ふしぎが丘の4つのエリアに5つのゲームを配置した。受付でチャレンジカードをもらった参加者は各コーナーを自由にまわってゲームに取り組む。各ゲームはグループ活動の内容を生かした種目となった。1日の最後には、みんなで遊ぶ集いの場を設けて、じゃんけんゲームなどを行った。また11月5日のみ、人形劇と絵本の読み語りを青空シアターを行った。ボランティアの参加＝準備83人／当日運営35人。（ふしぎが丘）
ドルッチャワークス「ドルッチャおしごと案内所・研修コーナー」（企画研修）	12.16・17 10:30〜16:00 （受け付け時間）	独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金助成事業「大型児童館を拠点とした職場体験プログラム開発事業」のモデル事業として行ったプログラム。中・高校生の運営委員が中心となって、〔こどもの城〕のスタッフの仕事を体験する遊びを実施。ボランティアは職員研修のプログラム運営を担当。ボランティアの参加＝準備1人／当日運営25人。（全館）
〈冬休み〉新春あそびのお年玉〜こまうまめんこすもうであっぱれ！〜（企画研修・プレイ）	H19.1.3〜8 11:00〜16:00 （受け付け時間）	10月から企画会議を行い、6人のボランティアのメンバーを中心に実施に向けて準備を行った。プログラムは伝承あそびをモチーフに、その遊び方、楽しさを伝えることと同時に、子どもたち自身が遊びを創り出す環境を保障するよう配慮した。ボランティアの参加＝準備131人／当日運営87人。（フリーホール）
節分会大まめまき大会（プレイ）	1.27・28 15:30〜16:30	恒例の豆まき大会。鬼に扮したボランティアを子どもたちが退治するというプログラム。ボランティアの参加＝当日運営30人。（プレイホール）
みんなでひなまつり〜ゆらゆらひなめぐり〜（プレイ）	2.24・25 11:00〜16:30	ひなまつりにちなんだ、ゲーム、クイズ、クラフトを行った。ボランティアの参加＝当日運営15人。（プレイホール、音楽ロビー）
〈春休み〉キャッスルダンジョン〜みんなでつくろう秘密基地〜（企画研修）	3.25、4.3〜5 11:00〜16:00	主体的、自発的なプログラム参加を促すために、子どもたちとともに作っていくプログラムを実施した。6人がプロジェクトメンバーに名乗りをあげ、意欲的な活動を展開した。ダンボール、布、新聞紙などの素材だけを準備して、自由に基地作りを行える環境を設定した。最初は個々に製作した基地を、1日の後半にはつなげるよう働きかけ、参加者の関係性を促進するようにした。また、1日2回30分ほどのゲーム大会「ドキハラキャッスルダンジョン」を実施し、より参加性を高めるよう配慮した。連日オープンと同時に、多くの子どもたちが訪れ、あっという間に、会場が基地でいっぱいになる状態。ゲーム大会では、高学年の子どもが司会進行をする光景も見られた。天候不良のため、5日間のうち4日間はフリーホールで実施。ボランティアの参加＝第1回ミーティング（2月8日）／準備活動（3月22日〜4月2日。計12回、延べ51人参加）／プログラム実施（3月25日、4月3〜5日。延べ28人参加）（ふしぎが丘、フリーホール）



新春もちつき大会



こどもの城友の会ワークショップ「森まつりツリーをつくろう！」

〈高校生プログラム＝L. I. T.(Leader In Training)〉

名　称	日　時	内　容
施設見学	4.9　10:00～16:00	日本科学未来館で13人、世田谷プレーパークで6人のメンバーが見学活動。子ども文化協議会主催の行事（4月2日）に3人が参加。
施設見学報告会準備	4.16　10:00～16:00	施設見学の報告会の準備。プログラム詳細、役割分担を行う。参加13人。
キャンプフィードバック／施設見学の報告会	4.23　10:00～16:00	午前中に「ジュニアスプリングキャンプ」の反省会、午後から現在のグループの状態について話し合いを行う。参加19人。
活動方針の話し合い	5.14　10:00～16:00	1年の最後の活動として実施する、夏休み特別期間のプログラム活動について話し合い、タイトルやテーマについて決定する。参加12人。
プログラム準備	6.18、25 10:00～16:00	小1～3を対象にした夏休み特別期間プログラム「キャッスルアドベンチャー」の準備活動を行う。参加は、18日19人、25日7人。
〃	7.16・17 10:00～16:00	準備作業のために組織作りを行い、小グループで目標を持って作業にのぞめるよう話し合う。17日はプログラムの電話受け付け、書類の発送を行う。参加は、16日14人、17日13人。
〃	7.23、29・30 10:00～16:00	プログラム準備と平行して、合宿の食事メニューやプログラムについても話し合う。参加は、23日11人、29日14人、30日20人。
ジュニア・アウトドア・スクール	8.1～7	特別活動として希望者が、キャンプ活動をボランティアとともにサポートする。参加5人。場所は、国立南蔵王青少年野営場（宮城県）。
プログラム準備	8.12・13 10:00～18:00	最終準備活動。道具の製作や準備、プログラムの詳細も決定する。参加申し込みした子どもたちのグループ編成も行う。参加は、12日11人、13日6人。
プログラム準備・実施	8.18・19（1泊2日：合宿） 8.20　10:00～20:00	合宿して、プログラム最終準備とシミュレーション。プログラムは19・20日の2日間で実施する。今期のL. I. T.にとっては最後の活動。参加は、18・19日21人、20日22人。
開講式	9.17　13:00～16:00	開講式、個人面談、自己紹介を中心にしたグループワークトレーニング、年間計画と活動の主旨を説明。参加24人。
ボランティア体験実習	10.1　10:00～16:00	〔こどもの城〕館内で子どもたちと実際に遊ぶボランティア体験実習とその活動を振り返るワークショップを行う。参加21人。
秋期合宿	10.14・15（1泊2日：合宿）	小中学生のための社会福祉講座「じょいんクラブ」のメンバーと合同で合宿。チームワークを高めるための野外活動や今後の計画について話し合う。足柄ふれあいの村（神奈川県）。参加8人。
今後の活動計画	11.5　10:00～16:00	渋谷の街を見直すために、高校生の視点でタウンマップを作成することを決定。参加12人。
タウンマップ作成活動	12.10、17 10:00～16:00	「0～5歳」「小1～3」「小4～中学生」「10代後半～30代前半」「30代後半」の5つの世代別に地図を作成することを決定。それぞれのテーマを考え、コースの下見。参加は、10日14人、17日16人。
〃	H19.1.14、21 10:00～16:00	前回に引き続き、コースを歩くフィールドワークを実施する。また、次回「じょいんクラブ」のメンバーと歩くときの視点などを話し合う。参加は、14日12人、21日12人。
〃	2.4　10:00～16:00	小中学生の視点をタウンマップに取り入れるために、「じょいんクラブ」のメンバーとフィールドワークを行う。終了後、メンバーと一緒に遊ぶ。参加16人。
〃	2.11、3.18 10:00～16:00	タウンマップで紹介する各店舗の紹介文と依頼状の作成を行うとともに、地図を配布するためのキャンペーンの計画を行う。参加は、11日14人、18日18人。
「ジュニア・スプリングキャンプ2007」参加	3.27～31（4泊5日）	班付と本部リーダー付、2つの役割に分かれて活動する。キャンプ初参加者が多いメンバー構成だったが、高校生らしい若さあふれる取り組みが行われた。参加11人。

3. 講座・クラブなど

〈講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
じょいんクラブ	(人) 小4～中3 (20)	(人) 7	日曜日 13:30～15:30 (原則)	手話の習得に外部講師中野佐世子先生（手話通訳士）を招き、手話の体験学習を行う講座を3回、それ以外は、子どもたちが自主的に考えるグループ活動を実施。本年度は、高校生のボランティアグループL. I. T. との交流活動として、渋谷の街のフィールドワークと、1泊2日のキャンプ活動を実施した。また、最終回のワークショップでは、習得した手話を取り入れて、来館する子どもたちが楽しく遊べるプログラムの企画を相談した。受講料＝後期（10回）12,000円。

〈専門指導者向け講習会など〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
第54期ボランティア講習会	(人) 18歳以上 (高校生不可) (30)	(人) 27	5.13～7.6 18:00～20:30 (5.26～28 宿泊研修)	参加者は大学生と社会人がほぼ同数、平均年齢27歳。「ボランティアって何だろう?」（日本ボランティアコーディネーター協会 小原宗一）、「現代・子ども事情～児童館の役割を考える～」（こどもの城 佐野真一）、「こどもとあそびとボランティア」（横浜レク・クラフト研究所 兼松ムツミ）のほか、「子どもの“楽しい”を考える」「こどもの城のボランティア活動の実際」の講義、主に人間関係トレーニングを中心にした宿泊研修を実施した。宿泊研修は、手賀の丘少年自然の家（千葉県）で実施。　※敬称略
ボランティアグレードアップ講習会「夏季野外活動」	野外活動に参加するボランティア (30)	18	6.16～18	小4～中3を対象にした「ジュニア・アウトドア・スクール」に参加するボランティアリーダーが対象。内容は「単独野外炊事」「徹底的にキャンプソング」「追跡ハイキングの設営法と実際」「森の仲間の祭典を創る」「ナイトウォークラリーの設営法と実際」「個人選択プログラム研究」など。また、2泊3日のキャンプの運営を、食事、物品、プログラムとそれぞれの係に分かれて運営。本番のキャンプ本部運営の動きをシミュレートした。大神保キャンプ場（千葉県）。
第55期ボランティア講習会	18歳以上 (進路決定の高校生可) (30)	22	H19.2.10～3.10 (3.2～4 宿泊研修)	参加者の学生と社会人の比率は2：1で、平均年齢24歳。「児童健全育成とその役割」（こどもの城 佐野真一）、「求められるボランティアの力～ボランティアのいろは～」（杉並ボランティア活動推進センター 疋田恵子）、「社会に生きるこどもの気持ち～こどもの今を考える～」（教育ジャーナリスト 青木悦）、「こどもとあそぶ！リーダーはここが大切」（冒険遊び場の会国分寺市プレイステーション 武藤陽子）のほか、「自分らしく！ボランティア～ボランティアの協働関係を考える～」の講義と、主に人間関係トレーニングを中心にした宿泊研修を実施した。宿泊研修は、足柄ふれあいの村（神奈川県）で実施。　※敬称略
ボランティアグレードアップ講習会「冬季野外活動」	野外活動に参加するボランティア (30)	9	2.23・24	小3～中3を対象にしたキャンプ『ジュニア・スプリング・キャンプ』に参加するボランティアリーダーが対象。内容は「雪上アクティビティの実践研究」「イグルー作りの実際」「こどもと自然・イグルーホームパーティー」「ボウボウ岩の冒険ツアー」「雪遊びの実際」など。経験豊かなメンバーを活用したトレーニングメニューを多く取り入れ、相互関係、相互援助の活性化をめざした。国立妙高青少年自然の家（新潟県）。

〈野外活動〉

名　称	日　時	内　容
ジュニア・アウトドア・スクール2006	8.1～7 （6泊7日・テント泊）	小学生39人、中学生30人、高校生6人、ボランティアリーダー26人、スタッフ3人の合計108人が参加。全日程を通して天気に恵まれ、すべてのプログラムを予定通り実施することができた。“子どもの参画”をテーマにして、キャンプ中随所に子どもの力、子どもの可能性、子どもの意見を生かす工夫を盛り込んだ。初日に行われた「村づくり」では、従来本部リーダーが行っていたキャンプ場の環境設定を、子どもたち全員で行った。この取り組みにより、子どもたちの自発性がキャンプ初日から触発され、その後の全期間をとおして、キャンプ運営に必要なさまざまな仕事を積極的に行う子どもの姿が多く見られた。人気プログラムである「森の仲間の祭典」も、前日に子どもによる実行委員会を組織して、企画や運営に子どもの意見を生かすよう取り組んだ。独立行政法人国立花山青少年の家南蔵王野営場（宮城県）。 【準備日程とボランティア参加人数】第1回リーダーミーティング（6月12日：自己紹介、役割発表、トレーニングキャンプ打ち合わせ）／リーダートレーニングキャンプ（6月16～18日：野外活動技術の習得、活動シミュレーションと研究＝千葉県・大神保キャンプ場）／第2回リーダーミーティング（7月1日：事前講習会の確認、準備活動打ち合わせ）／事前講習会（7月9日：参加者の把握、班会議、保護者会、係り会議の実施）／第3回リーダーミーティング（7月23日：L. I. T.との準備活動、詳細な最終打ち合わせ）／キャンプ実施（8月1～7日）／第4回リーダーミーティング（10月8日：全体フィードバック、子どもの参画を促すリーダーのアプローチのあり方を考えるワークショップ）／事後講習会（10月8日：記録ビデオ上映会、グループ会議、保護者報告会等を実施）
ジュニア・スプリング・キャンプ2007	H19.3.27～31 （4泊5日・宿舎泊）	小学生50人、中学生33人、高校生11人、ボランティアリーダー15人、スタッフ4人の合計113人が参加。記録的な雪不足のために、ほとんど雪のない状態でキャンプを実施した。そのため予定していた「そりあそび」「クロスカントリースキー」「イグルー作り」などの雪遊びは中止となった。しかし、従来は雪に埋もれて使用することのできない、野外炊事場が使用可能となり、その場所を中心に「妙高 雪上火祭り」を実施した。前年度から取り組んでいる“子どもの参画”をテーマにしたプログラム「プロジェクトX」の一環としてとらえ、前日から子どもたちの実行委員会を組織して、プログラムの立案、準備、運営を子ども自身の手によって行った。この取り組みは、子どもの参画の持つ価値の大きさと、スプリングキャンプの新しい可能性を感じさせるプログラムとなった。独立行政法人国立妙高青少年自然の家（新潟県）。 【準備日程とボランティア参加人数】第1回リーダーミーティング（2月11日：キャンプ概要、主旨説明、各係の打ち合わせ他）／リーダートレーニングキャンプ（2月23～25日：各プログラムに沿った知識・技術伝達、施設生活体験、本部組織運営体験＝新潟県・妙高青少年自然の家）／第2回リーダーミーティング（3月9日：事前講習会確認、L. I. T.の捉え方、プログラム検討）／事前講習会（3月11日：班会議、係会議、保護者会の打ち合わせ）／第3回リーダーミーティング（3月19日：L. I. T.トレーニング、L. I. T.との共同準備、詳細な打ち合わせ）／キャンプ実施（3月27～31日）／第4回リーダーミーティング（5月13日：全体フィードバック、全体でのグループ討議）／事後講習会（6月3日：記録ビデオ上映会、グループ会議、保護者報告会等を実施）



ジュニア・アウトドア・スクール2006



ジュニア・スプリング・キャンプ2007

平成18年度「グループ活動」プログラム一覧表

	プログラム名	対象年齢	時間	内容
体育	すてきな新体操	3歳児～中3	60分	ボール・リング・なわなどの手具を使って楽しく体操。
	たのしい体育・運動	〃	〃	身近な道具を使った運動、マット・とび箱などを使ったサーキットなど。
	レクリエーション	〃	〃	鬼ごっこやしっぽとり・フライングディスク・パラバルーンで楽しく運動。
	球技で楽しく汗を流そう	〃	〃	ウオールサッカー（室内サッカー）・ユニホック・タグラグビーなどの球技から一種目を選択。
プレイ	劇遊び「森へ行こう」	4歳児～小2	60~80分	森のお姉さんや木こりと一緒に森の中を探検。ごっこ遊びのプログラム。
	劇遊び「忍者修行道場」	〃	〃	悪者忍者の挑戦を受け、さまざまな忍者修行に挑むごっこ遊び。
	みんなであそぼうパペットランド	〃	〃	紙コップ、封筒などの身近な物で人形を作り、お話の世界で遊ぶプログラム。
	みんないっしょに	3歳児～小2	〃	歌やレクリエーションダンス、パネルシアターなどをスタッフと一緒に楽しむプログラム。
	わくわくオリンピック	4・5歳児	〃	幼児からできるレクリエーションゲームをオリンピックごっこに取り入れて楽しむ。
	こどもの城オリンピック	小1～	〃	オリンピック種目を愉快にアレンジしたレクリエーションゲーム大会。
	パソコンであそぼう	5歳児～	60~90分	コンピュータグラフィックス・パソコンクラフトなど、パソコンを使ったさまざまな遊びを体験。
造形	かげをうつそう	4歳児～小6	60~80分	自分の影をプレイングボード（大きな白い壁）に写しとって、その影の中を絵の具でデザイン。
	木をつくろう	〃	〃	グループ全員が協力して、床に大きな紙の木を作る。計画の楽しさを知ろう。
	粘土でジャングル旅行	5歳児～小2	〃	粘土で飛行機・テント・木・動物などを作り、みんなでジャングル旅行。
	竹体験	小1～	〃	日本の伝統的な植物“竹”の特質、しなる、かたい、筒状などを体験しながら、竹の造形を楽しむプログラム。
音楽	忍者ってほんとうにいたの?	3~5歳児	60分	子どもたちのイマジネーションによる忍者ごっこ遊び。
	スカーフであそぼう	〃	〃	スタジオの照明にはえるスカーフで楽しく遊ぶプログラム。
	まつりばやし	〃	〃	お祭り広場になったスタジオで、楽しく和太鼓をたたくプログラム。
	やってみようガムラン	3歳児～	〃	インドネシアの打楽器オーケストラ、ガムランを演奏したり、踊ったりするプログラム。
	サンバでおどろう	4~5歳児	40~50分	ブラジルのカーニバル気分でサンバに挑戦。自分で作った楽器を持って踊るプログラム。
	たたいてみよう日本の太鼓	〃	〃	いろいろな種類の和太鼓を思いっきりたたいてコンサート。リズムは簡単!
	インドネシア・アンクルン	小1～	〃	インドネシアの珍しい竹の楽器を紹介。みんないっしょに合奏体験。
	めずらし楽器大集合	3歳児～	〃	アフリカ・中国・インドネシア・ブラジルなどから集めた珍しい楽器のコンサート。
AV	みんなでつくろう“ぱたぱたアニメ”	4歳児～	60~90分	みんなが描いた2枚の絵を交互に映し、絵の動くアニメを体験。
	フィルムに絵を描いてみよう	小2～	60分	透明な映画フィルムに着色してから映写すると、楽しい図柄がスクリーンに映し出される。
	ビデオであそぼう	小3～	60~120分	突撃インタビュー・ビデオでしりとり・伝言ゲーム。ここではみんながカメラマン。
	ピンホールカメラをつくろう	小1～	60分	針穴をあけただけのカメラ、ピンホールカメラを作るプログラム。
	混虫（まぜむし）工場	〃	〃	パソコンで描いた図面から切りだして、昆虫のペーパークラフトを組み立てる。

※障害児への対応については、障害の程度によって実施するプログラムを相談。
体育部門の活動は、各プログラムを組み合わせることも可能（打ち合わせ時に相談）。

劇場事業本部



第5回東京国際和太鼓コンテスト
組太鼓青少年の部最優秀賞「知多半島和太鼓こころ会じゅにあ」

平成18年度の活動

1．はじめに

劇場の運営は、劇場を貸すことと自主（提携）公演を行うことに大別されるが、劇場の稼働日数は青山劇場使用可能日数325日中295日、青山円形劇場使用可能日数359日中299日と、ほぼフル稼働の状態であった（公演演目一覧表参照）。

しかしながら、将来に向かって順風満帆というわけではない。前年度も触れたが、青山劇場はコンピュータ制御のハイテク劇場として世に売ってきたが、舞台機構の老朽化に伴い、その機構のメンテナンス・更新にかかる費用の負担が重くなってきた。実際、本年度は前年度に比べ舞台補修の日数が増えた。青山円形劇場もしかり。来年は近隣に同規模の劇場も新設されるので、このままでは顧客が離れていっても不思議ではない。我々現場の人間によるサービスの向上や料金の改定などで、それを補うにしても限度があるであろう。

次に「劇場」が“自主公演”を打つ意味をもう一度しっかりと見つめなおしたいと思う。つまり、自主公演こそが劇場の顔であり、ひいては、それが貸し劇場の良い演目選定にもつながると思うからだ。自ら企画制作していくことではじめて、劇場としての個性を持った、生き生きとした表情の豊かな顔を持つことができるようになる。そして、その顔に即した貸し劇場のレパートリーも生成される。自主公演の制作予算がほとんどない予算体系のなかで、外部資金（助成金・協賛金など）を調達する努力が実り、青山劇場・青山円形劇場らしい公演を行うことができた。

2．主な自主・提携公演

（ア）青山劇場

■TAIKO JAPAN 2006■

平成16年度（04年度）に始まった「青山太鼓見聞録」は、本年度から「東京国際和太鼓コンテスト」「和太鼓カレッジ」とともに、太鼓の総合イベント「TAIKO JAPAN」として、鑑賞、体験そしてチャレンジと、太鼓のさまざまな魅力をいっぱいそなえたイベントとして、〔こどもの城〕、青山劇場、青山円形劇場を舞台に同時開催した。

◆青山太鼓見聞録〈打ち込みの美学〉◆

3回目となる「青山太鼓見聞録」では、日本の太鼓の魅力の一つ“打ち込み”に焦点を当てた。打ち込み＝こん身の力を込めて打つこと。古来祭りの場では願いや祈りが込められ、単に大きな音であるばかりでなく、美しい音を打ち出そうとするこだわりもあった。近年は、強打・速打の演奏が目立つが、そればかりでは打ち込みの魅力は生きない。一打一打に耳を澄まし、太鼓から繰り出されるさまざまな音を楽しみ、そして美しい打ち込みに感動する。この仕事をするのにふさわしい太鼓打ちを選りすぐり、太鼓を打ち込むという原点に立ち返った。伝統ある民俗の太鼓と、現代の創作太鼓の演奏家により構成した。

□**会場**□青山劇場

□**日時**□8月29日19：00

□**曲目・出演**□「大太鼓」（アート・リー、山部泰嗣）、「三つ打ち」（猿太鼓）、「ゆふいん源流太鼓」（ゆふいん源流太鼓）、「JINGI」（藤本吉利、今福優）、「弓ヶ浜の祭太鼓」（南伊豆町湊）、「大太鼓」（藤本吉利＋地下朱美、今福優＋

木下千恵子〈締太鼓〉山田瑞恵、浅野町子）

□**主催**□財団法人 児童育成協会・こどもの城、財団法人浅野太鼓文化研究所、東京新聞

□**助成**□芸術文化振興基金、財団法人アサヒビール芸術文化財団

□**協力**□鼓童

□**制作協力**□アートウィル

□**企画・構成**□太鼓見聞録編纂委員会＝浅野昭利（財団法人浅野太鼓文化研究所 所長）、小野晋司（こどもの城劇場事業本部）、平沼仁一（アートウィル、東京打撃団主宰）、茂木仁史（平凡社新書「入門日本の太鼓」著者）

□**舞台監督**□金子芳浩（ニケステージワークス）

□**照明**□片田光彦（青山劇場）

□**音響**□武藤一郎（青山劇場）

□**機構操作**□柏崎雅弘（青山劇場）

□**宣伝デザイン**□野村高志＋KACHIDOKI

◆トーク＆ミニライブ「太鼓見聞録外伝」◆

鼓童・齊藤栄一の進行により、鼓童の大黒柱・藤本吉利をはじめとして、元鬼太鼓座で石見神楽の名手・今福優、太鼓界の硬派・ゆふいん源流太鼓の長谷川義、女性３人のグループ焱太鼓の大姐御・地下朱美らのトーク。お楽しみのちょっぴりライブは、シティ派の旗手・東京打撃団と焱太鼓、齊藤栄一らが盛り上げた。

□**会場**□青山円形劇場

□**日時**□８月28日19：00

□**出演**□**トーク**＝齊藤栄一（進行）、藤本吉利、今福優、長谷川義、地下朱美／**ライブ**＝東京打撃団、焱太鼓、齊藤栄一

◆第5回東京国際和太鼓コンテスト◆

課題曲と自由曲により、演奏技術だけでなく、独創性やパフォーマンスとしての表現力などを総合的に競うコンテスト。さまざまな審査員が多角的視点で評価し、各部の最優秀賞、優秀賞、敢闘賞を決定した。これまでの受賞者からは、プロの演奏家も輩出しており、今回もレベルの高い舞台となった

□**会場**□青山劇場

□**日時**□８月26日　組太鼓青少年の部 13：00～18：30
８月27日　大太鼓部門 11：30～15：40／組太鼓一般の部 16：00～21：00

□**審査結果**□

大太鼓部門＝最優秀賞：該当者無し／優秀賞：菅原光朗／敢闘賞：栗原史幸

組太鼓青少年の部＝最優秀賞：知多半島 和太鼓 こころ会 じゅにあ／優秀賞：讃岐国分寺子供太鼓「鼓舞」／敢闘賞：舞葵琉太鼓／審査員特別賞：大樹寺小学校 和太鼓部「阿吽」

組太鼓一般の部＝最優秀賞：鬼島太鼓／優秀賞：海燕／敢闘賞：玉川大学 和太鼓チーム

□**審査員**□

山本寛斎（デザイナー／プロデューサー）、松下功（作曲家）、高田みどり（打楽器奏者）、ロイ・ヒラバヤシ（ＪＡＣＣ派遣審査員）、茂木仁史（国立能楽堂プロデューサー）、浅野昭利（財団法人浅野太鼓文化研究所理事長）

□**本選出場者（演奏順）**□

組太鼓青少年の部（26日）

課題曲：細谷一郎作曲「鼓楽響成～組太鼓のための～」

御殿場市立南中学校（静岡県）、舞葵琉太鼓（沖縄県）、和太鼓衆 龍の鼓（大阪府）、子不知太鼓（新潟県）、雨鳴太鼓保存会（山梨県）、知多半島 和太鼓 こころ会 じゅにあ（愛知県）、須恵東中学校太鼓部（福岡県）、讃岐国分寺子供太鼓「鼓舞」（香川県）、大樹寺小学校和太鼓部「阿吽」（愛知県、北芝太鼓「鼓吹」（大阪府）

大太鼓部門（27日）

課題曲：石井眞木作曲「ビーテッセンスⅠ～大太鼓独奏のための～」

富田和明（神奈川県）、村下正幸（大阪府）、湯沢元一（東京都）、栗原史幸（東京都）、内海いっこう（兵庫県）、塩尻浩司（岡山県）、碓氷正典（栃木県）、吉村純一（愛知県）、菅原光朗（東京都）、澁谷巴人（東京都）

組太鼓一般の部（27日）

課題曲：石井眞木作曲「ビーテッセンスⅡ～太鼓合奏のための～」

海燕（愛知県）、杉山社中（埼玉県）、舞葵琉太鼓（沖縄県）、批魅鼓（埼玉県）、玉川大学和太鼓チーム（東京都）、鬼島太鼓（長野県）、和太鼓otogi（愛知県）、太鼓衆 楽～RAKU～（千葉県）、和道 深江太鼓（長崎県）、和太鼓道場ドンドコ（東京都）

◆和太鼓カレッジ◆

鼓童・齋藤栄一による中高生対象の和太鼓教室、土井啓輔の初心者のための尺八講座、寧胴・本物の牛皮を使用したミニ太鼓を作る工作教室などバラエティーに富んだ10コースの講座を、体育室、フリーホール、ピロティなど〔こどもの城〕館内で開催した。

□**日時**□８月26～28日

□**主催**□東京新聞、財団法人浅野太鼓文化研究所、財団法人児童育成協会・こどもの城

□**後援**□文化庁、国際交流基金

□**協力**□アートウィル

□**協賛**□Ｊ-ＰＯＷＥＲ電源開発株式会社、あいおい損害保険株式会社

■ダンストリエンナーレ TOKYO 2006（DANCE TRIENNALE TOKYO 2006）

平成18年度文化庁国際芸術交流支援事業■

平成14年（02年）に「ダンスビエンナーレ TOKYO」としてスタートしたこのフェスティバルは、３回目を迎え

る今回から準備期間を3年間として、約1か月の会期でより充実したプログラムで展開した。今回、10か国から19のカンパニー、約120人のアーティストが参加、またソウルでのダンスフェスティバルと連携開催して海外からのカンパニーはソウル公演も行った。

世界的に高い評価を得るダニエル・デノワイエ(カナダ)やトンミ・キッティ(フィンランド)をはじめ、ソロ活動をスタートしてから初来日となる話題のルイーズ・ルカバリエ(カナダ)や、05年秋の日本公演が好評だったコンスタンツァ・マクラス(ドイツ)、今回が初めての日本公演となるカンパニー7273(スイス)、近藤良平率いるコンドルズ、ク・ナウカの美加理、イデビアン・クルーの中心メンバー斉藤美音子など、幅広い顔ぶれに注目が集まった。

参加アーティストは公演のほかに、アフタートークやワークショップを行い、ダンスに対する理解をより進めていくためにアーティストの交流機会を広げることに特に留意し、海外のフェスティバルディレクターによるダンスフォーラムも好評であった。

東京や大阪など、特に都市部においてダンスへの注目度が高くなってきているなかで、国内のみならず韓国、カナダ、フランスなど海外の評論家やディレクターが多数来日。また、参加アーティストへの取材も多く、観客、アフタートークやフォーラムの参加者から、世界のダンスの現在に同時に触れることができる絶好の機会であった等の好評をいただいた。

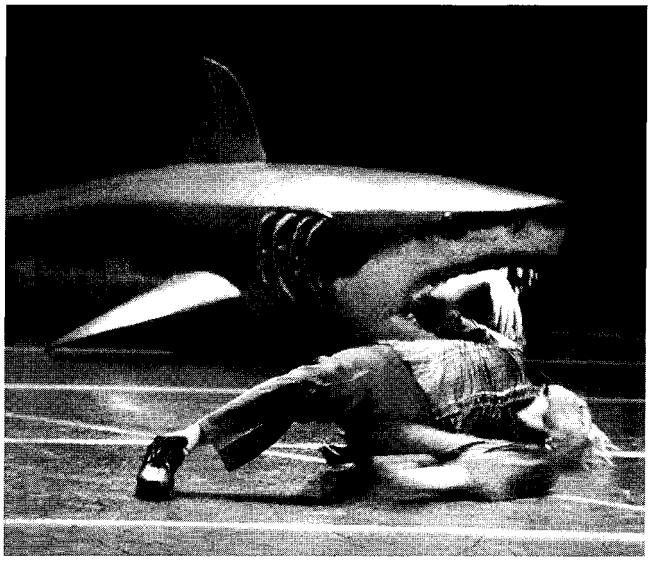
広報宣伝面では、東急電鉄(ポスターの駅張り)、Qフロント(渋谷駅前の大型ビジョンで告知放映)、渋谷文化プロジェクト(ホームページでの特集記事掲載)、チャコット(都内各店でのチラシ配布)、ダンス専門誌などできる限り多くの協力機関と連携し、また、作成した11万部のちらしを関東を中心に全国(JCDN協力)で配布、開催前2か月間に重点を置いて広報宣伝を展開した。

青山円形劇場、スパイラルホールでの有料入場者数は目標を上回り、評論家や舞台関係者などの招待者を含めると連日満場の客席となった。次回09年開催までにさらなる広報宣伝機能の充実を図っていきたい。

ダンストリエンナーレは原則的に参加するカンパニーが本拠としている各国からの渡航費支援を前提にしている。しかし、舞台費や滞在費などの大きな開催経費は入場料収入や協賛収入だけではまかないきれない規模であり、日本で最大規模のダンスフェスティバルであること、また、日本やアジア圏のパフォーミングアーツ市場の発信基地として国内外から寄せられる期待も高いことなどから、継続的な公的支援が不可欠である。

また、スパイラルや渋谷区の協力をいただき、公演やワークショップの開催場所を少しずつ面的に拡大してきた。

ギリェルメ・ボテリョ/アリアス「I want to go home」(ダンストリエンナーレから)



今後も、ダンスにアプローチできる多彩なフェイスを用意し、09年には渋谷・青山エリアでさらに面的に拡大していきたい。また、ソウルだけではなく、アジアの都市でのダンスフェスティバルと連携することも模索したい。

□**日時**□ 10月22日～11月19日

□**会場**□青山円形劇場、青山劇場、スパイラルホール

□**出演・演目**□

Aプログラム10月22日 18:00 スパイラルホール

ローレンス・ヤディ、ニコラス・カンティロン/カンパニー7273「Simple proposition」(スイス)、上村なおか「最後の星」(日本)

Bプログラム10月29日 18:00 スパイラルホール

トンミ・キッティ/トンミ・キッティ&カンパニー「Spiral」(フィンランド)、斉藤美音子「整形」振付:井手茂太(日本)

Cプログラム10月31日 19:00 青山円形劇場

チョン・ヨンドゥ/ドゥ・ダンスシアター「Hollow, Pure white, The body」(韓国)、ソン・ジンジュ「Keep in Youch 疎通」(韓国)、小池博史/パパ・タラフマラ「三人姉妹」(日本)

Dプログラム11月2日 19:00 青山円形劇場

コンスタンツァ・マクラス/コンスタツァ・マクラス&ドーキーパーク「I'm not the only one」(ドイツ)、尹明希「交際とカナリア」(日本)

Eプログラム11月4日 19:00 青山円形劇場

ダニエル・デノワイエ/ル・カルデロンブ「Dous pour corps et instruments」(カナダ)、遠田誠/まことクラヴ「むつかしはなし」(日本)

Fプログラム11月6日 19:00 青山円形劇場

ダニエル・デノワイエ/ル・カルデロンブ「Dous pour corps et instruments」(カナダ)、ルイーズ・ルカバリエ「"I" Is Memory」振付:ブノワ・ラシャンブル(カナ

ダ)、ルイーズ・ルカバリエ×今津雅晴「Cobalt rouge Remix」Duo 1&Duo 2　振付：テッド・ロビンソン(カナダ×日本)

Gプログラム11月8日 19:00 青山円形劇場

アルコ・レンツ／コバルト・ワークス「heroine」(ベルギー)、ルイーズ・ルカバリエ「"I" Is Memory」振付：ブノワ・ラシャンブル(カナダ)、ルイーズ・ルカバリエ×今津雅晴「Cobalt rouge Remix」Duo 1　振付：テッド・ロビンソン(カナダ×日本)

Hプログラム11月10日 19:00 青山円形劇場

ヤスミン・ゴデール「I feel funny today」(イスラエル)、ジュリ・ニオッシュ「La Sisyphe」(フランス)

Iプログラム11月11日 19:00／12日 15:00 青山劇場

ギリェルメ・ボテリョ／アリアス「I want to go home」(スイス)、近藤良平／コンドルズ「HONEY」(日本)

Jプログラム11月19日 18:00 スパイラルホール

マシモ・モリコーネ「#06&#07. 2006 skin−fatman／littlebastard」(イタリア)、美加理×種子田郷「生のものと火を通したもの／闇の碧」(日本)

◆コミュニケーション・プログラム◆

FESTIVAL DIRECTORS FORUM(フェスティバル ディレクターズ フォーラム)

□**日時**□11月3日13：00～16：00

□**会場**□EATS and MEETS Cay(スパイラルB1F)

DANCE FORUM(ダンスフォーラム)「コトバとダンス」

□**日時**□11月5日13：00～16：00

□**会場**□EATS and MEETS Cay(スパイラルB1F)

WORKSHOP(ワークショップ)「Meet the Artists」

□**対象**□一般

□**日時・講師**□**11月1日11:00～13:00** コンスタンツァ・マクラス(ドイツ)

11月5日11:00～13:00 ダニエル・デノワイエ(カナダ)

11月7日11:00～13:30 アルコ・レンツ(ベルギー)

11月7日19:00～20:30 ルイーズ・ルカバリエ(カナダ)

11月9日11:00～13:00 ジュリ・ニオッシュ(フランス)

コンテンポラリー・ダンステクニック

□**対象**□ダンサー

□**日時**□10月23～25日19：00～21：00

□**講師**□ローレンス・ヤディ、ニコラス・カンティロン(スイス)

こどもとコンテンポラリーダンス

□**対象**□小中学生

□**日時**□11月5日14：00～15：40

□**講師**□まことクラヴ(日本)

……

平成18年度文化庁国際芸術交流支援事業

□**主催**□財団法人児童育成協会・こどもの城、(株)ワコールアートセンター、ダンストリエンナーレTOKYO実行委員会

□**協賛**□東京急行電鉄(株)、QFRONT、キリンビール(株)、トヨタ自動車(株)、ケフィア カルチャー カード、(有)ルートラック

□**共催**□フェスティバル ディレクターズ フォーラム＝国際交流基金、ダンスフォーラム＝日本ダンスフォーラム

□**協力**□渋谷文化PROJECT、チャコット株式会社、NPO−DAM、NPO法人JCDN、ダンス・カフェ

□**後援**□カナダ大使館、フランス大使館、イスラエル外務省 イスラエル大使館、駐日韓国大使館 韓国文化院、スイス大使館、フィンランドセンター、東京ドイツ文化センター、ケベック州政府在日事務所、渋谷区教育委員会、日本ダンスフォーラム

□**インターンシップ協力**□玉川大学芸術学部、昭和音楽大学音楽芸術運営学科

【ダンストリエンナーレTOKYO実行委員会】

□**名誉総裁**□高円宮妃久子殿下

□**実行委員**□高谷静治、三浦雅士、榎本了壱、伊東順二、太宰久夫、副島博彦、貫成人、乗越たかお

□**スタッフ**□フェスティバルディレクター：高谷静治／舞台監督：原口佳子、川上大二郎、鈴木康郎、小野哲史／照明コーディネート：片田光彦(青山劇場・青山円形劇場)、大塚之英(スパイラルホール)、加藤学、山崎哲也、井口眞(S. I. N)、柘植幸久／音響コーディネート：武藤一郎(青山劇場・青山円形劇場)、浮岳厚(スパイラルホール)／舞台：三井裕子(青山円形劇場)、小山達也(スパイラルホール)／通訳：王愛美、稲葉麻里子(国際交流基金)、キミホ・ハルバート、浜口彩子、澄川環、李世珍／翻訳：浜口彩子／宣伝デザイン：有北眞也(pazapa. inc)／制作：宮久保真紀(スパイラルホール)、小椋大介(スパイラルホール)、浜口彩子／プロデュース：小野晋司(青山劇場・青山円形劇場)、平岡久美(Dance in deed!)、小林裕幸(スパイラルホール)

(イ) 青山円形劇場

■青山円形劇場プロデュース　MYTH(ミス)■

平成16年(04年)に青山円形劇場で上演された「LYNX」で話題を呼んだ、演出家・鈴木勝秀と役者・佐藤アツヒロが再びタッグを組んだ。近年は翻訳劇の演出に独自のセンスを見せていた鈴木の、個性的な男優4人を配した約10年ぶりの新作。タイトルの「MYTH」には、神話、作り話、架空の人という意味があるが、「男には作り話がないと生きていけない」という台詞をキーワードに、父親に捨てられ、母親と死に別れた主人公が、自分の存在価値を自覚できな

いことからくる孤独、欠落感を現実と架空が交差する対話をとおして解きほぐしていく姿を描いた。

この芝居のキャッチコピーは“人間は、生まれてきたからには孤独ではない”。観客は舞台を通して自分の記憶の奥にしまい込んでいた孤独に出会い、自分自身の物語をたどる体験ができたに違いない。全ての人が心の奥底に持っているテーマをていねいに紡ぎ上げて温かな気分に包み込まれる舞台に仕上がった。

□**日時**□5月11～28日（19回公演）
□**構成・演出**□鈴木勝秀
□**出演**□佐藤アツヒロ、篠井英介、陰山泰、中山祐一朗
□**制作協力**□東京グローブ座

■青山円形劇場＆玉川大学芸術学部提携公演 パフォーミング・アーツ・フェア in 青山■

青少年の健全育成と文化の向上をめざす〔こどもの城〕と、舞台芸術分野の人材を育成し、幼・小・中・高・大学と一貫制教育を行っている玉川大学が、次世代の文化を担う青少年育成を目的に行っている提携公演。今回が4回目。演劇・舞踊・音楽・映像等、全13演目を5日間、日替わりで上演するレパートリーシアター形式で開催した。

□**日時**□6月7～11日（6回公演）
□**プログラム**□

Aプログラム

「about us」「リーディングde創作戯曲」「percussion ensemble」「Three Way Intersection」「piano duo」「gospel」

Bプログラム

「about us」「WORK IN PROCESS」「リーディングde創作戯曲」「鼓＋舞＋奏＝1」「楽しき旅路」「mix dialogue story」

Cプログラム

「about us」「WORK IN PROCESS」「リーディングde創作戯曲」「新・上弦の月」「鼓＋舞＋奏＝1」「シェイクスピア・アンソロジー」

□**主催・企画制作**□玉川大学芸術学部、こどもの城
□**出演・振付・演奏・製作**□玉川大学芸術学部パフォーミング・アーツ学科生
□**監修・指導**□こどもの城劇場事業本部、玉川大学芸術学部パフォーミング・アーツ学科教員、メディア・アーツ学科教員

■5Days Circle of Love＋Life TAPPERS RIOT■

タップというとソフィストケイテッドなイメージが強いが、熊谷和徳が表現するのは“ビート”。喜怒哀楽を解き放つように足を踏み鳴らすのが熊谷のタップである。

TAPPERS RIOT（タップダンサーの暴動）というタイトルのもと、日替わりでスペシャルなアーティストをゲストに迎え、仲間のタップダンサーたちを引き連れて、照明・音響・映像等のあらゆるアイデアを駆使しながら、5日間にわたって躍動感、臨場感に満ちたパフォーマンスを展開した。体に響くタップビートと観客の鼓動が一つになり共鳴された刺激的な舞台になった。劇場も実験的で興味深い空間に変貌し、これからの可能性を広げる企画になった。

□**日時**□6月26～30日（5回公演）
□**演出・振付・インプロビゼーション**□熊谷和徳
□**構成・演出・美術**□Candle JUNE
□**出演**□熊谷和徳（TAP）、クリヤマコト（Piano・28日のみ）、三枝彩子（オルティンドー）、TAKA&TAPPERS
□**日替わりゲスト**□日野皓正、coba、木村佳乃、ラティール・シー、押尾コータロー
□**企画制作**□SMAパイオニアーズ
□**共催**□SMAパイオニアーズ、キョードー東京

■月猫えほん音楽会2006 えほん×ジャズ＝めちゃ² 楽しいシアターライブ■

“絵本”と“読み聞かせ”の持つ魅力を新しい側面から取り上げた企画で、親子（小学生）を対象とした招待公演。

大きな月（スクリーン）に絵本を映しながらの読み聞かせと、ジャズ・ピアノの即興演奏を組み合わせた、絵本とジャズとのセッションライブ。さらにパントマイムを加え、観客参加で作るシーンなど、他に類を見ない画期的なステージを展開した。また、希望する観客には、フェイス・ペインティングで猫に扮し、“猫道”と呼ぶ長いトンネルをくぐり抜けて入場するなど、さまざまな趣向で生の楽しさを演出することに成功した。

近年、“絵本”と“読み聞かせ”の魅力が注目され、いろいろなところで取り上げられている。その理由の一つには、何かと暗い世相の中で絵本の持つ美しさと奥深さに、人々



月猫えほん音楽会2006

が改めて目を向けたからであり、親子のコミュニケーション不足が指摘される中、絵本の読み聞かせがそれを深めるのに役立つと多くの人が気づいたからではないだろうか。

「月猫えほん音楽会」は平成11年（99年）に始まり、本年度で9回目となるが、そのような関心の高さを示してか、毎回たくさんの応募があり、今回は定員1,600人のところ約2,383世帯6,937人の応募数となった。

□**日時**□7月21～23日（5回公演）

□**出演**□＝佐山雅弘（ピアノ）、波多雅子（進行）、本多愛也（パントマイム）、能祖将夫（朗読）

□**スタッフ**□演出：吉澤耕一／構成：能祖将夫／美術：小竹信節／協力：東京動物園ボランティアーズ

□**主催**□（財）こども未来財団、（財）児童育成協会

■こどもの城＋ネルケプランニングプロデュース「南国プールの熱い砂」■

平成17年（05年）にAoyama First Act＃6として劇団KAKUTAにより上演され、その完成度の高さから大変な好評を得た作品。現在、舞台制作に著しい成果を上げている制作会社ネルケプランニングの協力を得て、その世界観はそのままに装いも新たに生まれ変わった。

再演する目的として掲げたのは次の2点である。

（1）隠れた才能ある演劇人を紹介し、演劇ファンのみならず多くの人々に目にしてもらう機会を作る。そして、その面白さを実感させ、演劇に興味を持ってもらう。

（2）若手の作・演出家に飛躍のチャンスを与え、青山劇場、青山円形劇場の新しい担い手となってもらう。

恩師の死をきっかけに、南国リゾートでの同窓会旅行にそれぞれの思惑を持って集まってくる10人の男女。劇団公演では実現できなかった、豪華な舞台装置の中で繰り広げられる笑いあり、涙ありの一幕劇は、スケールアップしたキャスティングも相まって、さらに完成度の高いものとなった。

アンケート結果からも、「大変良かった」が71.4％、「良かった」と合わせると95.5％に上り、「悪くはない」「つまらない」0％も含め、驚異的な高評価となった。

今回の公演結果からも、当初の目的は果たすことができた。さらに多くの演劇関係者からもこの共同プロデュースへの期待感が高まり、協力の申し出があった。今後は多くの協力者たちを取り込み、かつての「青山演劇フェスティバル」のようなさらなる注目を引きつける公演も可能になってきた。

この閉塞感漂う演劇業界に新たな枠組みを築き上げ、人材育成に貢献するとともに、〔こどもの城〕に新しい目玉となるようなコンテンツを作り上げることに責任を持って取り組みたい。

□**日時**□7月26～8月6日（14回公演）

□**作・演出**□桑原裕子

□**出演**□渋谷琴乃、小橋めぐみ、伊達暁、笹峯あい　他

□**共催**□ネルケプランニング

■日韓ダンスコンタクト Vol.7■

青山円形劇場とソウルのシアター・ゼロが企画段階から連携して、時代を映すダンスの分野で、03年（平成15年）から共同企画・制作を行っている。参加アーティストは連続してソウルと東京で作品を上演し、今回が7回目の開催。

今回の公演のプログラムは、5月25～28日にソウル・アルコ芸術劇場で上演された。継続的な芸術交流事業が日韓の若手アーティストたちに影響をおよぼしあい、また、韓国のダンス状況に関心を集めるきっかけともなり、さらなる共同のための土壌作りに成果をもたらしている。

□**日時**□9月26、28、30日（3回公演）

Aプログラム9月26日19:00

韓国：SOA（Spirit　of Asia）「Gong－Myung」、イ・ヨン「白蝶のうた」、パク・ジュヌ「走る」

日本：キミホ・ハルバート＆佐藤洋介「skin to skin」

Bプログラム9月28日19:00

韓国：チョン・ヨンス「窓」、チョン・ジェヨン「もっとも高いところに、山」

日本：楠原竜也「ME, MYSELF AND I」、福岡まなみ「ゴォドン　空へ！すべてで！」

Cプログラム9月30日18:00

韓国：キム・ヨンチョル「乱場」、シモン＆イ・ウニ「Still Waiting……」

日本：上村なおか「白い穴」、堅田知里「orサイクロン」

□**スタッフ**□舞台監督：原口佳子／照明：アイカワマサアキ、シン・ホ／音響：武藤一郎（青山円形劇場）／通訳：イ・ジュウイ／宣伝デザイン：藤森文胡（undo）／インターン協力：玉川大学芸術学部／制作：小野晋司（青山円形劇場）、平岡久美（Dance in deed！）、木村典子、イ・ジュウイ、クォン・ドヨン／統括：高谷静治（NPO－DAM）、シム・チョルジョン（シアターゼロ）

□**主催**□財団法人児童育成協会（青山円形劇場）、日韓ダンスコンタクト実行委員会

□**助成**□日本芸術文化振興会 舞台芸術振興事業、財団法人日韓文化交流基金

□**後援**□駐日韓国大使館 韓国文化院

□**制作協力**□NPO－DAM／Dance in deed！

■ROLLY Glory Rolly2006■

エンターティナーROLLYが、バイオリニストの中西俊博を音楽監督に迎え、ジャズを軸にした音楽を展開するコンサートの第2弾。今回のテーマは「時間と愛」。フレンチジャズ風テイストを加えてアレンジしたさまざまな楽曲をROLLYが独自の歌詞を付けておもしろおかしく、そし

てじっくりと歌い上げたり、メンバー全員で華麗な演奏テクニックを披露したり、と何でもありのパフォーマンス。さらに今回のステージ限定の新曲を発表し話題を呼んだ。

ジャンルの異なるミュージシャンが顔を合わせ、それぞれの分野を高め、融合しながら新しい音楽を生み出していくことで、新しい観客を取り込みながら積極的に外にも発信出来るように活動を広げていきたい。

□**日時**□10月26～29日（5回公演）
□**スタッフ**□演出：吉澤耕一／音楽監督：中西俊博
□**出演**□ROLLY(Vocal･Guitar)、中西俊博(Violin)、クリス･シルバースタイン(Bass)、楠均(Percussion)、林正樹(Piano)
スペシャルゲスト　Chara(27日)、土岐麻子(28日14時)
□**共催**□SMAプレイヤーズ
□**宣伝協力**□フリップサイド
□**制作協力**□ミュージックハウス・モズ

■青山円形劇場プロデュース
ア･ラ･カルト～役者と音楽家のいるレストラン■

クリスマスの時期を迎えた老舗のレストランの開店から閉店までを、ショートショートのお芝居とバンドマンの生演奏でつづる音楽劇。役者と音楽家が一体となって作り上げるしゃれたエンターテインメントショーとして定着し、18回目を迎えた。今回のゲストはミュージカル界で活躍する石井一孝。ショータイムでは、笑劇的な歌と演技に観客が大いに沸いた。全27ステージが完売し、約9,300人を動員した。

大阪公演も大阪ビジネスパーク円形ホールで4ステージを行い、年末の大阪を賑わせた。

□**日時**□12月1～26日（27回公演）
※大阪ビジネスパーク円形ホール(12月29～31日：4回公演)
□**スタッフ**□演出：吉澤耕一／構成：白井晃／台本：高泉淳子／音楽監督：中西俊博
□**出演**□高泉淳子、白井晃、陰山泰 ＋ 石井一孝、中西俊博、クリス･シルバースタイン、竹中俊二、林正樹
□**協賛**□キリンビール株式会社、富士通株式会社
□**制作協力**□遊機械オフィス、ミュージックハウス・モズ
□**大阪公演主催**□関西テレビ放送、株式会社ハートス、キョードー大阪

■第19回こどもの城･キリン･ファミリーオペレッタ
「タントさんのふしぎなレストラン
～野菜の国からSOS～」■

オリジナルの童話を、歌やバレエ、生演奏でつづる正月恒例のファミリーオペレッタ。〔こどもの城〕のスタッフで創作するこの作品は、今回で19回目を迎え、大人も子どもも楽しめるファミリー向け公演として、常に高い人気と安定した動員を保っている。

ROLLY Glory Rolly 2006



新シリーズの初回「タントさんのふしぎなレストラン」。お料理と音楽が大好きでとっても元気なおばあさん“タントさん”と、孫の“むすび”が繰り広げるファンタジー。シリーズとおしてのテーマは食育。現在、注目されているこの問題を取り入れながら、従来のキリンファミリーオペレッタらしく、親子のコミュニケーションや夢を持つこと、思いやることの大切さを描いた。

温かで楽しい登場人物たちが繰り広げる童話の世界と、観客参加型の演出により、観客を物語の中に引き込み、子どもだけでなく、大人からも多くの反響を得ることができた。今後も、現代社会では忘れられがちな心の豊かさ、大切さを感じとれるような良質な舞台作品を創作し、より多くの観客に提供したい。

なお、この作品は厚生労働省社会保障審議会推薦児童文化財に選定された。

□**日時**□平成19年1月3～8日（11回公演）
□**スタッフ**□脚本：山下哲／演出：高谷静治
□**出演**□オペラクリエーション・イン・青山、こどもの城児童合唱団、平多正於舞踊研究所、岸辺バレエスタジオ他
□**共催**□キリン福祉財団

■中西俊博 Leapingbow 2007
～Cool Groovin' With 8violins～■

中西俊博が毎回新しい実験的なことにチャレンジしていくコンサートLeapingbow。今回は、バイオリニスト8人を結集させた異色のバンドを結成した。“クール・グルービン”をテーマに，楽譜通りに音を出すのではなく感覚で音楽をするさまざまなジャンルの若手ミュージシャンを集めた、総勢14人のさながら小オーケストラの編成。

中西俊博のコンサートの一貫したテーマは“聴く音楽”ではなく“体感する音楽”の表現。8人のバイオリンプレーヤーもスイートな演奏ではなく、一人ひとりがバンドの意識を持って自分の音を出すべく、じっくり音と向き合っ

た。エレクトリック・ジャズやクラブ・サウンド、アイリッシュ・ミュージックなどのテイストが融合された演奏に観客は体と足でスイングし、まるで踊り出しそうなノリで楽しんでいた。弦が歌いはずみ、音に揺られながらグルーブを体感出来る時間だった。

□**日時**□1月20日（2回公演）

□**スタッフ**□演出：吉澤耕一

□**出演**□Band：中西俊博(Violin)、円山天使(Guitar)、林正樹(Piano)、KAGE(Drums)、クリス・シルバースタイン(Bass)、井内求生(Keyboard＆Program) Fiddle Section:浅沼杏花、石亀協子、伊藤彩、Crusher Kimura、maiok、山中彩、山本美嶺、横山久里子

□**協力**□ヤマハ、ミュージックハウス・モズ

■デーモン小暮の邦楽維新
Collaboration青山本場所■

“音楽で語り朗読で歌う”朗読パフォーマンス、邦楽の古典から現代曲、洋楽器と競演する古典曲そして邦楽器で味わう洋楽――他のどこでも見ることのできない、アートとエンターテインメントの絶妙なバランスにより邦楽の既成概念を打破し続けるCollaboration シリーズ。邦楽のトップアーティストたちとデーモン閣下＆黒船バンドが向き合い、従来の音楽の枠にとらわれることなく、真摯な編曲と稽古を経て競演を展開、日本の音楽の可能性をさらに追求する邦楽啓発プロジェクト、シリーズ第20・21弾の公演。

◆守禮の巻◆

□**日時**□2月10～12日（3回公演）

□**出演**□デーモン小暮閣下(朗読・歌唱)、名嘉常安(三線)、三橋貴風(尺八)、黒船バンド：松崎雄一(編曲・キーボード)＋雷電湯澤(ドラムス)＋石川俊介(ベース)

◆羅城の巻◆

□**日時**□2月16～18日（3回公演）

□**出演**□デーモン小暮閣下(朗読・歌唱)、オルケスタ・デ・ミヤビヤーナ：稲葉明徳(篳篥)＋高原聰子(笙)＋太田豊(横笛)、黒船バンド：松崎雄一(編曲・キーボード)＋雷電湯澤(ドラムス)＋石川俊介(ベース)

……

□**主催**□財団法人児童育成協会・こどもの城

□**協賛**□株式会社宮本卯之助商店、財団法人ヤマハ音楽振興会

□**スタッフ**□プロデュース：三橋貴風／舞台監督：山村唯史(Waltz)／照明：雑賀博文(ステップアップ)／音響：渋谷博(オフィスクロコ)／宣伝デザイン：藤森文胡(undo)／協力：吉本興業株式会社／制作：小野晋司（こどもの城劇場事業本部）

■青山円形劇場オブジェクトシアターvol.10
「KOUSKY Ⅳ」沢則行 Meets 中西俊博
～人形劇王国チェコ発ヘンテコカッコイイお芝居＋音のパティシェが奏でる極上音楽～■

オブジェクトシアターとは、人形だけではなく、様々な「モノ(オブジェクト)」や仮面や俳優自身(肉体)も舞台に登場し、総合的に作品を作り上げる方法で、チェコやポーランドで生まれ、世界に広がっている新しい舞台様式のこと。フィギュアシアターとも呼ばれ、衝立の影に隠れて人形を操るパペットシアター(いわゆる人形劇)とは異なる表現方法である。

「KOUSKY」とは、部品・部分を意味するチェコ語の複数形。ここではチェコを拠点に活躍している人形劇作家・沢則行の小作品集のことで、いくつかの短編作品を中心に構成されている。

今回はOHPの投射による影絵の新作「URASHIMA」も上演され、人形の魔術師・沢則行とバイオリン(音)のファンタジスタ・中西俊博とのコラボレーションが、人形が音楽を、音楽が人形の動きを引き出し、おしゃれで美しい摩訶不思議な舞台空間が円形劇場に現出された。

□**日時**□3月1～3日（4回公演）

□**出演**□沢則行、中西俊博

□**スタッフ**□作・演出・美術：沢則行／音楽：中西俊博

□**主催**□財団法人児童育成協会

□**助成**□芸術文化振興基金

3. まとめ

劇場の運営を続けていくにあたり、舞台機構のメンテナンス・更新費用が重くのしかかるこのままのハイテク路線でいくのか、発想を変えて別の（非ハイテク）路線に変更するのかなど、今後の取るべき道について、検討することが急務だと思われる。

また、〔こどもの城〕としては、今後も自主公演のための制作予算の確保は難しいであろうが、他の劇場との区別化をはかり個性や主張を持った劇場として活動するためにも、外部資金の調達の努力を含め、よりいっそう制作力を高め自主公演を行いたい。収支のバランスに留意しつつも、決して自主公演をなくしてはならないと思う。それが貸し劇場の質の高さにも通じ、劇場の活性化と個性化に寄与すると思われるからだ。

平成18年度公演演目一覧表

1．青山劇場

名　称	日　時	回数	料　金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈自主・提携公演〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
第5回東京国際和太鼓コンテスト	8.25～27	2	大人=2,500／中学生以下=1,000	2,346	1,855	79.1	
青山太鼓見聞録～打ち込みの美学～	8.28・29	1	S=4,000／A=3,500	1,193	1,013	85.0	
ダンストリエンナーレ TOKYO 2006	11.8～12	2	S=4,500／A=3,500	2,384	1,689	70.9	
Dance Noel 2006 クリスマスの贈り物（アートセラピー研究所ダム）	12.25・26	1	1階=4,000／2階=3,500	1,184	873	73.7	
真帆志ぶきと素敵な仲間（オフィス・イレブン）	2.4	1	8,000	1,160	1,084	93.5	
（自主・提携公演　小計）	(13)	7					
〈貸し館〉							
ミュージカル「ビューティフル・ゲーム」（フジテレビ）	4.1～15	17	SS=12,000／S=11,000／A=9,500／立見=8,000	19,862	18,804	94.7	3.27から続演
丸美屋食品ミュージカル「アニー」（日本テレビ）	4.17～5.7	25	S=7,800／A=5,800／立見=4,000	27,825	24,769	89.0	
SHINKANSEN☆RS「METAL MACBETH」（ヴィレッヂ）	5.9～6.18	40	S=12,000／A=9,500／Z=6,500／立見=6,000	46,901	45,626	97.3	
押尾コータロー 六弦六波～All alone at 青山劇場（キョードー東京）	6.22～29	6	5,500	6,900	6,404	92.8	
少年隊PLAYZONE 2006「Change」（ジャニーズ事務所）	7.1～8.5	40	15,000／立見=10,000	43,036	39,153	91.0	
サクラ大戦・歌謡ショウファイナル公演「新・愛ゆえに」（レイネット）	8.8～22	15	SS=12,000／S=9,000／A=5,000／立見=3,000／ファミリー=14,000	16,160	15,201	94.1	
“Sachiko” Sachikoの愛したダンス、音楽そして出会った人々への愛のThanks（ルミエール）	8.23・24	1	S=7,000／A=6,000／B=5,000／学生=3,000	1,175	1,083	92.2	
つかこうへいゴールデンシアター「蒲田行進曲～城崎非情編」（R・U・P）	9.1～27	18	S=9,500／A=8,500	20,988	19,579	93.3	
奇跡の人～THE MIRACLE WORKER（ホリプロ）	10.1～22	22	S=8,500／A=6,500／立見=3,000	26,034	21,571	82.9	
ボーイズ フロム オズ（フジテレビ）	10.24～11.6	12	SS=12,000／S=11,000／A=9,500	14,124	13,423	95.0	
CAN'T STOP DANCIN' 2006（名倉ジャズダンススタジオ）	11.13～19	6	S=7,350／A=6,000	6,612	6,231	94.2	
Night Among The Stars「島健 with FRIENDS～Super Sessions」（K-Links）	11.20・21	1	6,800	1,164	881	75.7	
SUPER COLLABORATE SHOW「Mr. PINSTRIPE(ミスターピンストライプ)」（K-Links）	11.22～26	4	10,000／立見=5,000	4,716	4,017	85.2	
テンセイクンプー～転生薫風～（R・U・P）	11.28～12.20	22	S=9,500／A=8,500／立見=6,000	25,684	25,272	98.4	
丸美屋食品ミュージカル「アニー クリスマスコンサート」（日本テレビ）	12.23・24	4	S=5,500／A=4,500／立見=3,000	4,840	4,531	93.6	
次世代ミュージカルスター育成プロジェクト「Broadway Gala Concert 2007」（フジテレビ）	H19.1.3～7	3	S=12,000／A=10,000	3,324	2,837	83.4	

名　　称	日　時	回数	料　　金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
ROCK MUSICAL BLEACH the LIVE "卍解SHOW cord:001"（ネルケプランニング）	1.8～14	7	S＝6,600／A＝5,000／立見＝4,500	8,316	8,090	97.3	
YOKO WAO CONCERT（宝塚クリエイティブアーツ）	1.16～28	14	S＝10,000／A＝8,000／立見＝5,000	16,940	16,511	97.5	
ビックブルー ミュージカル「氷山ルリの大航海」（大阪芸術大学グループ）	1.31～2.2	1	2,000	1,152	1,012	87.9	
あさみちゆきコンサート PART2 青山編（ザ・カンパニー）	2.3	1	S＝5,000／A＝4,000	1,156	913	79.0	
OUT OF ORDER（アウト・オブ・オーダー）～偉人伝心～（キョードー東京）	3.19～26	11	7,000	12,676	9,054	71.4	
大野靖之 Feel the Wind～新たなる出会い（キョードー東京）	3.27・28	1	4,500	1,152	765	66.4	
Mr.マリック&マギー司郎 超&笑魔術ライブツアー 2007（キョードー東京）	3.29～31	2	6,300／限定ファミリーシート＝10,500	2,304	1,471	63.9	
（貸し館　小計）	(282)	273					
（青山劇場　合計）	(295)	280					

2. 青山円形劇場

名　　称	日　時	回数	料　　金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈自主・提携公演〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
ミュージカルレビュー「ダウンタウン・フォーリーズ VOL.4」THE BEST SCENE & SONG SELECTION（K-Links）	4.1～16	16	8,000	4,928	4,357	88.4	
MYTH・ミス	5.8～28	19	8,800（前売5,500）	6,536	5,969	91.3	
青山円形劇場・玉川大学芸術学部提携公演「パフォーミング・アーツ・フェア in 青山」（玉川大学）	6.5～11	6	2,500（前売2,000）	1,400	834	59.6	
劇団ダンダンブエノ Go! Go! 公演「トリデ～砦」（劇団ダンダンブエノ）	6.14～25	12	5,500	3,578	3,029	84.7	
熊谷和徳「TAPPERS RIOT」5Days Circle of Love＋Life（キョードー東京）	6.26～30	5	5,500	1,937	1,799	92.9	
スイッチを押すとき～君達はなぜ生きているんだ～（デジタルハリウッド・エンタテイメント）	7.9～19	13	5,000（前売4,800）	4,270	4,048	94.8	
えほん×ジャズ＝コドモもオトナもめちゃ²楽しいシアターライブ「月猫えほん音楽会2006」（こども未来財団）	7.20～23	5	無料（応募制招待）	1,800	1,632	90.7	
こどもの城＋ネルケプランニングプロデュース「南国プールの熱い砂」（ネルケプランニング）	7.24～8.6	14	4,500	3,491	2,699	77.3	
トーク&ミニライブ「太鼓見聞録外伝」	8.28	1	2,000	244	150	61.5	
日韓ダンスコンタクト Vol.7	9.25～30	3	3,000	589	409	69.4	
ROLLY Glory Rolly 2006	10.25～29	5	7,000	1,714	1,553	90.6	
ダンストリエンナーレ TOKYO 2006	10.30～11.10	6	3,500／通し券25,000	1,314	1,092	83.1	
青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン」	11.28～12.26	27	6,800	9,684	9,209	95.1	
第19回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「タントさんのふしぎなレストラン～野菜の国からSOS」	12.27～29、H19.1.3～8	11	2,800	3,889	3,681	94.7	

名　称	日　時	回数	料　金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
中西俊博 Leapingbow Cool Groovin' With 8 Violins	1.19～20	2	6,000	646	582	90.1	
デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration 青山本場所	2.9～18	6	5,500	2,044	1,882	92.1	
オブジェクトシアター Vol.10 KOUSKY Ⅳ～沢則行 meets 中西俊博	2.28～3.3	4	4,500（前売4,000）	976	866	88.7	
Innocent Sphere「リュケイオン」（Innocent Sphere）	3.19～26	9	一般3,500（前売3,200）／大学・専門学校生2,000／中・高校生1,000	1,906	1,540	80.1	
（自主・提携公演　小計）	(176)	164					
〈内部利用〉							
こどもフェスティバル2006～おんがくがスキ！	5.4・5	2	無料（入館券対応）	660	605	91.7	企画研修
ダイアログ・イン・ザ・ダーク～くらやみコンファレンス	5.6	1	〃	100	75	75.0	〃
〃　～くらやみコンサート	5.7	1	〃	200	182	91.0	〃
第21回こどもの城マタニティ・コンサート～宮本妥子マリンバの響き・ハートの鼓動～	7.1・2	1	無料（応募制招待）	296	179	60.5	小児保健
第14回こどもたちのキンダーフィルムフェスティバル	8.7～13	20	3～17歳500／18歳以上700	6,300	4,000	63.5	企画研修
第21回こどもの城音楽講座・クラブ合同発表会「ぼくらのサウンド2007」	H19.3.16～18	6	無料（入館券対応）	1,498	1,067	71.2	音　楽
（内部利用　小計）	(16)	32					
〈貸し館〉							
CD発売記念 谷真人ピアノ・ライヴ「颯爽」（ザ・カンパニー）	4.22	1	4,500	368	296	80.4	
大野靖之チャリティーコンサート「24才のひとり言」（ザ・カンパニー）	4.23	1	大人3,500／高校生以下2,000	343	291	84.8	
鶴瓶噺2006（デンナーシステム）	4.28～5.2	5	5,500	1,874	1,764	94.1	
劇団ステージドア第15回公演 ミュージカル「錨をあげて」（劇団ステージドア）	6.3・4	3	2,500	932	834	89.5	
L.O.T.U.S ライヴ2006 Folklore～歌い継ぐメロディ～（オズエンタテイメント）	7.3	1	6,500	258	173	67.1	
中条きのこライブ「七夕に……願う」（太鼓センター）	7.7	1	5,500	287	236	82.2	
大野靖之コンサート「Feel the Wind～それぞれの情景」（キョードー東京）	8.26・27	2	3,500	556	463	83.3	
Live! Rhythm Designer～Shuichi "PONTA" Murakami Solo Performance 2006（バグ・コーポレーション）	8.30	1	6,300（前売5,250）	306	232	75.8	
パルコプロデュース Noel Coward's COMEDY「プライベート・ライヴズ」（パルコ）	8.31～9.24	26	7,500	8,101	6,274	77.5	
アキコ・カンダ モダンダンス「バルバラを踊る～花をさかせるために～」（アキコ・カンダ事務所）	10.6～8	4	4,600	664	547	82.4	
劇団、本谷有希子 第11回公演「遭難、」（ヴィレッヂ）	10.9～19	10	4,000（前売3,800）	3,430	3,180	92.7	
第5回青山寄席「笑福亭鶴瓶落語会」（アタリ・パフォーマンス）	11.11・12	3	4,500	1,036	974	94.0	
ロミオ・ロドリゲスJr.「マインド・ミステリー」（ザ・カンパニー）	11.13	1	3,500（前売3,000）	272	217	79.8	

名　称	日　時	回数	料　金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
ラ ダンス コントラステ第10回記念公演「Les Souris(レ スリ)～くるみ割り人形～」(ラ ダンス コントラステ)	11.14・15	2	5,000	492	336	68.3	
BURN THIS一焼却処分一(ミュージック・ギャラリー・ヒロ)	11.16～22	8	7,800	3,089	2,740	88.7	
第5回自主公演集団 日本舞踊21 花柳照奈追悼(NPO法人集団日本舞踊21)	11.23～26	5	5,000	1,230	936	76.1	
アリ to キリギリス live「Doughnut(ドーナッツ)」(ホリプロ)	H19.1.11・12	2	3,700 (前売3,500)	492	431	87.6	
Cash On Delivery「えっと、おいらは誰だっけ？」(キョードー東京)	1.22～2.4	14	6,800	4,552	4,089	89.8	
MIHYプロデュース「和楽」(MIHYプロデュース)	2.19・20	2	4,800 (前売4,500)	442	388	87.8	
日本映画学校俳優科19期生演劇公演「超訳リア王」(日本映画学校)	2.22～26	4	2,000	1,016	913	89.9	
丸顔プレゼンツ「Job & Bady」(サーフコミュニケーションズ)	3.4～13	10	5,500	2,760	1,919	69.5	
大浦みずき ダンスシアター GIGEI TEN 伎藝天「コインランドリー」(大浦みずき事務所)	3.27～31	5	6,800	1,538	1,381	89.8	
(貸し館　小計)	(107)	111					
(青山円形劇場　合計)	(299)	307					

3. その他

〈青山パフォーミング・アーツ・セミナー2006 (APAS) など〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	(人)	(人)		
和太鼓カレッジ 中級者向け太鼓教室	一般 (40)	48	8.26・27 10:00～12:00	ワークショップ。講師＝木村優一 (松村組)。受講料＝3,000円 (2日間)。(体育室)
〃 ミニ太鼓づくり	一般 (各30)	35 35	8.26 13:30～15:00 8.27 13:30～15:00	ワークショップ。指導＝浅野太鼓楽器店。受講料 (材料費込み) ＝4,000円。(ピロティ)
〃 初心者のためのかつぎ桶太鼓講座	一般 (30)	41	8.26 14:00～17:30	ワークショップ (見学可)。講師＝田川智文、関根まこと、横山亮介 (東京打撃団)。受講料＝3,000円。(体育室)
〃 初心者向け横笛講座	一般 (20)	32	8.26 14:00～17:00	ワークショップ (笛の無料貸し出しあり)。講師＝村山二朗 (東京打撃団)。受講料＝3,000円。(フリーホール)
〃 太鼓の曲作り教室	一般 (20)	11	8.27 10:00～13:00	ワークショップ。講師＝吉村城太郎。受講料＝3,000円。(フリーホール)
〃 自由参加和太鼓サークル	一般 (30)	28	8.27 13:30～15:00	ワークショップ。講師＝木下千恵子、山田瑞恵 (焱太鼓)。無料 (当日受け付け)。(ピロティ)
〃 初心者のための尺八講座	一般 (20)	6	8.27 14:00～17:00	ワークショップ (笛の無料貸し出しあり)。講師＝土井啓輔。受講料＝3,000円。(フリーホール)

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
和太鼓カレッジ 中高生対象初心者教室	(人) 中・高校生 (40)	(人) 18	8.27 14:00～17:00	ワークショップ。講師＝齋藤栄一（鼓童）。受講料＝3,000円。（体育室）
〃 初心者向け和太鼓教室	一般 (40)	47	8.28 13:00～17:00	ワークショップ。講師＝地下朱美（炎太鼓／第一部）、齋藤栄一（鼓童／第二部）。受講料＝3,000円。（体育室）
コンテンポラリー・ダンステクニック	ダンサー (20)	20	10.23～25（3日間） 19:00～21:00	ワークショップ。講師＝ローレンス・ヤディ、ニコラス・カンティロン（スイス）。受講料＝9,000円（3日間）。（ケアコミュニティ・美竹の丘集会室）
Meets the Artists (1)	一般 (20)	20	11.1 10:00～12:00	ワークショップ。講師＝コンスタンツァ・マクラス（ドイツ）。受講料＝2,500円。（〃）
フェスティバル ディレクターズ フォーラム	一般 (80)	80	11.3 13:00～16:00	フォーラム。Anita Mathieu（フランス）、Bertram Muller（ドイツ）、Yair Vardi（イスラエル）ほか。参加費＝1,000円。（EATS and MEETS Cay:スパイラル地下1階）
こどもコンテンポラリーダンス	小・中学生 (20)	20	11.5 14:00～15:30	ワークショップ。講師＝遠田誠（まことクラヴ）。受講料＝1,000円。（ケアコミュニティ・美竹の丘集会室）
ダンスフォーラム「コトバとダンス」	一般 (80)	80	11.5 13:00～16:00	フォーラム。伊藤キム、桜本子一、森下真樹、副島博彦、笹公人、貫成人、立木あき子、川崎徹ほか。参加費＝1,000円（一般）、500円（学生）。（EATS and MEETS Cay:スパイラル地下1階）
Meets the Artists (2)	一般 (20)	20	11.5 10:00～12:00	講師＝ダニエル・デノワイエ（カナダ）。受講料＝2,500円。（ケアコミュニティ・美竹の丘集会室）
〃 (3)	〃	20	11.7 10:00～12:00	講師＝アルコ・レンツ（ベルギー）。受講料＝2,500円。（〃）
〃 (4)	〃	20	11.7 19:00～20:30	講師＝ルイーズ・ルカバリエ（カナダ）。受講料＝2,500円。（〃）
〃 (5)	〃	20	11.9 10:00～12:00	講師＝ジュリ・ニオッシュ（フランス）。受講料＝2,500円。（〃）
ジョセフ・ナジ ダンスワークショップ (Aコース)	経験者 (20)	20	H19.1.29・30 (2日間) 14:00～17:00	ワークショップ。講師＝ジョセフ・ナジ。受講料＝4,000円（2日間）。（Bリハーサル室）
〃 (Bコース)	一般 (20)	20	1.29・30 (2日間) 19:00～21:00	ワークショップ。講師＝ジョセフ・ナジ。受講料＝3,000円（2日間）。（〃）
コンテンポラリークラスワークショップ (1)	小6～中3 (25)	28	2.10～12 (3日間) 11:00～12:45	ワークショップ。講師＝キミホ・ハルバート。受講料＝2,000円／1日。（〃）
〃 (2)	高校生～成人 (25)	25	2.10～12 (3日間) 13:15～15:00	ワークショップ。講師＝キミホ・ハルバート。受講料＝2,000円／1日。（〃）
オブジェクトシアター・ワークショップ	一般 (20)	22	3.10・11 (2日間) 10:00～18:00	ワークショップ。講師＝沢則行。受講料＝10,000円（2日間／材料費込み）。（〃）

〈青山劇場プロデュースによるツアー公演〉

公演名称	期間	回数	公演会場
月猫えほん音楽会2006	5.4・5	1	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール（滋賀県）
〃	8.2・3	1	北九州芸術劇場・中劇場（福岡県）
デーモン小暮の邦楽維新	8.26・27	1	三芳町文化会館コピスみよしホール（埼玉県）
ア・ラ・カルト	12.27~31	4	大阪ビジネスパーク円形ホール（大阪府）

広報部



平成18年度の活動

1．はじめに

4月から、〔こどもの城〕のホームページ（以下、HP）の運用を担当することになった。事業活動の関連から立ち上げた経緯があり、これまでは企画研修部が担当していた。しかし、対外的な催し物案内の情報――来館児・者向けには「こどもの城ニュース」や各種ちらし、メディア向けに定期的に送付している「こどもの城通信～情報掲載のお願い」など――は、広報部をとおして行われていることから、広報部が担当して〔こどもの城〕としてのHPを再構築することになった。

日常業務――各種の取材対応、機関紙「こどもの城ニュース」と「事業年報」の編集・発行、特別期間ちらしなどの作成、講座・クラブ一覧の作成、プレスリリース（メディアへの情報提供）の定期送付、館内に掲示する「こどもの城写真ニュース」の作成、夏休み特別期間と新年度の講座・クラブ受講生募集の新聞広告などへの広告出稿――などは、例年同様に実施した。

2．ホームページについて

〔こどもの城〕のHPは、企画研修部が担当して実施した特別プログラムの一環として立ち上げられたという経緯がある。つまり、〔こどもの城〕全体のHPとしてではなく、限定的な形でスタートしたといえる。その後、全体的なコンセンサスをとる機会はあったものの、十分な議論がされないままになっていた。

普及がすすみ、携帯電話などさまざまな端末から利用できるようになったインターネットは、特殊なメディアから一般的なメディアへと変化したと言える。広報媒体の一つとして活用を検討しなければならない時期になり、〔こどもの城〕のHPとして全体のコンセンサスを得て運用するために、担当部署を明確にして再スタートすることになった。

〔こどもの城〕のオフィスで使われているコンピュータのOSはウインドウズ95のままで、現在一般的に使われているHP作りのソフトに対応していないなど、ハード面の問題点も明らかになってきた（対応OSがインストールされた限られたパソコンで運用しているのが現状）。

そこで、〔こどもの城〕のHPを再構築するために、検討委員会を設置し、平成19年度中を目処に、HPのページ構成、情報収集の手順など、全体のシステム作りを進め、全体をリニューアルすることになった。インターネットの可能性は認めつつも、マンパワー・経費等の制約を考慮しながら実現可能性のある現実的なシステム作りを検討している。“あれも、これも”ではなく、まず“伝えなければならないこと”を見きわめ、それが継続的に運用できる体制作りが基本になると考えている。

3．まとめ

HPの運用を担当することになって、改めて思うのは、メディアが多様化したことである。情報を伝える方法は、いわゆる“口コミ”からはじまって、新聞・雑誌・ちらしなどの印刷物、ラジオやテレビなどの電波媒体、そしてインターネット――など、さまざまである。

広告と呼ばれる分野の情報は、それこそ人の目に付く場所であればなんでも利用して、なかば強制的に情報を伝えようとする。ラッピングバスと呼ばれている“移動するポスター”もあれば、改札口の床一面にはられた広告もある。

自動改札機のきっぷや定期券の投入口横の狭いところにも、広告がある。

ニュースから広告まで、情報とされるものの範囲は広い。伝え方も多岐にわたる。伝える媒体も何十年何百年という歴史を持つものもあれば、最近の科学技術の進歩により生まれたものもある。おもしろいのは、それらの媒体が共存していること。電子媒体が普及すると印刷（紙）媒体は衰退すると考えられているが、フリーペーパーやクーポンマガジンが多数作られているところを見ると、印刷（紙）媒体ならではの役割も見直されている。

私たちも、媒体が多様化するなかで、それらを上手に使いこなしていかなければならない。例えば、一つの情報を媒体にあわせてアレンジを工夫するなど、情報の効率的な利用が要求される。さまざまな媒体が登場しても、それは情報を伝えるための一つの手段であるという基本を忘れないで、より効果的な情報提供を心がけていきたい。



児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間ちらし（デザイン・クワデザイン）



夏休み特別期間ちらし・ポスター（デザイン・クワデザイン）



冬休み特別期間ちらし（デザイン・コイル）



春休み特別期間ちらし（デザイン・クワデザイン）

平成18年度活動一覧表

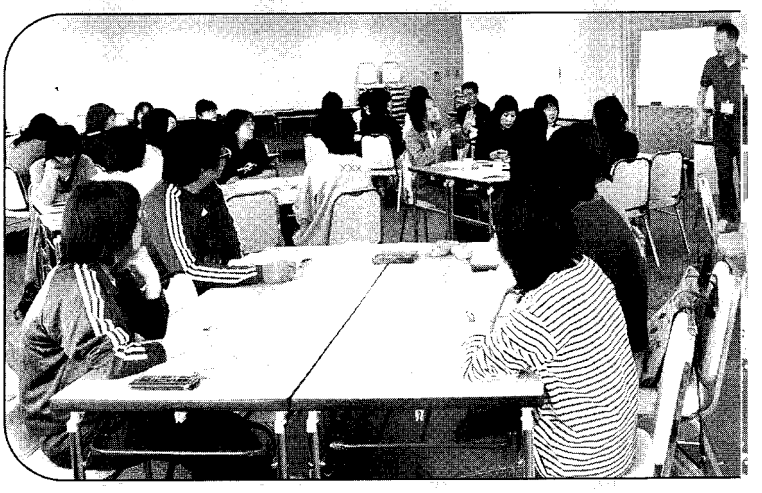
名　称	日　時	内　容
「こどもの城ニュース」の編集・発行	毎月15日発行（1月を除く）	〔こどもの城〕の活動を紹介する新聞形式の機関紙。B3判、表面4色、裏面1色印刷。各号25,000部発行。主な配布先は下記のとおり。 都道府県児童館連絡協議会など（6,350部）／都道府県児童福祉主管課（1,156部）／こどもの城友の会（約1,200部）／渋谷・港区内の保育所、幼稚園、小・中学校（390部）／渋谷区町会ほか（200部）／その他・一般来館児・者など（約15,000部） ◇主な内容◇ 第170号（4月15日号）＝めざせ5つ☆シェフ～クッキングへの道～（ボランティア企画） 第171号（5月15日号）＝“？”からはじまる遊びの実験・研究室　サタデーラボラトリー 第172号（6月15日号）＝ふれあいをとおし体験的に幼児を理解 小・中学生保育体験ボランティア 第173号（7月15日号）＝高校生のボランティア活動L.I.T.遊びで子どもとふれあう 第174号（8月15日号）＝不思議な映像実験室　えがいた絵が動き出した！ 第175号（9月15日号）＝写真でふりかえる夏休み特別期間　あそび。元気。夏、パワー。 第176号（10月15日号）＝みんなの宝　全国児童館おりがみ作品展 第177号（11月15日号）＝ドルッチャワークス～こどもの城DEお仕事体験～ 第178号（12月15日号）＝いろいろな遊び大集合～日替わ 青山あそび寄席～ 第179号（平成18年2月15日号）＝“アート”を楽しむ 〔こどもの城〕のこどもクリエイティブクラブ 第180号（3月15日号）＝豊かな心をはぐくむ人形劇 人形をとおして、見る人と演じる人が“ふれあう”
「こどもの城写真ニュース」の作成・掲示	毎月20日	館内に掲示しているA3判サイズ・カラーの写真ニュース。毎月20日に更新。 4月20日＝スポーツ遊びショップMONO／空気砲バン☆バン　ほか 5月20日＝こどもフェスティバル／夢のスポット☆ライト／親子工房（保育）　ほか 6月20日＝児童厚生員等実技指導講習会／キャッスルトレイン／動くこどもの城（蓮田市：スポーツ遊び）　ほか 7月20日＝マタニティコンサート／わいわいスタジオ（草笛コンサート）　ほか 8月20日＝びっくりビデオ広場／月猫えほん音楽会／ファミリーアドベンチャー川遊び　ほか 9月20日＝バンパー大会／夏休み短期コース（造形・音楽）／スプラッシュフェスタ　ほか 10月20日＝サッカーフェスティバル／動くこどもの城（佐倉市：忍者修業道場）　ほか 11月20日＝赤ちゃん大集合／おりがみカーニバル＆全国児童館おりがみ作品展　ほか 12月20日＝水泳記録会／小児保健セミナー／ドルッチャワークス　ほか 平成19年1月20日＝新春！もちつき大会／青山あそび寄席／新春遊びのお年玉　ほか 2月20日＝職業体験（広尾中）／健康スポーツ教室（サイクリング）／保育展　ほか 3月20日＝アートスケープ展／ぼくらのサウンド2007／新体操発表会　ほか
特別期間のちらし・ポスターなどの作成	特別期間開始日の1か月前	以下の催し案内ちらし・ポスターなどを作成。あわせて英語のちらしも作成した。 ○児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間ちらし（A4判／4色×1色／23,000部）） ○夏休み特別期間ちらし（B4判2つ折り／4色×1色／112,000部）、同ポスター（B2判） ○冬休み特別期間ちらし（A4判／1色×1色／22,300部） ○春休み特別期間ちらし（A4判／4色×1色／27,800部） 夏休みのみ、同じデザインのポスターも印刷した（他の期間はちらしを拡大コピーして使用）。英語版もあわせて作成した。
その他のちらし作成		講座・クラブの募集ちらし（2期、3期、夏休み短期講座／B4判・A4判／1色×1色）や土曜日プログラムのちらしなどを作成した。
こどもの城の案内	H19.1月	〔こどもの城〕の案内をサイズを縮小（A3判→B4判）して増刷。和文150,000部。
平成19年度講座・クラブ一覧	H19.1月	新年度の講座・クラブ受講生の募集にあわせて、例年同様に一覧を作成した。B4判2ページ（2色）。290,000部印刷。一部を新聞折り込み・ポストインちらしとして使用。

名　称	日　時	内　容
新聞広告		朝日小学生新聞、毎日小学生新聞への定期的な記事広告掲載のほか、特別期間や講座・クラブ受講生募集などの時期に、新聞広告をとおしてPRした。
催し物案内ほか	通年	朝日小学生新聞と毎日小学生新聞に定期的に記事広告を特約掲載。
夏休み特別期間のお知らせ	7.5～8.31	朝日新聞都内各版（全5段ほか）／埼玉少年少女スポーツ新聞（タブロイド半2段・半3段）／朝日小学生新聞（半2段・全5段）／毎日小学生・中学生新聞（タブロイド3段）／東京新聞・東京中日スポーツ新聞（半5段・全5段）／毎日新聞、福島民報（特集広告）
冬休み特別期間のお知らせ	12.1～H19.1.1	朝日小学生新聞（全5段）／毎日小学生新聞（タブロイド3段）／東京新聞・東京中日スポーツ新聞（全5段）
平成19年度講座・クラブ受講生募集	1.29～3.30	朝日新聞都内各版（全5段ほか）／朝日小学生新聞（全5段）
その他の広告		
夏休み特別期間のお知らせ（都営交通とのタイアップ広告）	7.9～15、8.6～12	都営交通とのタイアップ広告。車内つりの記事下スペース（80mm×515mm）で夏休み特別期間をPR。都営交通（都営地下鉄・都バス・都電）の全線・全車両内に延べ14日間にわたって掲出した（約3,800枚×2回）。
平成19年度講座・クラブ受講生募集の新聞折り込み・ポストイン	H19.2.10、12	平成18年度開講の全講座・クラブの案内と受講生募集のちらしを〔こどもの城〕周辺地域の朝日新聞、読売新聞・毎日新聞の朝刊（計64,500部）に折り込み広告を実施（10日）。サンケイリビングのポストイン（199,180部）も行った（12日）。
取材関係	通年	取材の申し込みがあり、その後記事として掲載されたり放送されたものは以下のとおり（カッコ内は前年度の数）。新聞26（28）、テレビ・ラジオ16（26）、雑誌53（55）、その他94（84）で、全体では189（193）となっている。取材を受けたところには、その後、毎月定期的にプレスリリースを送っている。
第23回渋谷スタンプラリー	7.21～8.31	恒例となった「渋谷スタンプラリー」に本年度も参加した。NHKスタジオパーク、こどもの城、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館、UNギャラリーの6館で共催した。参加者は約1万人。
あ・ら・かるちゃー渋谷・恵比寿・原宿	通年	渋谷・恵比寿・原宿周辺の文化施設が集まり、交流・情報交換を行うと同時に、協力してPR活動などを行う。NHKスタジオパーク、渋谷公会堂、たばこと塩の博物館、トーキョーワンダーサイト渋谷、電力館、Bunkamura、観世能楽堂、戸栗美術館、ギャラリーTOM、渋谷区立松濤美術館、太田記念美術館、こどもの城、UNギャラリー、セルリアンタワー能楽堂、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、渋谷区ふれあい植物センター、恵比寿麦酒記念館、恵比寿ガーデンプレイス、東京都写真美術館の19施設が参加している。11月3・4日には「ふるさと渋谷フェスティバル」に参加して「あ・ら・かるちゃー」をPR。2日間で約2,500人参加。

3

こどもの城から全国へ

こどもの城から全国へ



平成18年度の活動

1．はじめに

全国に約5,000館ある地域児童館との技術的な交流をはかる“センター的な機能”の充実も〔こどもの城〕の重要な事業目的の一つである。〈動くこどもの城〉の実施、「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会」の開催、講師派遣や実習生・研修生の受け入れなどの事業をとおして、児童館活動の活性化や、今後の児童館活動を担う人材の育成をめざしている。これらは〔こどもの城〕のなかに蓄積された情報の発信ということもできる。

公民館、保健所、子育て支援センター、学校などの児童館以外の公的施設や、子ども会、町内会、市民団体などが行う子育て支援活動についての情報や事業のノウハウも、児童館活動を活性化する上で重要な要素である。本年度も独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金からの助成を受け、「子育てネットワークによる小中学生交流事業」「大型児童館を拠点にした職場体験プログラム開発事業」を〔こどもの城〕の外で行い、新たな情報の収集やノウハウの蓄積に励んだ。

また、同様の目的で、厚生労働省と(財)こども未来財団が主催した「子育てサークルリーダー研修事業」を、実行委員会の一員としてコーディネートした。

（ア）児童厚生員等を対象とした講習会

本年度も２日間の通い型１回、２泊３日の宿泊型２回、計３回の「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会」を実施した。児童館活動で必要な技術の習得を目的としたもので、本年度は特に遊びのプログラムについて基礎的な講習と応用編、そして活動のなかでキーとなるボランティアの活動についての講習会を実施した。

社会情勢の変化とともに施設の統廃合や、指定管理者制度の導入など、児童館を取り巻く環境が急速に変化している。例えば宿泊研修では、参加者同士が情報交換をする好機ととらえる参加者がいる一方、宿泊がなければもっと気軽に参加できるとの声も多い。講習会の形式についても従来の形式を踏襲するだけでなく、参加者の声を反映した見直しを早急に行いたい。

指導者および一般向け講習会「つくって演じる人形劇」「おりがみにつよくなる講習会」は、人形劇、折り紙といった特に児童館で関心の高い遊びの実際をトピックス的に取り上げた講習会である。いずれも日帰りで実施し、気軽に参加できると好評であった。「つくって演じる人形劇」は“つくる”と“演じる”の２日間の構成だが、本年度は２日間連続の日程にしたところ、前年度より参加者が減少した。こうした結果をふまえ、少しでも参加しやすい形態を追求していきたい。

（イ）研修生・実習生などの受け入れ

大型児童館の初任者研修などとして、研修生４人を受け入れた。実習生は大学・短期大学、専門学校から依頼のあった保育、博物館学等の科目履修を目的とした実習の場として、本年度は22人の学生を受け入れた。

ここ数年、中・高校生の職場体験としての依頼が増加している。本年度は中学生10件30人、高校生２件59人の受け入れを行った。中学生の受け入れが大幅に増加したが、これは都内の中学２年生全員が５日間の職場体験を行うことが制度化され、渋谷区、港区など近隣の中学校からの要望に応えたものである。子どもたちを地域社会全体で育て、

社会に送り出していこうというシステムには積極的にかかわりつつ、〔こどもの城〕としての独自性のある受け入れのシステムを確立していきたい。

（ウ）講師派遣

地域で開催される児童健全育成のための研修会や催しのために、〔こどもの城〕職員が講師として招かれた件数は、154件であった。都道府県や地区ごとの児童館連絡協議会が主催する講習会への派遣依頼が多かったが、一方、音楽のプログラムを中心に保育所や幼稚園など児童館以外の施設からの依頼も増えてきている。

本年度末までに、今まで各部門ごとに対応してきたものを一定のルールのもとで行うように、受け入れ体制の見直しが行われた。次年度から新しいルールのもと、依頼に対し統一したルールで対応していくことになる。

講師派遣をとおし、各地域の期待に応えつつも、そこでの経験を職員の技能向上につなげ、新しい事業展開のきっかけとなる機会としていきたい。

（エ）共催事業など

平成15年度から始まった、厚生労働省と(財)こども未来財団が主催する「子育てサークルリーダー研修事業」の、秋田市、富山市、岐阜市、徳島市での研修会実施に際してコーディネートを担当した。

研修事業は4日間で、コミュニケーショントレーニング、サークル運営のノウハウ、行政の子育て支援施策の説明、子育てサークルの運営やネットワーク作りについてのディスカッション、交流会などを行うもの。研修会終了後、それぞれの地域のテーマに沿って、研修会の趣旨がより地域に定着するよう、モデル事業を行った。

2.〈動くこどもの城〉

平成6年度にスタート、国庫補助金を受けて、全国に約5,000館ある児童館に〔こどもの城〕で実践してきた遊びのプログラムを紹介する事業。児童館が地域社会から求められる、多様なニーズに対応するために活用されている。特に乳幼児をもつ親に対する子育て支援プログラムの需要が高い。こうした需要の増大に対処するため、次年度からプログラムの充実と派遣回数を増やすこととなった。

この事業が、〔こどもの城〕から地域児童館への情報の一方通行に終わらず、地域児童館からの情報の収集や交流の場としても意味を持つように心がけていきたい。

3. 助成金による事業

独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金の助成を受けて、「児童館を拠点とした子育てネットワークづくり事業」と「大型児童館を拠点とした職場体験プログラム開発事業」の2事業に取り組んだ。

2か年計画の初年度として実施した「児童館を拠点とした子育てネットワークづくり事業」は、今までに助成金事業として取り組んできた、地域の子育てネットワーク作りの核に児童館を据える発想で、全国8か所でモデル事業を実施してもらい、全国フォーラムでそれぞれの立場から意見交換を行い、その成果を年度末の報告書にまとめた。

単年度事業で行った「大型児童館を拠点とした職場体験プログラム開発事業」は、「児童館を拠点とした子育てネットワークづくり事業」と同様に、モデル事業の手法で展開した。

両事業とも、児童館の地域での新しい可能性を探るもので、モデル事業の参加館やフォーラムの参加者だけでなく、報告書をとおして多くの児童館関係者に提言を行うことができたと考える。今後もこうした事業で得られた情報、ノウハウ、ネットワークを、〔こどもの城〕の本来的な事業のなかでも生かせるようにしていきたい。

4. まとめ

こどもの城児童厚生員等実技指導講習会や〈動くこどもの城〉事業などをとおして、さまざまな児童館関係者から話を聞く機会があった。多くの人たちが、社会環境の変化に自分たちの児童館はどのように対応していったらよいのか悩み、迷っていた。〔こどもの城〕のセンター機能は、こうした人たちが事業の方向性を見出すための、何らかの材料を提供できるものでありたい。

さまざまな情報が〔こどもの城〕に入って来るが、これらの情報はそのまま他者へ伝えるだけでなく、一度〔こどもの城〕の事業のなかで消化してこそ価値を増す。つまりセンター機能の充実は〔こどもの城〕本来の事業から離れたところにあるのではなく、〔こどもの城〕事業の充実とともにあると考える。

助成金を受けて〔こどもの城〕の外部で行う「モデル事業」も、(財)こども未来財団が行う研修会のコーディネートも、〔こどもの城〕外部の社会状況を実感できる貴重な機会ととらえ、ここで得たものをセンター的な機能や、〔こどもの城〕事業の中に有効に生かしていきたい。

平成18年度活動一覧表

1．講座・クラブなど

〈専門指導者向け講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
平成18年度こどもの城児童厚生員等実技指導講習会				
第1回 遊びの専門技術 基礎編 ～造形遊びと運動遊び～	（人） 児童館職員ほか （50）	（人） 51	6.7・8 （2日間の通い）	本年度は、1回目と2回目を「児童館における遊びの専門技術」のタイトルで開催した。1回目は基礎編として、造形と体育をテーマに取り上げた。造形は、素材が明確な“紙”のプログラムと、対照的に形の捉えにくい“光”のプログラムの講習を行った。体育は「いつでもどこでも運動遊び」。時間や場所・年齢といった制約のなかでどのようにプログラムを成立させるかという技術を講習した。最後に、ジャンルにとらわわれず、児童館での遊びのプログラムを成功に導くための指導者側の技術について、ワークショップ形式で学習した。（研修室ほか）
第2回 遊びの専門技術 応用編 ～子どもの遊びに関わる専門職のあり方を考える～	〃 （50）	29	10.18～20 （2泊3日）	基礎編に続く応用編。「児童館における遊びの専門技術」の、より具体的な事例について児童館の現場の手順に即して学んだ。1日目は、遊びの技術の総論として大正大学西郷泰之教授の講義「児童健全育成と子どもの遊び」。2日目の午前中は、ワークショップ「子どもの遊び、援助のポイント」。グループに分かれて事例研究を行った。午後は「遊びのアレンジ力」。プログラムメーキングのシミュレーション。漠然と頭で考えているだけでなく、実際にワークシートに記入してみると問題点が明確になり、ディスカッションも盛り上がった。3日目は、NPO法人冒険遊び場の会武藤陽子代表理事に冒険遊び場の活動が、今までの児童館活動とどのように違い、どのような問題点があり、それをどのように克服していったか――体験を踏まえた話題は、児童館活動の“壁”を超えていくためのヒントとなった。（研修室）
第3回 児童館のボランティア活動 ～地域の人材を積極的にいかすコーディネーション～	〃 （50）	28	H19.1.24～26 （2泊3日）	プログラム作りと並んで児童館活動にとって重要な“ボランティアの活動”がテーマ。1日目は総論「ボランティアとは何か」。NPO法人笑顔せたがや・山崎富一さんの講義。2日目は、“受け入れのあり方”“マネージメント”“活動の活性化”“困った事例”をテーマに、グループに分かれてワークショップを行い、話し合った内容はワークシートにまとめ発表した。最終日は近年児童館にも受け入れの要請が多く寄せられる“ボランティア体験学習”の課題について、文教大学高井正講師が講義した。（研修室）
つくって演じる人形劇	児童館職員ほか （各30）	18 14	8.13（つくる） 8.14（演じる）	ウレタンを素材とした人形作りと、その人形を使った操演の講習会。例年夏休み特別期間中と9月に分けて実施していたが、本年度は2日連続で行った。事前の案内が十分にできなかったこともあり、総定員60人に対して受講者32人と減少してしまった。人数が少ないためかえって行き届いた指導が受けられたとの声もあったが、十分な宣伝と日程の工夫が必要である。講師は、人形劇・木ぐつの木の鹿島佳子さん。（研修室）
おりがみにつよくなる講習会	〃 （各50）	50 49	10.29 11.12	アトリウム・ギャラリーで実施している「おりがみカーニバル」にあわせて、児童館等の職員などを対象に開催している。折り図の見方から、児童館などですぐに生かせる折り紙の折り方とその活用法を学んだ。（研修室）

2.〈動くこどもの城〉

〈子どもや家族を対象としたプログラム〉

名　　称	内　　容
「おにごっこ」で楽しく体力づくり（体育）	かつて、子どもたちは元気に軽快に遊ぶなかで、基本的な体力を自然に向上させていたが、現代ではその基本的な体力の低下が危ぶまれている。かんたんに転んだり、よけることができなくてぶつかってしまうこともある。「敏捷性」「バランス」を養うための陣取りゲームなどの“スポーツ遊び”を多彩に展開。
身近な道具でスポーツあそび（体育）	身の回りにある道具を使って体を動かしてみる。新聞紙・棒・ひも、そして特定のスポーツの道具として用いることが多いボールなどの使い方を、人数や場所の広さによって変えていく発展型プログラム。発想を変えることによって、さまざまなスポーツ遊び、スポーツへと展開していく。
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ（体育・小児保健）	赤ちゃんが自然に健康に成長していることは、母親でも意外と意識しないもの。音楽や楽しい遊具を使いながら、赤ちゃんと一緒にできる簡単な体操をとおして、表情や動きの新しい発見をするプログラム。
親子ふれあい体操“1・2・3”（体育）	1・2歳または2・3歳の幼児と親を対象とした運動プログラム。親子で楽しく体を動かしながら、子どもの成長やコミュニケーションを楽しむ。
やってみよう！パソコン遊びのプログラム（プレイ）	「きれいなグラフィック遊び」、さまざまなペーパークラフトをパソコンでデザインしてから作って遊ぶ「パソコンクラフト」など、〔こどもの城〕で実施したプログラムの中から、いくつかを選択して実施。パソコンで楽しく遊ぶコーナーを一定期間設置する。
みんなで遊ぼう　パペットランド（プレイ）	人形作りと劇遊びの2つの活動で構成。紙コップや封筒など身近な素材で人形を作り、作った人形で話をしたり、仲間とコーラスを楽しんだり、ごっこ遊びを繰り広げたり——イメージの世界をみんなで楽しむ、人形遊びのプログラム。
レクリエーションゲーム大会の演出プラン（プレイ）	ごっこ遊びの要素を取り入れて、レクリエーションゲームをよりおもしろく演出しようというプログラム。忍者や魔法使いなどの世界をテーマにファンタジーの世界を仲間と共有しながら、協力、相談、競争をキーワードに、さまざまなゲームをとおして交流をはぐくむことをねらいとしたプログラム。
ガドガドコンサート「おんがくがスキ！」（音楽）	参加者に演奏を聞かせるだけのコンサートではなく、歌遊び、手遊びなどを盛り込み、演じる・見る・聞く・楽しむ行為が一体となって、音楽の楽しさをより深く体験できる参加型のプログラム。
竹の響き「アンクルンコンサート」（音楽）	アンクルンは、竹で作られたインドネシアの民族楽器。一つの楽器から一つの音しかでない“竹のハンドベル”。アンクルンのほかに、竹のマリンバ、ベースなどと一緒に、童謡やインドネシアの民謡を演奏。竹の優しく素朴な音のハーモニーが楽しめる。参加した子どもたちが体験するコーナーもある。
音楽ゲームセンターであそぼう「スーパースターゲッター！」（音楽）	子どもたちとの遊びのなかから作り上げたオリジナルの音楽遊びプログラム。“踊る”“歌う”“聞く”“リズムをたたく”“楽器を体験する”など、音楽的要素を含んだゲームコーナーが屋台のように並ぶ。
アニメ・ワークショップ（AV）	2枚の簡単な絵を描いて作る「ぱたぱたアニメ」、映画発明以前の動く絵を楽しむ“視覚がん具”の制作などをとおして映画、映像の仕組みを体験。また、制作の難しい複雑な「視覚がん具」も展示。
こどもの城映画劇場（AV）	子ども向けに作られた国内外の芸術的なアニメーションの短編作品——〔こどもの城〕フィルムライブラリー「武藤行雄記念文庫」に収蔵された作品から数本——を上映。「武藤行雄記念文庫」にはカナダ国立映画制作庁（NFBC）のアニメーションをはじめ、世界中の優れた作品を約110本収蔵。
映像探検 写真ワークショップ（AV）	日常なにげなく撮っている写真の“写る仕組み”を体験。写真の発明以前に、画家たちがデッサンの補助的器具として用いていた“カメラオブスクラ”や、レンズを使わないカメラ“ピンホールカメラ”を使ったワークショップ。また、写真の仕組みや歴史を探る展示も行う。
絵本の読み語り「おはなしコンサート」（企画研修）	スライドで写し出した大きなイラスト（絵本の絵）——ピアノとパーカッションの生演奏をバックに、絵本の読み語りを行う。絵本の楽しさを家族一緒に体験できるプログラム。
ボランティア交流プログラム（企画研修）	〔こどもの城〕で活動しているボランティアリーダーと地域のボランティアとの交流プログラム。ボランティアの養成やさまざまな活動についての情報を交換。

〈児童厚生員などを対象とした実技研修会〉

名称	内容
手作り楽器のワークショップ（音楽）	“がらくた”として捨ててしまうようなもの（金属の缶やフィルムのケースなど）を生き返らせて、音が出る“音の道具＝楽器”に早変わり。制作終了後には、作った楽器を使って全員で合奏。
打楽器で遊ぶワークショップ（音楽）	ブラジルのサンバ、アフリカの太鼓“タムタム”、和太鼓のほか、スプーンなど身近な道具を使った打楽器体験。児童館などで行うリズム遊びを紹介。
想像遊びのワークショップ（企画研修）	さまざまな絵本をモチーフにした、想像遊び、みたて遊び、言葉遊びを楽しむワークショップ。かんたんなカード制作をとおして、共同制作者とのコミュニケーションをはかる。
人形遊びのワークショップ（プレイ）	くつした、紙コップ、タオル、てぶくろなど、身近な素材で人形を作って遊ぶためのワークショップ。表現遊びの楽しさを知ってもらうことをねらいとしている。
造形ワークショップ（造形）	素材・発想・技法などを組み合わせると、さまざまなプログラムが生まれる。どこにでもある素材も、ほんの少しだけ発想を変えると、ふだんは見えないものが見えてくる。そうしたプログラムの何種類かを体験制作。背景となる考え方や発想法についても考える。
造形ワークショップ ー素材ア・ラ・カルトー（造形）	紙、木、土、竹、金属など「素材との出会い展」で実践してきた、素材の特性を生かしたプログラム活動の実際を紹介。
不思議な映像実験室（ＡＶ）	“映像の時代”ともいえる現代に生きる子どもたちにとって、豊かな映像にふれることは大切なこと。その映像の基本的な原理について、遊びをとおして理解するプログラム。
パソコン遊びのワークショップ（プレイ）	パソコンを使った遊びのプログラムを体験しながら、活動を計画・実施するときの考え方や方法を紹介。

〈巡回展示とワークショップ〉

名称	内容
造形ワークショップ展（造形）	〔こどもの城〕造形スタジオの実践プログラムを視覚的に分かりやすく、展示パネルの形式にまとめて展示。展示中心のプログラムだが、いくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施することもできる。展示のテーマは以下のとおり。それぞれ独立した展示内容で、開催団体と相談の上、展示テーマを決定する。 **■素材ア・ラ・カルト■**紙、木、土、竹、金属などの素材の特性を生かしたプログラム作品の展示。 **■竹体験ワークショップ■**竹に焦点をあて、竹で作られた生活道具、楽器、オブジェなどの展示を含め、竹のプログラム作品の展示。竹の特質を総合的に学習、体験できる。 **■絵本の世界へ■**ブルーノ・ムナーリの「アートとあそぼう」や「造形発見展～絵本と造形」で実施したプログラム作品をはじめ、多様な絵本の表現方法を使ったプログラム作品を中心にした展示。 **■こども歳時記■**お正月、節分、七夕など日本の共通歳時である季節の行事をとおして、子どもたちを造形活動に導くプログラムの展示。 **■音・光体験■**音はどんな色をしているんだろう？ 光はどんな形をしているのかな？ いつも私たちの身の回りにあふれているにもかかわらず、気づかない“音と光”のプログラム作品と体験できるものを展示。
お父さんの少年時代（企画研修）	児童館などを訪れる子どもたちのお父さん、お母さんが子どもだったころ、昭和30～40年代の“遊び”の展示。展示されたメンコ、ベーゴマ、凧、日光写真などの遊び道具をきっかけに、親子のコミュニケーションをはかると同時に、子どもたちは昔遊びのエッセンスを体験。
絵本とコミュニケーション（企画研修）	絵本は子どもたちの感性をはぐくむ優れた媒体。子どもの様子を見ながらページをめくれば、自然と親子のコミュニケーションを図ることもできる。駒形克己さん（グラフィックデザイナー）は、絵本がもつ“コミュニケーションのためのツール”という側面に着目し、さまざまな絵本を制作するだけでなく、絵本作りのワークショップを実践している。〔こどもの城〕で実施した展示とワークショップで構成したプログラム。駒形さんの絵本の世界を中心に「絵本とコミュニケーション」について考える。
全国児童館おりがみ作品展巡回展（企画研修）	各地の児童館活動のなかで制作したおりがみ作品を集めた「全国児童館おりがみ作品展」（参加25館／10月15日～11月16日／こどもの城）を、12月から全国で巡回展示。本年度は「みんなの宝物」がテーマ。6月までは前年度の作品（テーマは「あそび」）を巡回展示。

〈実施一覧〉

都道府県	開催団体	日時	内容	催し	研修	展示
群馬県	ぐんまこどもの国児童会館	4.15～23	児童館おりがみ作品展巡回展			○
鹿児島県	キッズランド児童館	4.29～5.7	児童館おりがみ作品展巡回展			○
石川県	県立小松児童会館	5.17～31	児童館おりがみ作品展巡回展			○
埼玉県	蓮田市立児童センター	5.27	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
青森県	大鰐中央児童館	6.12～18	児童館おりがみ作品展巡回展			○
埼玉県	川口市社会福祉協議会	6.14	想像遊びのワークショップ		○	
神奈川県	南足柄市保育会	6.17	想像遊びのワークショップ		○	
福島県	福島市東浜児童センター	6.23～29	児童館おりがみ作品展巡回展			○
群馬県	ぐんまこどもの国児童会館	7.4	レクリエーションゲーム大会		○	
長野県	NPO法人ノア 小諸市児童クラブ	7.8・9	おはなしコンサート	○	○	
福岡県	大野城まどかぴあ	8.5	不思議な映像実験室	○	○	
神奈川県	神奈川県立青少年センター	9.14	不思議な映像実験室		○	
岡山県	岡山市清輝児童センター	9.29	すくすくスキンシップ	○	○	
佐賀県	鳥栖市児童センター	10.6	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
栃木県	栃木県子ども総合科学館	10.13～15	造形ワークショップ展	○	○	
千葉県	佐倉市子育て支援課	10.14・15	レクリエーションゲーム大会	○	○	
神奈川県	葉山町福祉環境部	10.18	みんなで遊ぼうパペットランド	○	○	
埼玉県	蕨市福祉・児童センター	10.20	すくすくスキンシップ	○	○	
北海道	士幌町中士幌児童センター	10.27・28	レクリエーションゲーム大会	○	○	
神奈川県	秦野市児童館連絡協議会	11.17・12.10	アンクルンコンサート	○	○	
兵庫県	姫路市立東児童センター	11.22	すくすくスキンシップ	○	○	
香川県	さぬきこどもの国	11.25・26	おはなしコンサート	○	○	
新潟県	長岡子育てライン「三尺玉ネット」	11.29	ボランティア交流		○	
奈良県	大和高田市立児童館	12.1	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
北海道	札幌市中の島児童会館	12.2～10	児童館おりがみ作品展巡回展			○
青森県	青森県子ども家庭支援センター	12.4	造形ワークショップ		○	
愛知県	名古屋市児童館連絡協議会	12.7	打楽器で遊ぶワークショップ		○	
徳島県	徳島市子育て総合支援センター	12.16	アンクルンコンサート	○	○	
栃木県	栃木県子ども総合科学館	12.16～H19.1.6	児童館おりがみ作品展巡回展			○
山口県	山口県児童センター	1.11～28	児童館おりがみ作品展巡回展			○
千葉県	市川市こども館	1.26、2.17	アニメ・ワークショップ	○	○	
千葉県	船橋市みさき児童ホーム	1.31	身近な道具でスポーツ遊び	○	○	
石川県	石川県中央児童会館	2.4～25	児童館おりがみ作品展巡回展			○
東京都	杉並区四宮森児童館	2.24、3.2	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
福島県	福島県郡山市大槻東公民館	3.3・4	アニメ・ワークショップ	○	○	
静岡県	三島市生涯学習センター内児童センター	3.3～11	児童館おりがみ作品展巡回展			○
東京都	八王子市立浅川児童館	3.15	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
岩手県	矢巾町立不動児童館	3.19～26	児童館おりがみ作品展巡回展			○

3. 助成金による事業

〈独立行政法人 福祉医療機構 子育て支援基金助成事業「児童館を拠点とした子育てネットワークづくり事業」〉

名　称	日　時	内　容
児童館を拠点とした子育てネットワークづくりのためのモデル事業	6月～H19.2月	児童館が中心となってネットワーク作りに取り組むモデル事業と、地域にある子育て支援団体や子育てネットワークから児童館にアプローチしてネットワークを築いていくモデル事業を、それぞれ4地域で実施した。 児童館からのアプローチ：北区児童館（東京都北区）／熊本市秋津児童館（熊本県熊本市）／富士見市関沢児童館（埼玉県富士見市）／大阪府立大型児童館ビッグバン（大阪府堺市） 子育て支援団体や子育てネットワークからのアプローチ：ASAKAいくじネットワーク（埼玉県朝霞市）／長岡子育てライン「三尺玉ネット」（新潟県長岡市）／NPO法人子育てコンビニ（東京都三鷹市）／NPO法人子ども＆まちネット（愛知県名古屋市）
子育てネットワーク全国フォーラム	H19.1.25	児童館が地域の子育て支援団体などと協働し、子育てネットワークを作っていくときの課題を討論するために全国フォーラムを開催した。各モデル事業の発表のほか、モデル事業の内容をより深く検討するため“人材育成”“親の育ち”などをテーマに分科会を実施。まとめとして「市民と児童館との協働について考える」というテーマでパネルディスカッションを実施した。
「みんなで子育て」の発行	3月	モデル事業や子育てネットワークの先進事例などの情報をまとめ、今後の子育てネットワーク活動の普及・推進のために報告書「みんなで子育て」を発行し、全国の自治体などに配布した。

〈独立行政法人 福祉医療機構 子育て支援基金助成事業「大型児童館を拠点とした職場体験プログラム開発事業」〉

名　称	日　時	内　容
「働く」ことをテーマとしたモデル事業	6～12月	子どもたちが“働く”こととどうかかわっていくか、〔こどもの城〕を含め全国6か所の大型児童館を中心にモデル事業を行った。それぞれの館の特徴を生かしながら、さまざまな手法で“働く”ことを体験できる遊びのプログラムを展開した。ドイツのミュンヘンで行われている「ミニ・ミュンヘン」をもとに、多様な価値観を持つ子どもたちがコミュニケーションをとりながら、子どもたち自身で街を作り、社会性をはぐくむスタイルを取り入れてモデル事業に取り組んだところもあった。 モデル事業実施児童館：松山市中央児童センター／神戸市総合児童センター／愛知県児童総合センター／富山県こどもみらい館／栃木県子ども総合科学館／こどもの城（東京都渋谷区）
「子どもの参画」の発行	H19.3月	各館が実施した事業の報告、その他の先進事例などを紹介した報告書「子どもの参画」を発行し、全国の自治体・児童館などに配布した。

《財団法人こども未来財団委託事業「子育てサークルリーダー研修事業」》

名　称	日　時	内　容
子育てサークルリーダー研修事業		厚生労働省・財団法人こども未来財団が主催する「子育てサークルリーダー研修事業」を、財団法人こども未来財団から委託されて4地域で実施した。
知って得する子育てセミナー「わはは・DE・ねっと」（秋田県秋田市）	9.28、10.4・13・27	「出会いとつながりのワークショップ～よりよい親子関係のためのグッドコミュニケーション」「サークルに必要なグループ・コミュニケーション」「ワークショップ～活動の問題解決に向けて」「パネルディスカッション～子育てサークルの魅力と可能性」・交流会。 協力：子育てネットサポート「will こねっと」、秋田市子ども未来センター。
子育てサークル学習会「子育てサークルっていいね！」（富山県富山市）	9.6・7・21・29	「よりよい関係を作るためのコミュニケーション・トレーニング」「サークルで生かせるグループ・コミュニケーション」「手作り玩具の情報交換」「事例報告とディスカッション～子育てサークルの魅力と広がる子育ての輪」・交流会。 協力：富山県こどもみらい館。
子育てサークルの未来??～私も育つ時間～（岐阜県岐阜市）	9.5・11・19、10.10	「出会いのレッスン」「サークルで生かせるグループ・コミュニケーション」「パネルディスカッション～子育てサークルの魅力について」「サークル運営についてのグループワーク」・交流会 協力：NPO法人くすくす。
子育てサークル学習会「子育てサークルっていいね！」（徳島県徳島市）	9.12、10.31、11.28、12.3	「よりよい関係を作るためのコミュニケーション・トレーニング」「サークル活動に役立つ楽しい遊び」「サークルで生かせるグループ・コミュニケーション」「事例報告とディスカッション～子育てサークルの魅力と広がる子育ての輪」・交流会。 協力：NPO法人子育て支援ネットワークとくしま。

こどもの城 事業年報 平成18年度

平成19年11月1日発行

［編集・発行］

財団法人 児童育成協会

理事長　吉武　民樹

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
電話 03-3797-5666

表紙イラスト／KOHYA
デザイン／ COIL
印刷所／日本印刷株式会社

財団法人 児童育成協会
こどもの城
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676
http://www.kodomono-shiro.or.jp